

第9次芦屋すこやか長寿プラン21 策定に向けたアンケート調査

報告書

令和2年3月
芦屋市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査目的.....	1
2	実施概要.....	1
3	報告書の見方.....	2
II	調査結果	3
II-1	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3
1	基本属性.....	3
2	家族や生活状況について.....	6
3	からだを動かすことについて.....	10
4	食えることについて.....	21
5	毎日の生活について.....	27
6	地域での活動について.....	52
7	たすけあいについて.....	62
8	健康について.....	69
9	認知症について.....	83
10	災害時や緊急時の対応などについて.....	90
11	権利擁護の取り組みについて.....	98
12	人生の最終段階について.....	101
13	今後のサービスの利用について.....	109
14	介護の経験について.....	115
II-2	生活機能評価等に関する分析	117
1	生活機能評価.....	117
2	日常生活評価.....	128
3	社会参加評価.....	130

Ⅱ-3 在宅介護実態調査	133
1 基本属性.....	133
2 本人の状況について.....	136
3 サービスの利用について.....	143
4 災害時や緊急時の対応などについて.....	152
5 権利擁護の取り組みについて.....	158
6 人生の最終段階について.....	161
7 高齢者支援について.....	167
8 認知症について.....	169
9 外出について.....	175
10 介護の状況について.....	179
11 主な介護者について.....	180

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、令和3年度を初年度とする「第9次芦屋すこやか長寿プラン21」（第9次芦屋市高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画）を策定するにあたり、市民の生活の実態や介護保険に対する考え・意向などを把握するとともに、計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

2 実施概要

(1) 調査対象

<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>

令和2年1月1日現在で、市内在住の65歳以上の高齢者（一般高齢者、事業対象者、要支援認定者）の中から無作為抽出（要介護認定者を除く）

<在宅介護実態調査>

令和2年1月1日現在の要支援・要介護認定者の中から無作為抽出（施設入所者を除く）

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収（※督促状の送付あり）

(3) 調査期間

令和2年 1月31日（金）～2月14日（金）

(4) 回収結果

	配布数	回収票数	有効票数	無効票数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	3,000 (3,000)	2,233 (2,407)	2,209 (2,369)	24 (38)	73.6% (79.0%)
① 一般高齢者	2,200 (2,200)	1,640 (1,779)	1,631 (1,760)	9 (19)	74.1% (80.0%)
② 事業対象者	144	111	108	3	75.0%
③ 要支援認定者	656 (800)	482 (628)	470 (609)	12 (19)	71.6% (76.1%)
在宅介護実態調査	2,000 (2,000)	1,362 (1,449)	1,179 (1,281)	183 (168)	59.0% (64.1%)

※（ ）内は平成29年度実施の前回調査の回収結果（※事業対象者の区分なし）

※無効票数には、白票及び入院中等による回答不可の件数が含まれる

補足 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」対象者区分について

- ① 一般高齢者 : 『要支援者』『事業対象者』以外の高齢者（※要介護認定者を除く）
- ② 事業対象者 : 『要支援者』を除く介護予防・日常生活支援総合事業対象者
- ③ 要支援者 : 要介護認定において、要支援1または2と認定された人

3 報告書の見方

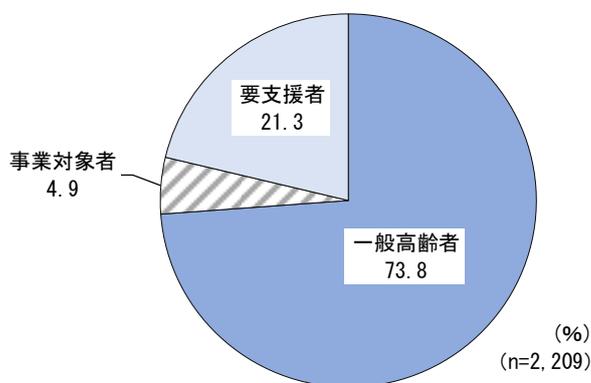
- (1) 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表している。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものである。そのため、単一回答であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- (4) 図表中に以下の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示している。
 - ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 LA% (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合※特に断りがない限り、単一回答（回答選択肢の中からあてはまるものを1つだけ選択する）形式の設問である。
- (5) 新規設問等の一部を除き、各設問において前回調査（平成28年度）の結果を掲載している。

II 調查結果

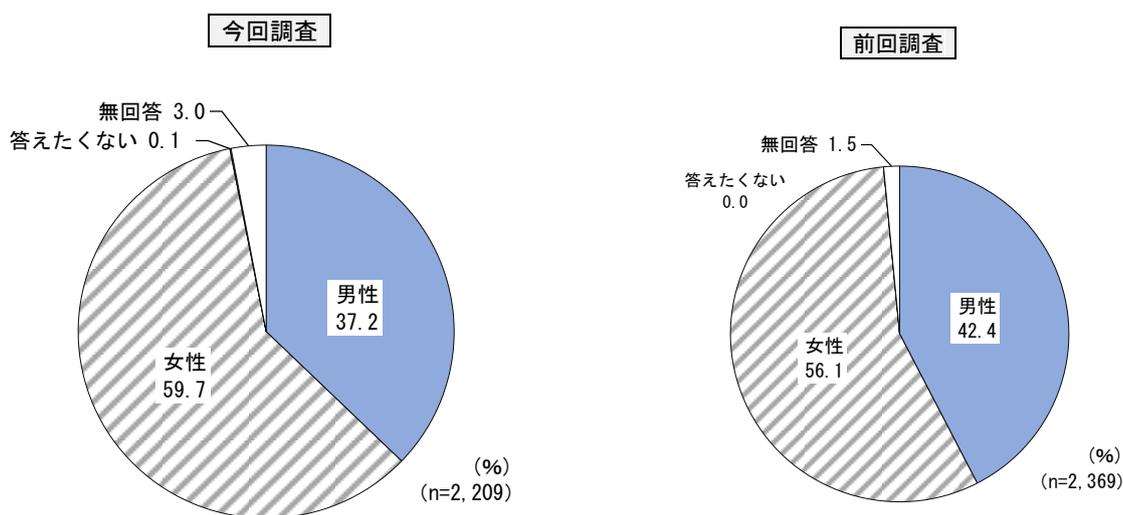
Ⅱ-1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1 基本属性

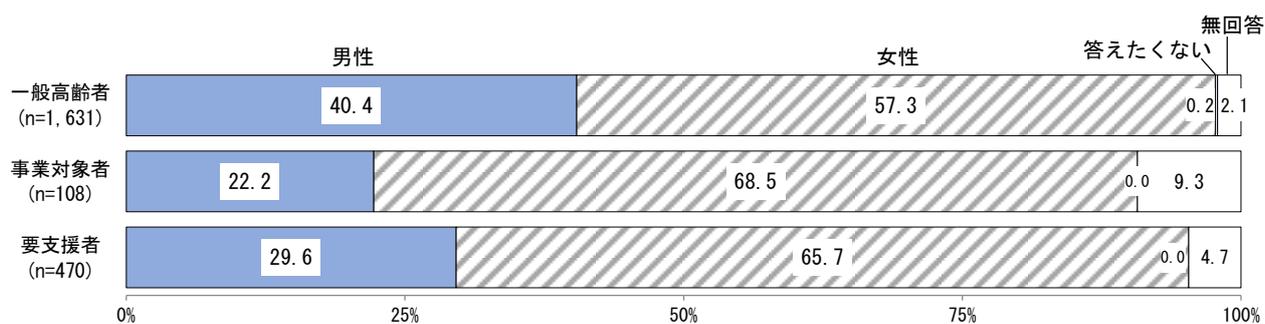
(1) 対象者区分



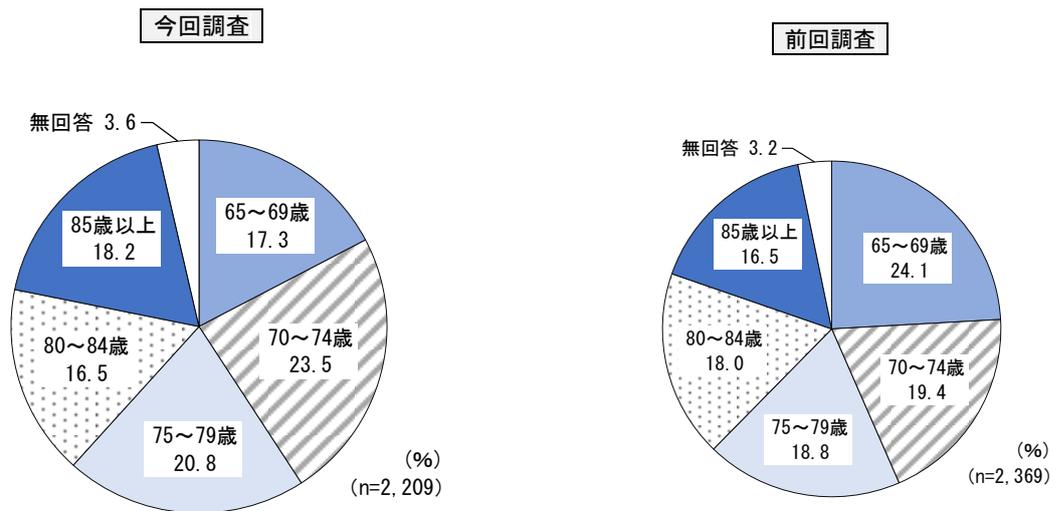
(2) 性別



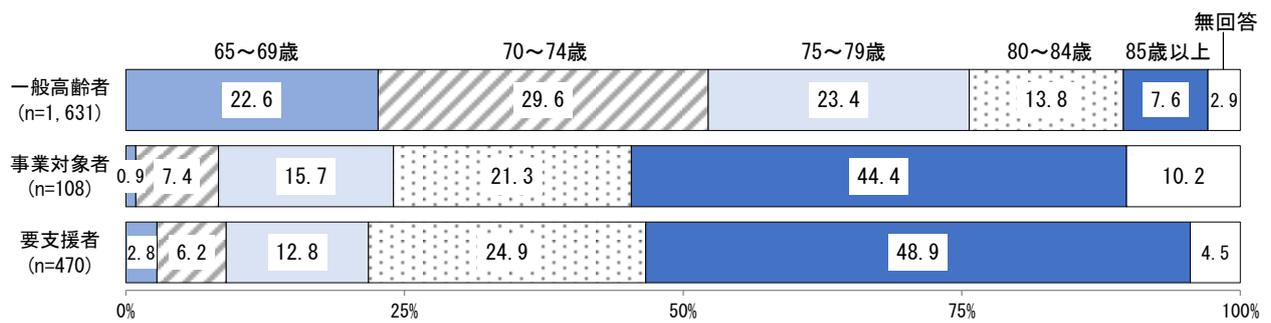
【対象者区分別 性別】



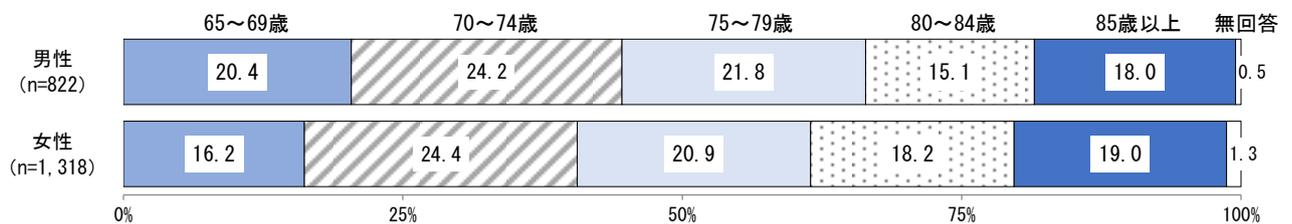
(3) 年齢



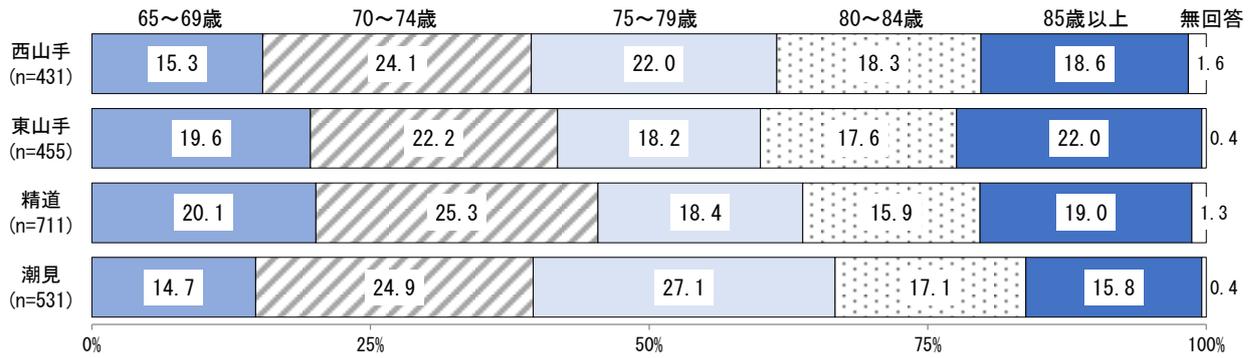
【対象者区分別 年齢】



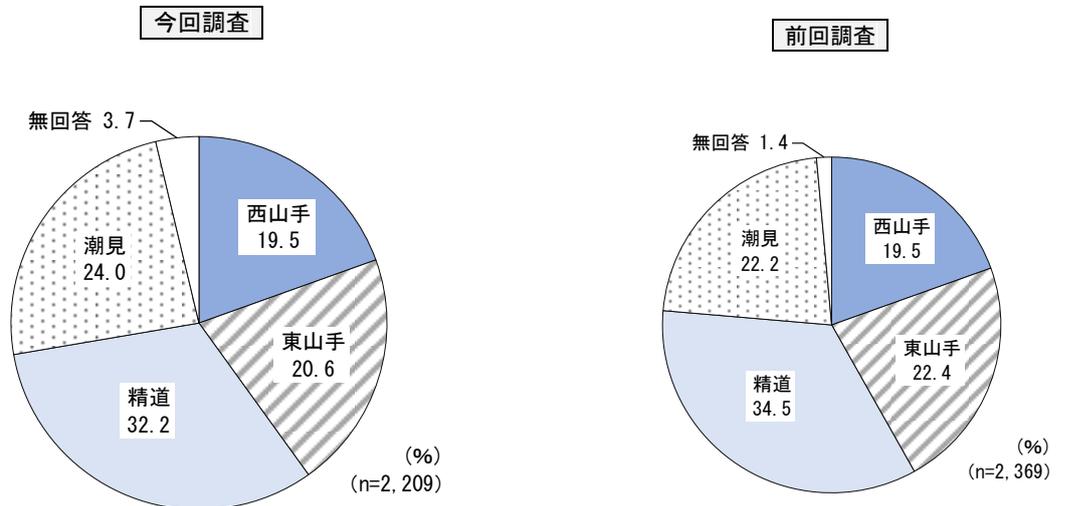
【性別 年齢】



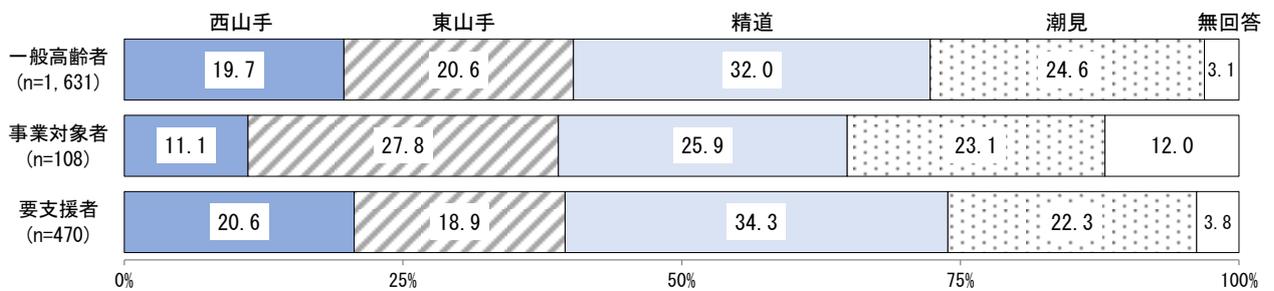
【居住地域別 年齢】



(4) 居住地域



【対象者区分別 居住地域】

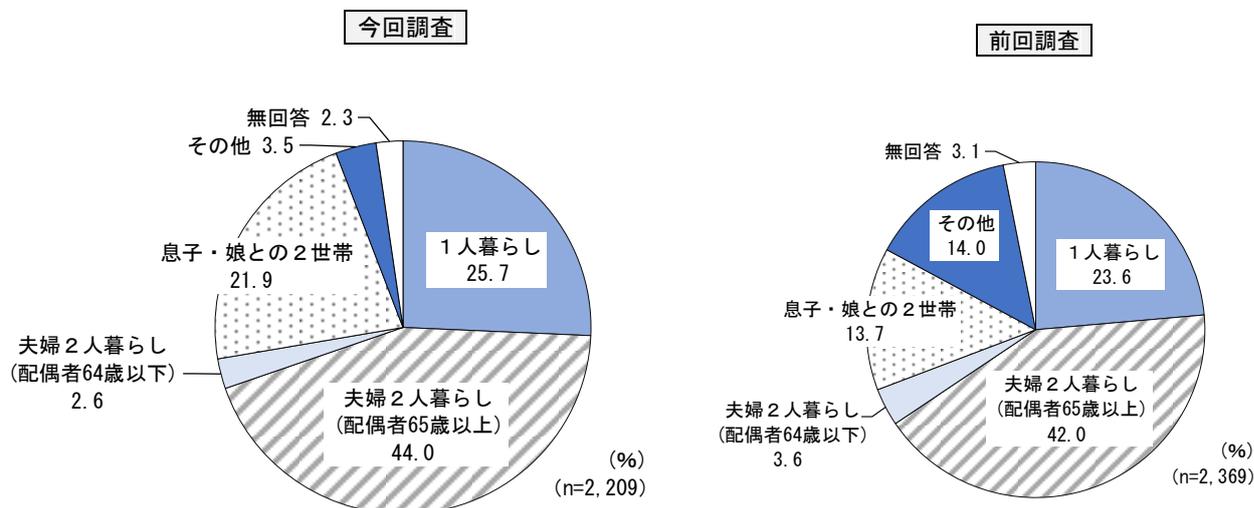


2 家族や生活状況について

(1) 家族構成

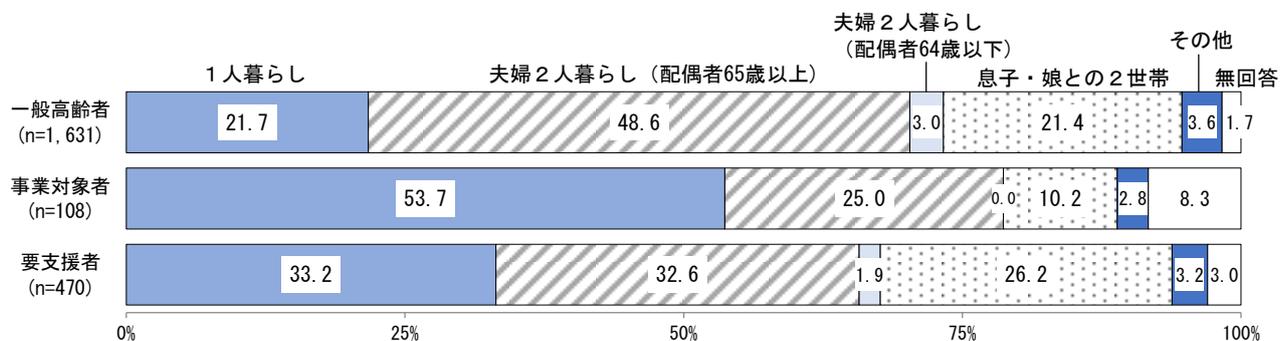
問 1(1) 家族構成をお教えてください

家族構成としては、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が44.0%と最も多く、次いで「1人暮らし」が25.7%となっており、ともに前回調査から2ポイント程度増えている。



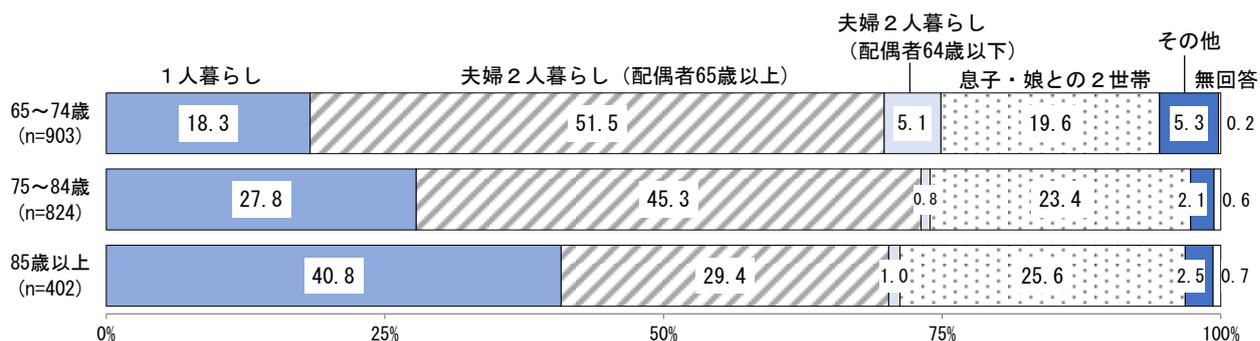
対象者区分別にみると、「1人暮らし」が一般高齢者で2割台（21.7%）、事業対象者で5割台（53.7%）、要支援者で3割台（33.2%）となっている。

【対象者区分別 家族構成】



年齢別にみると、「1人暮らし」が85歳以上で4割台（40.8%）を占めている。

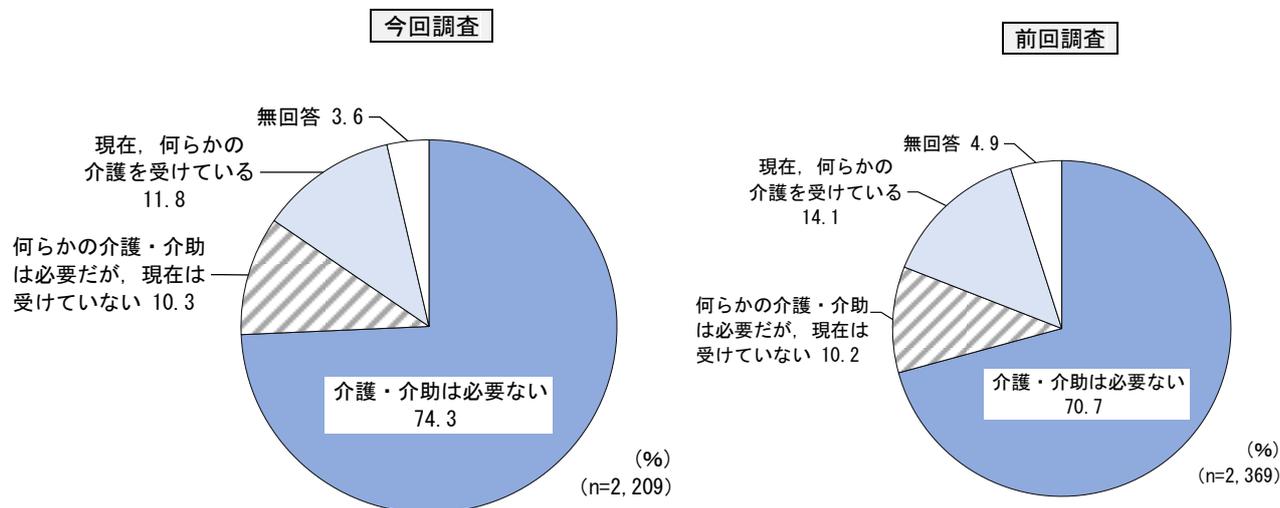
【年齢別 家族構成】



(2) 介護・介助の必要性

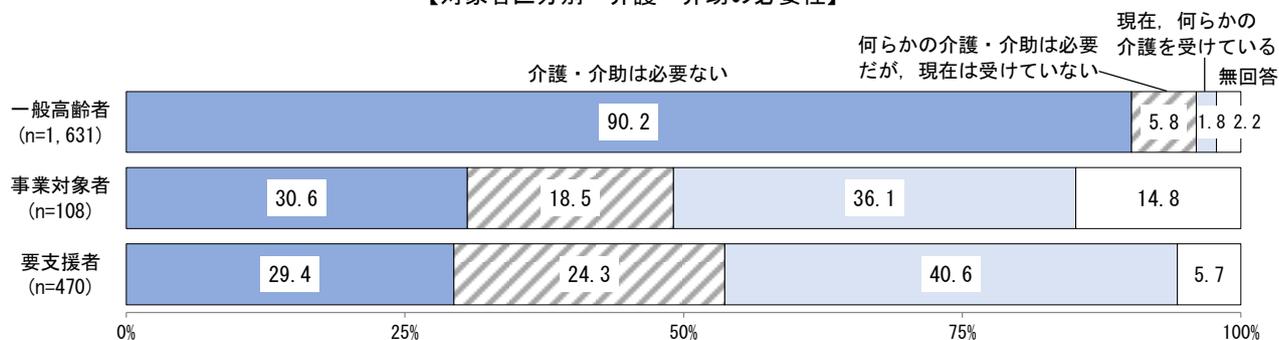
問1(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

介護・介助の必要性としては、「現在、何らかの介護を受けている」が 11.8%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 10.3%となっており、合わせると、何らかの介護・介助が必要という割合が2割台 (22.1%) みられ、前回調査 (24.4%) から 2.3 ポイント減っている。



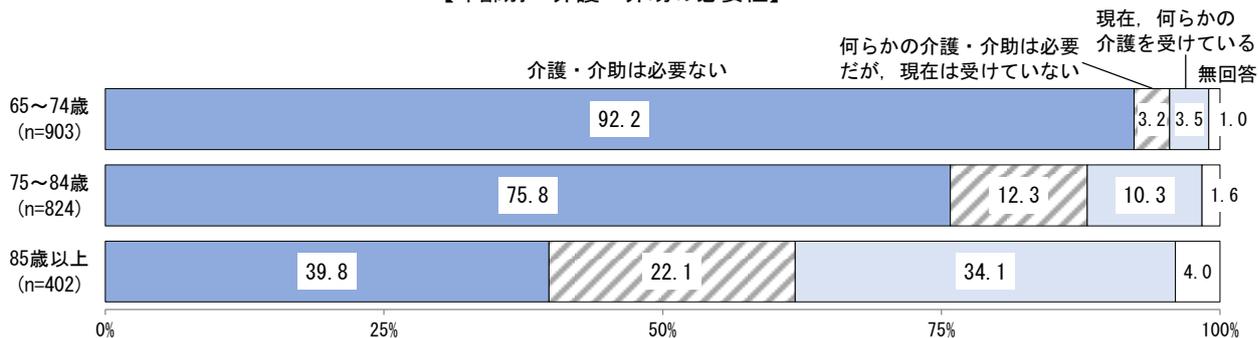
対象者区分別にみると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が、要支援者で 24.3%、事業対象者で 18.5%みられる。

【対象者区分別 介護・介助の必要性】



年齢別にみると、85歳以上で「現在、何らかの介護を受けている」が 34.1%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 22.1%となっている。

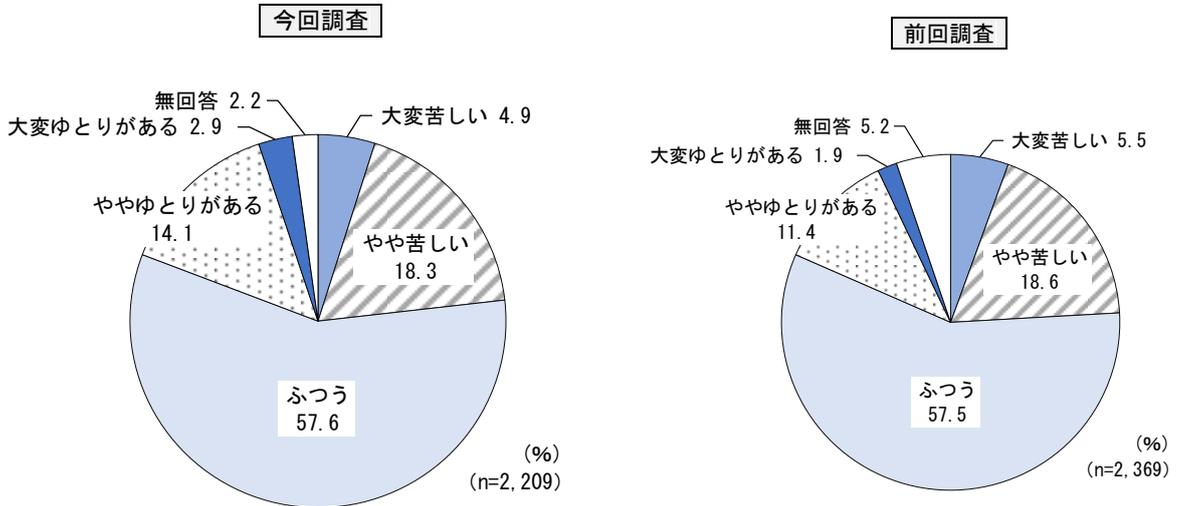
【年齢別 介護・介助の必要性】



(3) 暮らしの状況

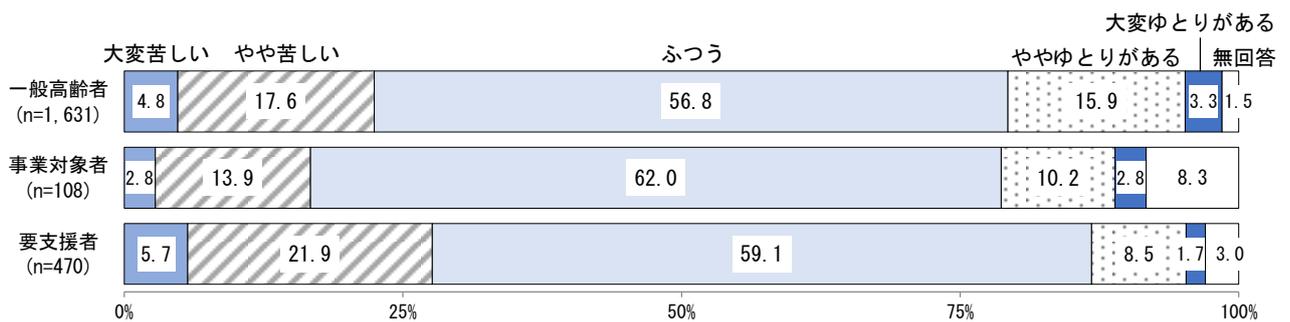
問 1(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

現在の暮らしの状況としては、「大変苦しい」が 4.9%、「やや苦しい」が 18.3%となっており、合わせると、経済的に苦しいという割合が2割台（23.2%）みられ、前回調査（24.1%）と同程度となっている。



対象者区分別にみると、経済的に苦しいという割合が、一般高齢者で22.4%、事業対象者で16.7%、要支援者で27.7%となっている。

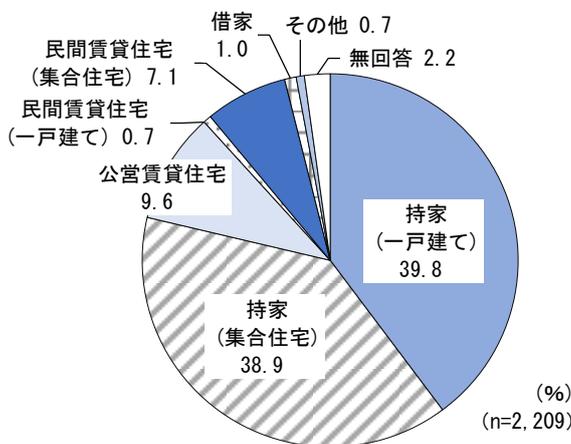
【対象者区分別 暮らしの状況】



(4) 住居形態

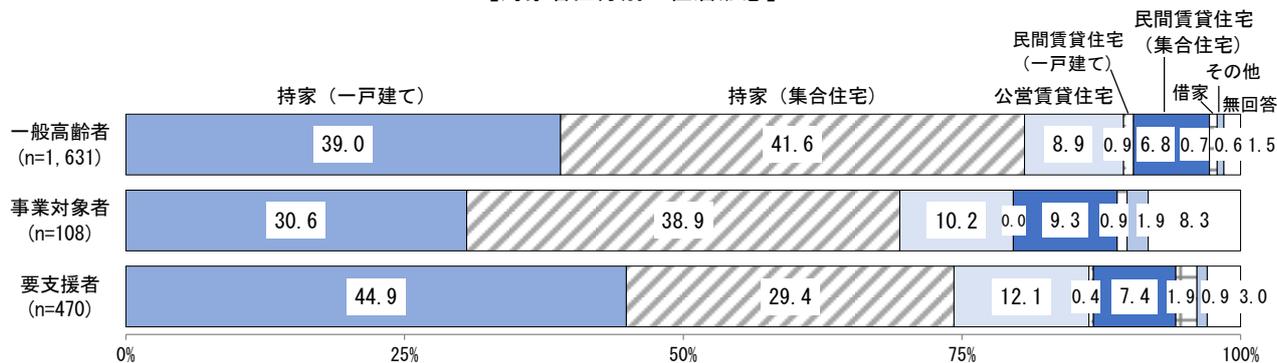
問1(4) お住まいは一人建て、または集合住宅のどちらですか

住居形態としては、「持家（一人建て）」が39.8%、「持家（集合住宅）」が38.9%と多く、合わせると、持家率が8割近く（78.7%）を占めている。



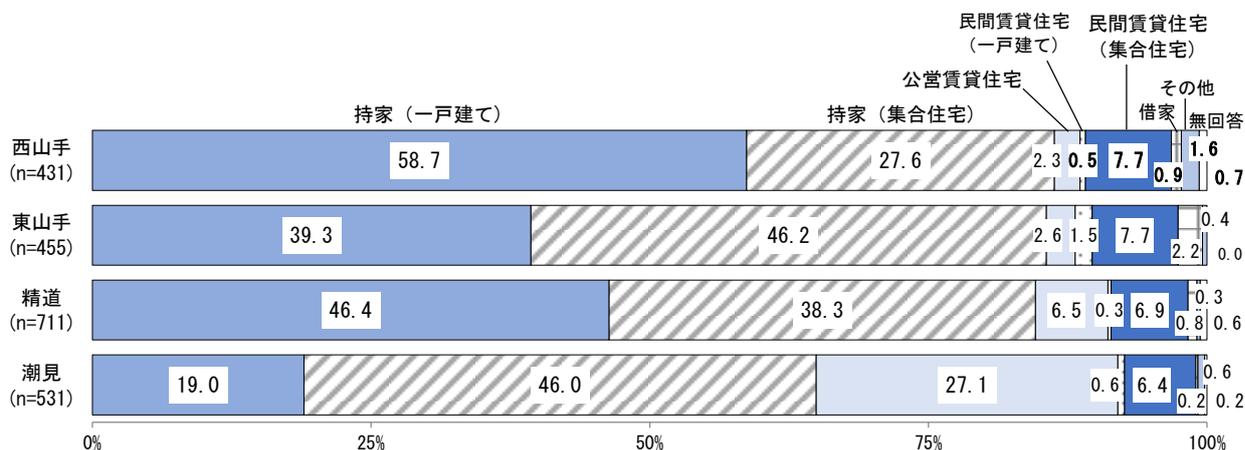
対象者区分別にみると、持家率が、一般高齢者で80.6%と最も高く、次いで要支援者で74.3%、事業対象者で69.4%となっている。

【対象者区分別 住居形態】



居住地域別にみると、持家率が、西山手・東山手・精道地域でそれぞれ8割台を占めているのに対し、潮見地域では6割台となっており、「公営賃貸住宅」が27.1%と高い。

【居住地域別 住居形態】

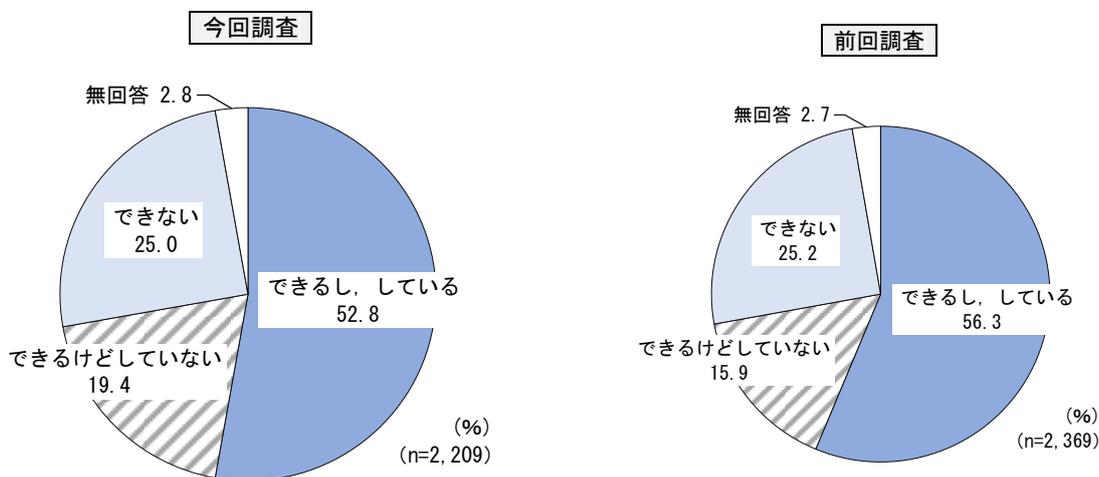


3 からだを動かすことについて

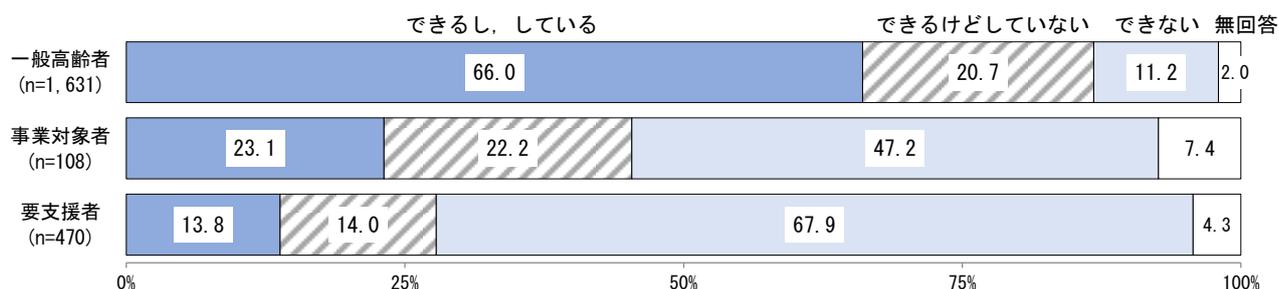
(1) 運動機能の状況

問 2(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

階段を手すりや壁をつたわずに昇ることが「できない」は2割台 (25.0%) となっている。

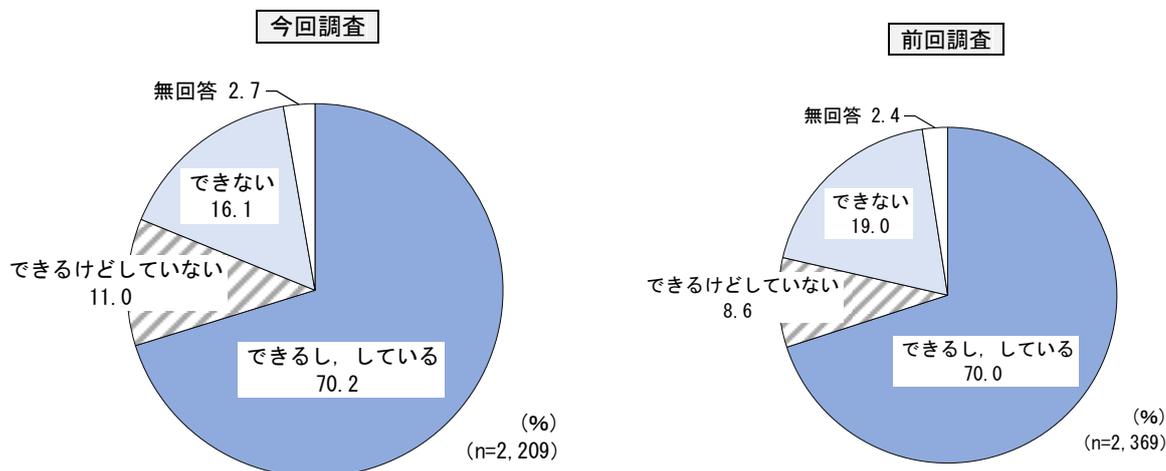


【対象者区分別 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか】

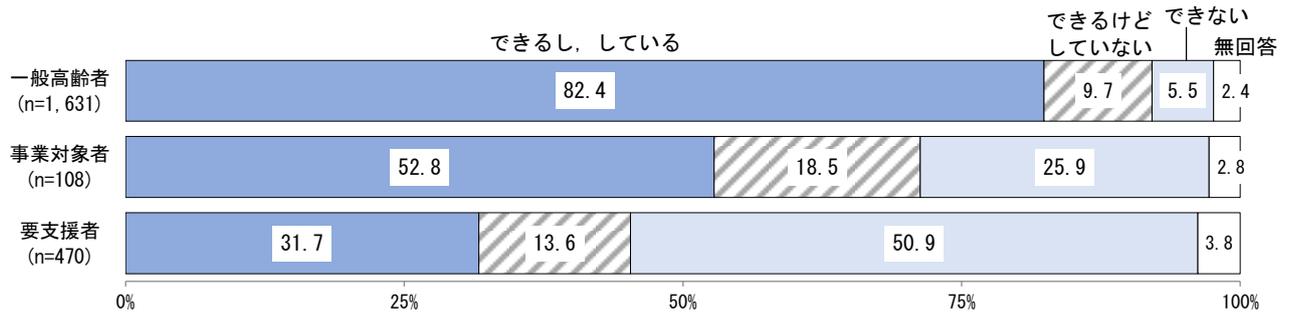


問 2(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることが「できない」は1割台 (16.1%) となっている。

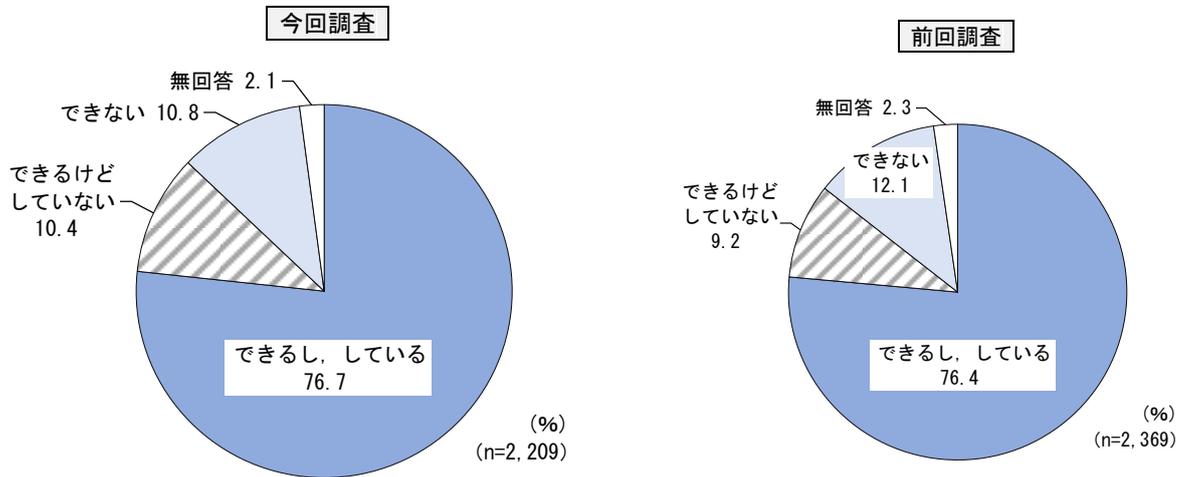


【対象者区分別 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか】

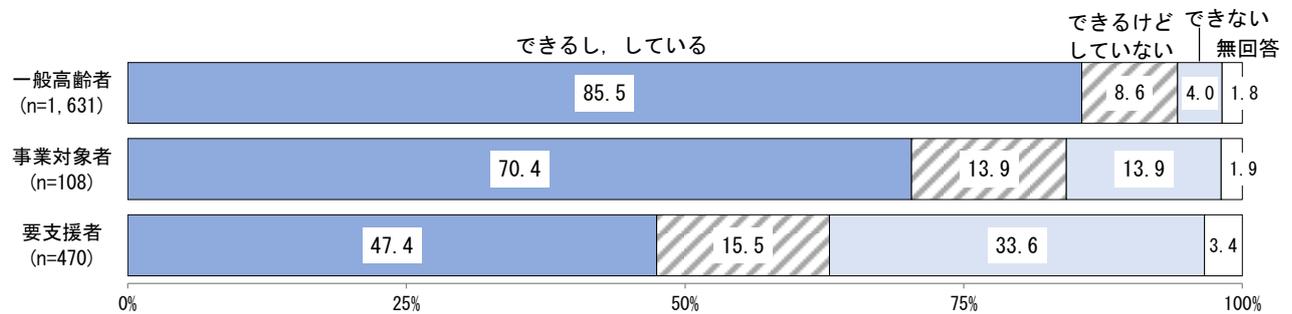


問 2(3) 15分位続けて歩いていますか

15分位続けて歩くことが「できない」は約1割（10.8%）となっている。

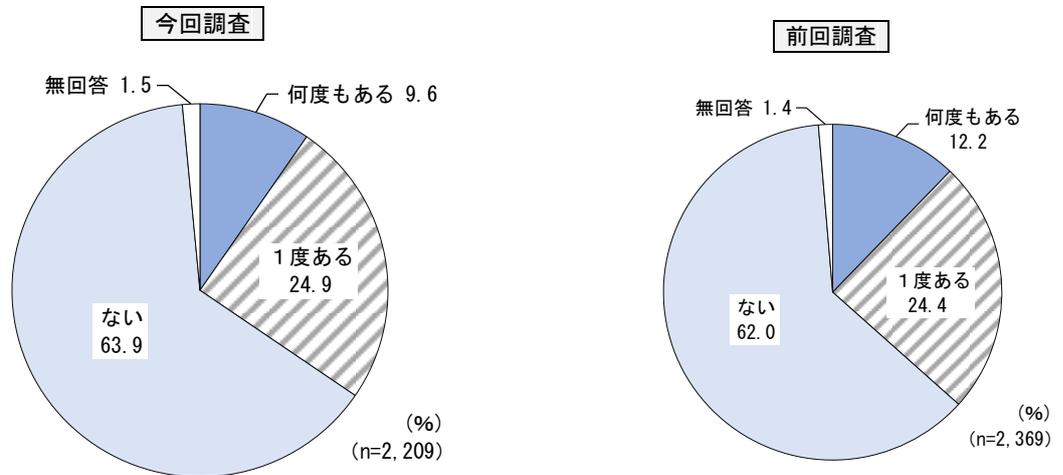


【対象者区分別 15分位続けて歩いているか】

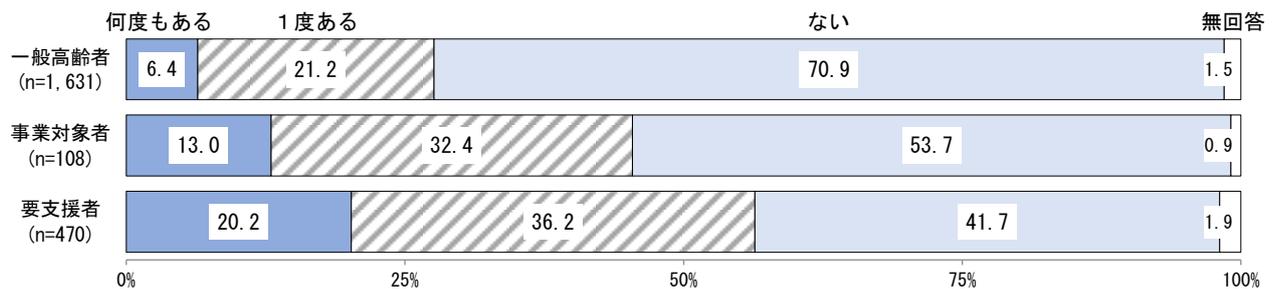


問 2(4) 過去 1 年間に転んだ経験がありますか

過去 1 年間に転んだ経験が「何度もある」が 9.6%、「1 度ある」が 24.9%となっており、合わせると、転んだ経験があるという割合が 3 割台 (34.6%) みられる。

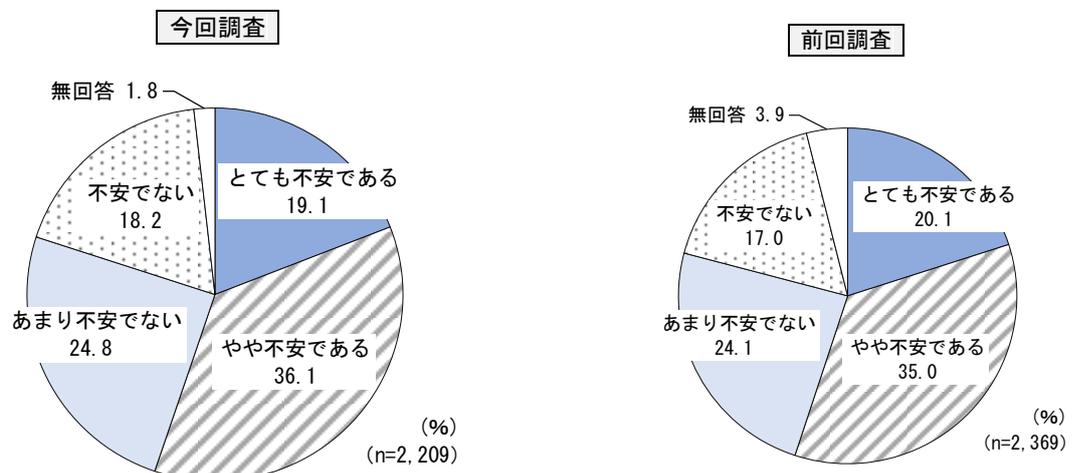


【対象者区分別 過去 1 年間に転んだ経験があるか】

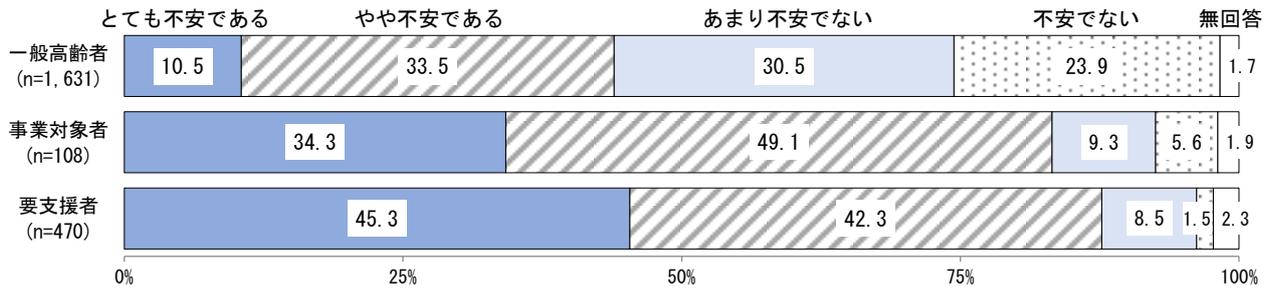


問 2(5) 転倒に対する不安は大きいですか

転倒に対して「やや不安である」が 36.1%と最も多く、「とても不安である」(19.1%) を合わせると、不安という割合が半数以上 (55.2%) を占めている。



【対象者区分別 転倒に対する不安は大きいかな】

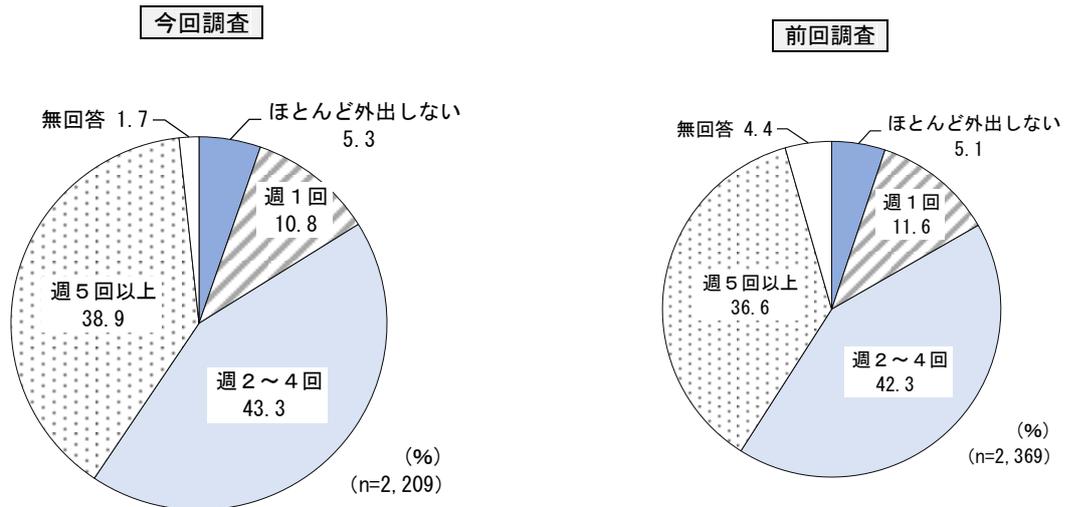


(2) 外出の状況

①外出の頻度

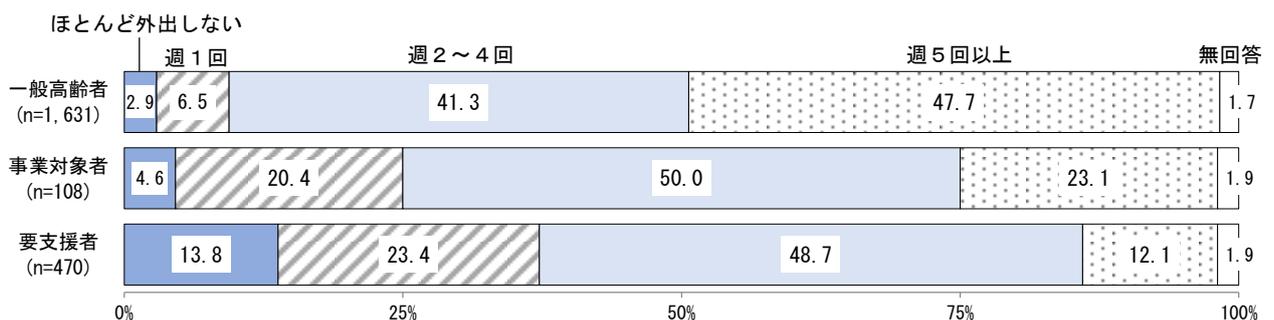
問2(6) 週に1回以上は外出していますか

1週間あたりの外出の頻度としては、「週2～4回」が43.3%と最も多く、次いで「週5回以上」が38.9%となっている。一方、週1回以下の割合は1割台(16.1%)みられ、前回調査(16.7%)と同程度となっている。



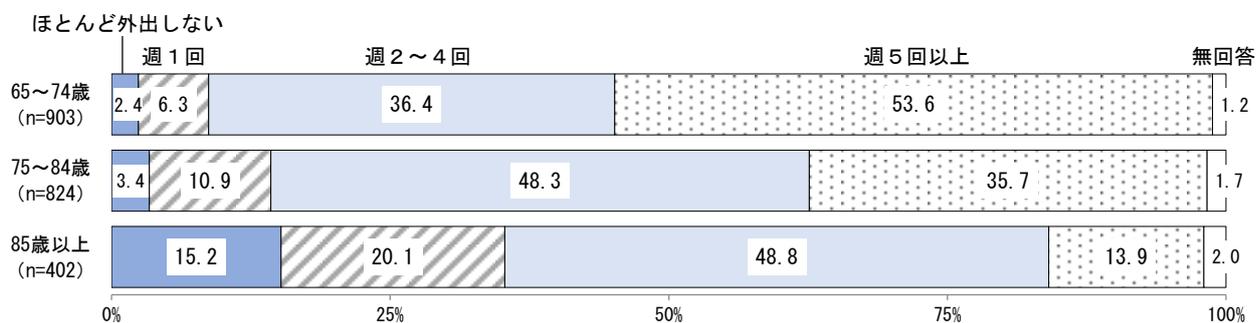
対象者区分別にみると、週1回以下の割合が、一般高齢者で9.4%に対し、事業対象者では25.0%、要支援者では37.2%となっている。

【対象者区分別 外出の頻度】



年齢別にみると、週1回以下の割合が、65～84歳では1割前後となっているのに対し、85歳以上では3割台（35.3%）みられる。

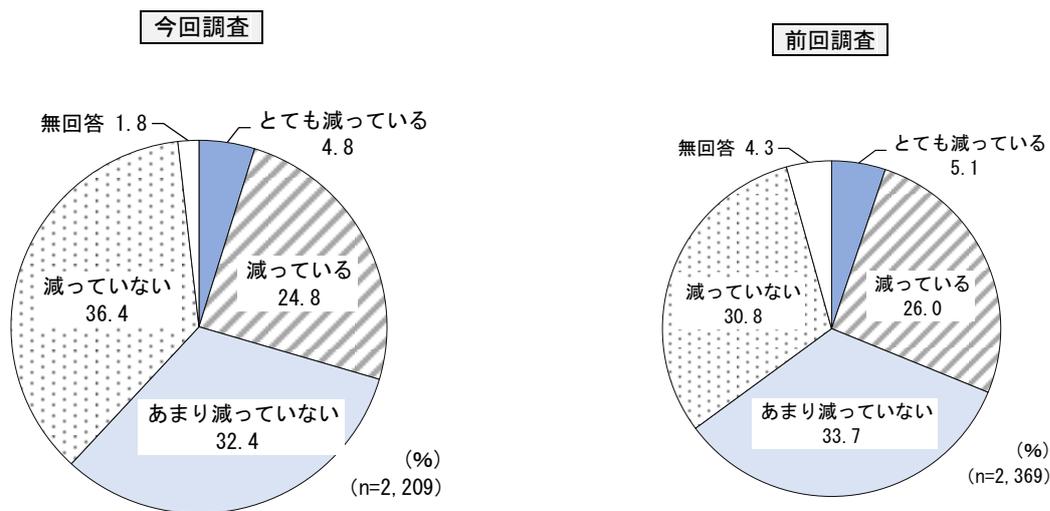
【年齢別 外出の頻度】



②外出回数の減少度合い

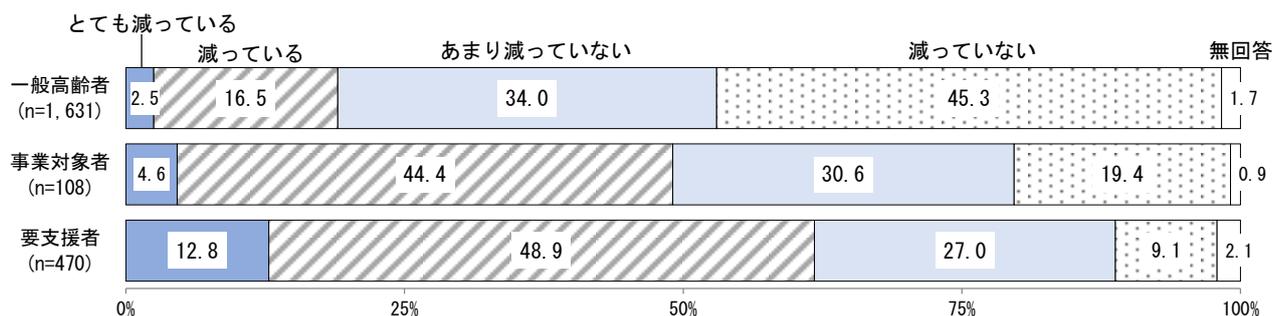
問2(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

昨年と比べて外出の回数が「とても減っている」が4.8%、「減っている」が24.8%となっており、合わせると、減っているという割合が約3割（29.5%）みられ、前回調査（31.2%）から1.7ポイント減っている。



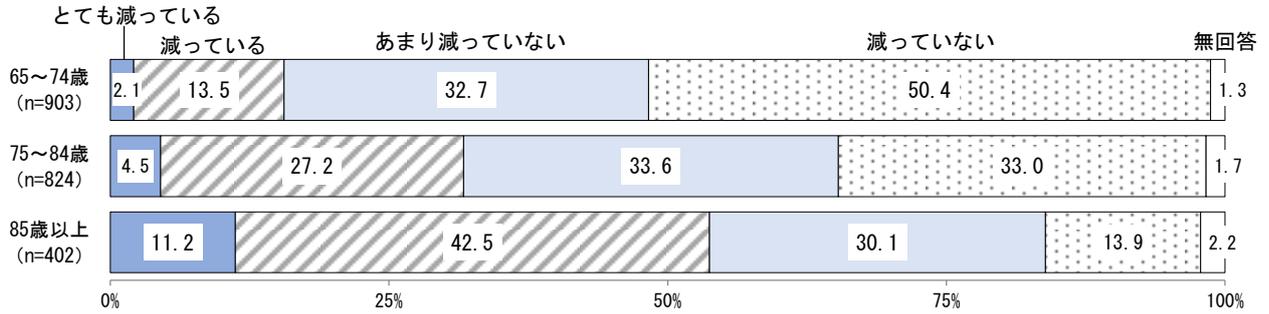
対象者区分別にみると、減っているという割合が、一般高齢者で18.9%に対し、事業対象者では約半数（49.1%）、要支援者では6割台（61.7%）をそれぞれ占めている。

【対象者区分別 外出回数の減少度合い】



年齢別にみると、減っているという割合が、85歳以上で半数以上（53.7%）を占めている。

【対象者区分別 外出回数の減少度合い】



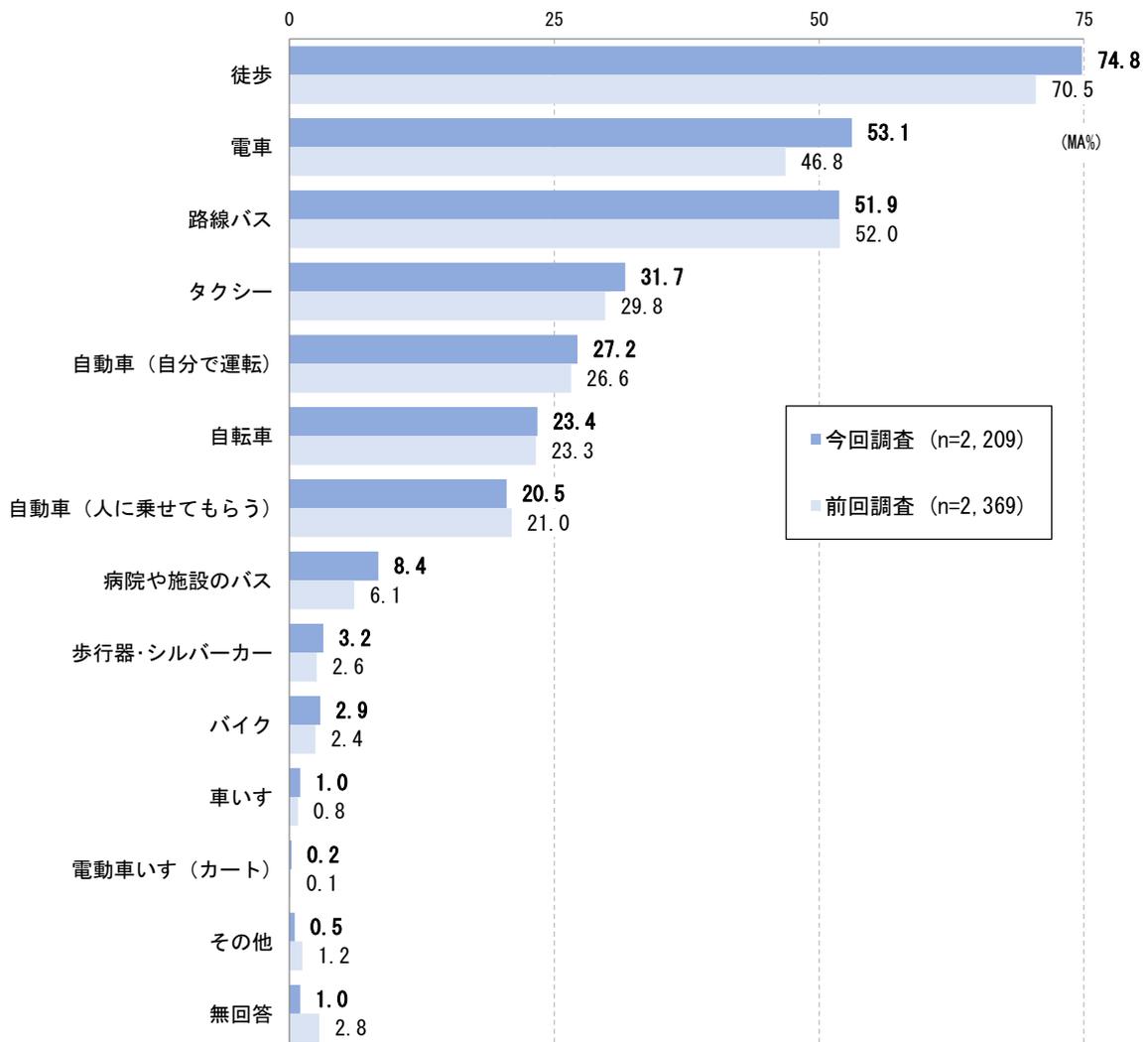
(3) 外出する際の移動手段

① 移動手段

問 2(8) 外出する際の移動手段は何ですか (〇はいくつでも)

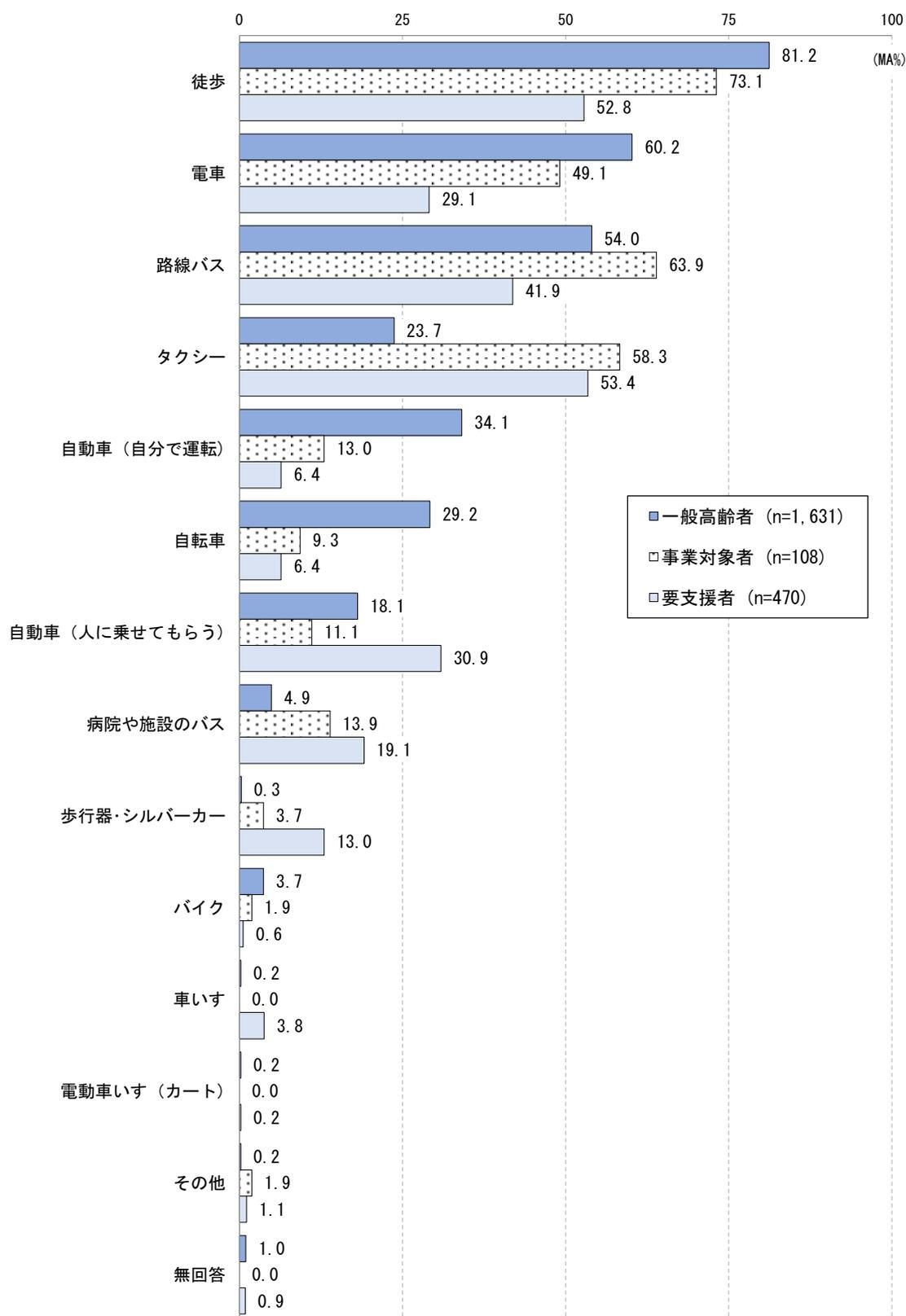
外出する際の移動手段としては、「徒歩」が74.8%と最も多く、次いで「電車」が53.1%、「路線バス」が51.9%、「タクシー」が31.7%、「自動車（自分で運転）」が27.2%となっている。

前回調査と比べると、「電車」（前回46.8%）が6.3ポイント増えている。



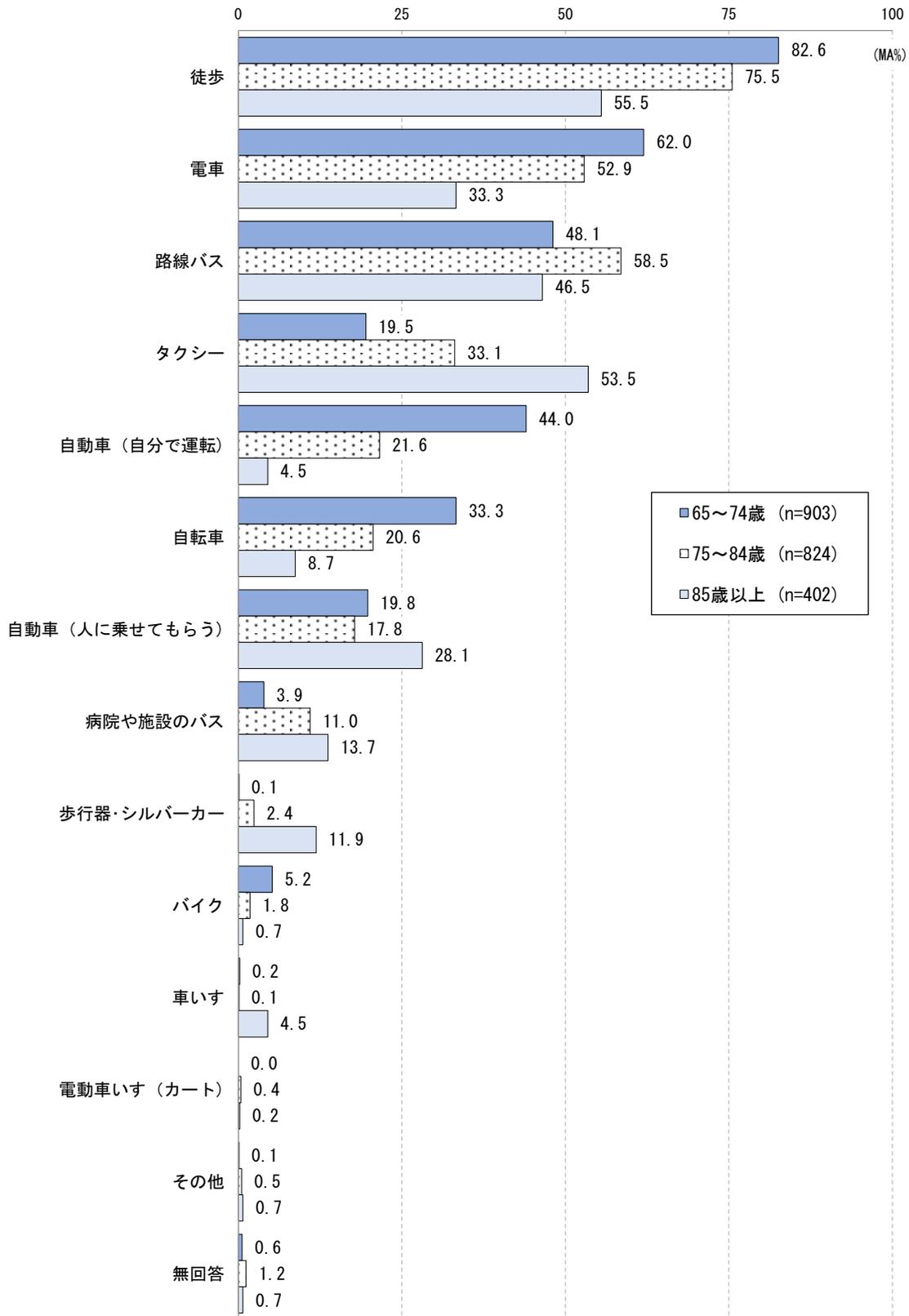
対象者区分別にみると、徒歩以外では、一般高齢者では「電車」が60.2%、事業対象者では「路線バス」が63.9%、要支援者では「タクシー」が53.4%と、それぞれ多くなっている。

【対象者区分別 外出時の移動手段】



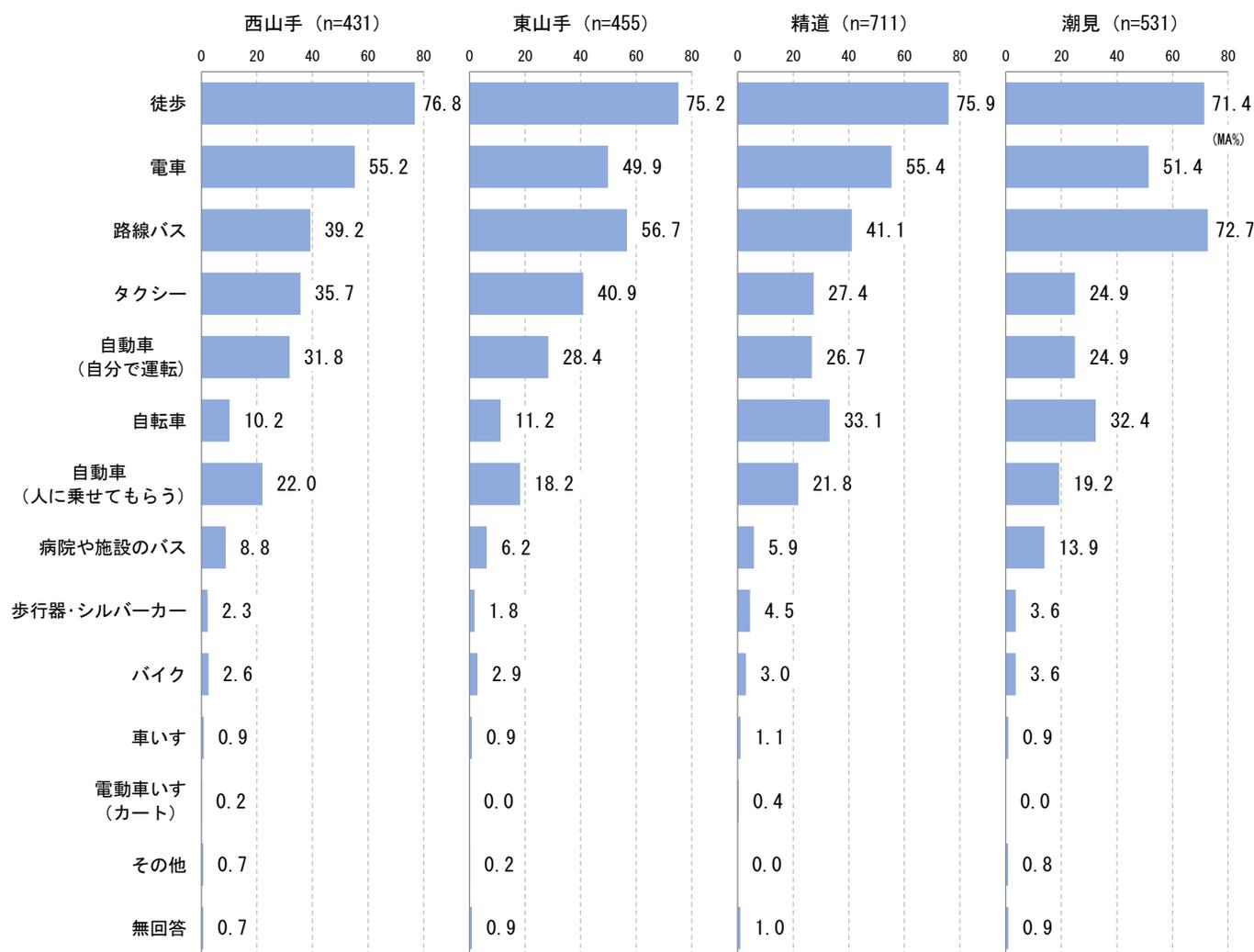
年齢別にみると、徒歩以外では、65～74歳では「電車」が62.0%、75～84歳では「路線バス」が58.5%、85歳以上では「タクシー」が53.5%と、それぞれ多くなっている。

【年齢別 外出時の移動手段】



居住地域別にみると、「電車」が精道地域で55.4%、西山手地域で55.2%、「路線バス」が潮見地域で72.7%、「タクシー」が東山手地域で40.9%と、それぞれ高くなっている。

【居住地域別 外出時の移動手段】

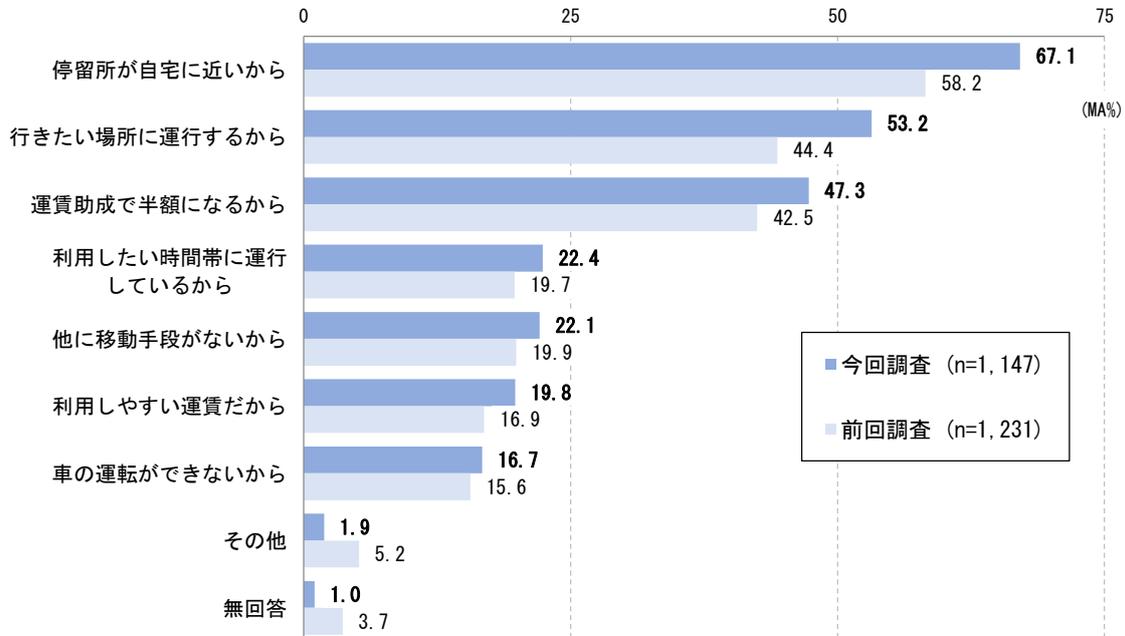


②路線バス利用の理由

【問2(8)で「路線バス」とお答えの方】

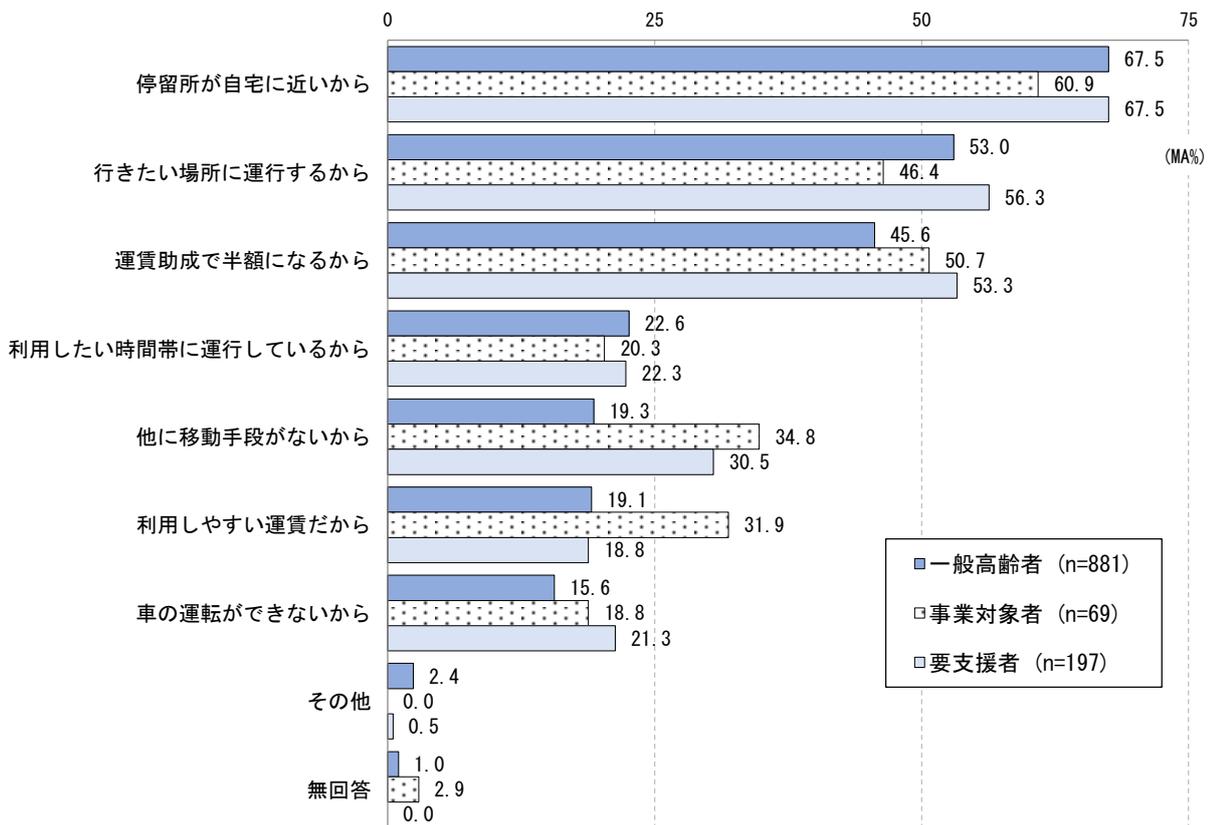
問2(8)-1 あなたが路線バスを利用する主な理由は何ですか（○はいくつでも）

路線バスを利用する理由としては、「停留所が自宅に近いから」が67.1%と最も多く、次いで「行きたい場所に運行するから」が53.2%、「運賃助成で半額になるから」が47.3%となっており、いずれも前回調査から5～10ポイント程度増えている。



対象者区分別にみても、いずれも「停留所が自宅に近いから」が6割台と最も多くなっている。

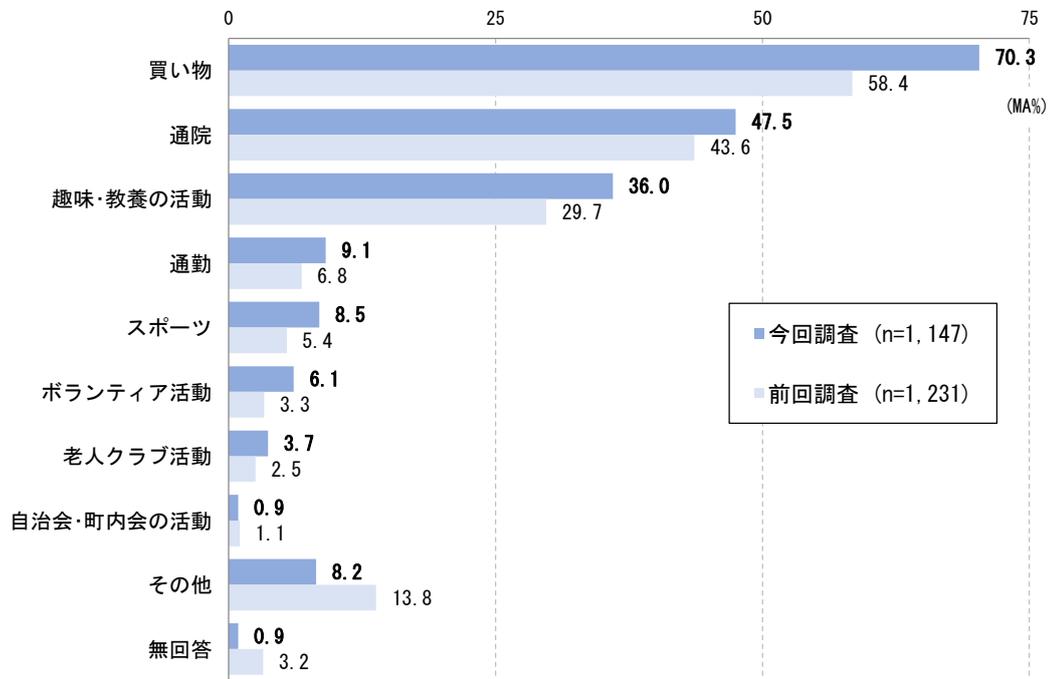
【対象者区分別 路線バス利用の理由】



③路線バスの利用目的

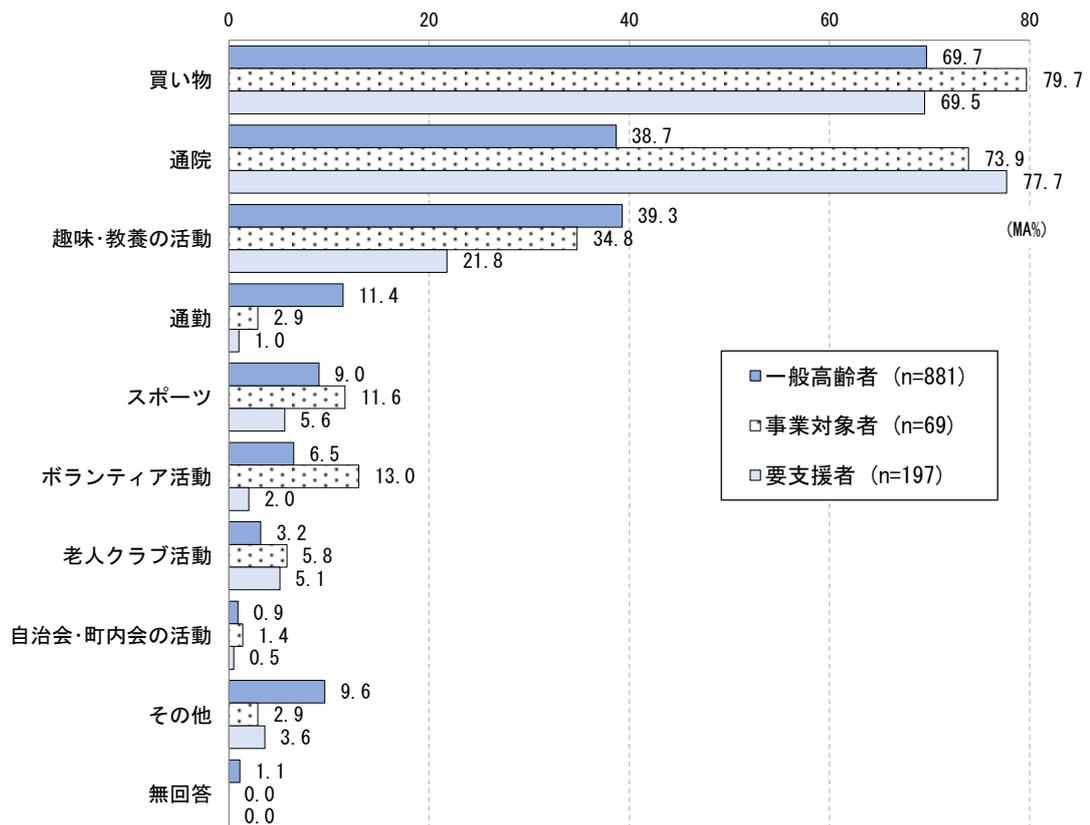
問 2(8)-2 あなたが路線バスを利用する主な目的は何ですか (〇はいくつでも)

路線バスの利用目的としては、「買い物」が70.3%と最も多く、次いで「通院」が47.5%、「趣味・教養の活動」が36.0%となっている。



対象者区分別にみると、「買い物」が一般高齢者で69.7%、事業対象者で79.7%と、ともに最も多くなっているのに対し、「要支援者」では「通院」が77.7%と最も多い。

【対象者区分別 路線バスの利用目的】



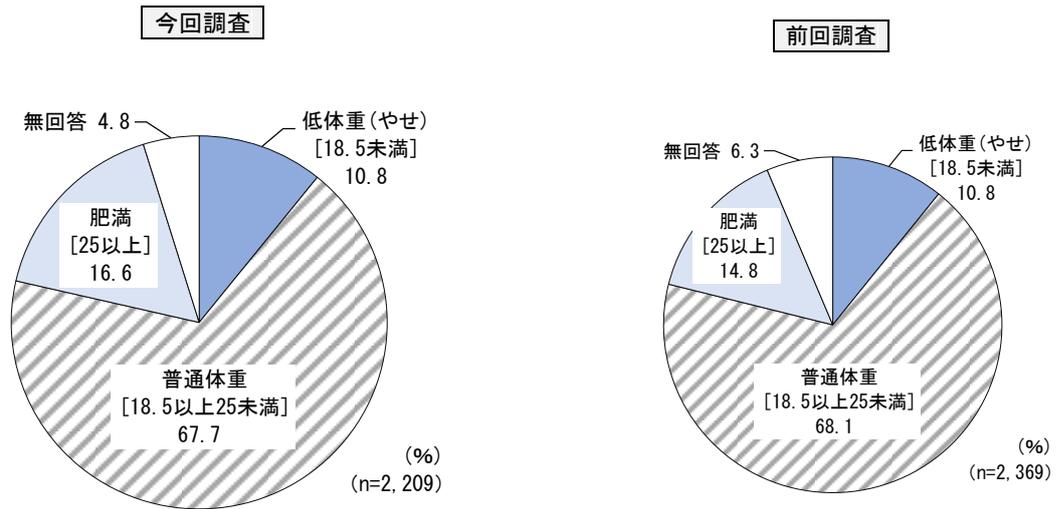
4 食べることについて

(1) BMI

問3(1) 身長・体重

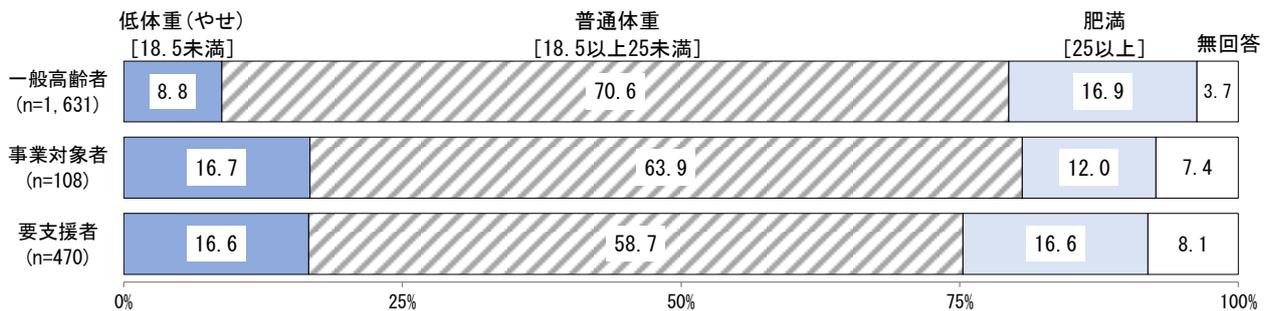
身長・体重から算出したBMI値をみると、「低体重（やせ）」が10.8%、「肥満」が16.6%となっている。

前回調査と比べると、「肥満」(14.8%)が1.8ポイント増えている。



対象者区分別にみると、「低体重（やせ）」が、一般高齢者で8.8%、事業対象者で16.7%、要支援者で16.6%となっている。

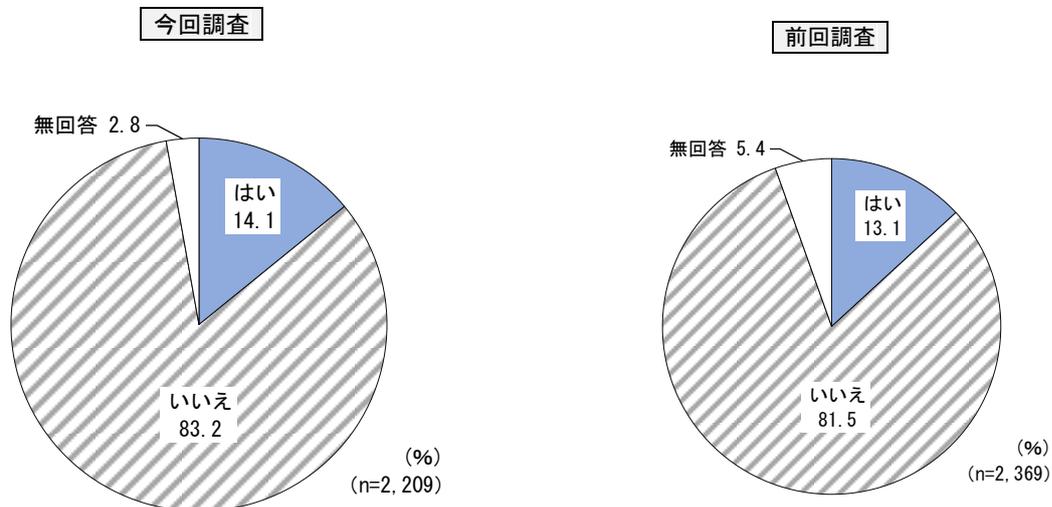
【対象者区分別 BMI】



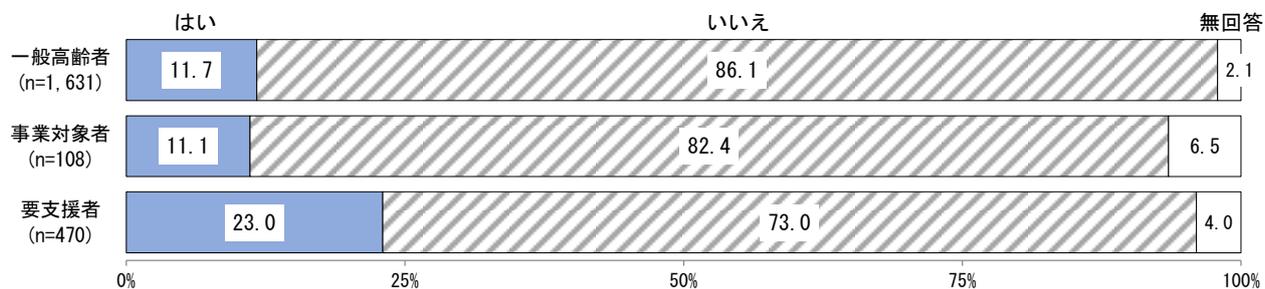
(2) 体重減少の有無

問3(2) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったという割合(「はい」)は1割台(14.1%)となっている。



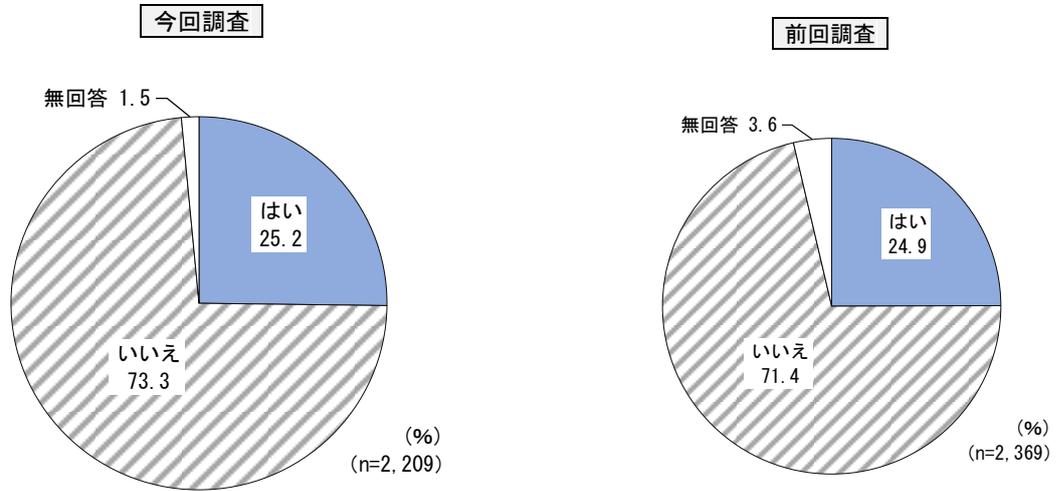
【対象者区別 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか】



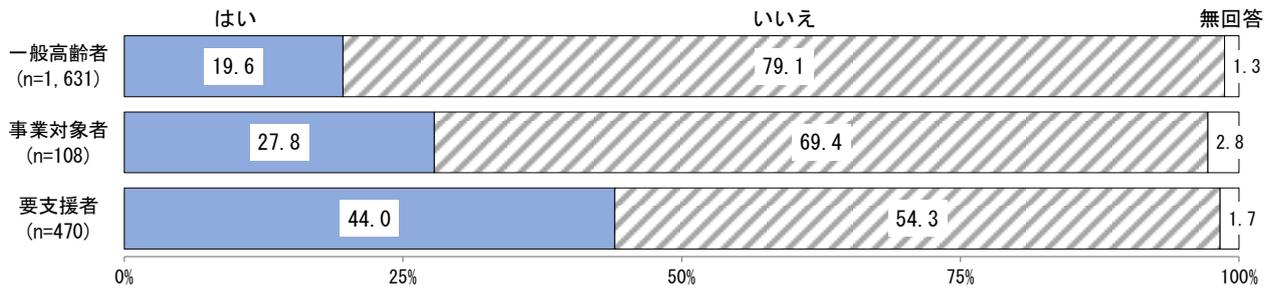
(3) 口腔機能の状況

問3(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

固いものが食べにくくなったという割合（「はい」）は2割台（25.2%）となっている。

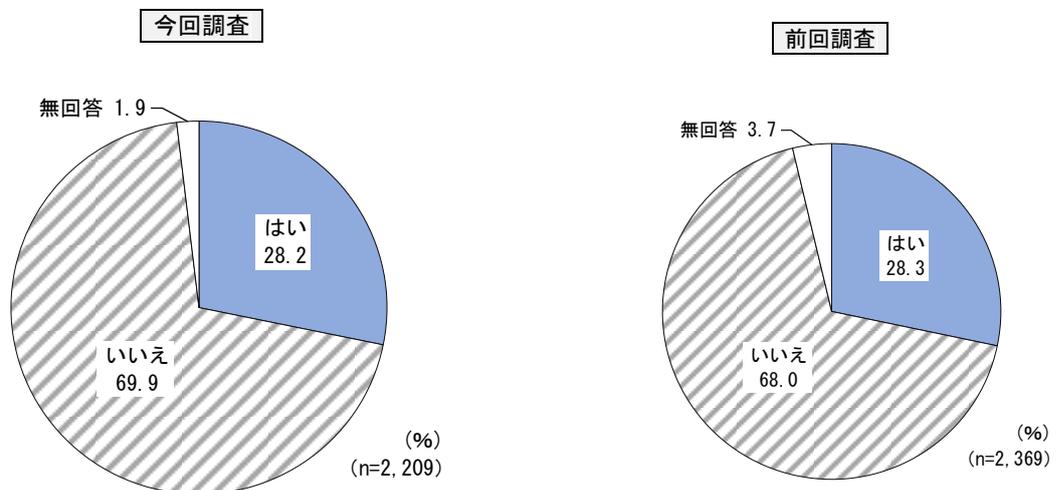


【対象者区分別 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか】

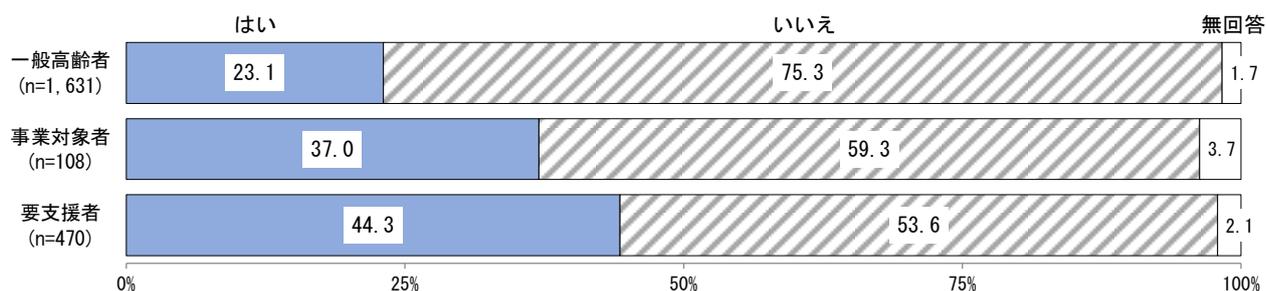


問3(4) お茶や汁物等でむせることがありますか

お茶や汁物等でむせることがあるという割合（「はい」）は3割近く（28.2%）となっている。

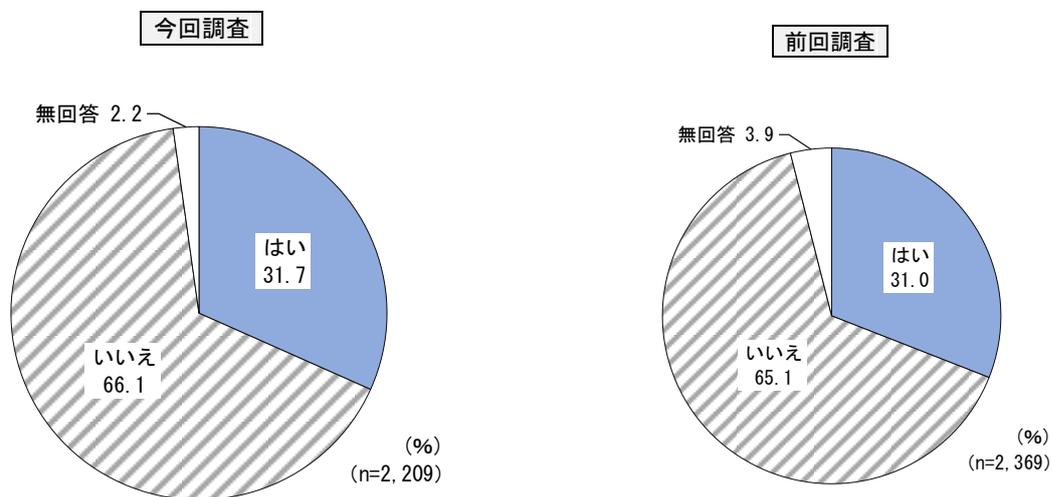


【対象者区分別 お茶や汁物等でむせることがあるか】

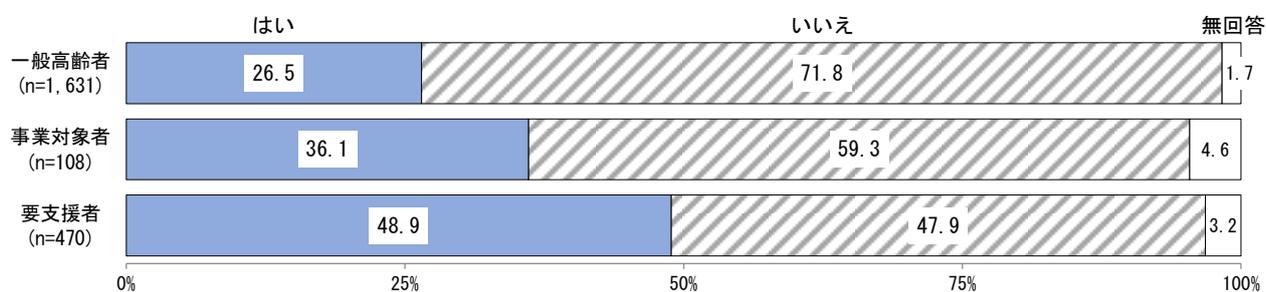


問 3(5) 口の渇きが気になりますか

口の渇きが気になるという割合（「はい」）は3割台（31.7%）となっている。



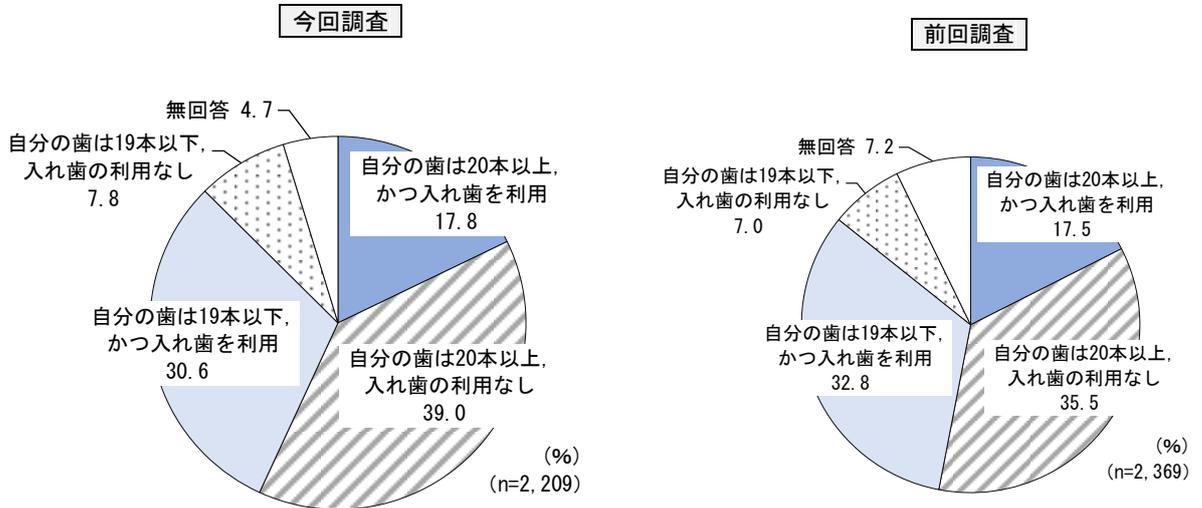
【対象者区分別 口の渇きが気になるか】



(4) 歯の状況

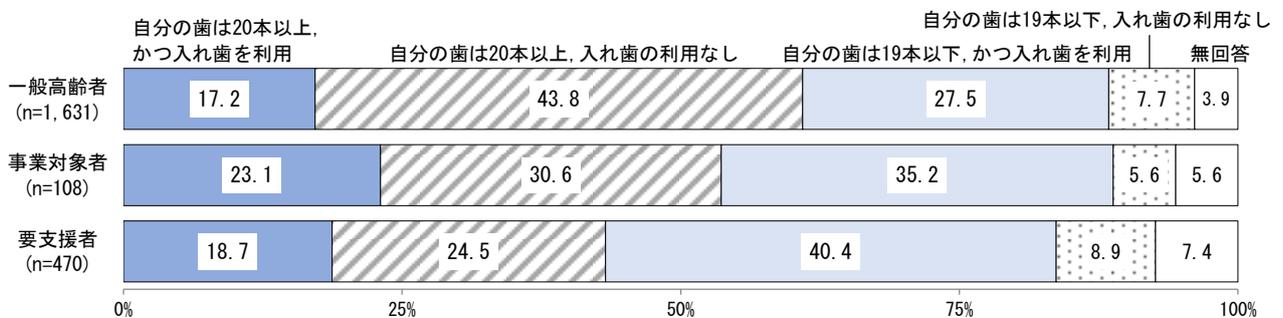
問 3(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください

歯の数と入れ歯の利用状況としては、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 39.0%と最も多く、次いで「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 30.6%となっている。



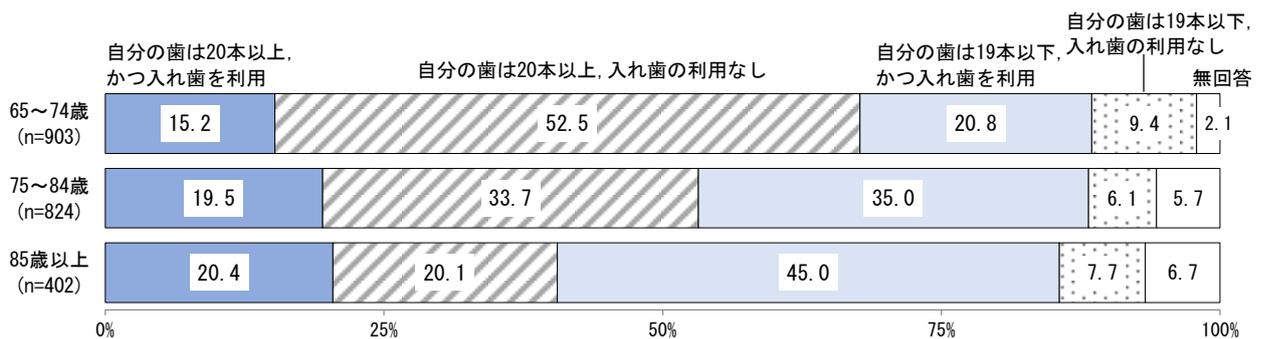
対象者区分別にみると、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が要支援者で 40.4%、事業対象者で 35.2%と、ともに最も多くなっている。

【対象者区分別 歯の状況】



年齢別にみると、65～74 歳では「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 52.5%と最も多いのに対し、75 歳以上では「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が最も多く、75～84 歳で 35.0%、85 歳以上で 45.0%となっている。

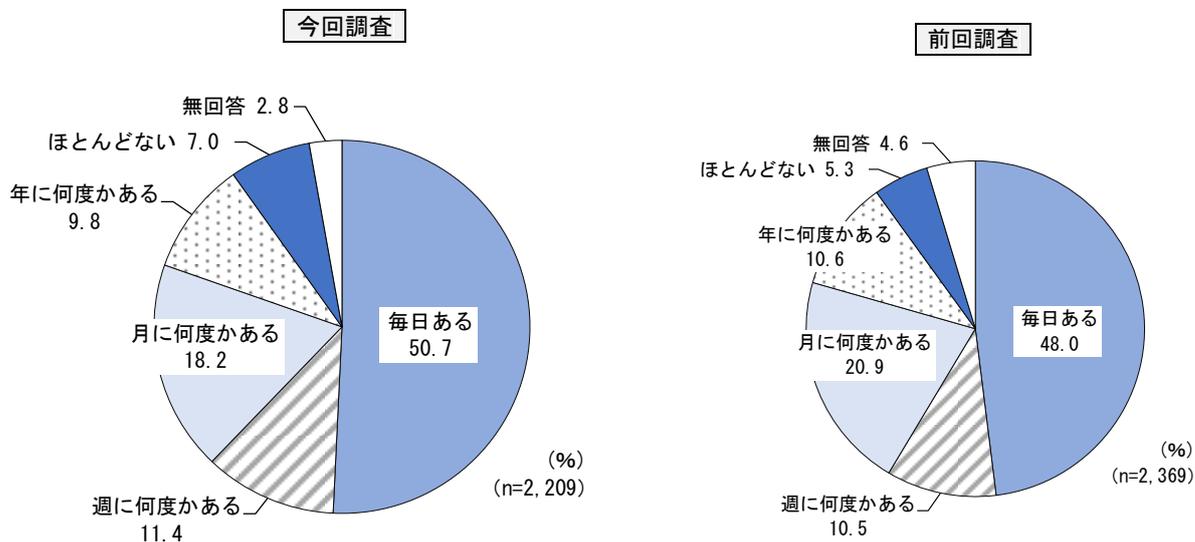
【年齢別 歯の状況】



(5) 共食の状況

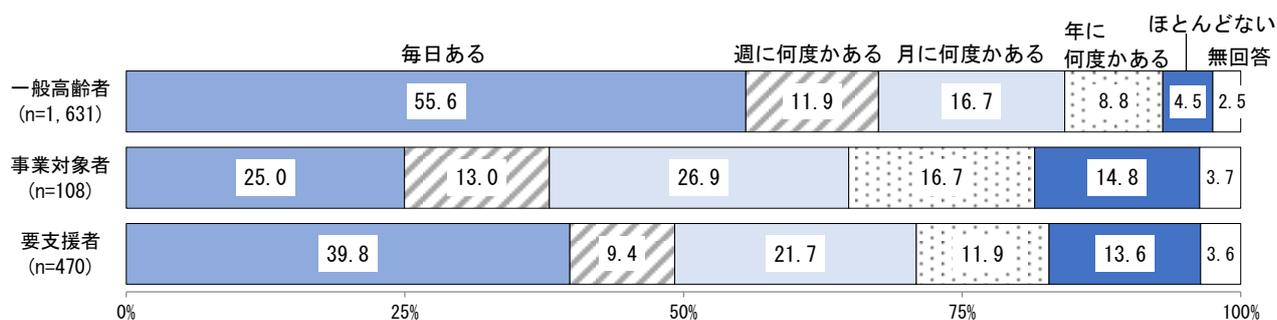
問3(7) どなたかと食事をとにもする機会がありますか

誰かと食事をとにもする機会が「毎日ある」が約5割(50.7%)と最も多く、月に数回以下の割合(「月に何度かある」「年に何度かある」「ほとんどない」の計)が3割台(35.0%)みられる。



対象者区分別にみると、月に数回以下の割合が、一般高齢者で30.0%、事業対象者で58.3%、要支援者で47.2%となっている。

【対象者区分別 共食の状況】

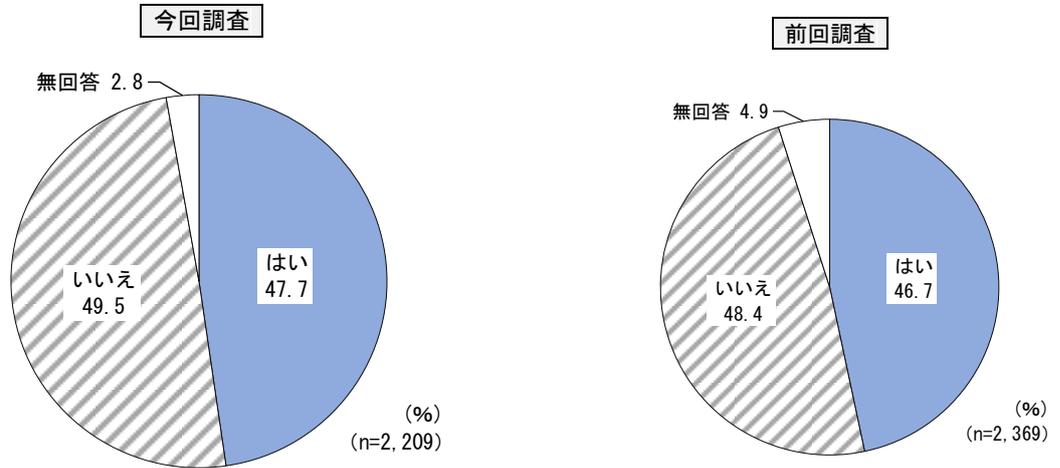


5 毎日の生活について

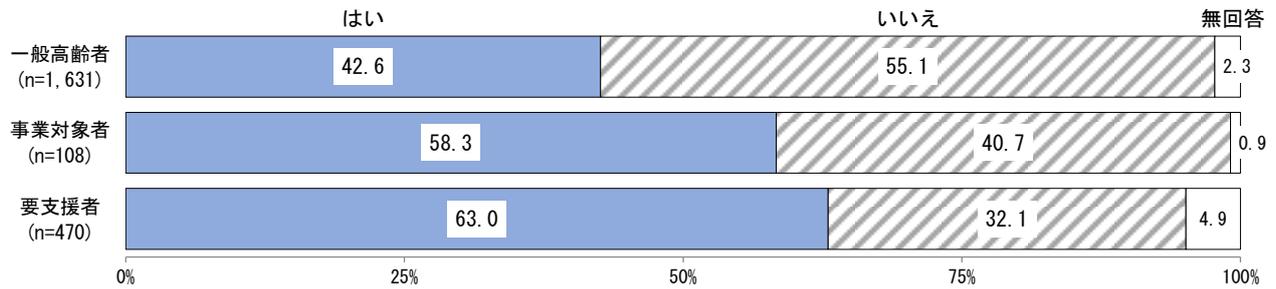
(1) 認知機能の状況

問 4(1) 物忘れが多いと感じますか

物忘れが多いと感じるという割合（「はい」）は4割台（47.7%）となっている。

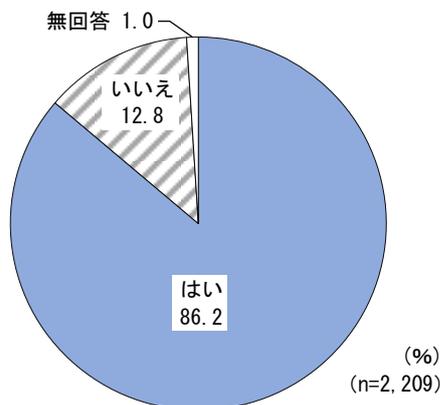


【対象者区分別 物忘れが多いと感じるか】

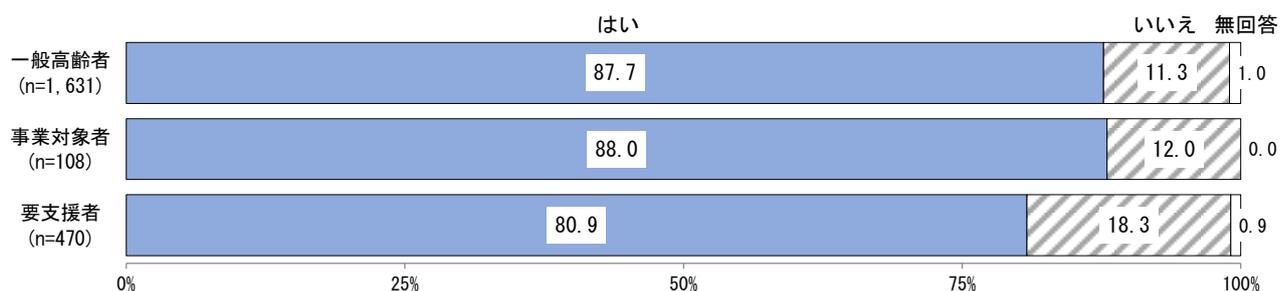


問 4(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

自分で電話番号を調べてかけているという割合（「はい」）は8割台（86.2%）となっている。

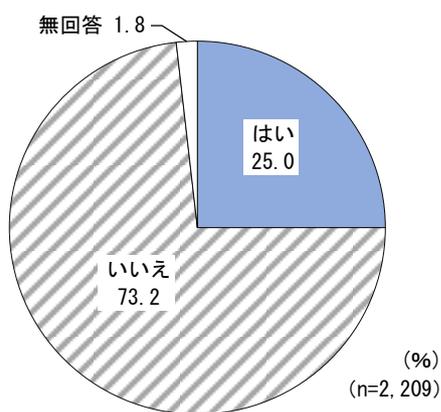


【対象者区分別 自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているか】

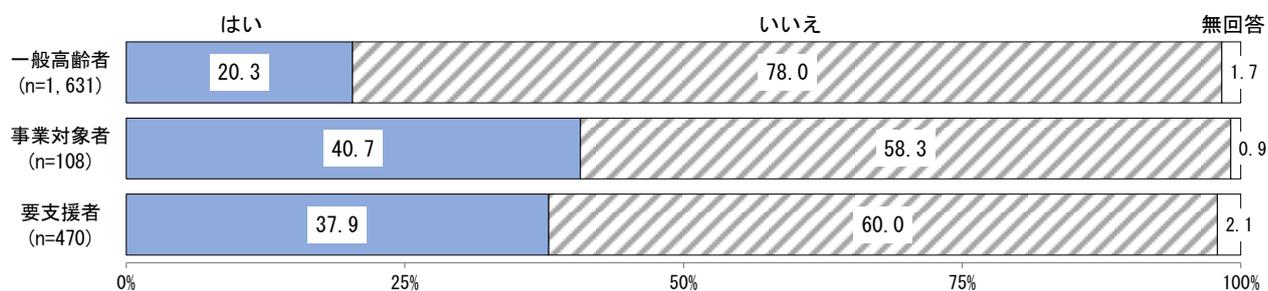


問 4(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか

今日が何月何日かわからない時があるという割合（「はい」）は2割台（25.0%）となっている。



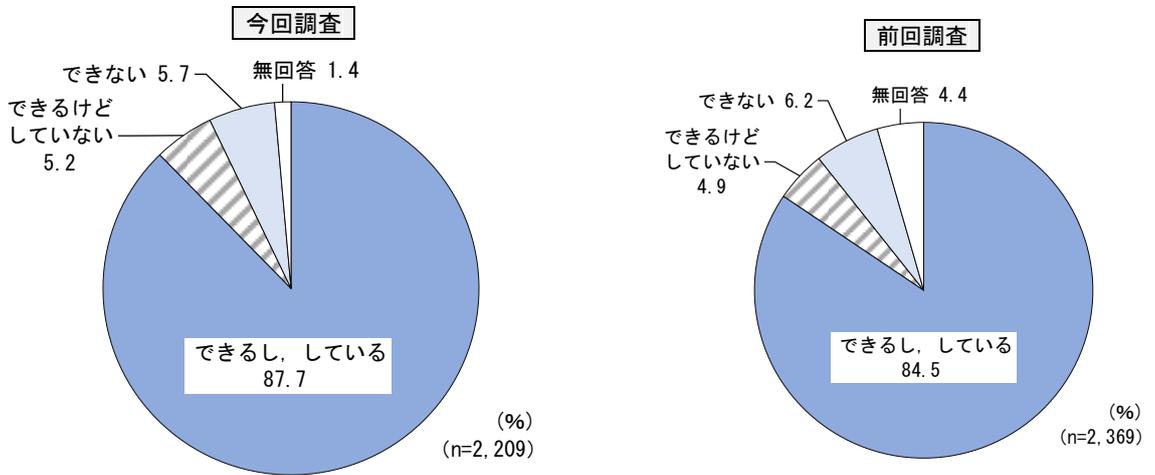
【対象者区分別 今日が何月何日かわからない時があるか】



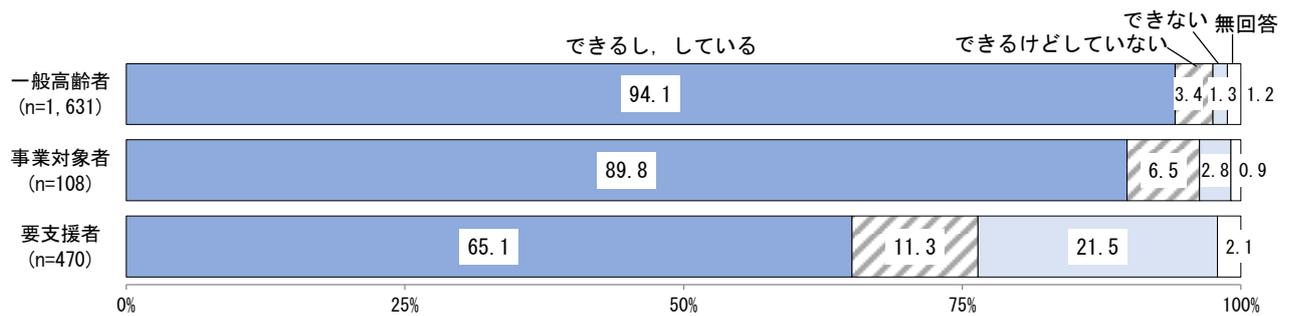
(2) 手段的日常生活動作の状況

問 4(4) バスや電車を使って1人で外出していますか (タクシーや自家用車でも可)

1人での外出が「できない」は5.7%となっている。

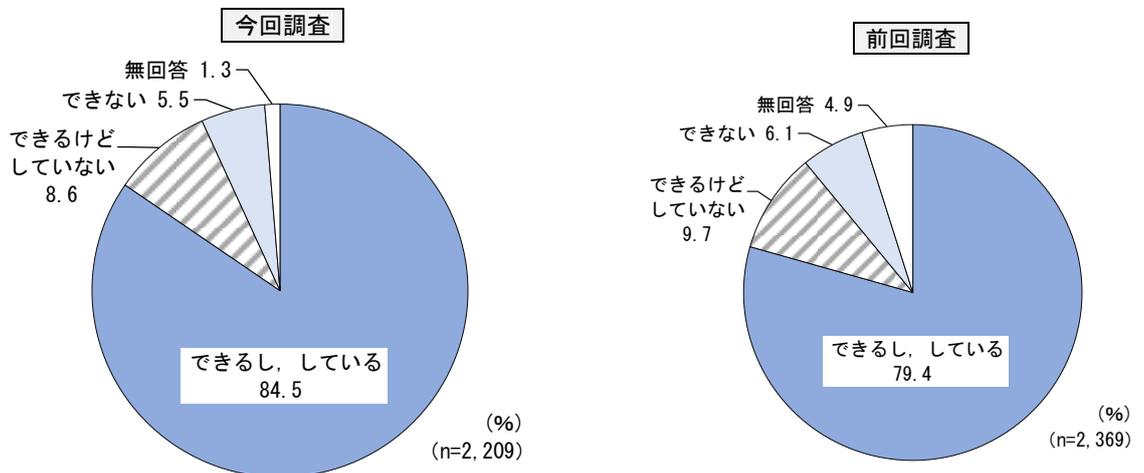


【対象者区分別 バスや電車を使って1人で外出しているか】

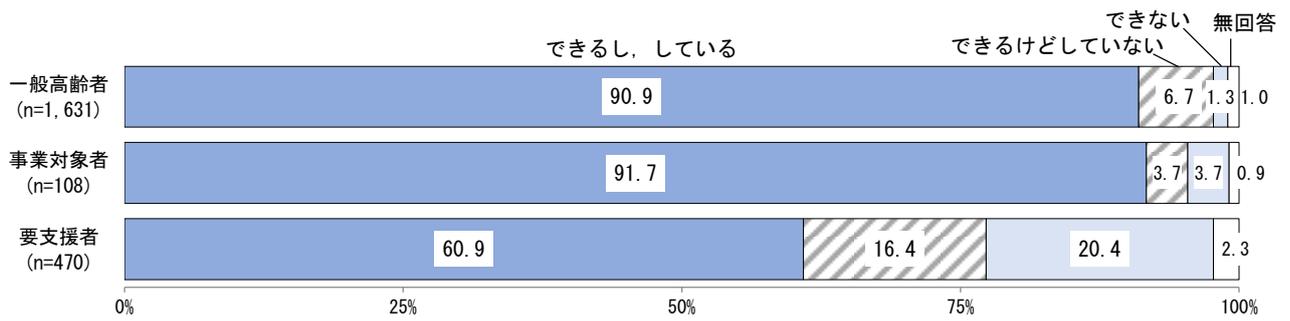


問 4(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

食品・日用品の買い物が「できない」は5.5%となっている。

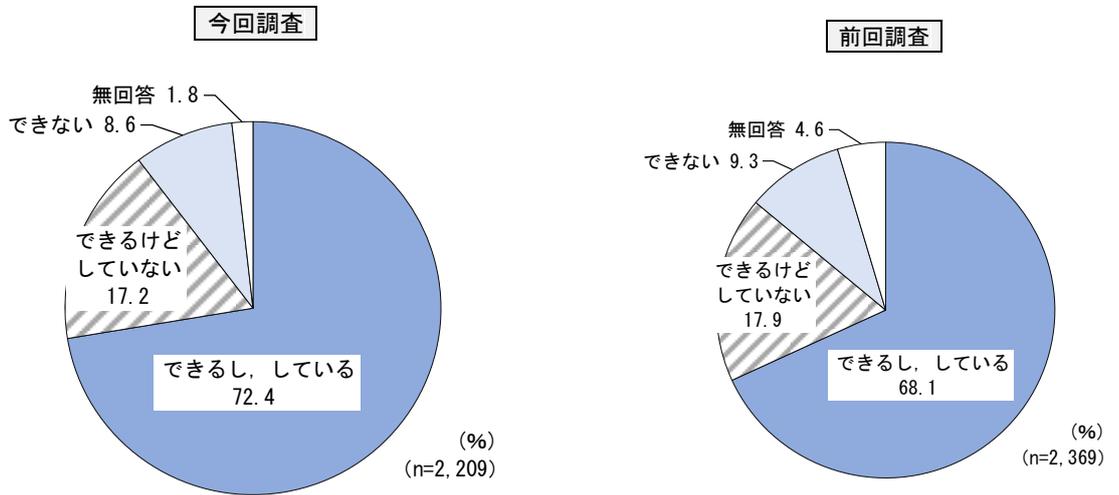


【対象者区分別 自分で食品・日用品の買物をしているか】

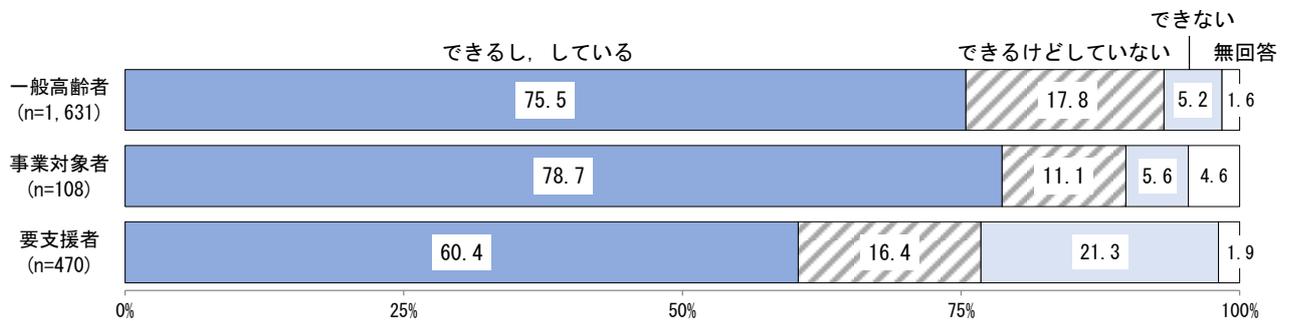


問 4(6) 自分で食事の用意をしていますか

食事の用意が「できない」は8.6%となっている。

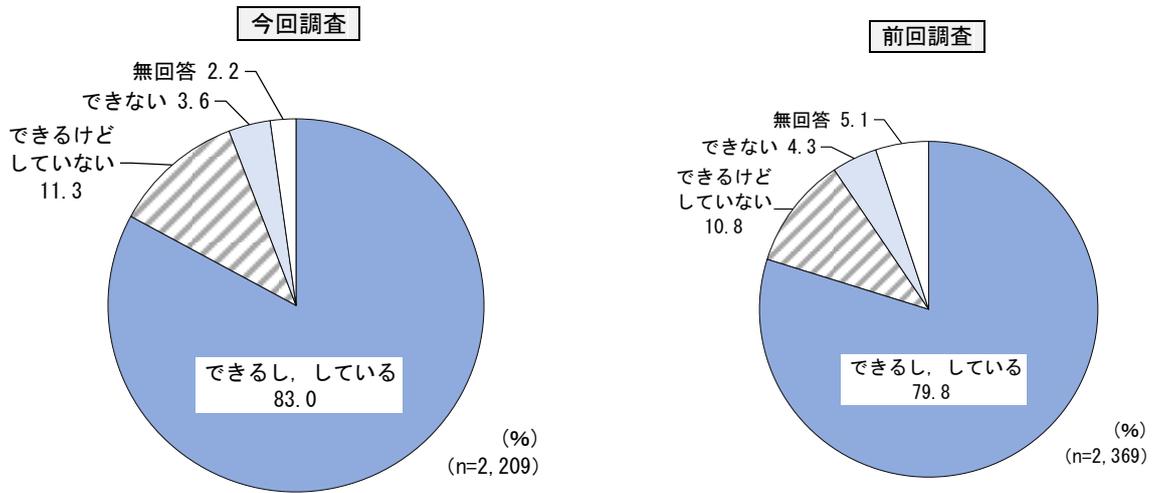


【対象者区分別 自分で食事の用意をしているか】

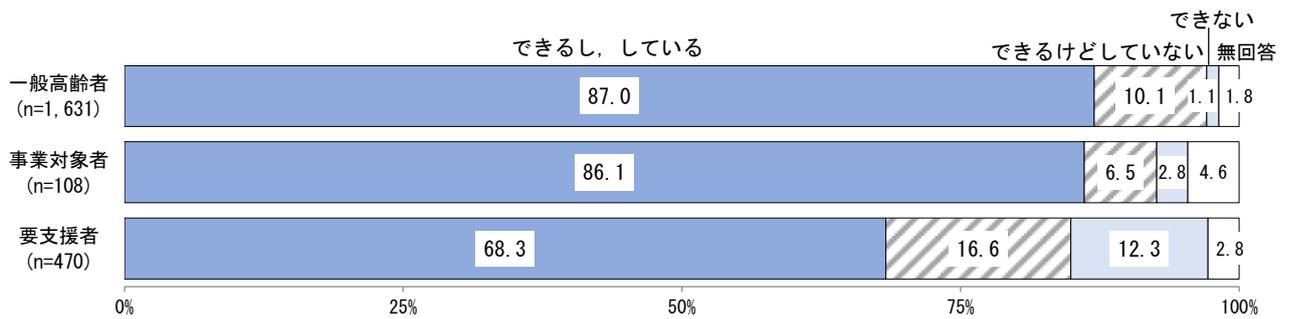


問 4(7) 自分で請求書の支払いをしていますか

請求書の支払いが「できない」は3.6%となっている。

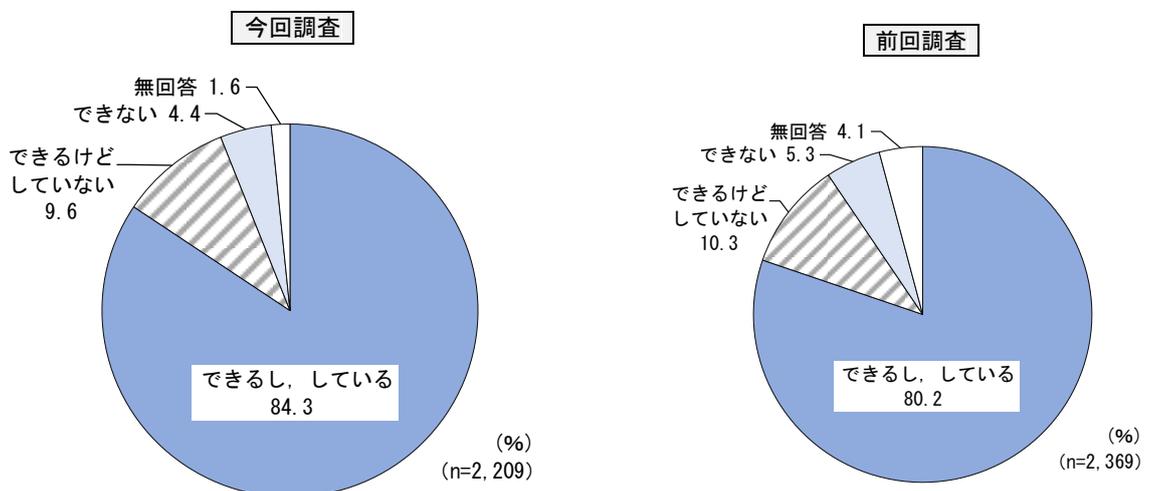


【対象者区分別 自分で請求書の支払いをしているか】

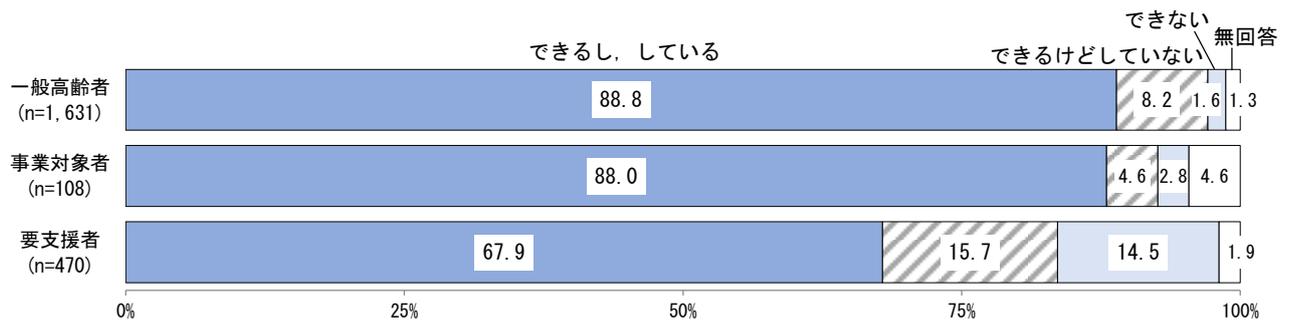


問 4(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

預貯金の出し入れが「できない」は4.4%となっている。



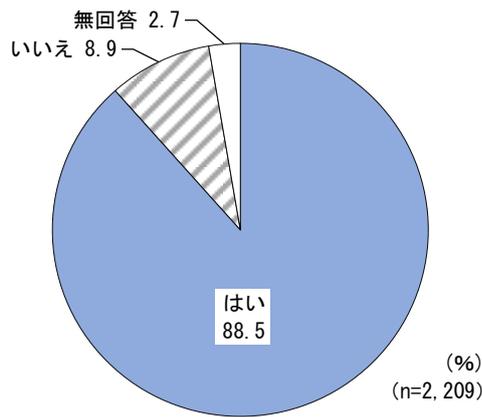
【対象者区分別 自分で預貯金の出し入れをしているか】



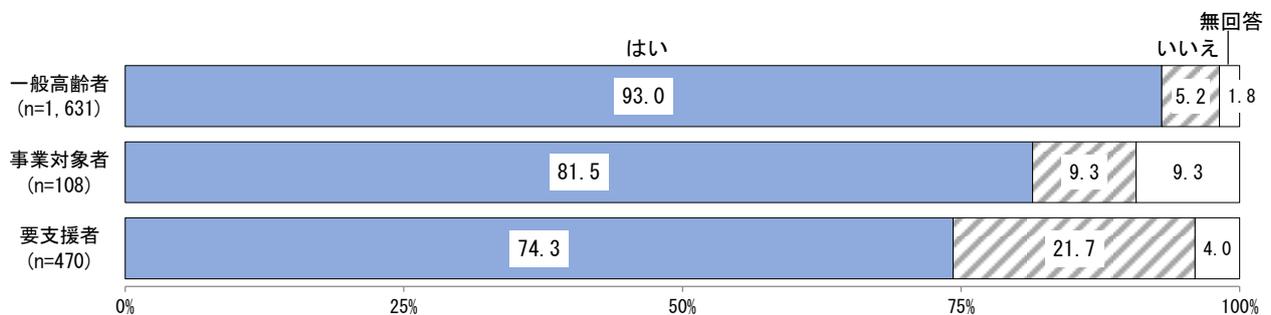
(3) 知的能動性の状況

問 4(9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

役所や病院などに出す書類が書けるという割合（「はい」）は9割近く（88.5%）となっている。

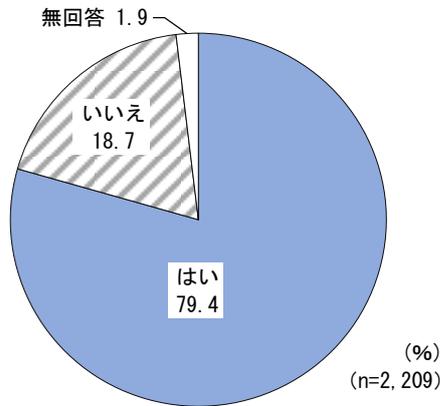


【対象者区分別 年金などの書類が書けるか】

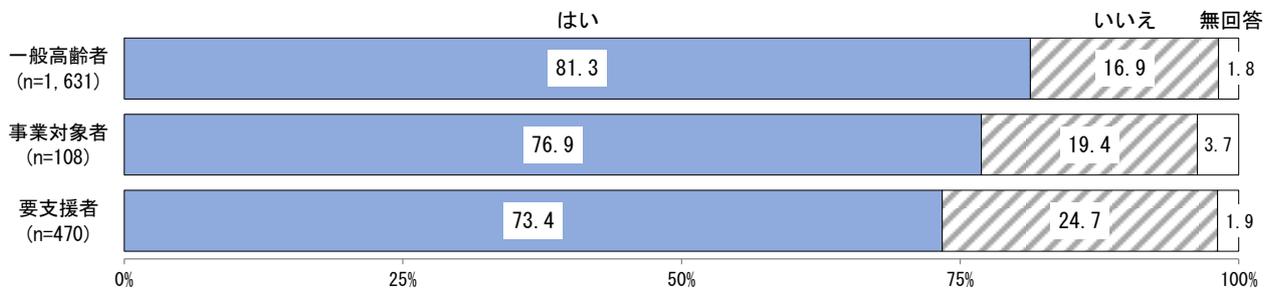


問 4(10) 新聞を読んでいますか

新聞を読んでいるという割合（「はい」）は約8割（79.4%）となっている。

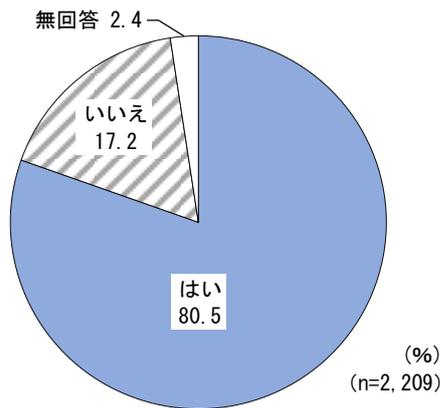


【対象者区分別 新聞を読んでいるか】

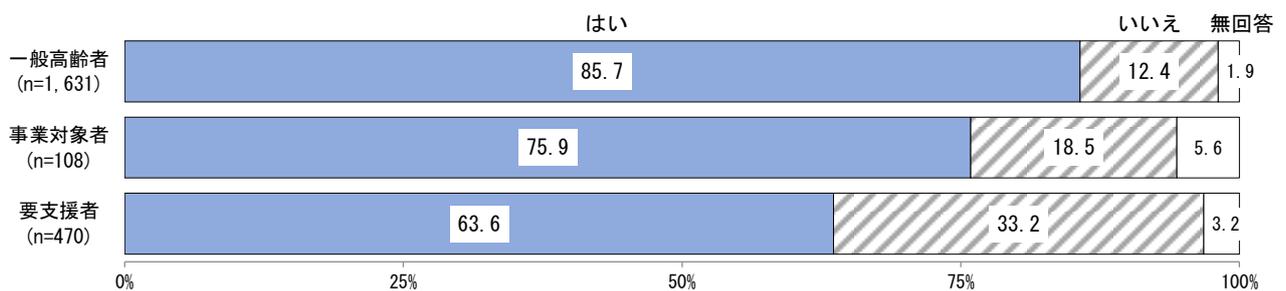


問 4(11) 本や雑誌を読んでいますか

本や雑誌を読んでいるという割合（「はい」）は約8割（80.5%）となっている。

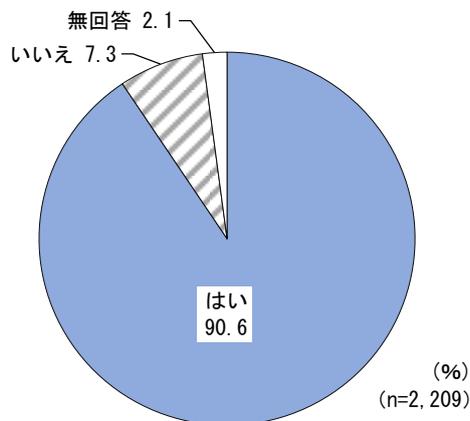


【対象者区分別 本や雑誌を読んでいるか】

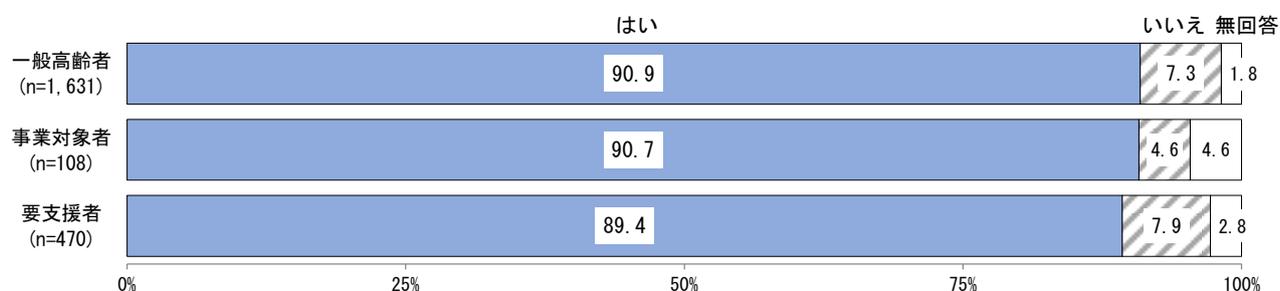


問 4(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか

健康についての記事や番組に関心があるという割合（「はい」）は約9割（90.6%）となっている。



【対象者区分別 健康についての記事や番組に関心があるか】

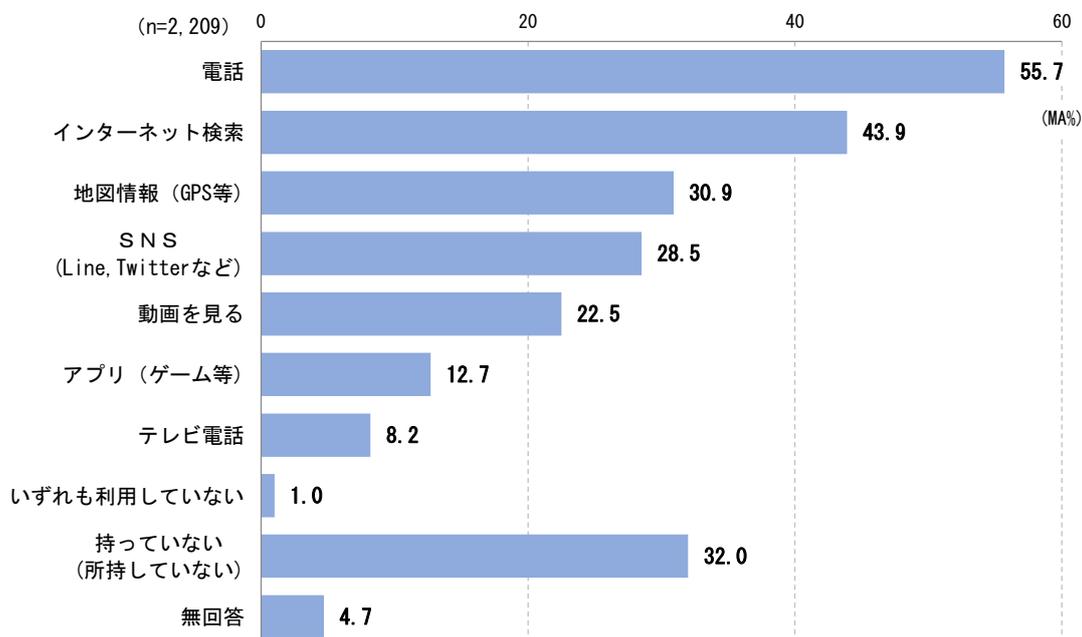


(4) スマートフォン等の利用状況

問 4(12) スマートフォンまたはタブレットをお持ちですか

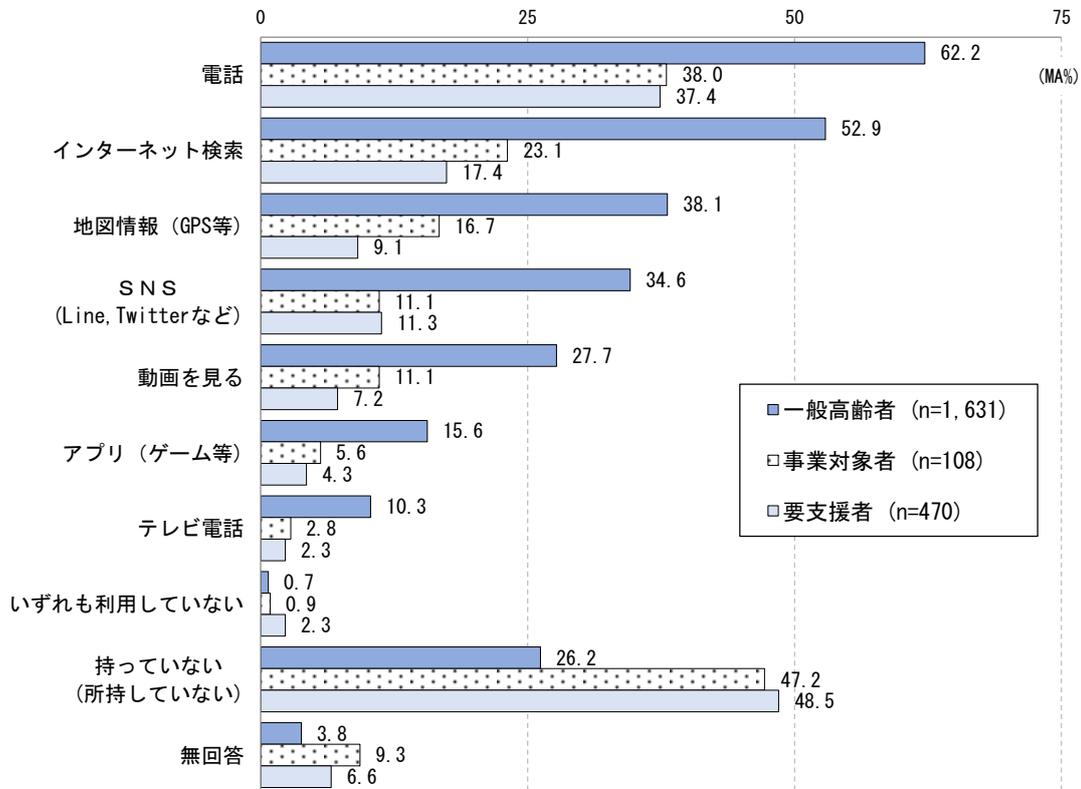
お持ちの方は以下のいずれの機能を利用していますか（○はいくつでも）

スマートフォンまたはタブレットを所持し、利用しているという割合は、全体の6割台（62.3%）となっており、「電話」が55.7%、「インターネット検索」が43.9%と多い。



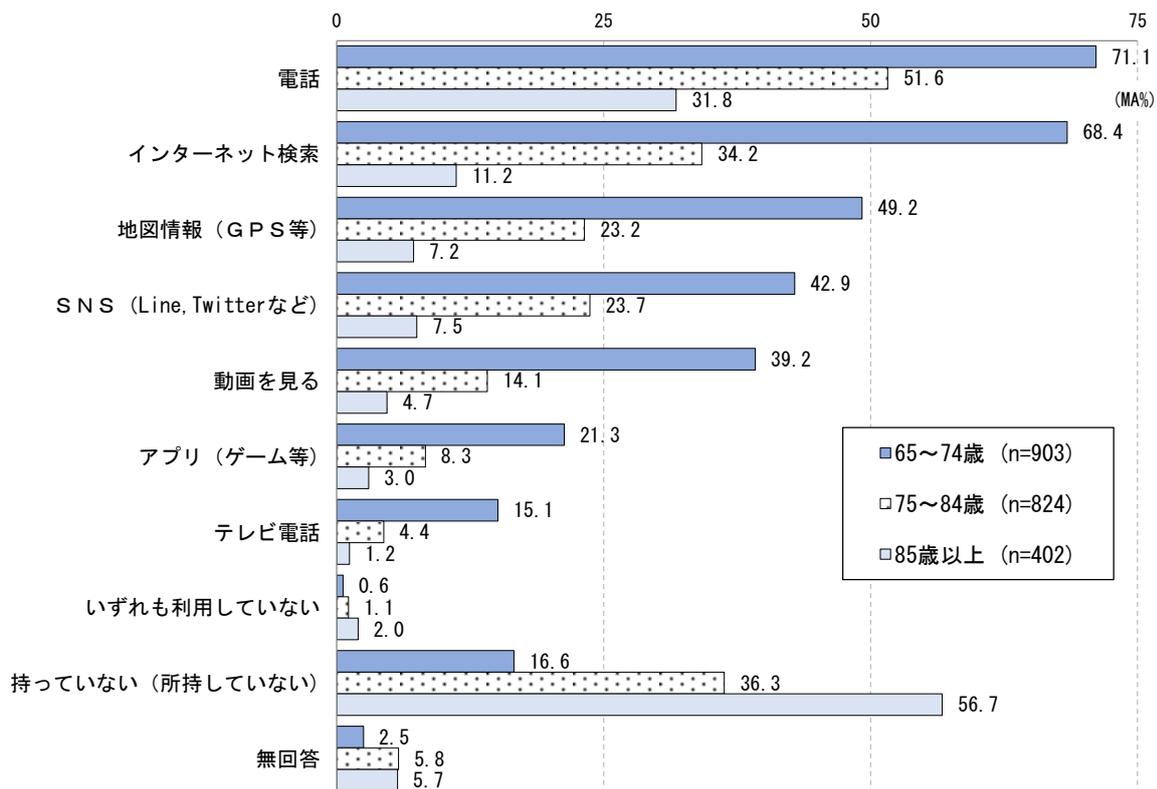
対象者区分別にみると、スマートフォン等を利用しているという割合が、一般高齢者で約7割(69.3%)に対し、事業対象者・要支援者ではともに4割台(42.6%)となっている。

【対象者区分別 スマートフォン等の利用状況】



年齢別にみると、スマートフォン等を利用しているという割合が、65～74歳で80.3%、75～84歳で56.8%、85歳以上で35.6%となっている。

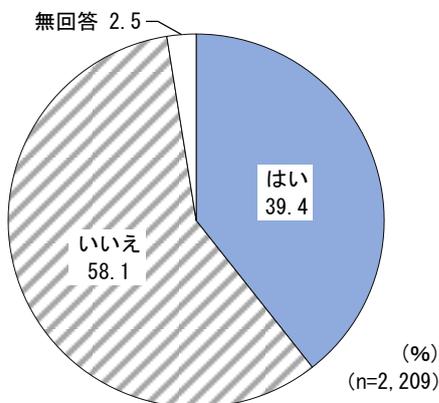
【年齢別 スマートフォン等の利用状況】



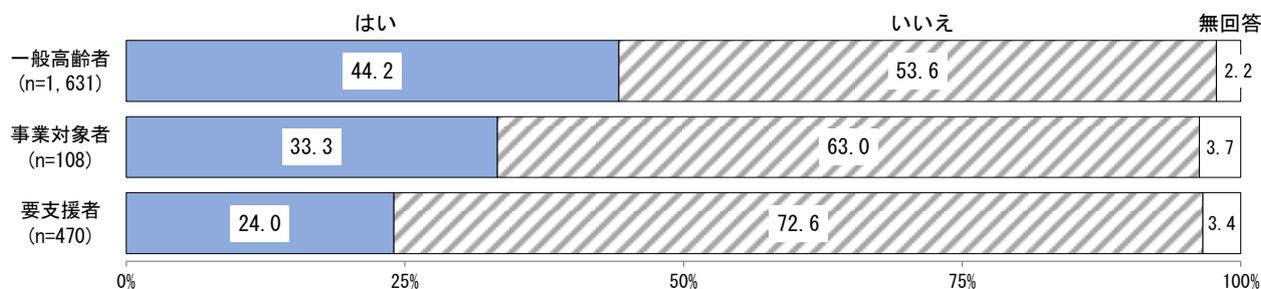
(5) 他者との関わりの状況

問 4(14) 友人の家を訪ねていますか

友人の家を訪ねているという割合（「はい」）は約4割（39.4%）となっている。

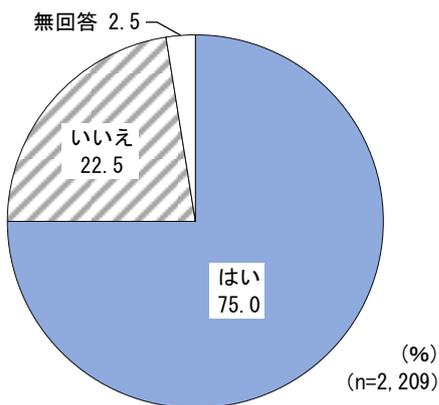


【対象者区別 友人の家を訪ねているか】

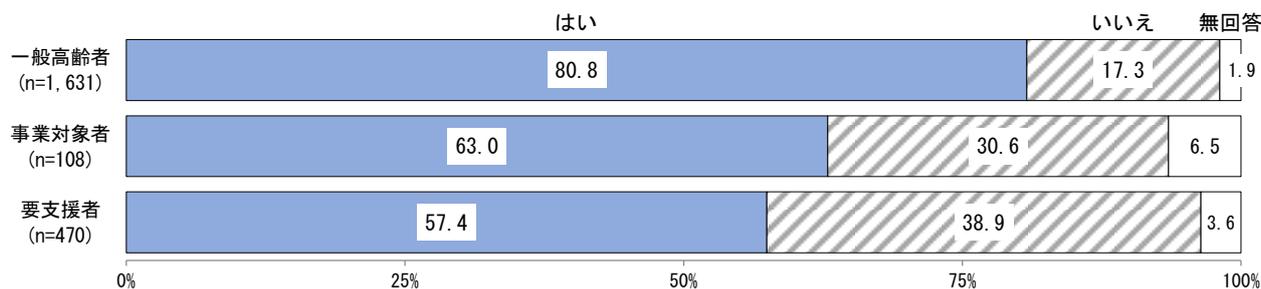


問 4(15) 家族や友人の相談にのっていますか

家族や友人の相談にのっているという割合（「はい」）は7割台（75.0%）となっている。

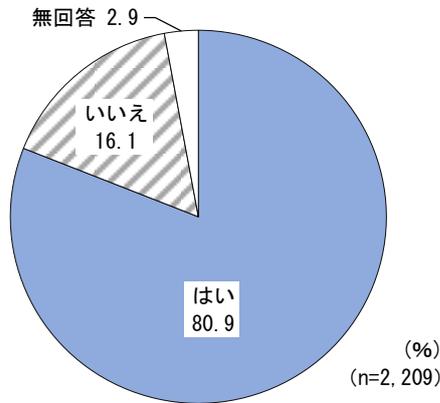


【対象者区別 家族や友人の相談にのっているか】

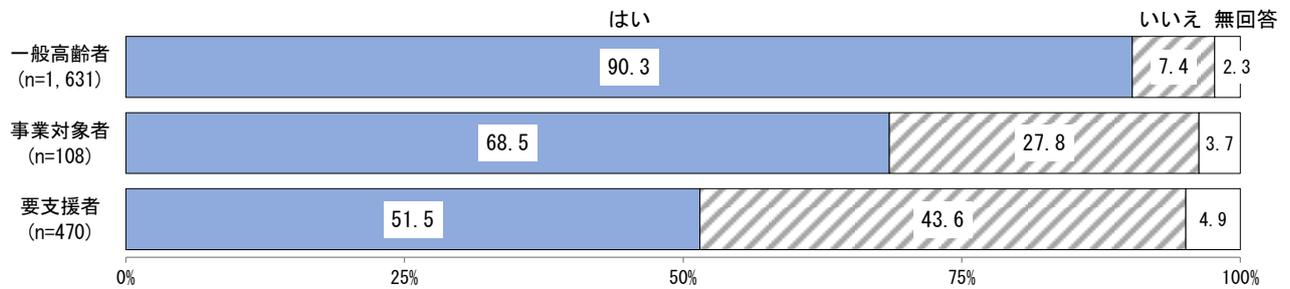


問 4(16) 病人を見舞うことができますか

病人を見舞うことができるという割合（「はい」）は約8割（80.9%）となっている。

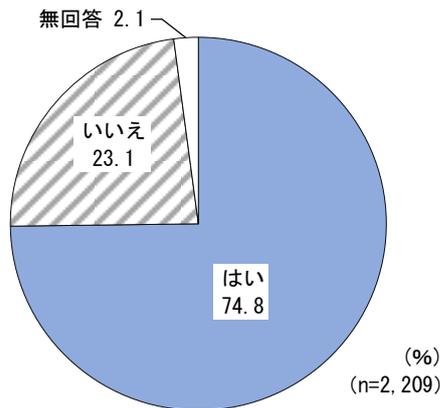


【対象者区分別 病人を見舞うことができますか】

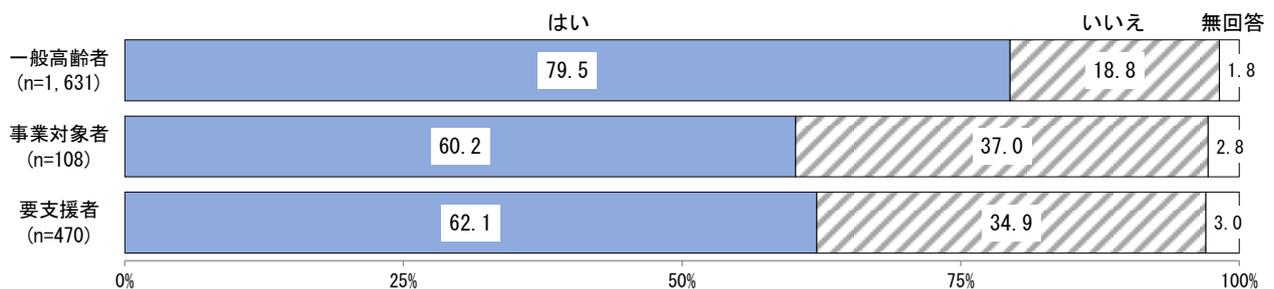


問 4(17) 若い人に自分から話しかけることがありますか

若い人に自分から話しかけることがあるという割合（「はい」）は7割台（74.8%）となっている。



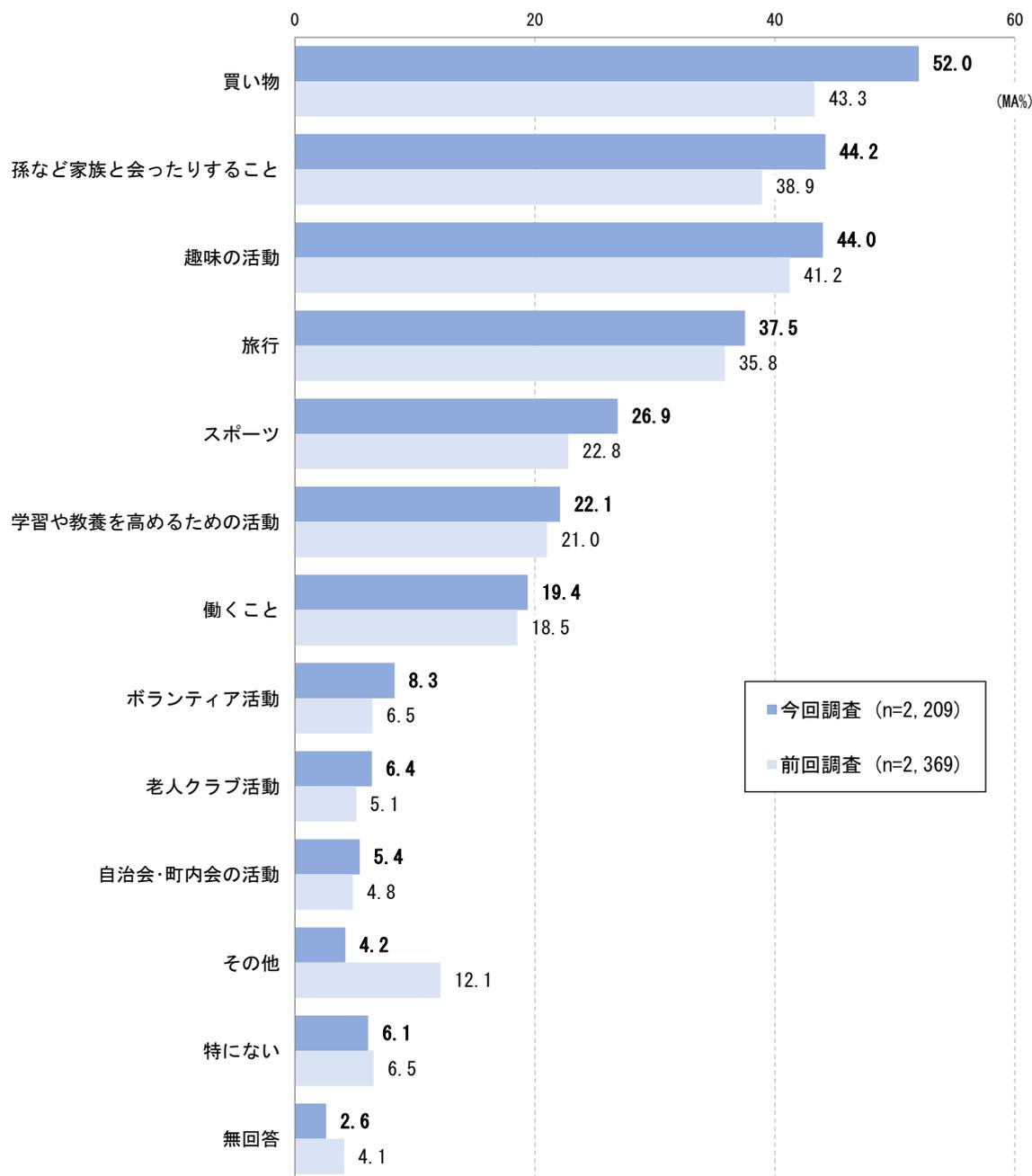
【対象者区分別 若い人に自分から話しかけることがありますか】



(6) 日常生活での楽しみ

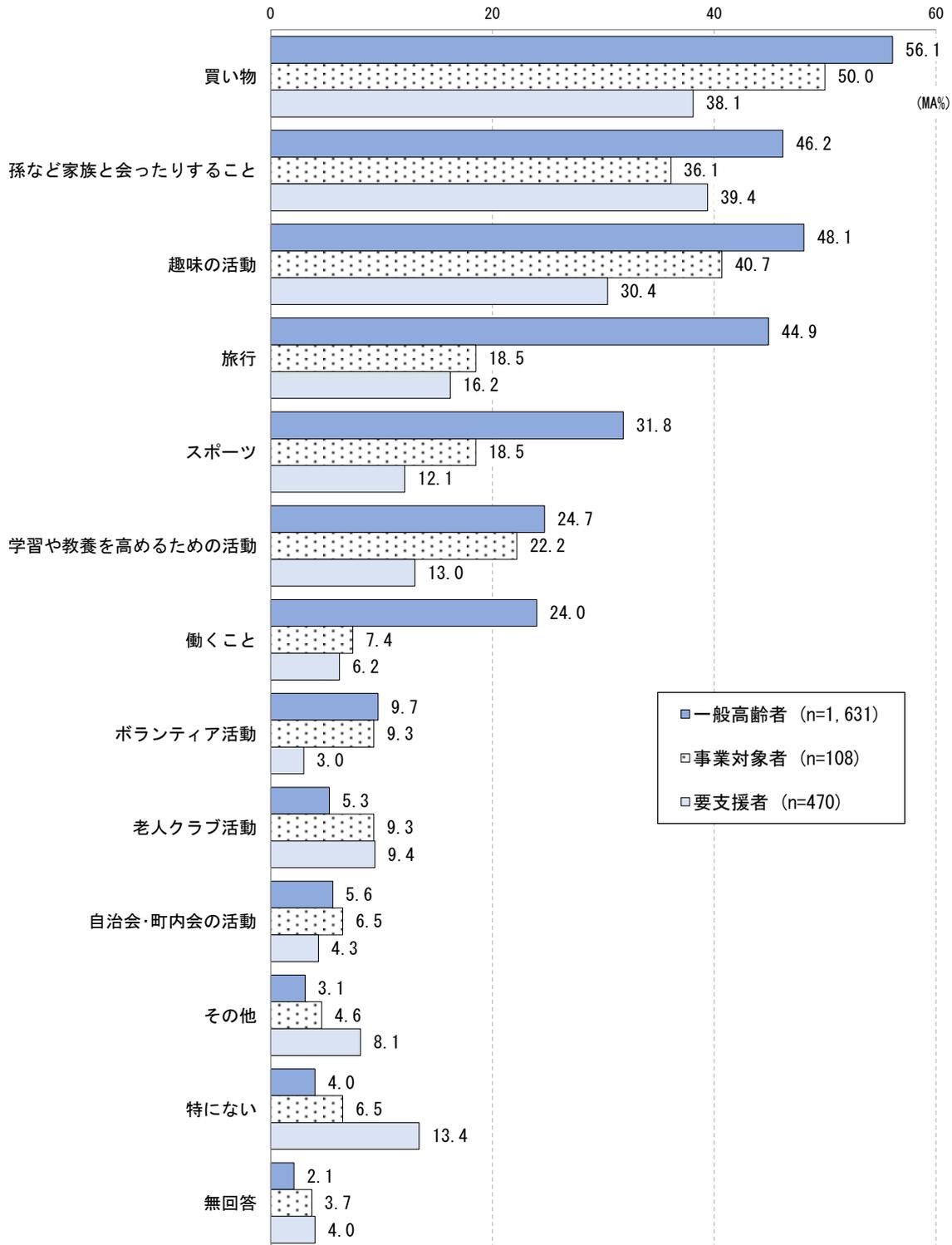
問 4(18) あなたの日常生活の中での楽しみは何ですか (〇はいくつでも)

日常生活の中での楽しみとしては、「買い物」が52.0%と最も多く、前回調査(43.3%)から8.7ポイント増えている。また、これに続くのが、「孫など家族と会ったりすること」で44.2%、「趣味の活動」で44.0%、「旅行」で37.5%となっている。



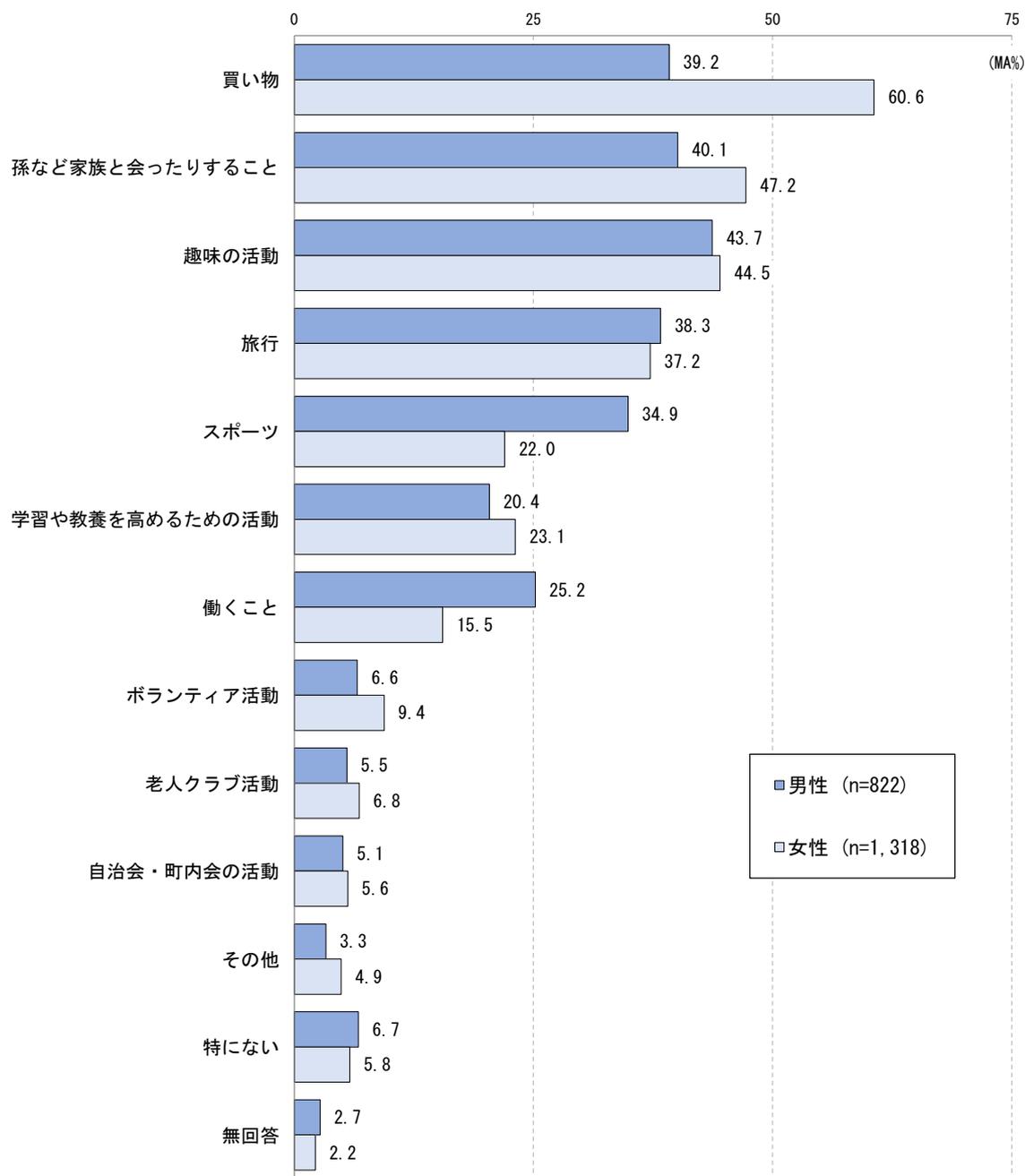
対象者区分別にみると、「買い物」が一般高齢者で 56.1%、事業対象者で 50.0%と、それぞれ最も多いのに対し、要支援者では「孫など家族と会ったりすること」が 39.4%と最も多くなっている。

【対象者区分別 日常生活での楽しみ】

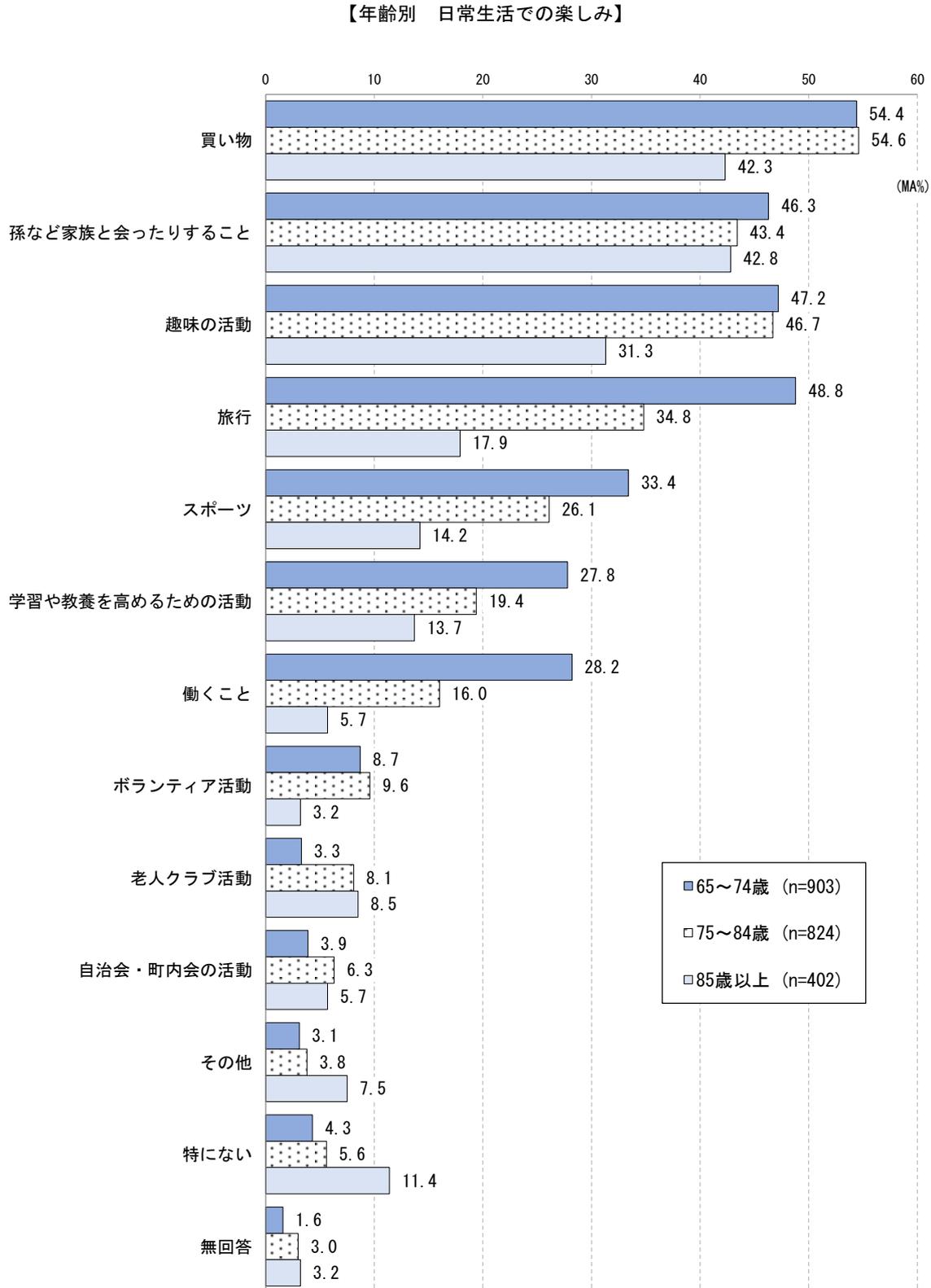


性別にみると、男性では「趣味の活動」が43.7%、女性では「買い物」が60.6%と、それぞれ最も多くなっている。また、「スポーツ」が男性で34.9%に対し、女性では22.0%と低い。

【性別 日常生活での楽しみ】



年齢別にみると、「買い物」、「趣味の活動」、「旅行」、「スポーツ」のいずれも、65～84歳に比べて、85歳以上では10ポイント以上低い割合となっており、「特にない」が1割台（11.4%）みられる。

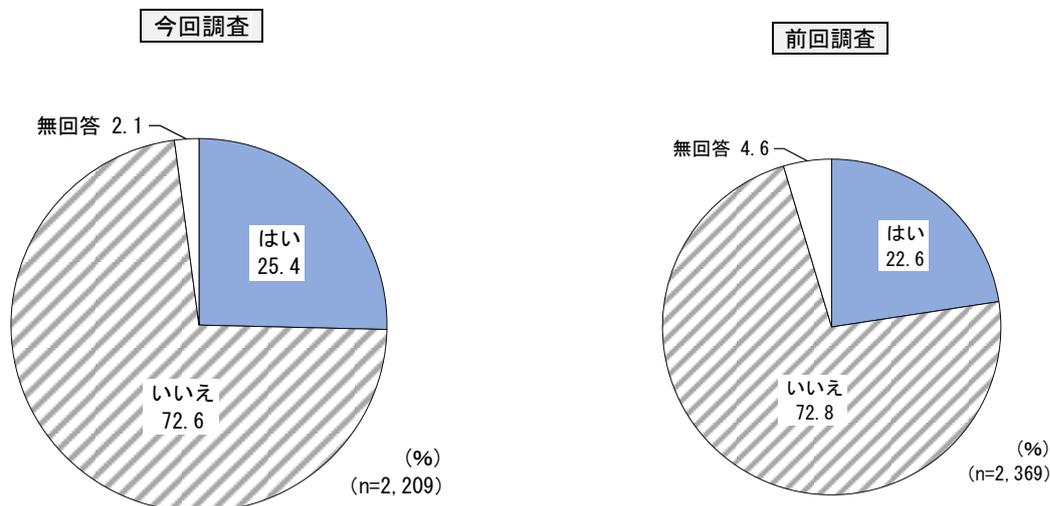


(7) 仕事の状況及び就労意向

①就労の有無

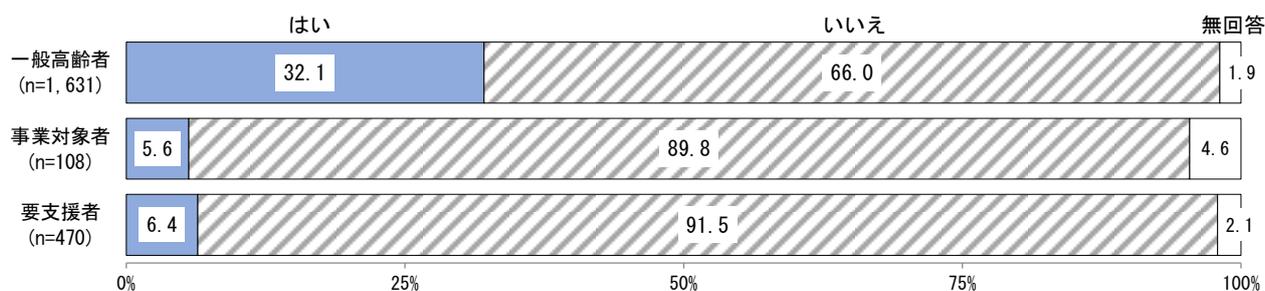
問 4(19) 現在、収入のある仕事をしていますか

現在、収入のある仕事をしているという割合（「はい」）は、2割台（25.4%）となっており、前回調査（22.6%）から2.8ポイント増えている。



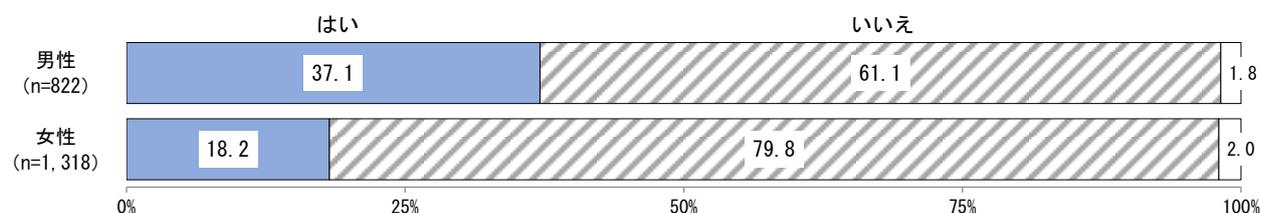
対象者区分別にみると、仕事をしているという割合が、一般高齢者で3割台（32.1%）に対し、事業対象者では5.6%、要支援者では6.4%にとどまっている。

【対象者区分別 就労の有無】



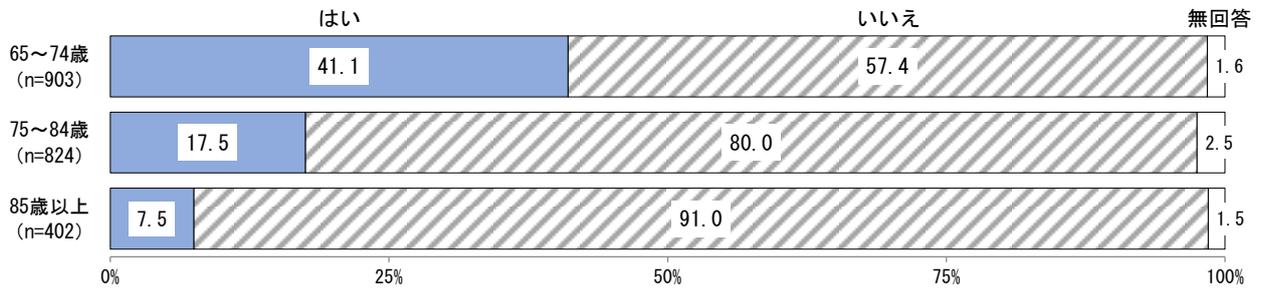
性別にみると、仕事をしているという割合が、男性で37.1%、女性で18.2%となっている。

【性別 就労の有無】



年齢別にみると、仕事をしているという割合が、65～74歳で4割台（41.1%）みられるのに対し、75～84歳では17.5%、85歳以上では7.5%となっている。

【年齢別 就労の有無】

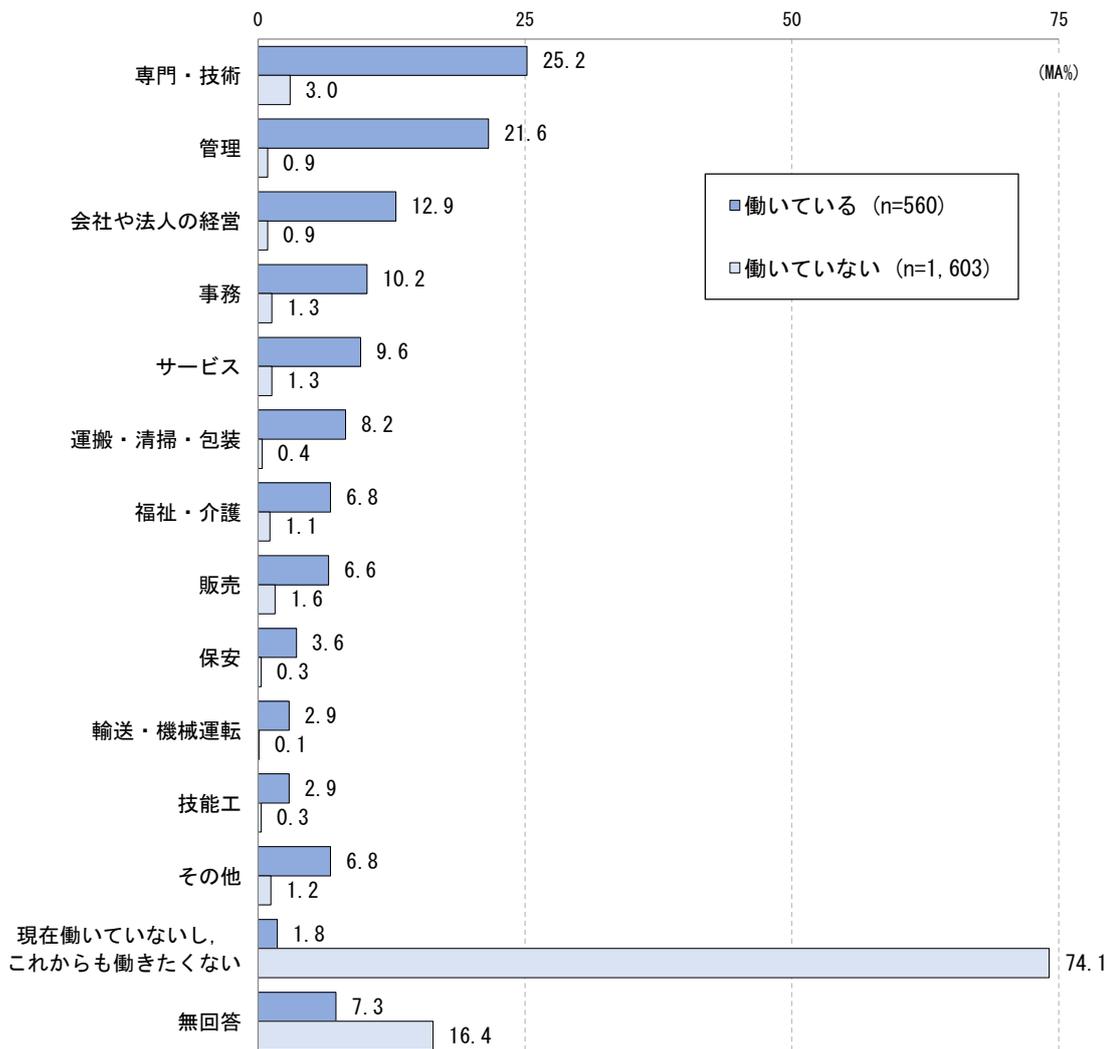


②職種

問 4 (20) 現在の仕事またはこれから就きたい仕事は何ですか (〇はいくつでも)

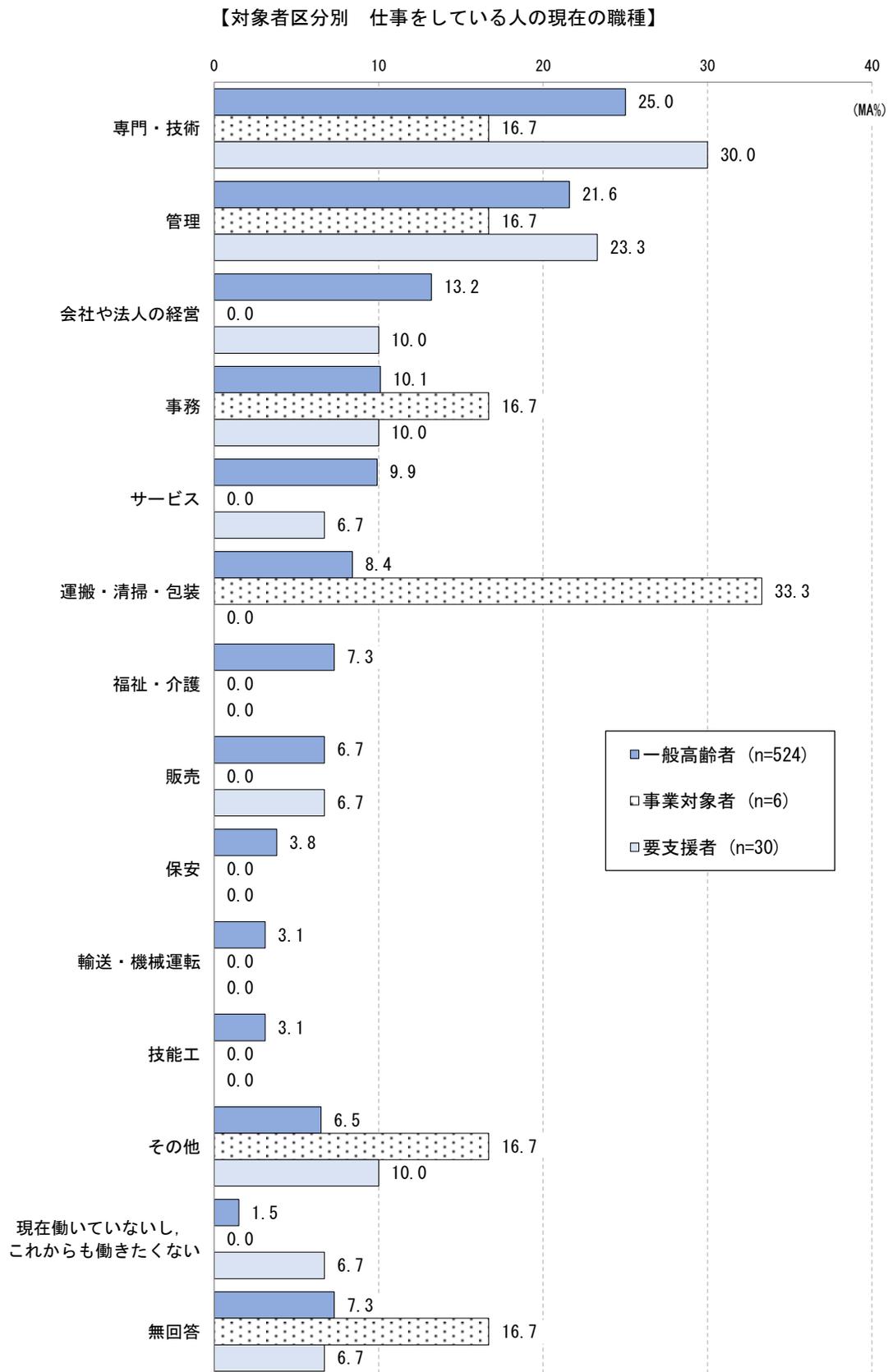
現在収入のある仕事をしている人の職種としては、「専門・技術」が25.2%と最も多く、次いで「管理」が21.6%、「会社や法人の経営」が12.9%となっている。

一方、仕事をしていない人に、これから就きたいと思う職種をたずねたところ、「現在働いていないし、これからも働きたくない」が7割台（74.1%）を占めている。



収入のある仕事をしている人の現在の職種 (※問4(19)で「はい」と回答した人)

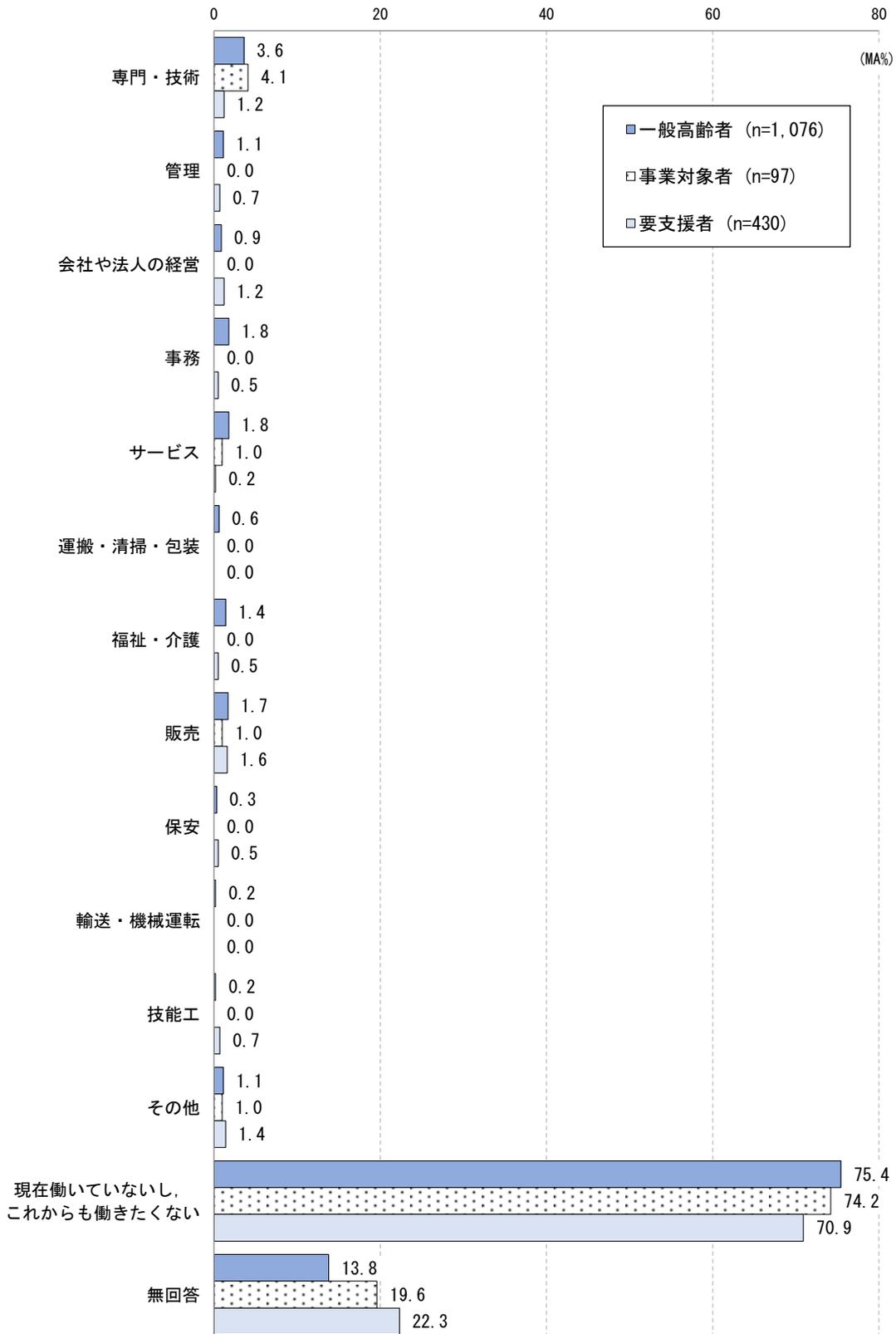
対象者区別に、仕事をしている人の職種をみると、「専門・技術」が一般高齢者で25.0%、要支援者で30.0%（9人）と、ともに最も多くなっている。



収入のある仕事をしていない人の希望する職種 (※問4(19)で「いいえ」と回答した人)

対象者区別に、仕事をしていない人の希望する職種をみると、いずれも「現在働いていないし、これからも働きたくない」が7割台となっている。

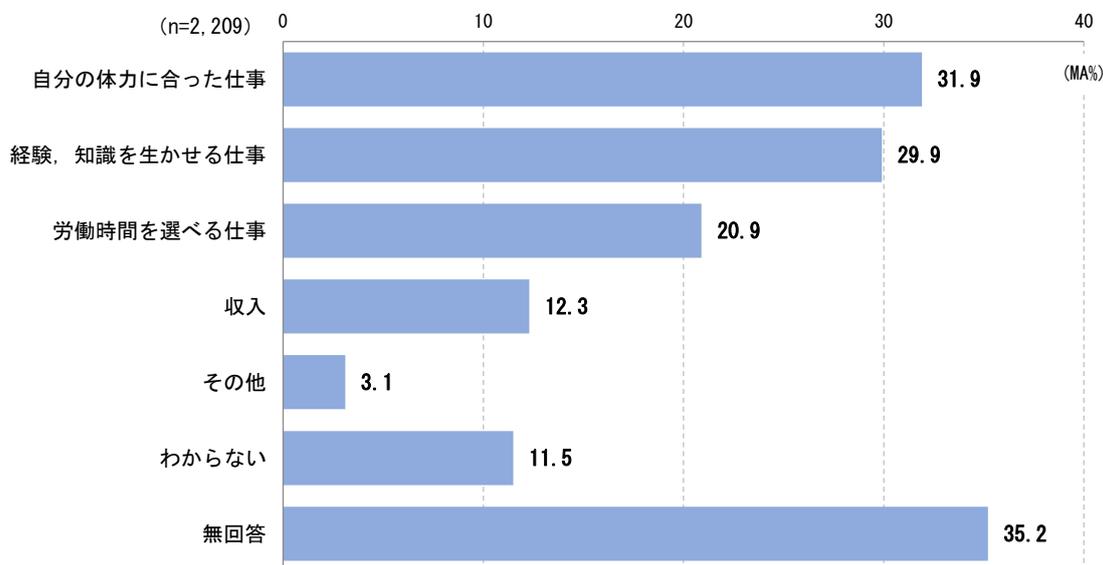
【対象者区別 仕事をしていない人の希望する職種】



③働き方で重視する条件

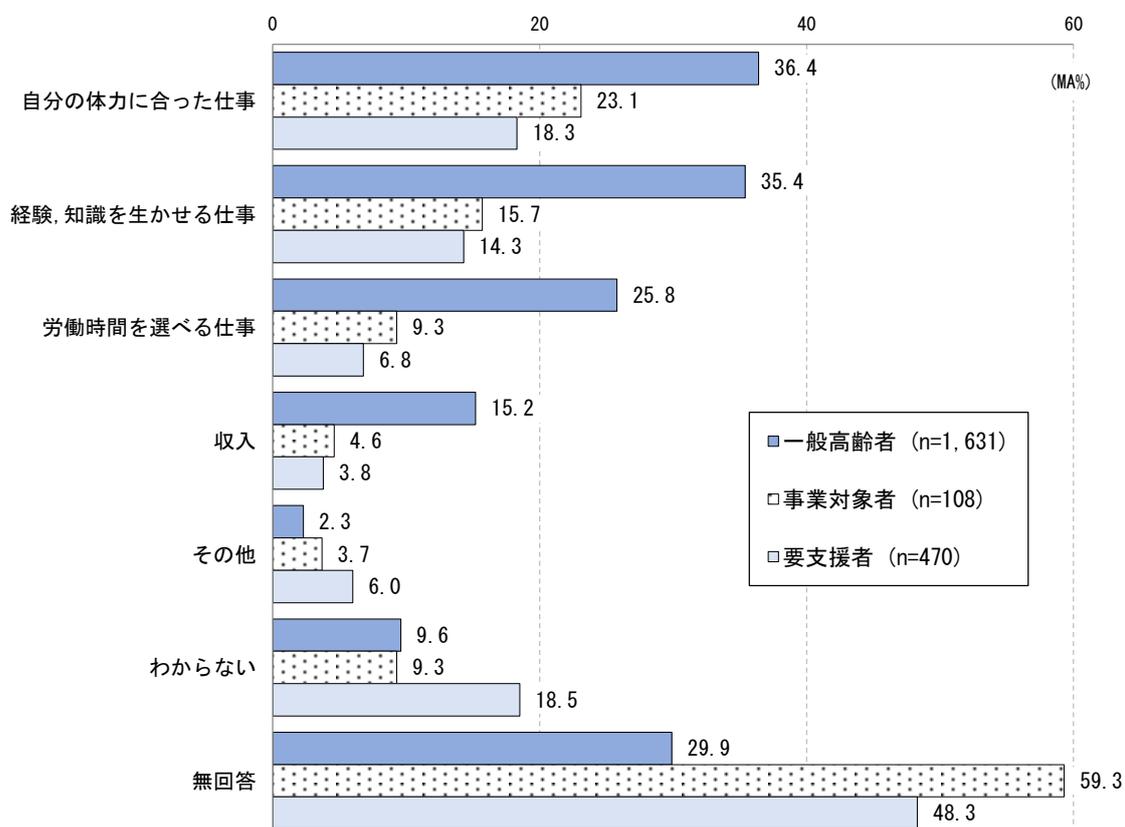
問 4(21) 働き方で重視する条件はどれですか (〇はいくつでも)

働き方で重視する条件としては、「自分の体力に合った仕事」が 31.9%と最も多く、次いで「経験、知識を生かせる仕事」が 29.9%、「労働時間を選べる仕事」が 20.9%となっている。

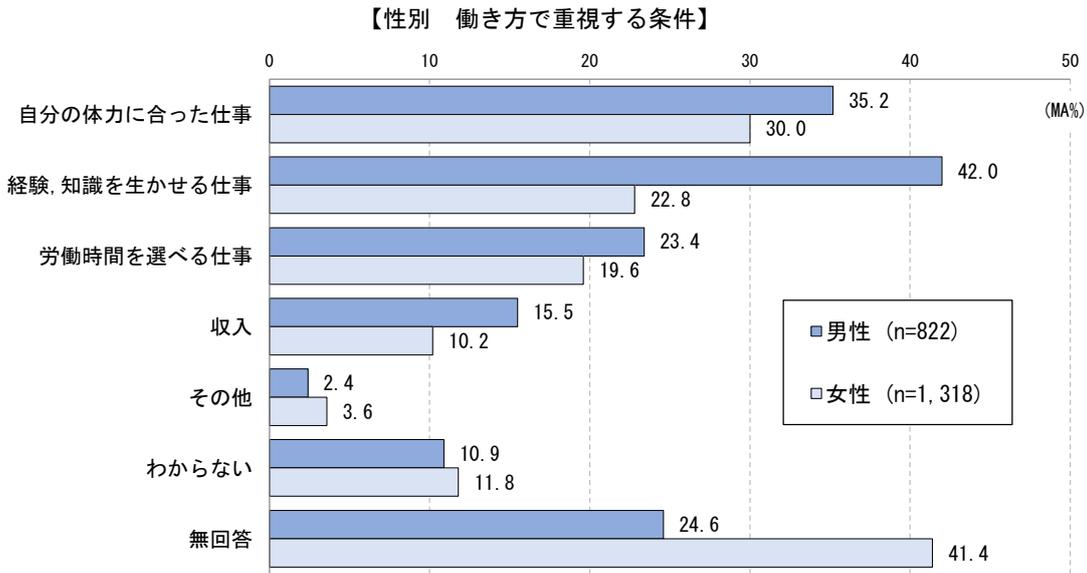


対象者区分別にみても、いずれも「自分の体力に合った仕事」が最も多く、一般高齢者で 36.4%、事業対象者で 23.1%、要支援者が 18.3%となっている。

【対象者区分別 働き方で重視する条件】



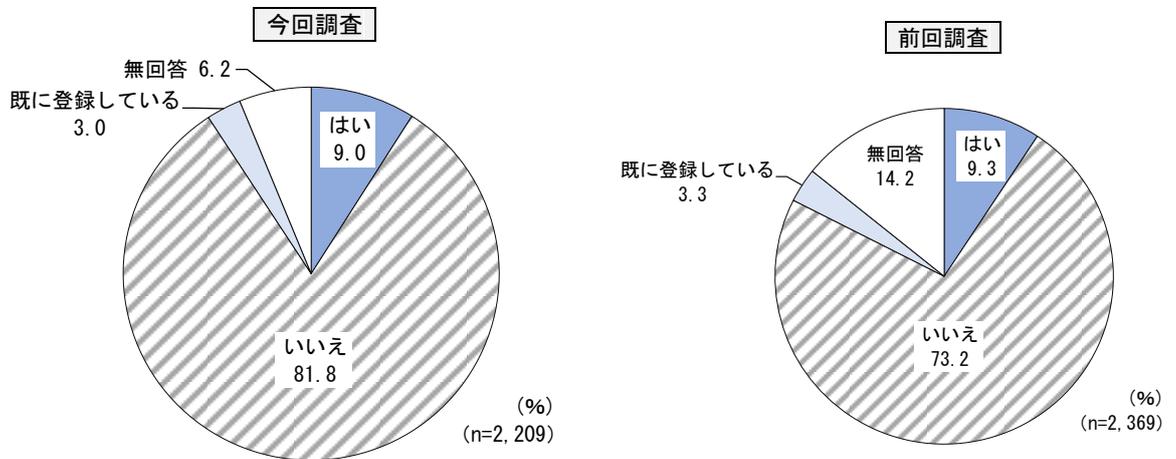
性別にみると、男性では「経験、知識を生かせる仕事」が 42.0%、女性では「自分の体力に合った仕事」が 30.0%と、それぞれ最も多くなっている。



④シルバー人材センターへの登録希望

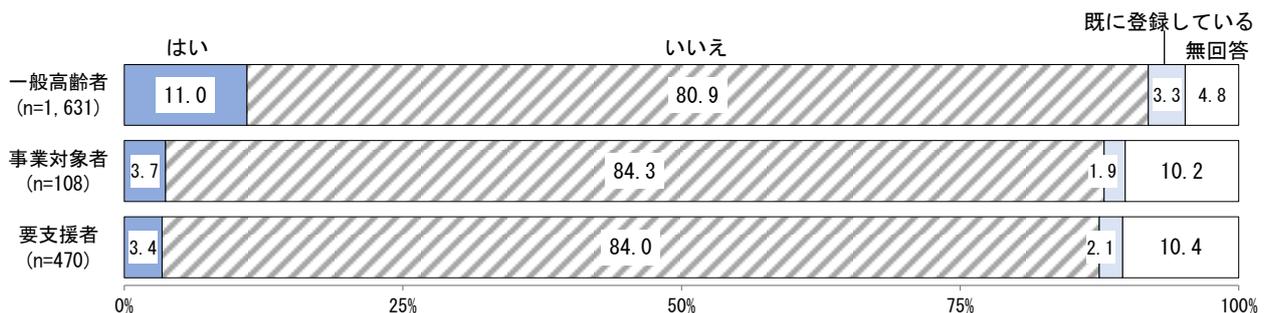
問 4(22) 今後、シルバー人材センターに登録して、活動する希望はありますか

シルバー人材センターに登録して活動する希望がある人（「はい」）は、1割未満（9.0%）となっている。



対象者区別にみると、希望がある人は、一般高齢者で 11.0%、事業対象者で 3.7%、要支援者で 3.4%となっている。

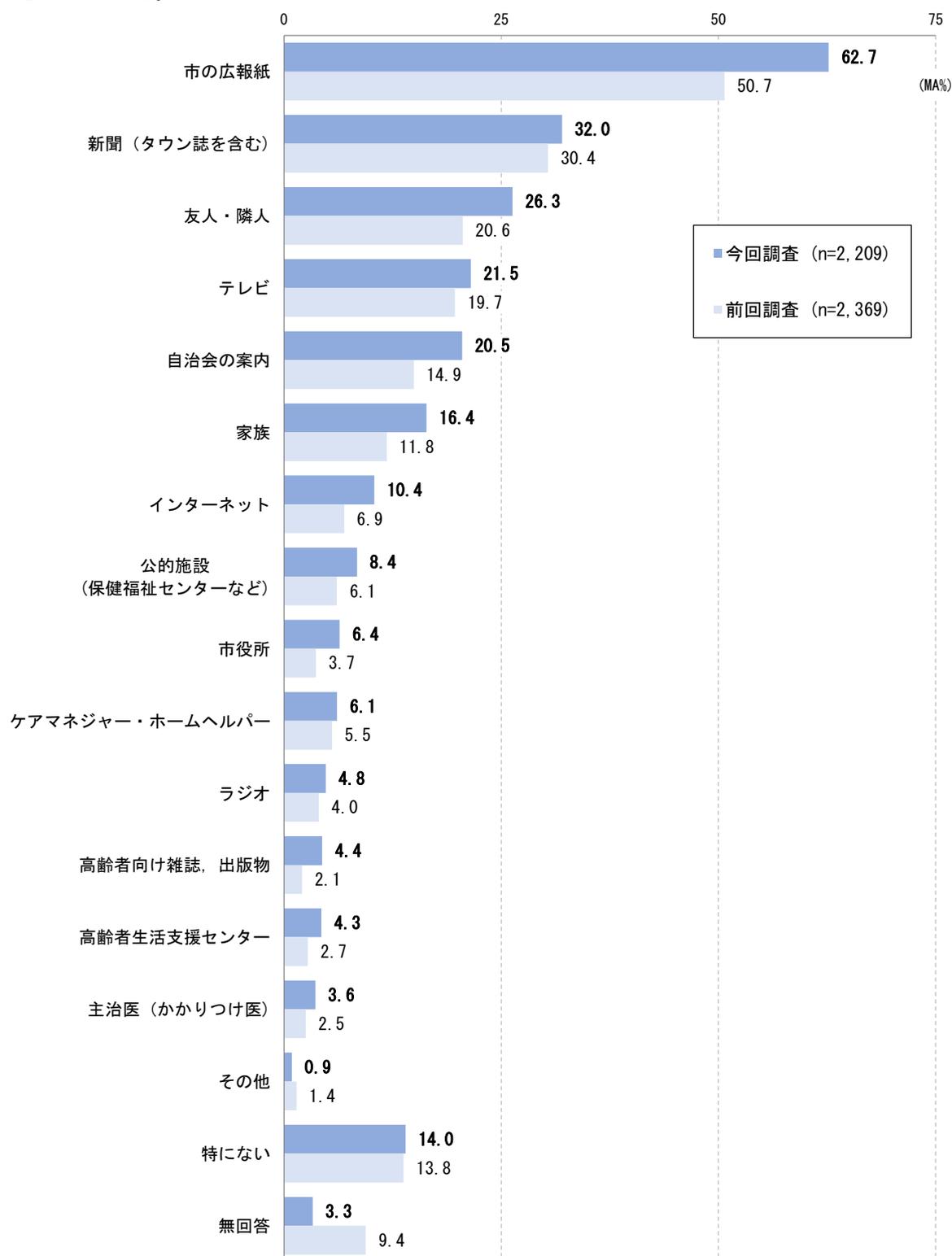
【対象者区別 シルバー人材センターへの登録希望】



(8) 高齢者向けの催しやサービスに関する情報の入手先

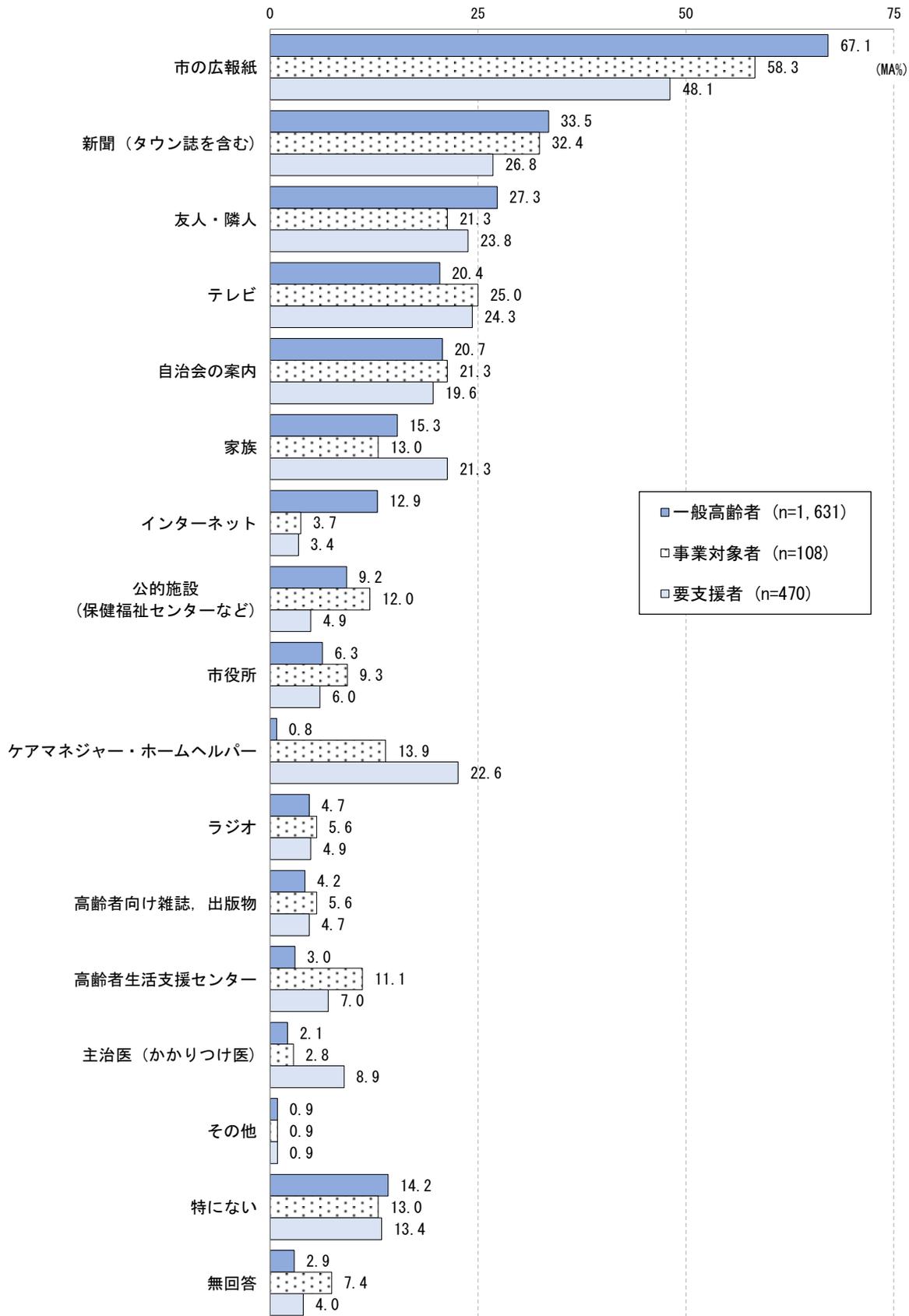
問 4(23) 高齢者向けに様々な催し物やサービスの提供が行われていますが、あなたはそのような情報を主にどこから得ていますか (〇はいくつでも)

高齢者向けの催し物やサービスの提供についての情報の入手先としては、「市の広報紙」が62.7%と最も多く、前回調査(50.7%)から12ポイント増えている。また、これに続くのが、「新聞(タウン誌を含む)」で32.0%、「友人・隣人」で26.3%、「テレビ」で21.5%、「自治会の案内」で20.5%となっている。



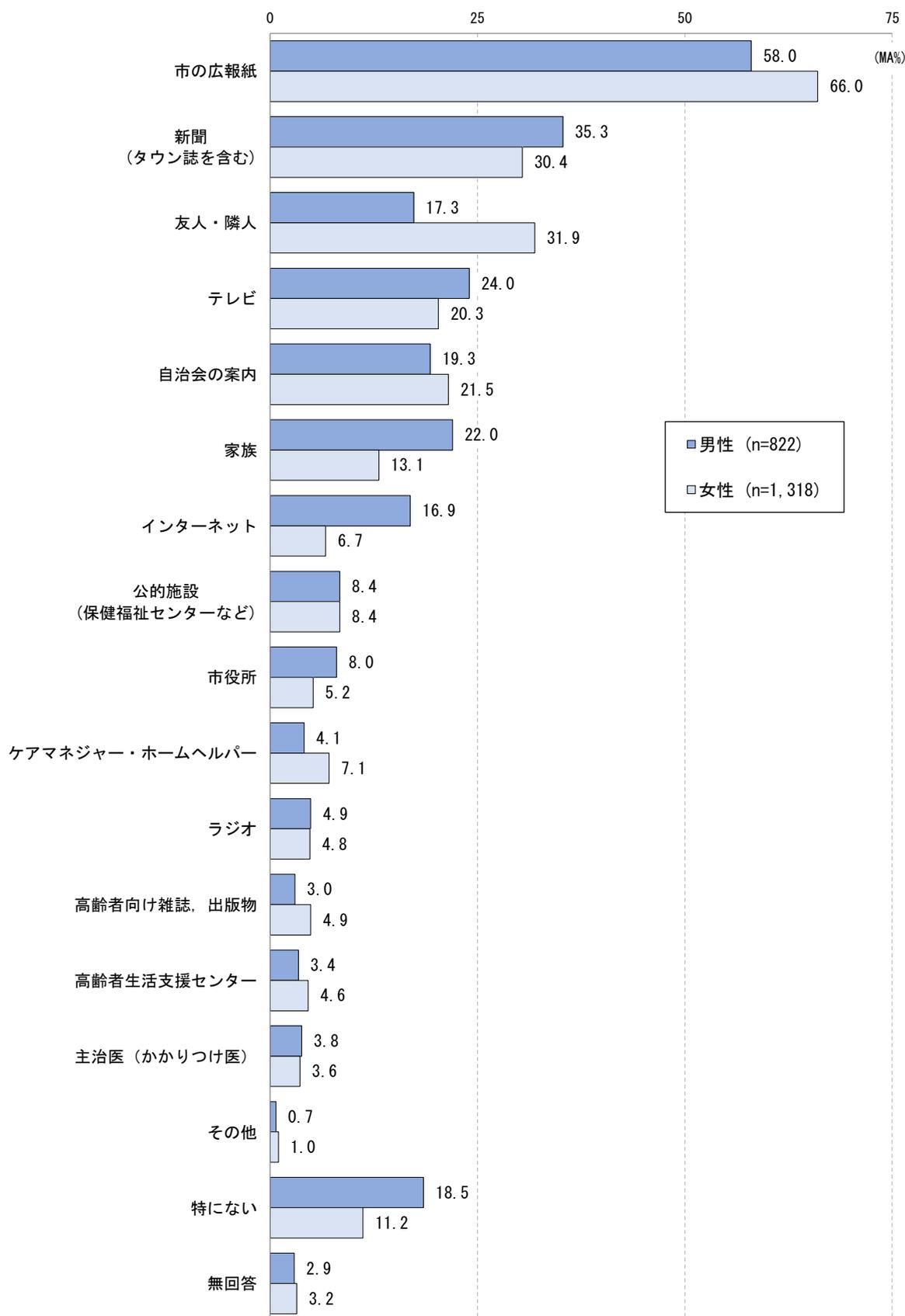
対象者区分別にみても、いずれも「市の広報紙」が最も多く、一般高齢者で 67.1%，事業対象者で 58.3%，要支援者で 48.1%となっている。

【対象者区分別 高齢者向けの催しやサービスに関する情報の入手先】



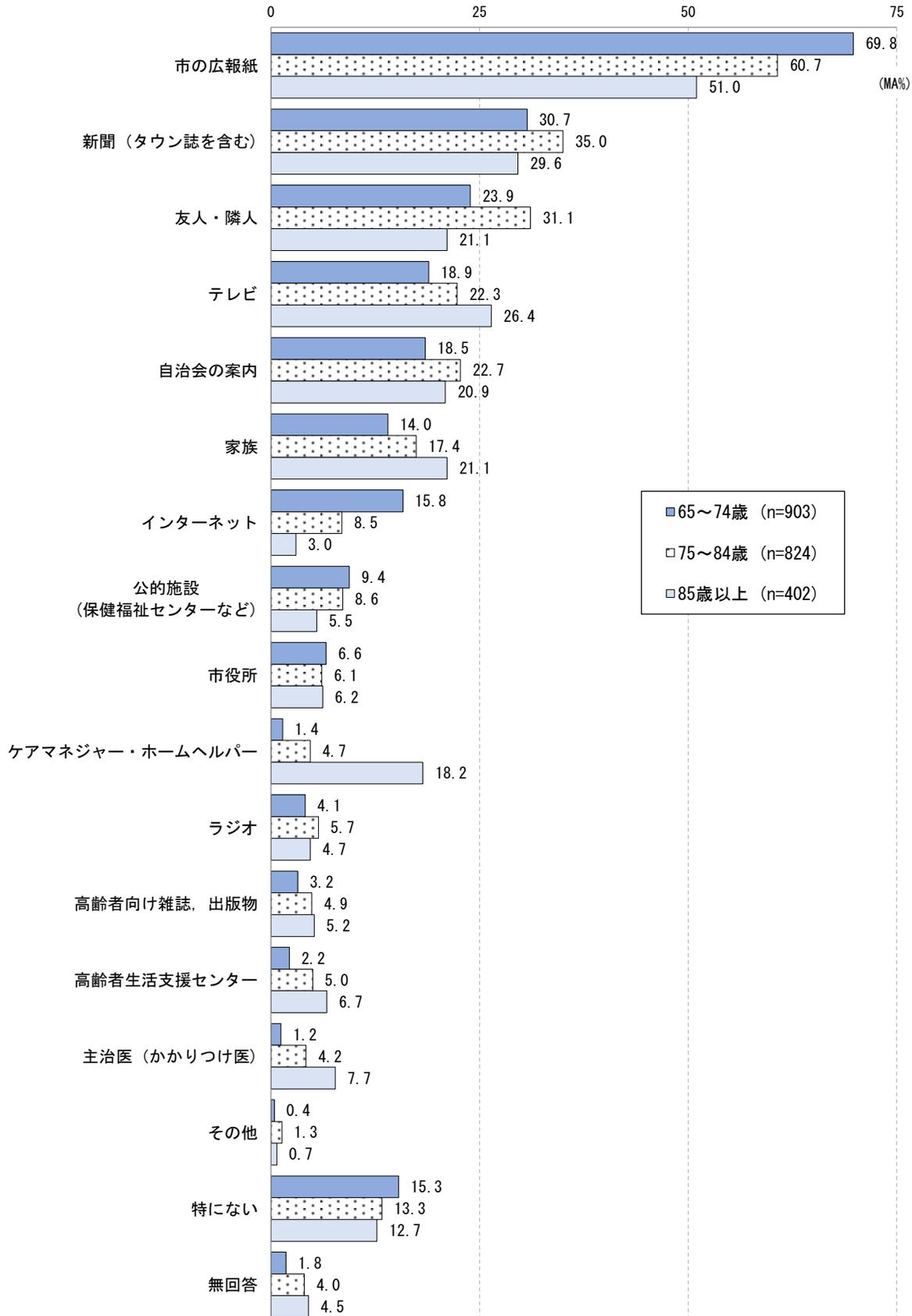
性別にみると、「市の広報紙」が男性で 58.0%，女性で 66.0%と、ともに最も多くなっている。これに続くのが、男性では「新聞（タウン誌を含む）」で 35.3%，女性では「友人・隣人」で 31.9%となっている。

【性別 高齢者向けの催しやサービスに関する情報の入手先】



年齢別にみると、いずれの年齢層も「市の広報紙」が最も多く、特に65～74歳で約7割（69.8%）と高い。また、「友人・隣人」が75～84歳で31.1%、「インターネット」が65～74歳で15.8%、「ケアマネジャー・ホームヘルパー」が85歳以上で18.2%となっている。

【年齢別 高齢者向けの催しやサービスに関する情報の入手先】

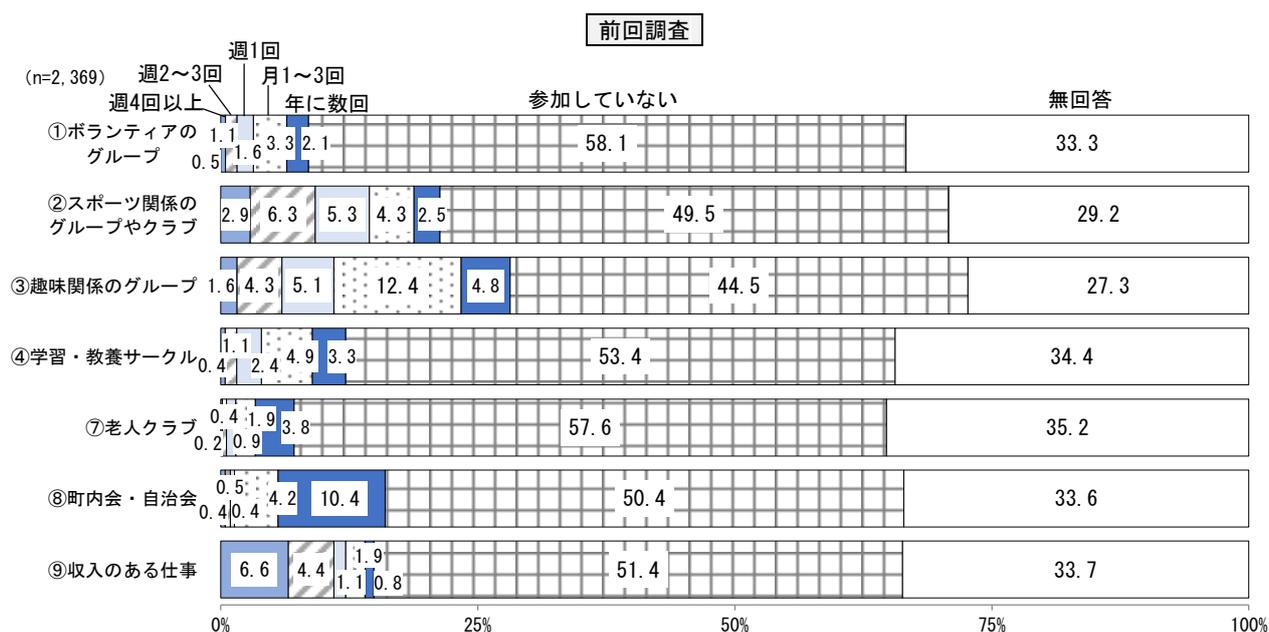
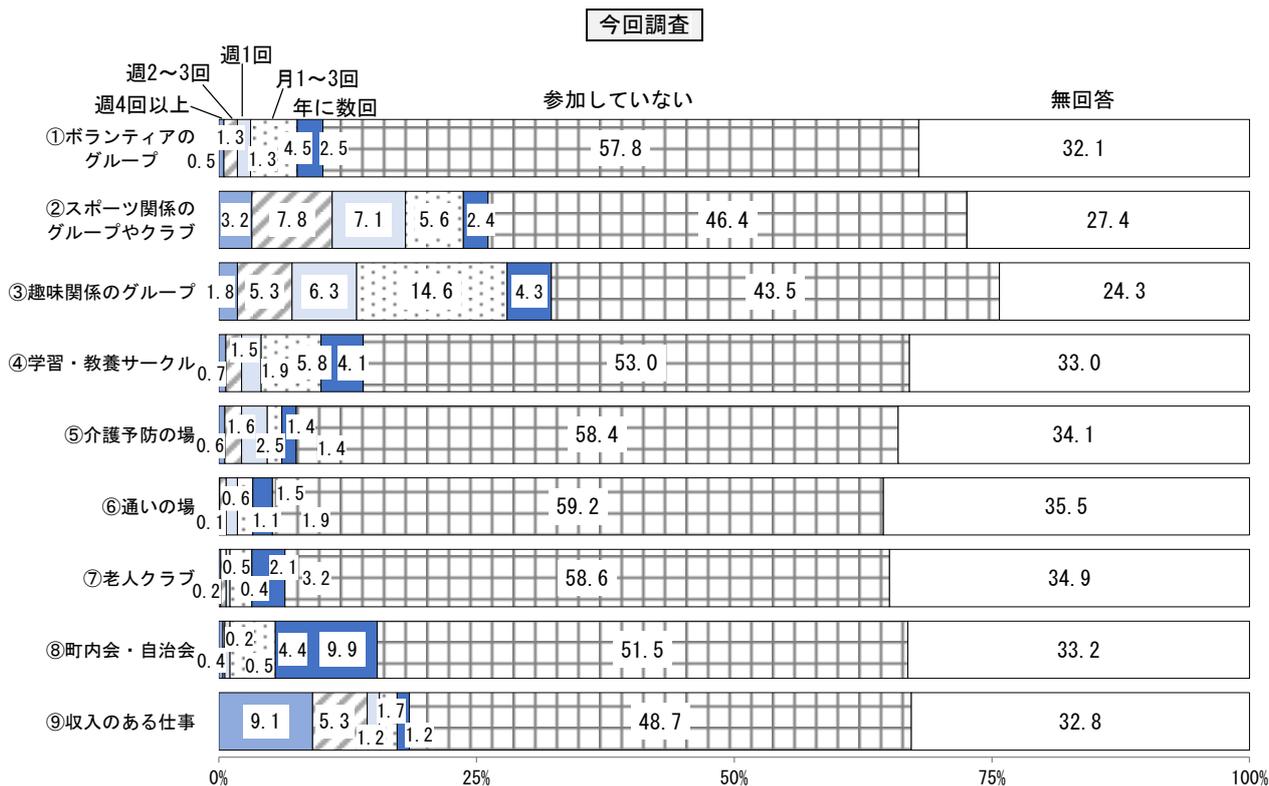


6 地域での活動について

(1) 地域の会・グループ等への参加状況

問 5(1) 以下の①～⑨のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

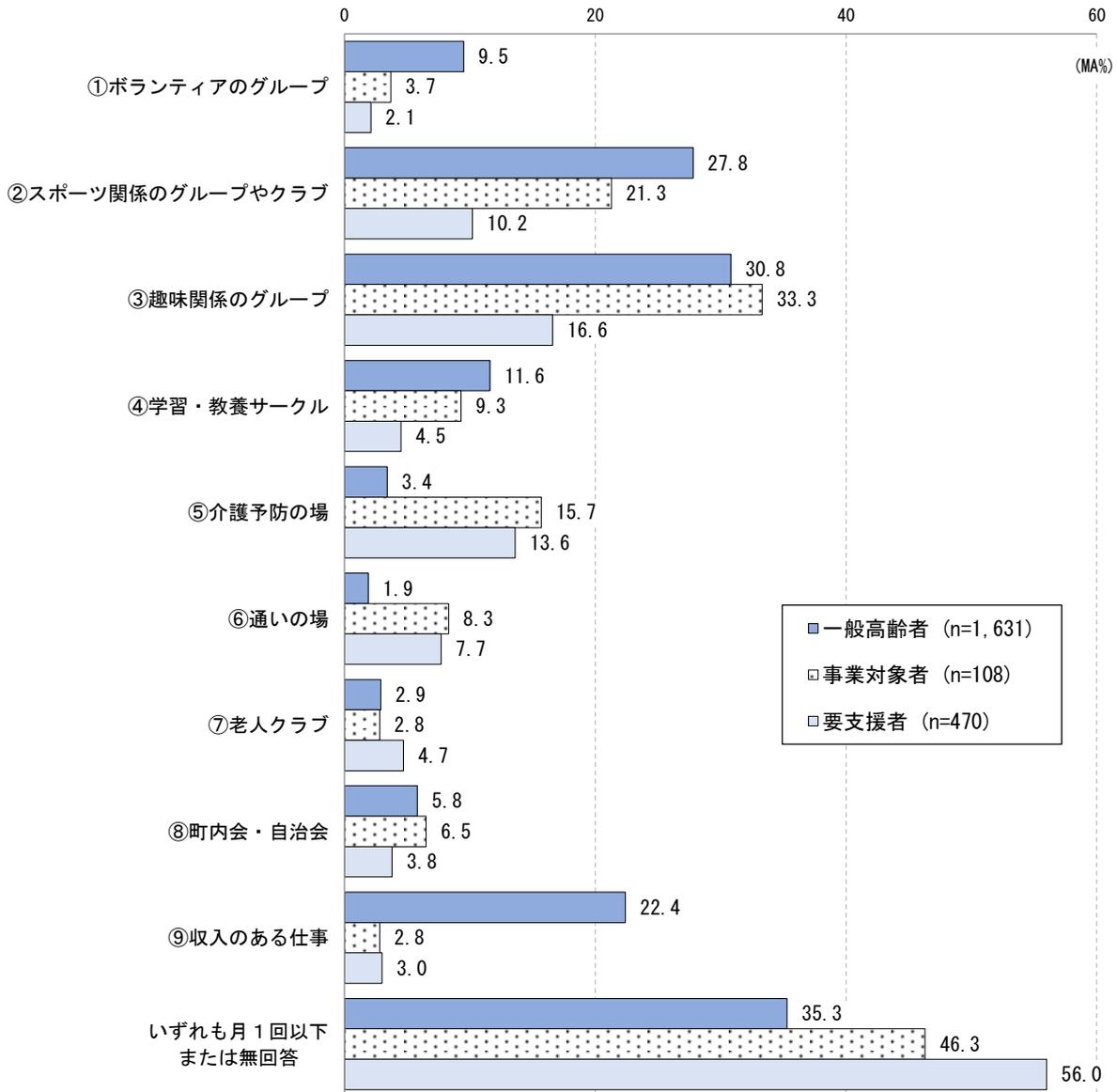
地域の会・グループ等への参加状況として8項目についてたずねたところ、月に1回以上参加している割合（「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」の計）が、『③趣味関係のグループ』で27.9%と最も多く、次いで『②スポーツ関係のグループやクラブ』で23.7%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



※『⑤通いの場（つどい場、ワンコインサロン、生きがいデイサービスなど）』及び『⑥介護予防の場（さわやか教室、介護予防センターなど）』は新規項目（前回調査なし）

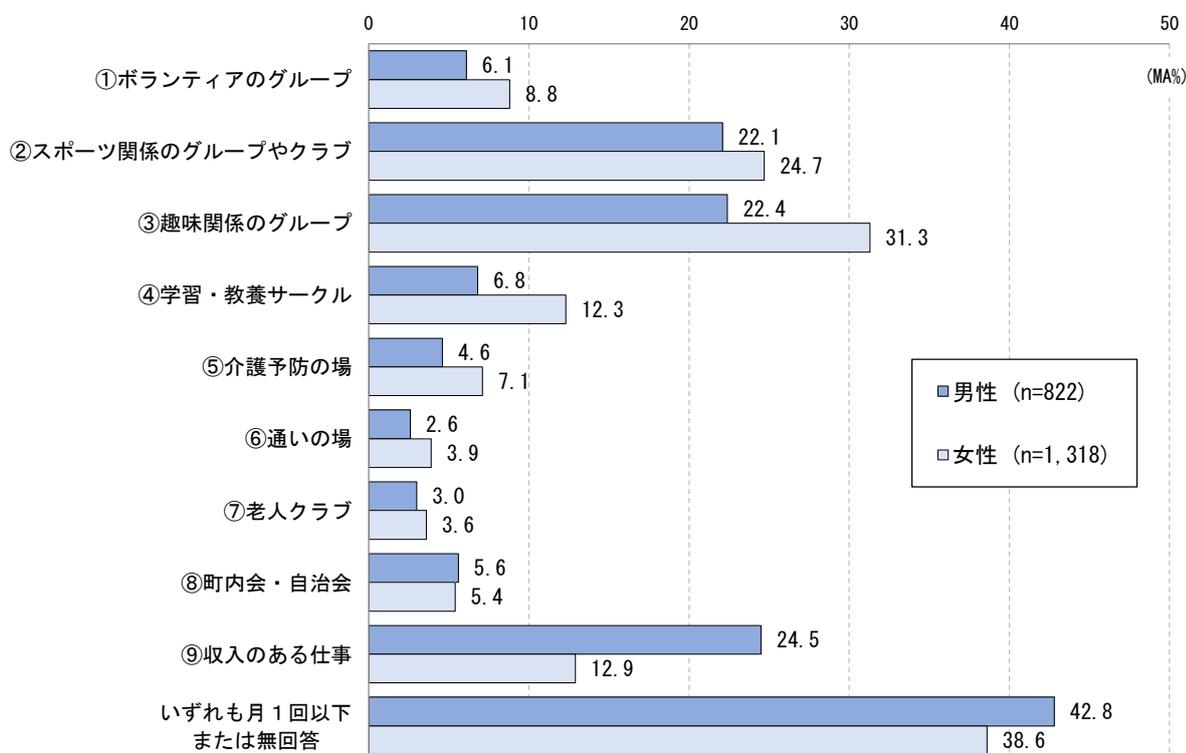
対象者区分別に、月に1回以上参加している割合についてみると、いずれも『③趣味関係のグループ』が最も多く、一般高齢者で30.8%、事業対象者で33.3%、要支援者で16.6%となっている。

【対象者区分別 地域の会・グループ等への参加状況】※月に1回以上参加している割合



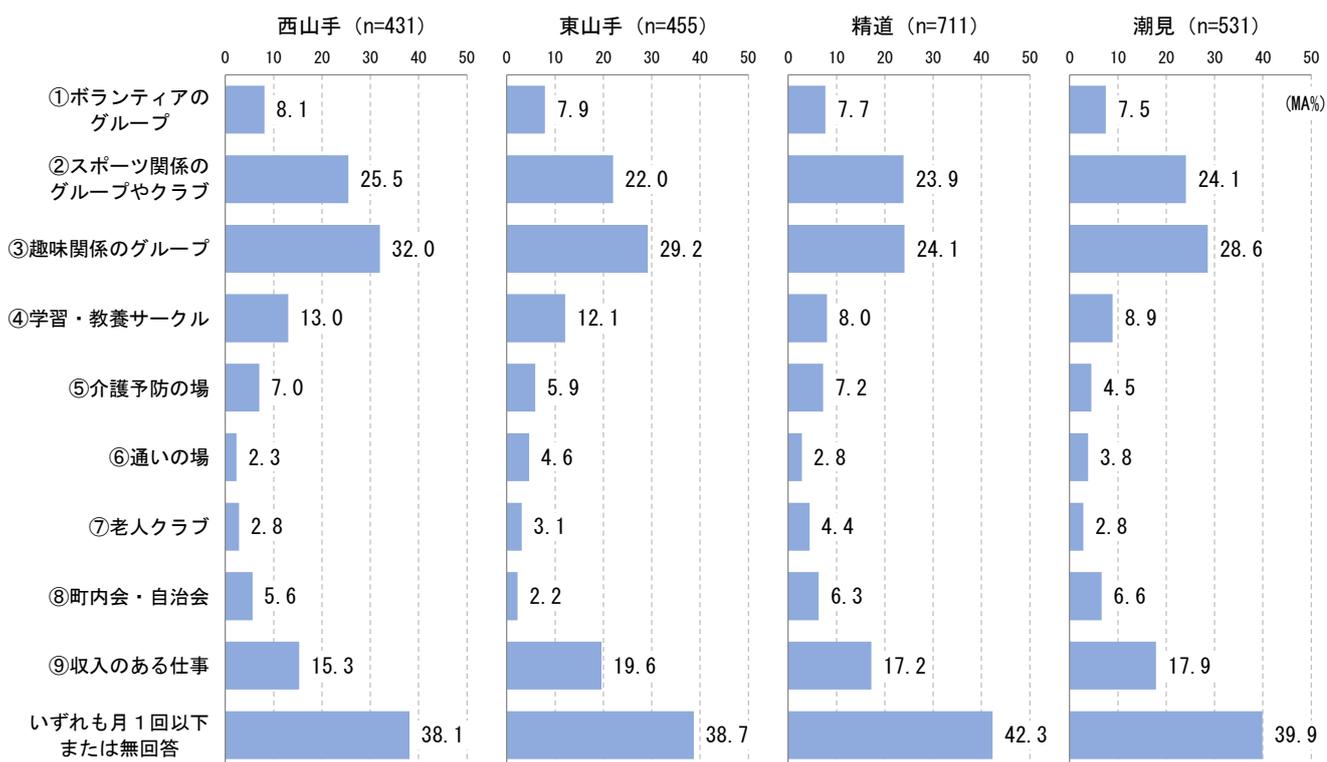
性別に、月に1回以上参加している割合についてみると、多くの項目で男性より女性のほうが高い割合となっており、特に『③趣味関係のグループ』が男性で22.4%に対し、女性では31.3%と高い。

【性別 地域の会・グループ等への参加状況】※月に1回以上参加している割合



居住地域別に、月に1回以上参加している割合についてみると、西山手地域で『③趣味関係のグループ』が32.0%、『②スポーツ関係のグループやクラブ』が25.5%と、ともに最も高くなっている。

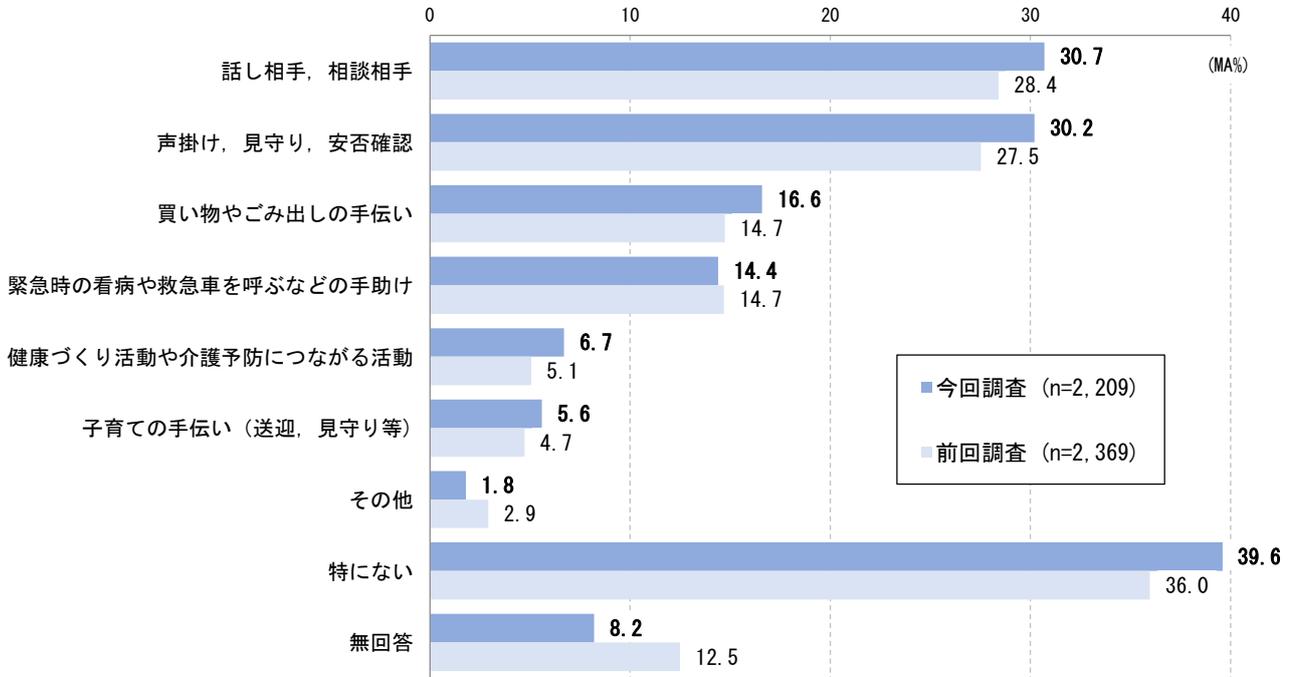
【居住地域別 地域の会・グループ等への参加状況】※月に1回以上参加している割合



(2) 地域の人に対して自身ができること

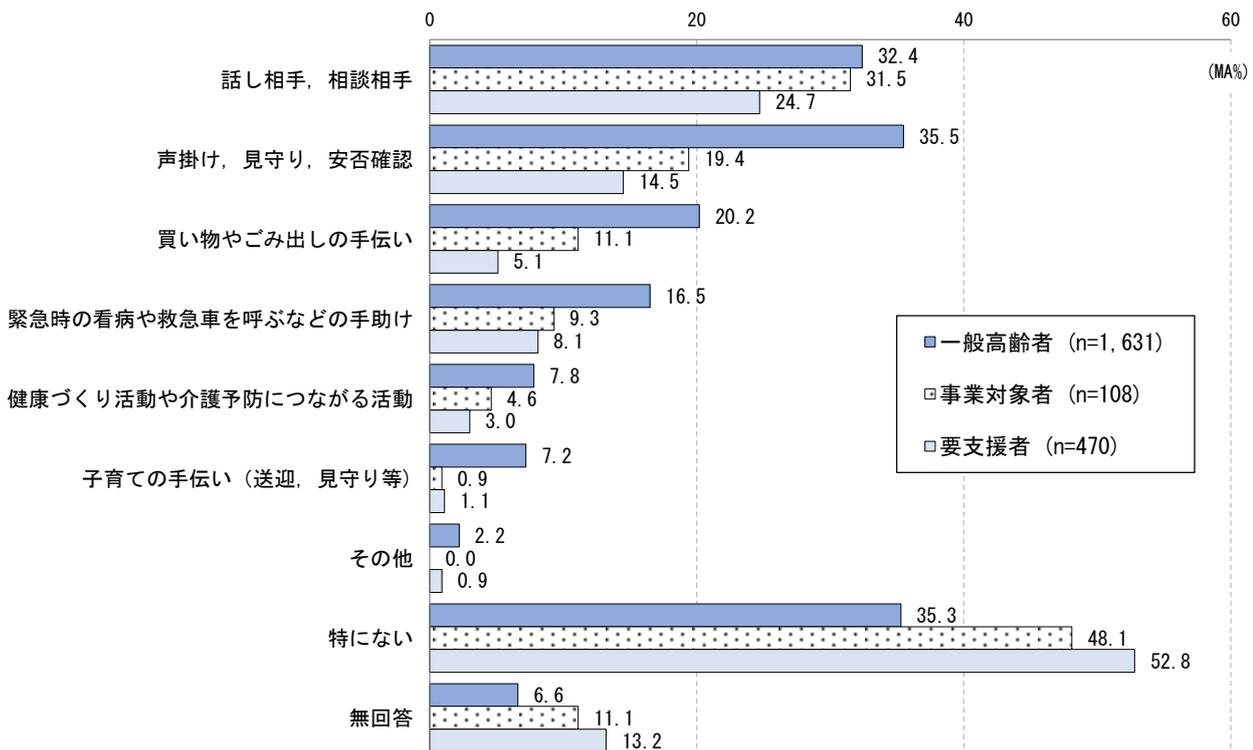
問 5(2) 地域の人にあなたができることは何ですか (〇はいくつでも)

地域の人にできることがあるという割合は、全体の半数程度 (52.2%) みられ、前回調査 (51.5%) と同程度となっている。具体的にできることとしては、「話し相手, 相談相手」が 30.7%, 「声掛け, 見守り, 安否確認」が 30.2%, 「話し相手, 相談相手」が 30.2% と多い。



対象者区分別にみると、具体的にできることとしては、一般高齢者では「声掛け, 見守り, 安否確認」、事業対象者・要支援者では「話し相手, 相談相手」がそれぞれ最も多くなっている。

【対象者区分別 地域の人に対して自身ができること】

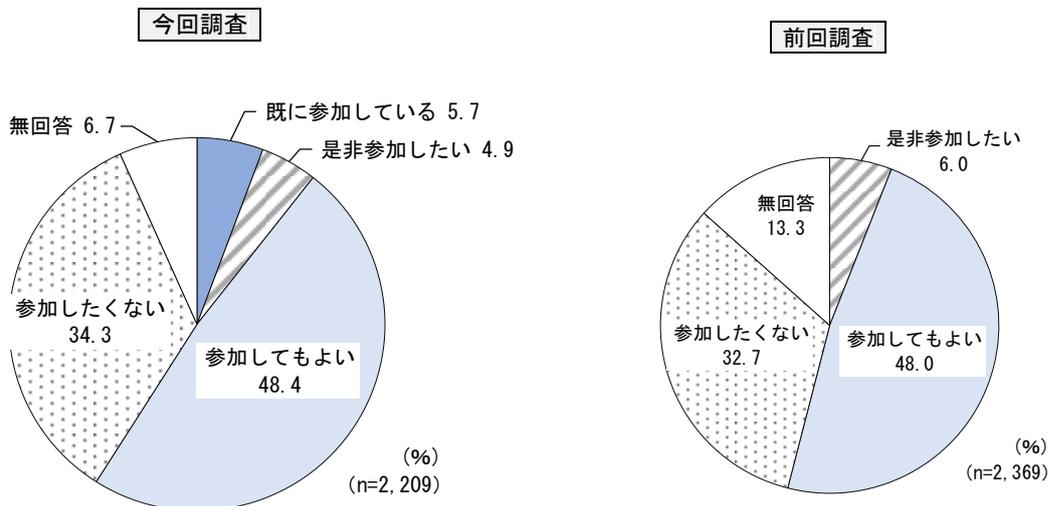


(3) 地域の会・グループ等への参加意向

①参加意向

問 5(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

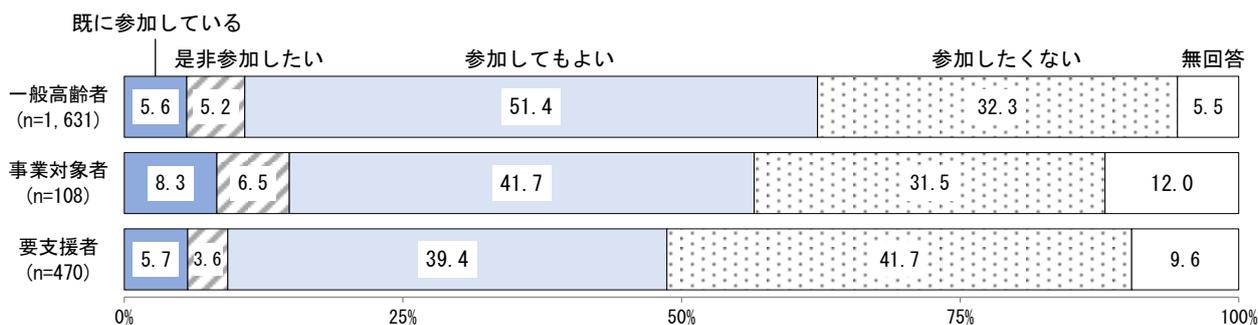
活動への参加意向としては、「参加してもよい」が半数近く（48.4%）を占めており、「既に参加している」「是非参加したい」を合わせると、参加意向がある割合は約6割（59.0%）となっている。



※「既に参加している」は新規項目（前回調査なし）

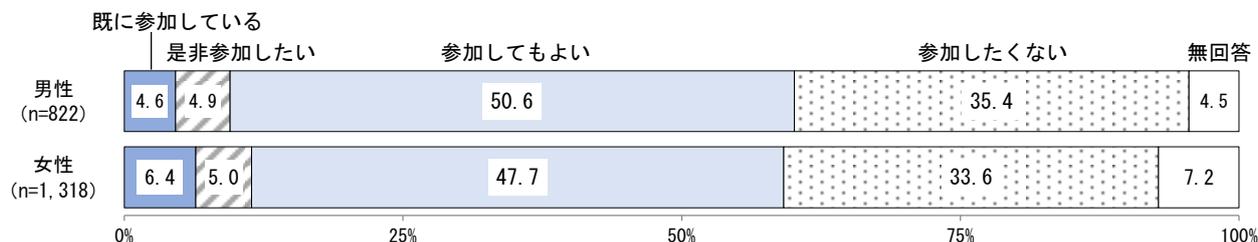
対象者区分別にみると、参加意向がある割合が、一般高齢者で62.2%、事業対象者で56.5%、要支援者で48.7%となっている。

【対象者区分別 地域の会・グループ等への参加意向】



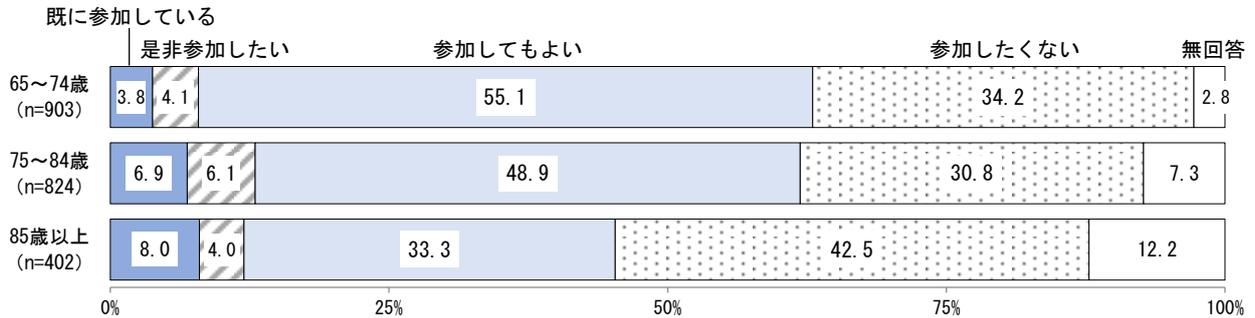
性別にみると、参加意向がある割合が、男性（60.1%）、女性（59.2%）ともに約6割みられる。

【性別 地域の会・グループ等への参加意向】



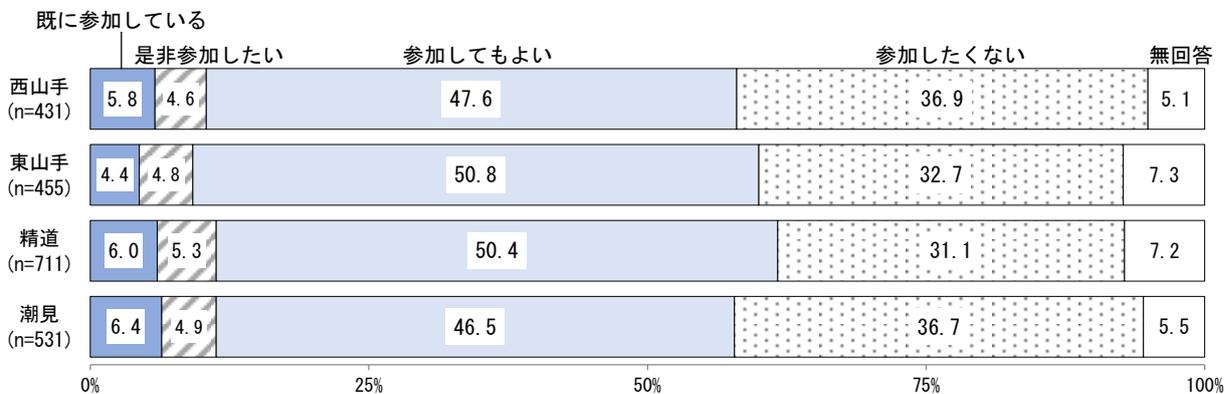
年齢別にみると、参加意向がある割合が、65～84歳では6割台みられるのに対し、85歳以上では4割台（45.3%）となっている。

【年齢別 地域の会・グループ等への参加意向】



居住地域別にみると、参加意向がある割合が、いずれの地域も6割前後みられ、精道地域で61.7%と最も高くなっている。

【居住地域別 地域の会・グループ等への参加意向】

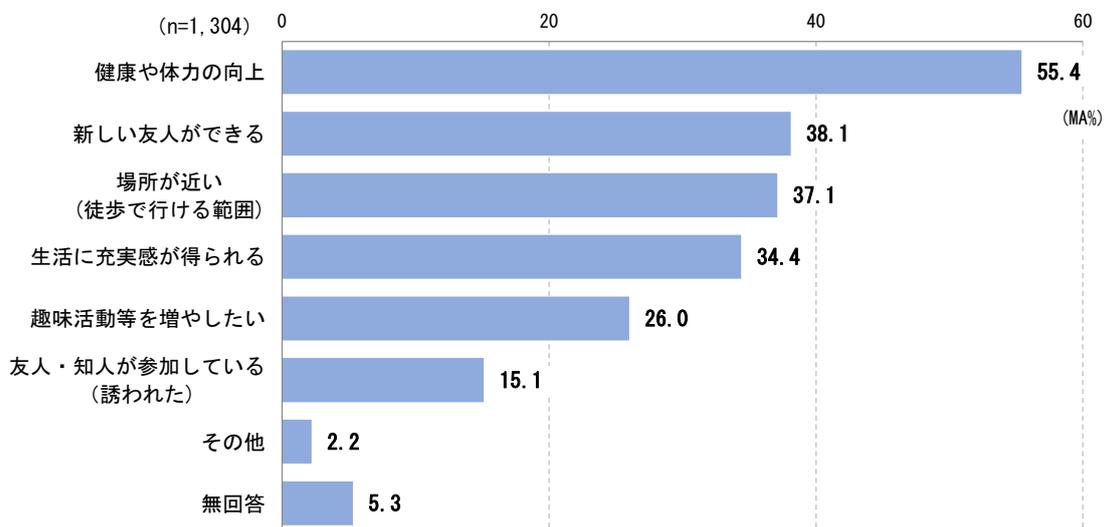


②参加したい理由

【問5(3)で「既に参加している」「是非参加したい」「参加してもよい」のいずれかとお答えの方】

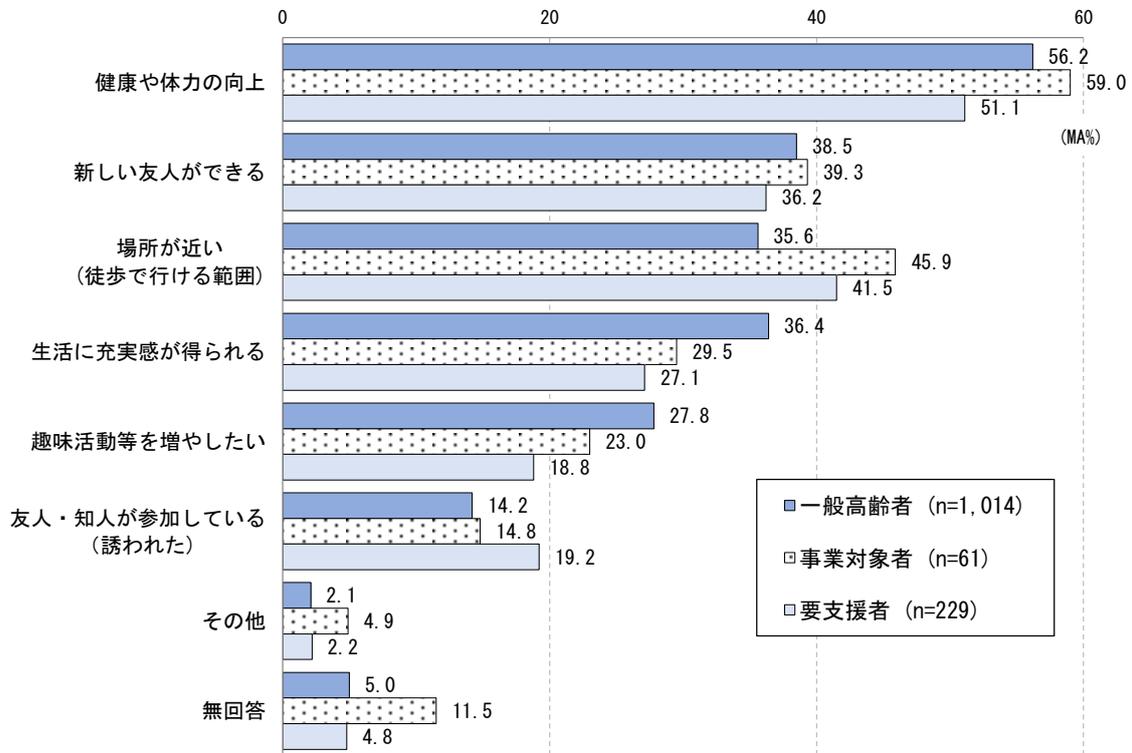
問5(3)-1 参加者として、参加したい（参加してもよい）理由や参加したきっかけとして、どういったことがありますか（〇はいくつでも）

参加したい理由等としては、「健康や体力の向上」が55.4%と最も多く、次いで「新しい友人ができる」が38.1%、「場所が近い（徒歩で行ける範囲）」が37.1%となっている。



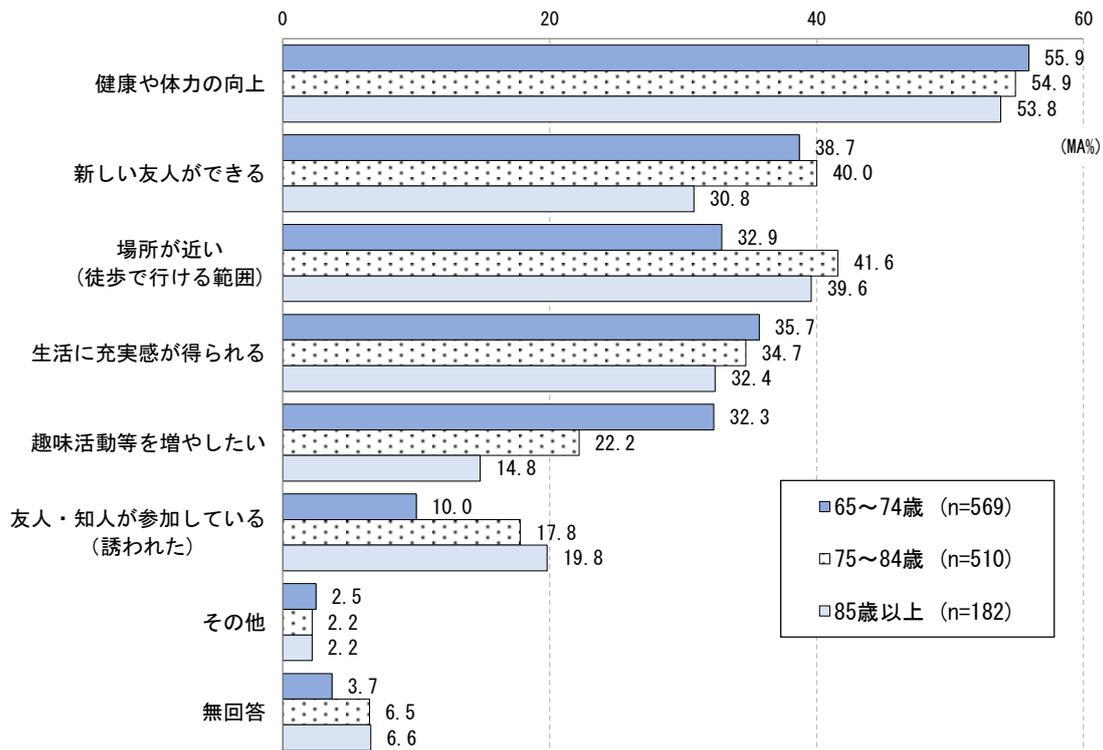
対象者区分別にみても、いずれも「健康や体力の向上」が最も多く、一般高齢者で 56.2%、事業対象者で 59.0%、要支援者で 51.1%となっている。

【対象者区分別 地域の会・グループ等へ参加したい理由】



年齢別にみると、いずれの年齢層も「健康や体力の向上」が5割台と最も多くなっている。また、「新しい友人ができる」が65～84歳で4割近くみられる。

【年齢別 地域の会・グループ等へ参加したい理由】

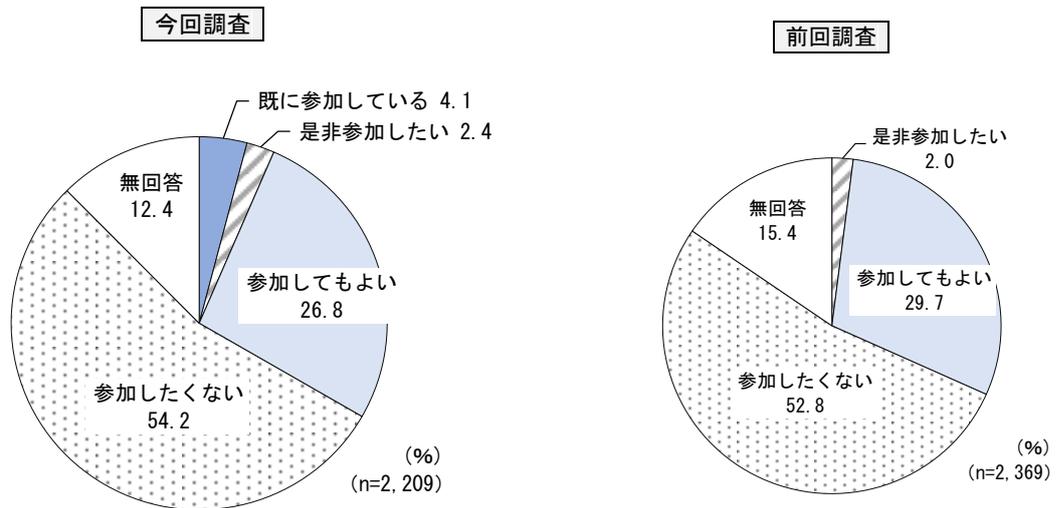


(4) 地域の会・グループ等への企画・運営としての参加意向

①企画・運営としての参加意向

問 5(4) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか

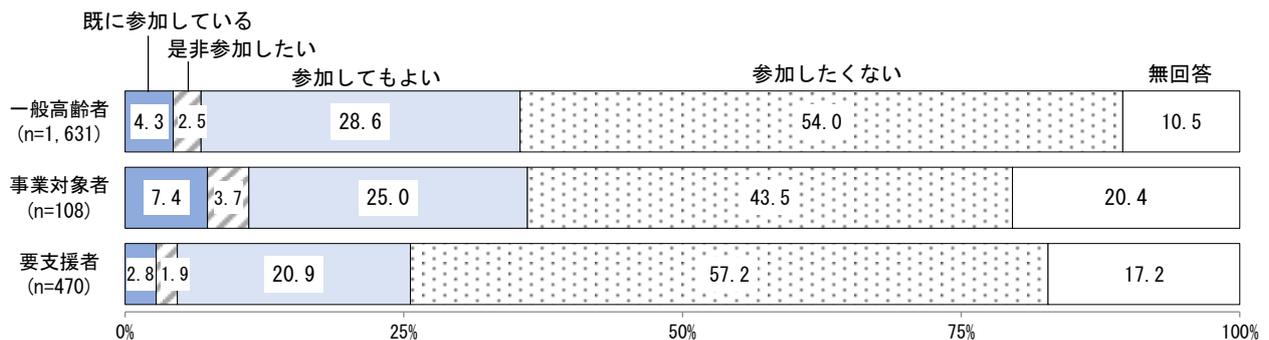
企画・運営として参加意向がある割合(「既に参加している」「是非参加したい」「参加してもよい」の計)は3割台(33.4%)となっている。



※「既に参加している」は新規項目(前回調査なし)

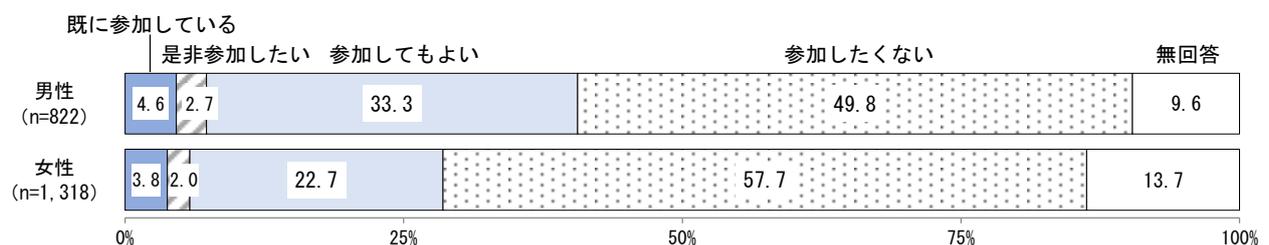
対象者区分別にみると、参加意向がある割合が、一般高齢者で35.4%、事業対象者で36.1%、要支援者で25.5%となっている。

【対象者区分別 地域の会・グループ等への企画・運営としての参加意向】



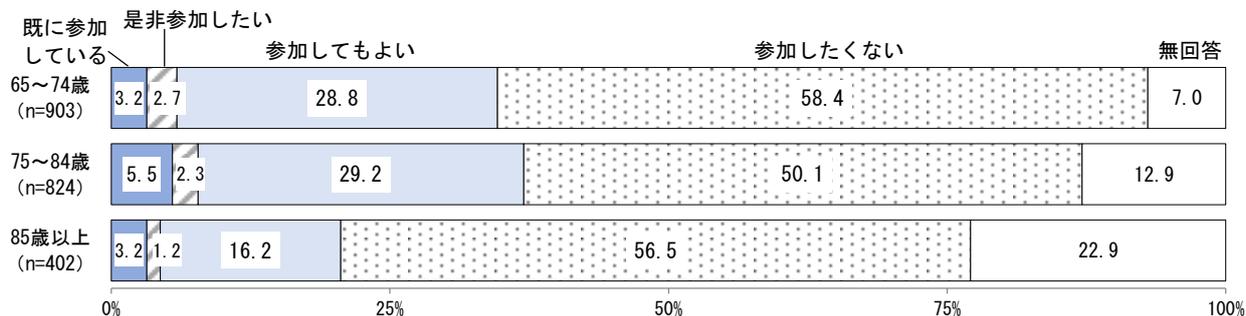
性別にみると、参加意向がある割合が、男性で40.6%に対し、女性では28.5%と低くなっている。

【性別 地域の会・グループ等への企画・運営としての参加意向】



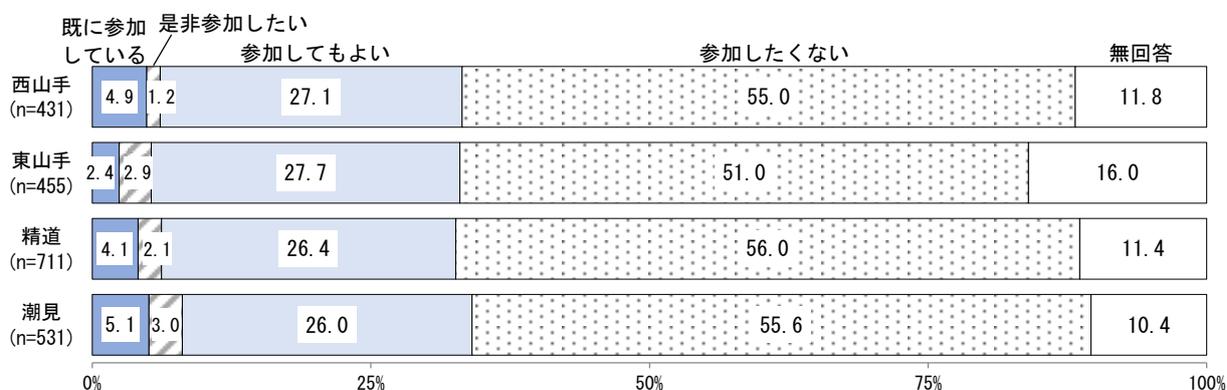
年齢別にみると、参加意向がある割合が、65～84歳では3割台みられるのに対し、85歳以上では約2割（20.6%）となっている。

【年齢別 地域の会・グループ等への企画・運営としての参加意向】



居住地域別にみると、参加意向がある割合が、いずれの地域も3割台となっており、地域間での差はさほどみられない。

【居住地域別 地域の会・グループ等への企画・運営としての参加意向】

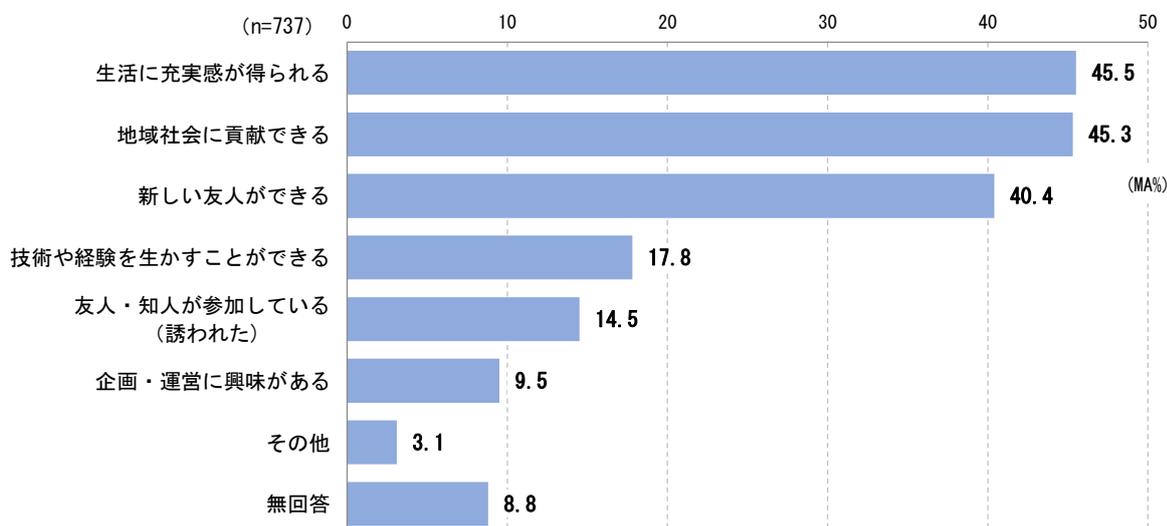


②企画・運営として参加したい理由

【問5(4)で「既に参加している」「是非参加したい」「参加してもよい」のいずれかとお答えの方】

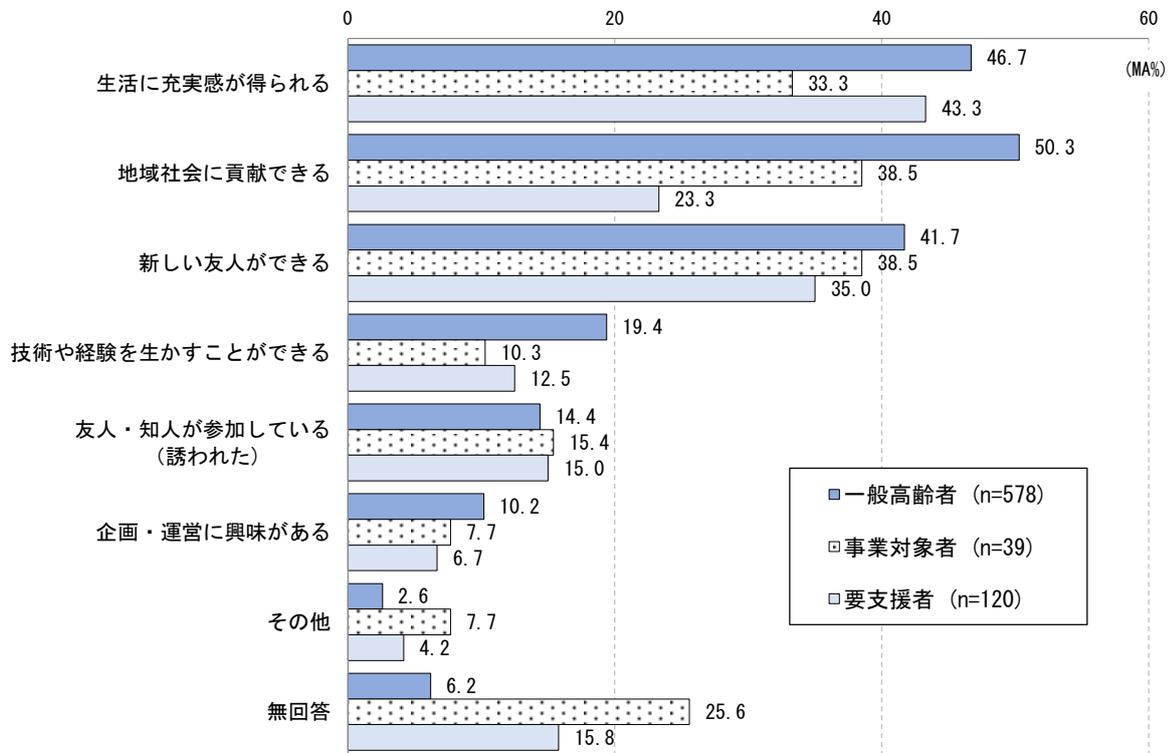
問5(4)-1 参加者として、参加したい（参加してもよい）理由や参加したきっかけとして、どういったことがありますか（〇はいくつでも）

企画・運営として参加したい理由等としては、「生活に充実感が得られる」が45.5%、「地域社会に貢献できる」が45.3%と多くなっており、次いで「新しい友人ができる」が40.4%となっている。



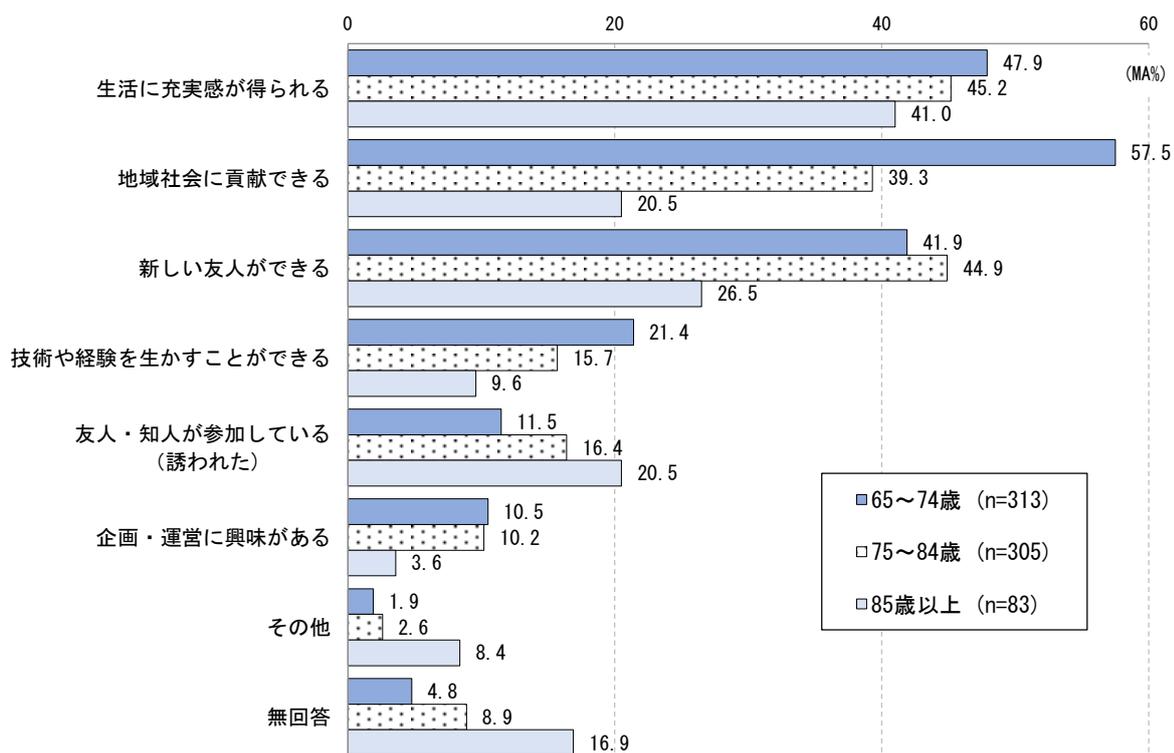
対象者区分別にみると、一般高齢者では「地域社会に貢献できる」が50.3%、事業対象者では「地域に貢献できる」、「新しい友人ができる」がともに38.5%、要支援者では「生活に充実感が得られる」が43.3%と、それぞれ最も多くなっている。

【対象者区分別 地域の会・グループ等へ企画・運営として参加したい理由】



年齢別にみると、65～74歳で「地域社会に貢献できる」が57.5%と、75歳以上に比べて特に高い割合となっている。

【年齢別 地域の会・グループ等へ企画・運営として参加したい理由】

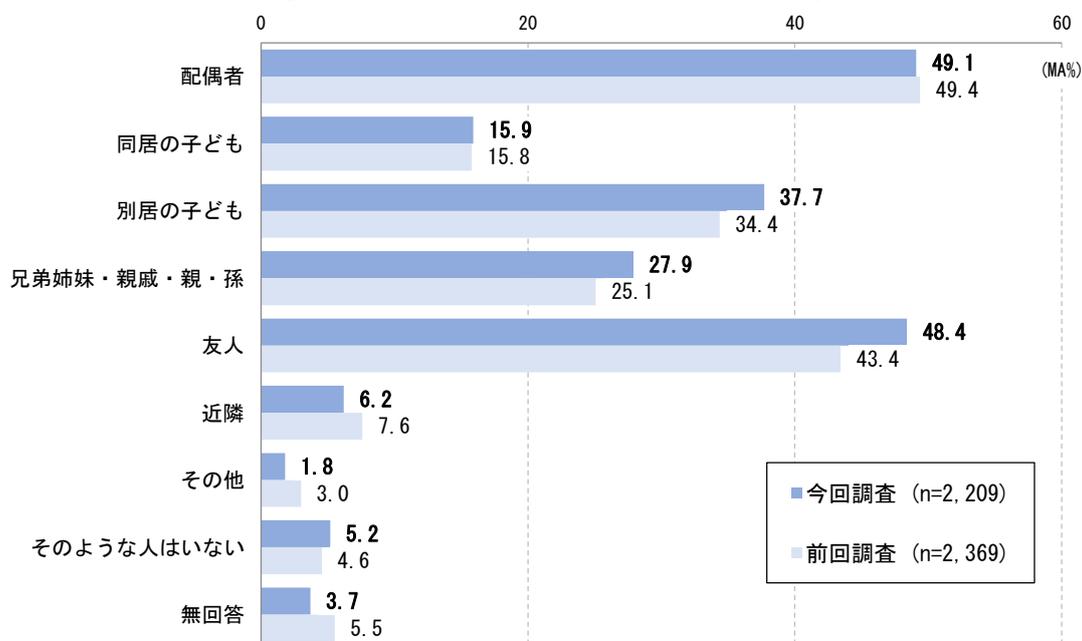


7 たすけあいについて

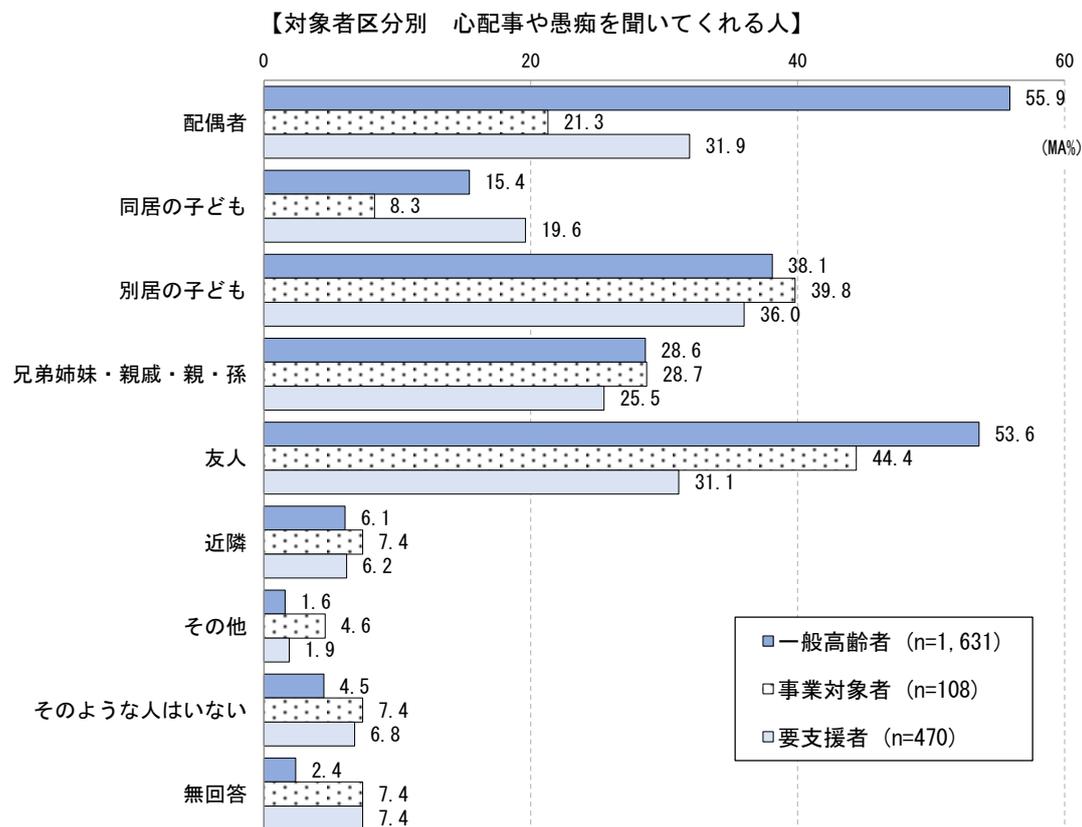
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人，聞いてあげる人

問 6(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人 (〇はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人としては、「配偶者」が49.1%、「友人」が48.4%と多くなっており、前回調査と比べると、「友人」(前回43.4%)が5ポイント増えている。

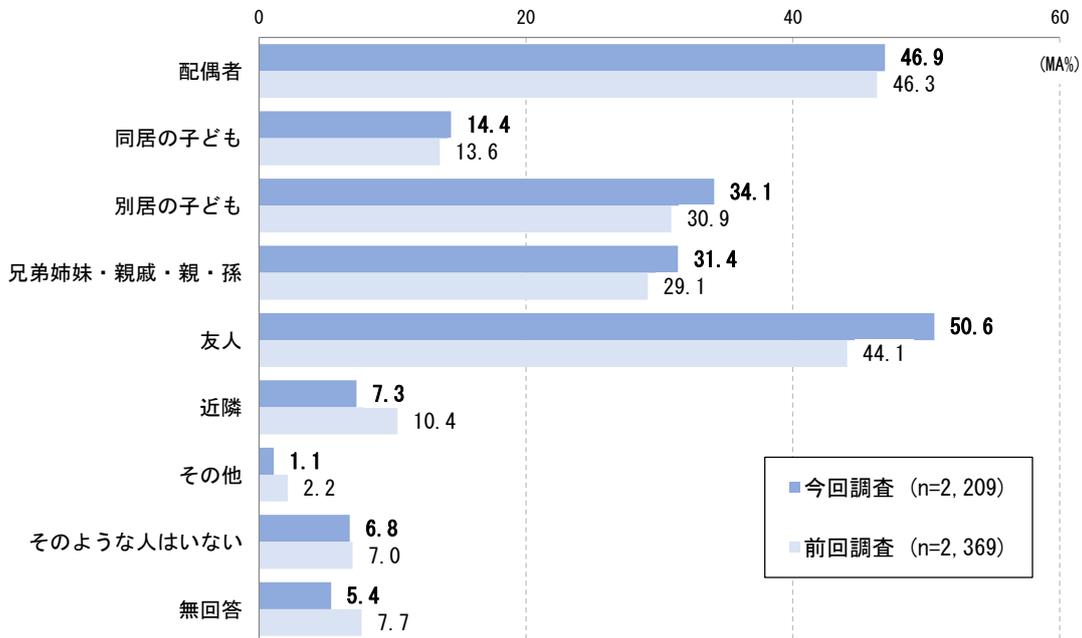


対象者区分別にみると、一般高齢者では「配偶者」が55.9%、事業対象者では「友人」が44.4%、要支援者では「別居の子ども」が36.0%となっている。



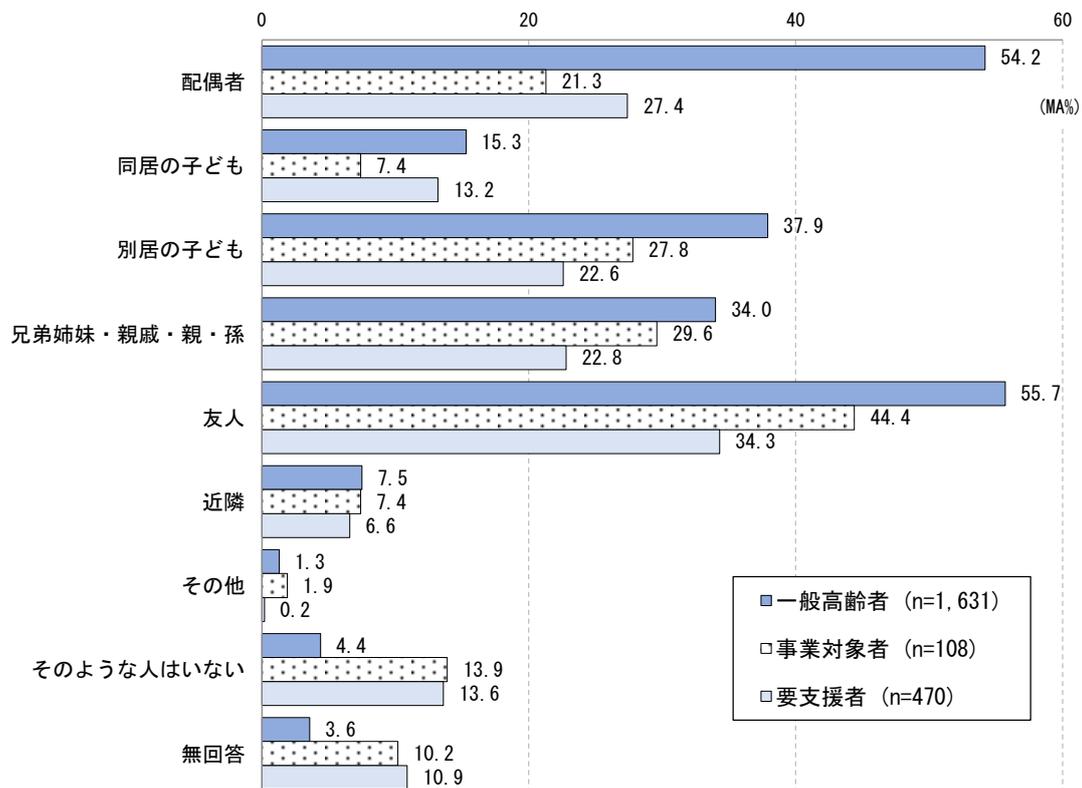
問 6(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人 (〇はいくつでも)

心配事や愚痴を聞いてあげる人としては、「友人」が 50.6%と最も多くなっており、前回調査 (44.1%) から 6.5 ポイント増えている。



対象者区分別にみても、いずれも「友人」が最も多く、一般高齢者で 55.7%、事業対象者で 44.4%、要支援者で 34.3%となっている。

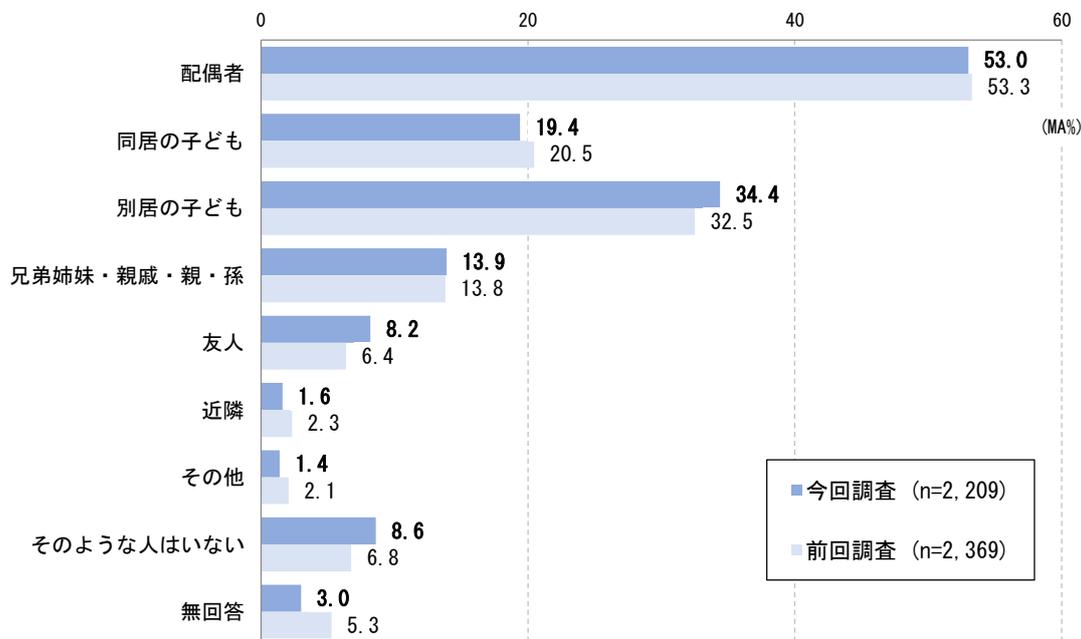
【対象者区分別 心配事や愚痴を聞いてあげる人】



(2) 看病や世話をしてくれる人、してあげる人

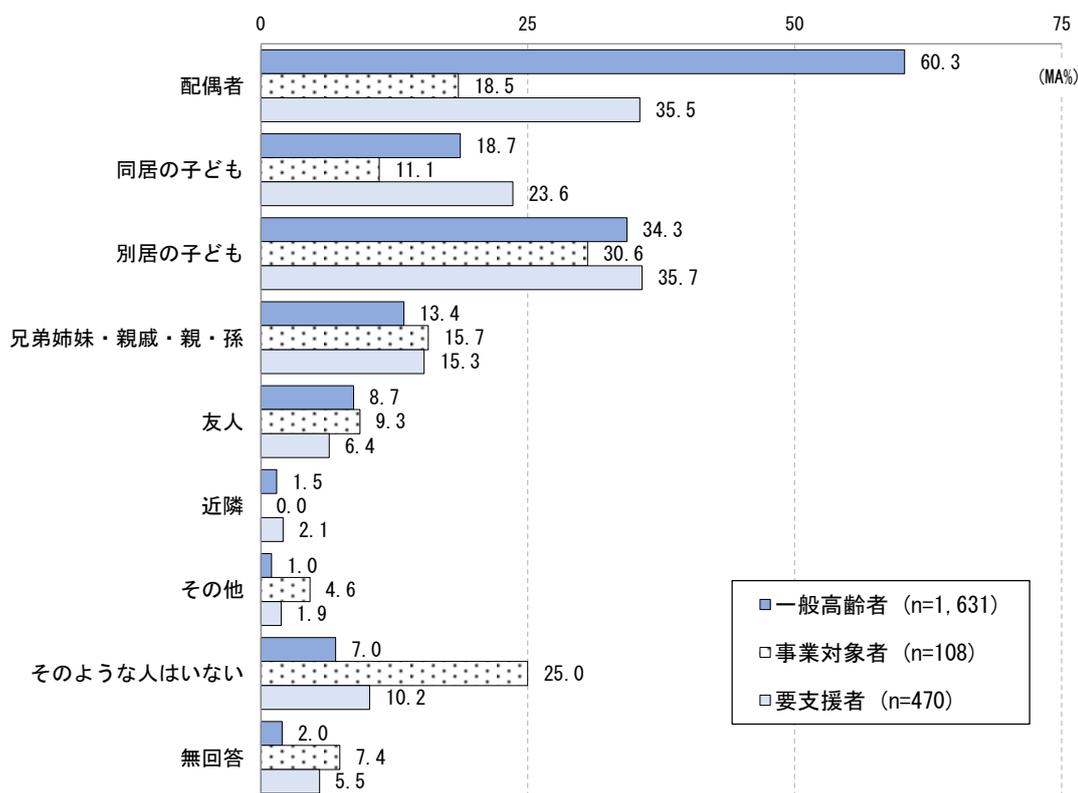
問 6(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (〇はいくつでも)

看病や世話をしてくれる人としては、「配偶者」が 53.0%と最も多く、次いで「別居の子ども」が 34.4%、「同居の子ども」が 19.4%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



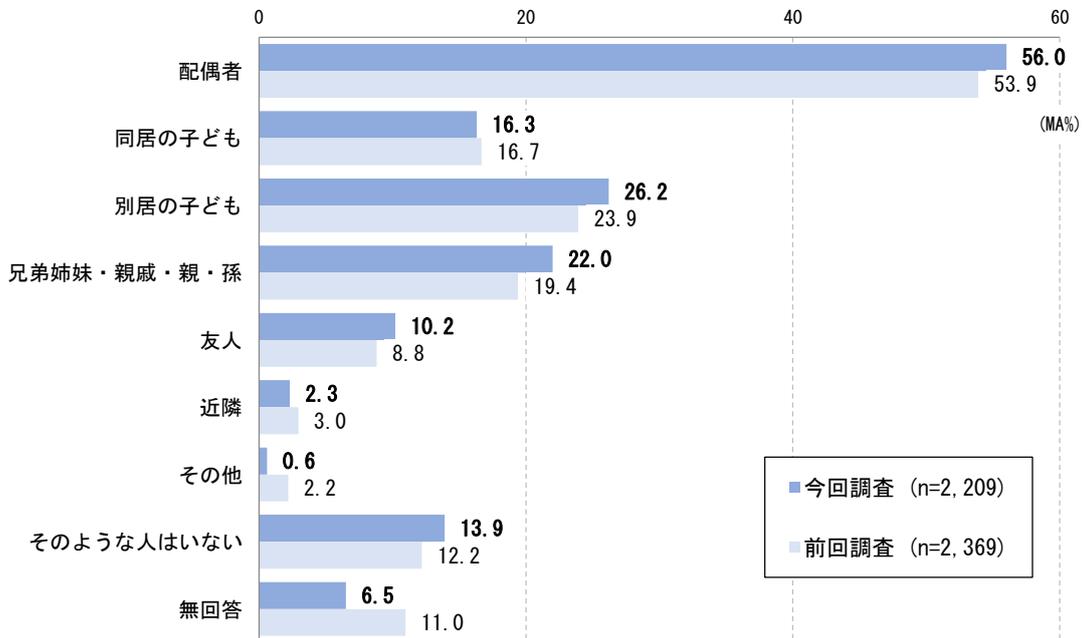
対象者区分別にみると、一般高齢者では「配偶者」が 60.3%、事業対象者では「別居の子ども」が 30.6%と、それぞれ最も多い。一方、「そのような人はいない」が事業対象者で 25.0%と高い。

【対象者区分別 看病や世話をしてくれる人】



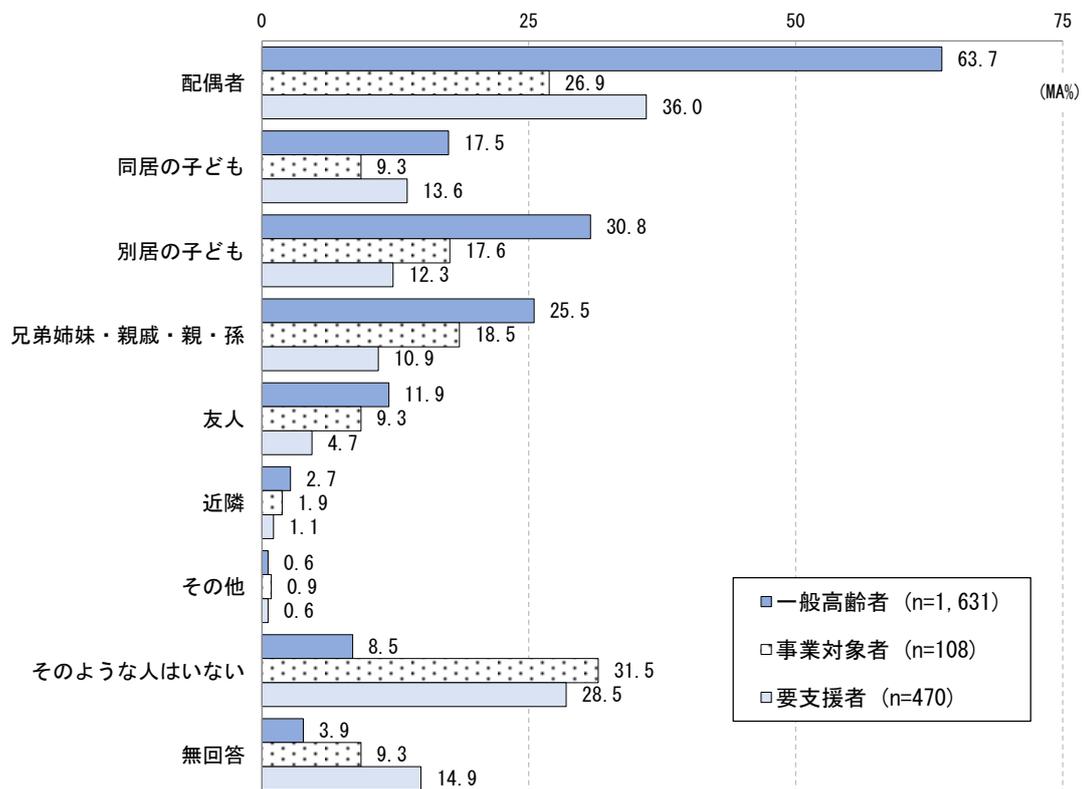
問 6(4) 反対に、看病や世話をしあける人 (〇はいくつでも)

看病や世話をしあける人としては、「配偶者」が 56.0%と最も多く、次いで「別居の子ども」が 26.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 22.0%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



対象者区分別にみると、看病や世話をしあける人として、「配偶者」が一般高齢者で 63.7%、事業対象者で 26.9%、要支援者で 36.0%と、いずれも最も多い。一方、「そのような人はいない」が事業対象者 (31.5%)、要支援者 (28.5%) で 3 割前後と高い。

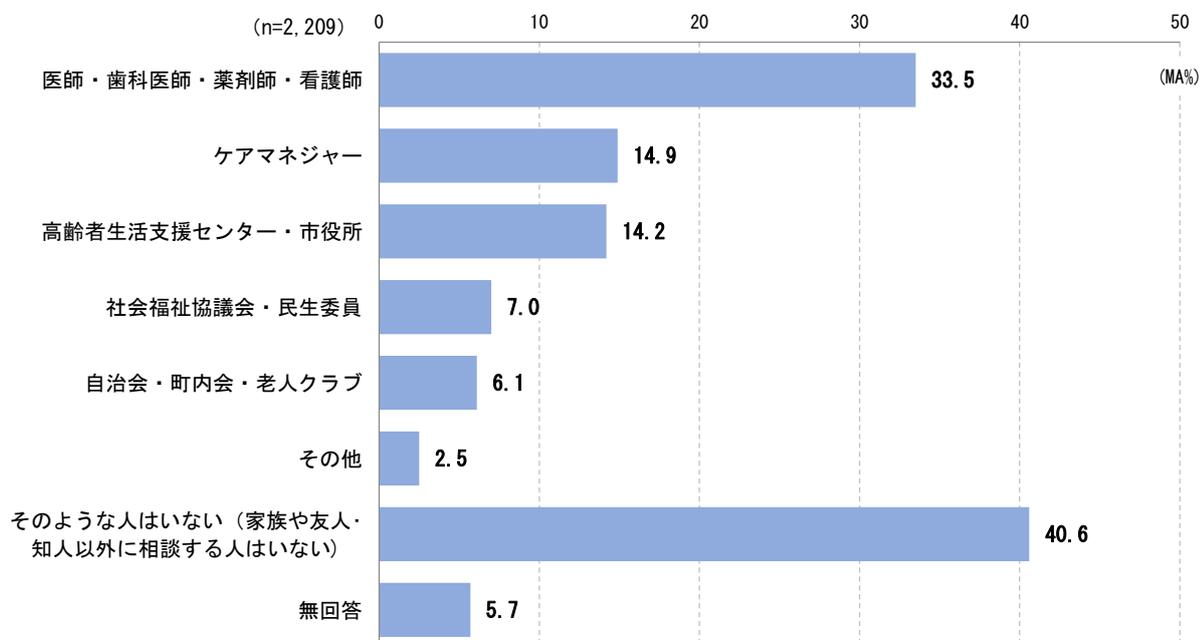
【対象者区分別 看病や世話をしあける人】



(3) 家族や友人以外の相談相手

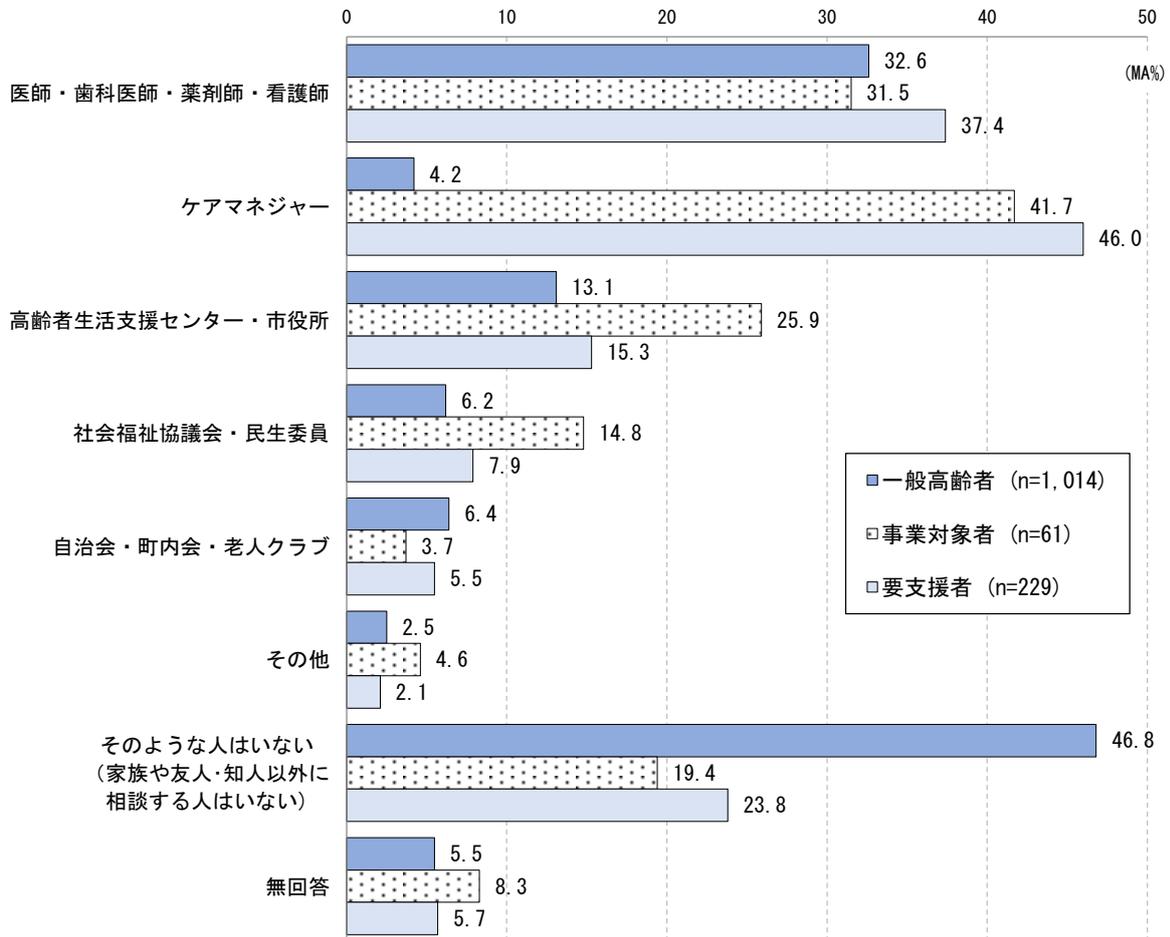
問 6(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (〇はいくつでも)

家族や友人・知人以外の相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が 33.5%と多く、次いで「ケアマネジャー」が 14.9%、「高齢者生活支援センター・市役所」が 14.2%となっている。一方、「そのような人はいない (家族や友人・知人以外に相談する人はいない)」が約 4 割 (40.6%) みられる。



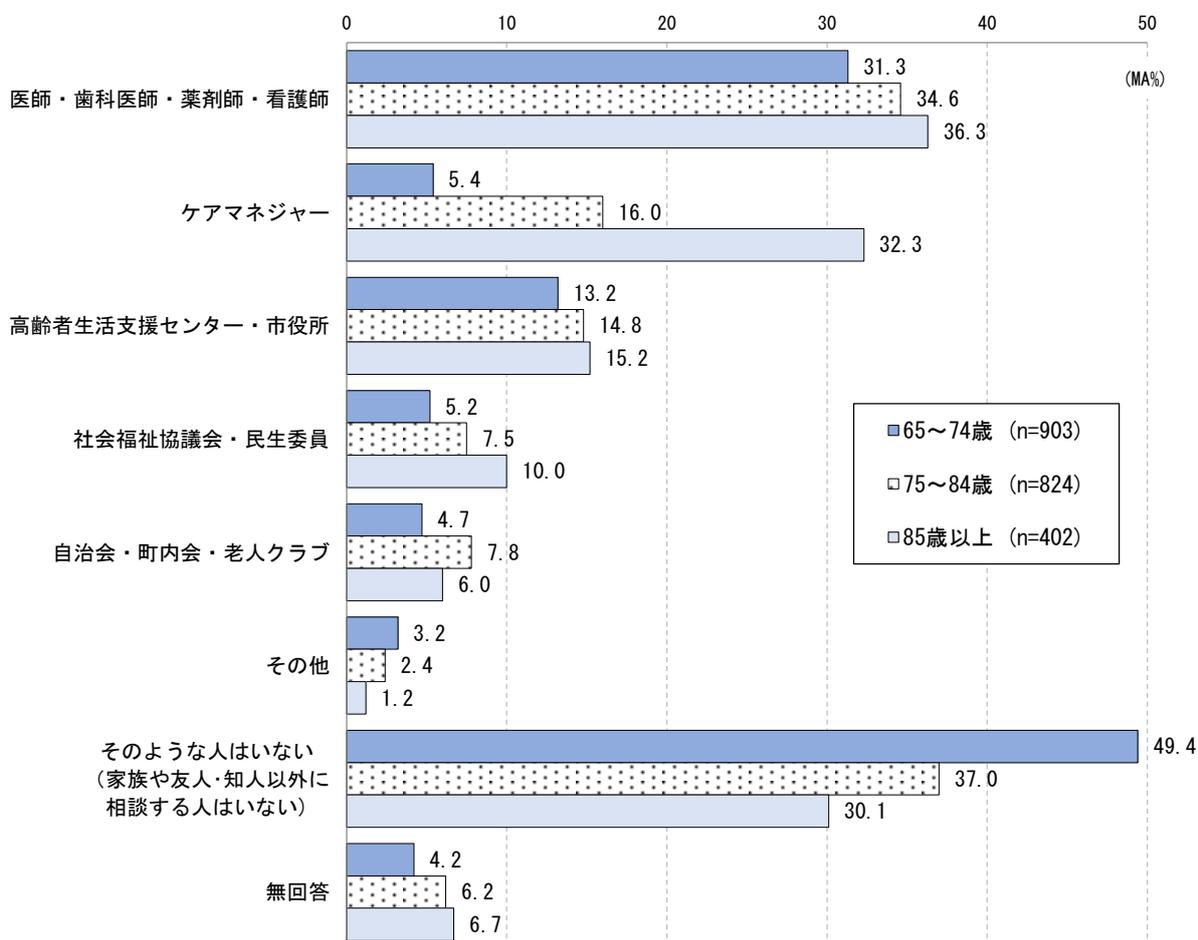
対象者区分別にみると、「ケアマネジャー」が事業対象者で 41.7%，要支援者で 46.0%と、それぞれ最も多くなっている。一方、一般高齢者では「医師・歯科医師・薬剤師・看護師」が 32.6%と多いものの、「そのような人はいない」が4割台（46.8%）を占めている。

【対象者区分別 家族や友人以外の相談相手】



年齢別にみると、いずれの年齢層も「医師・歯科医師・薬剤師・看護師」が3割台と最も多くなっている。また、「ケアマネジャー」が85歳以上で32.3%と、65～84歳に比べて高く、「そのような人はいない」が65～74歳で約半数（49.4%）を占めている。

【年齢別 家族や友人以外の相談相手】

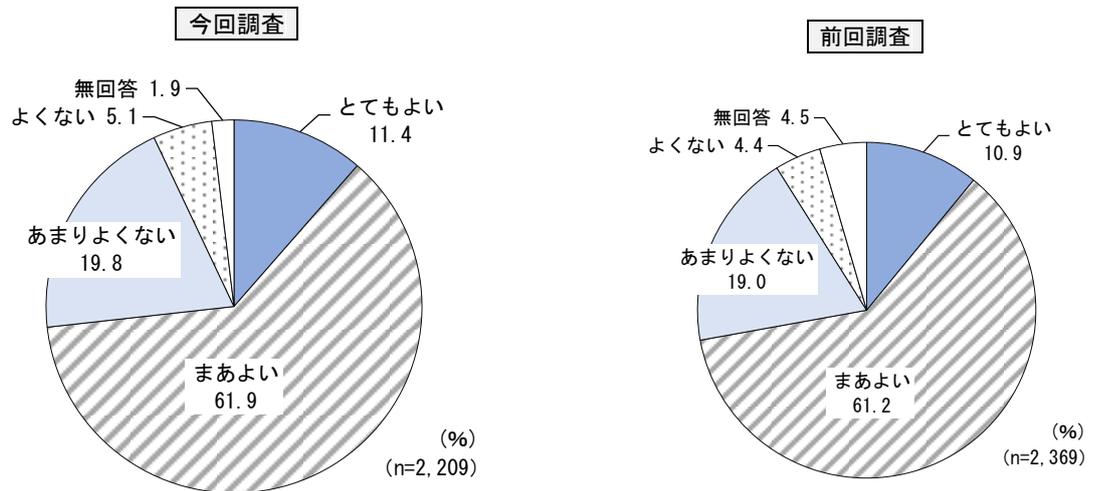


8 健康について

(1) 主観的健康観

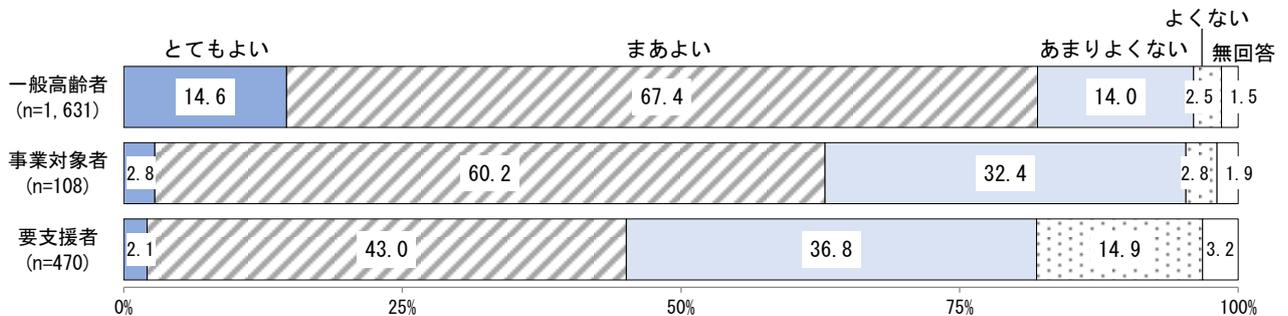
問 7(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか（1つに○）

現在の健康状態としては、「よくない」が 5.1%、「あまりよくない」が 19.8%となっており、合わせると、健康状態がよくないという割合は2割台（24.9%）みられ、前回調査（23.4%）から1.5ポイント増えている。



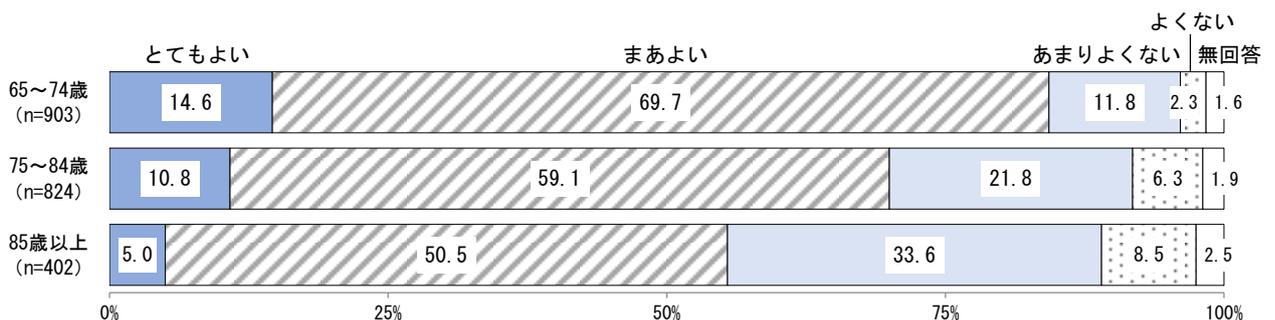
対象者区分別にみると、健康状態がよくないという割合が、一般高齢者で1割台（16.5%）、事業対象者で3割台（35.2%）、要支援者で5割台（51.7%）となっている。

【対象者区分別 主観的健康観】



年齢別にみると、健康状態がよくないという割合が、65～74歳で14.2%、75～84歳で28.2%、85歳以上で42.0%となっている。

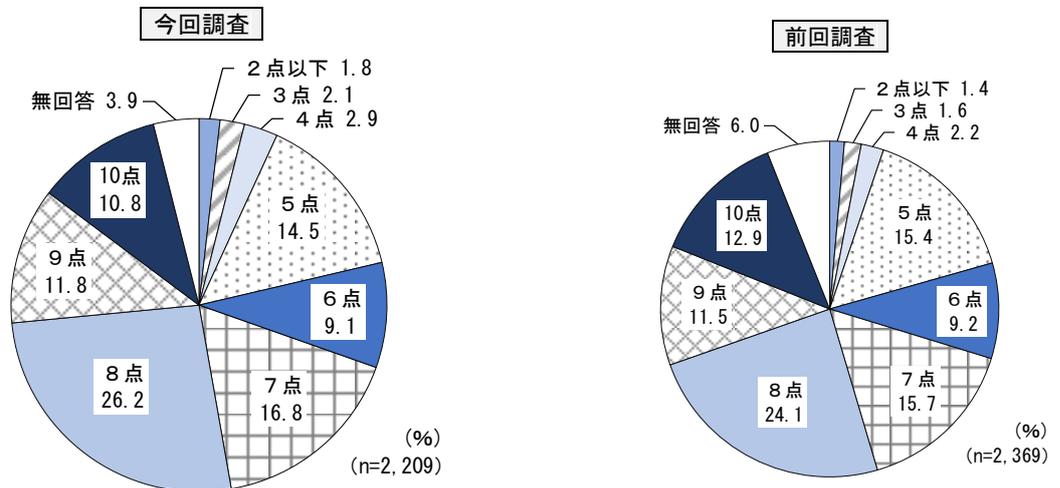
【年齢別 主観的健康観】



(2) 主観的幸福感

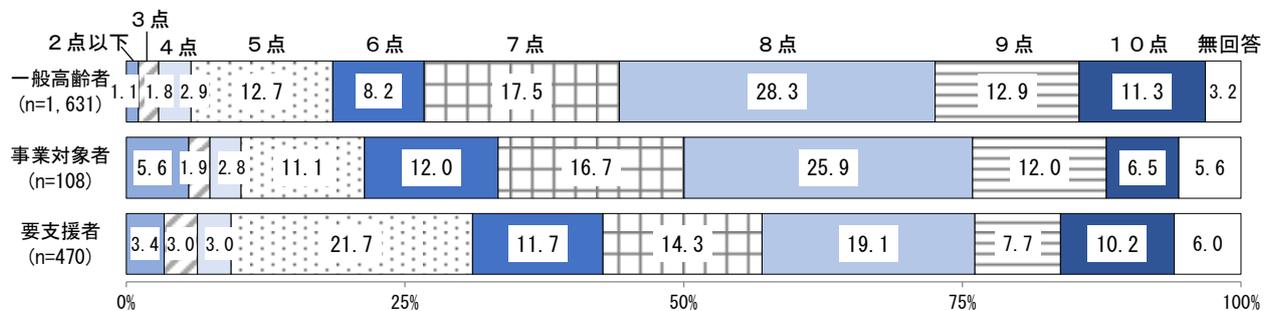
問 7(2) あなたは、現在どの程度幸せですか (とても不幸を 0 点, とても幸せを 10 点として, ご記入ください)

現在どの程度幸せかを 10 点満点でたずねたところ、「8 点」が 26.2%と最も高く、「9 点」(11.8%), 「10 点」(10.8%)を合わせると、8 点以上の割合が半数近く (48.8%)を占めており、前回調査 (48.5%)と同程度となっている。なお、平均は 7.2 点となっている。



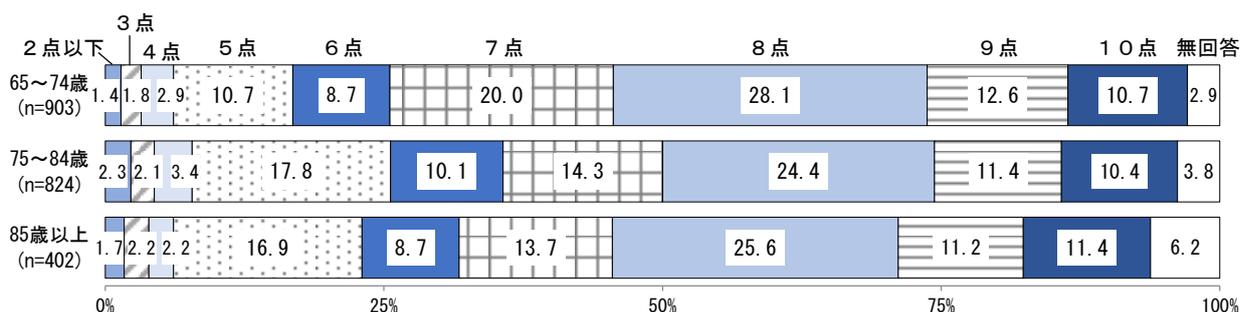
対象者区分別にみると、「8 点」が一般高齢者で 28.3%, 事業対象者で 25.9%と、それぞれ最も多いのに対し、要支援者では「5 点」が 21.7%と最も多くなっている。また、平均点でみると、一般高齢者で 7.3 点, 事業対象者で 6.8 点, 要支援者で 6.7 点となっている。

【対象者区分別 主観的幸福感】



年齢別にみると、いずれの年齢層も「8 点」が 2 割台と最も多く、8 点以上は 65～74 歳で 51.5%, 5 点以下は 75～84 歳で 25.6%と、それぞれ最も高い。また、平均点でみると、65～74 歳で 7.3 点, 75～84 歳で 7.0 点, 85 歳以上で 7.1 点となっている。

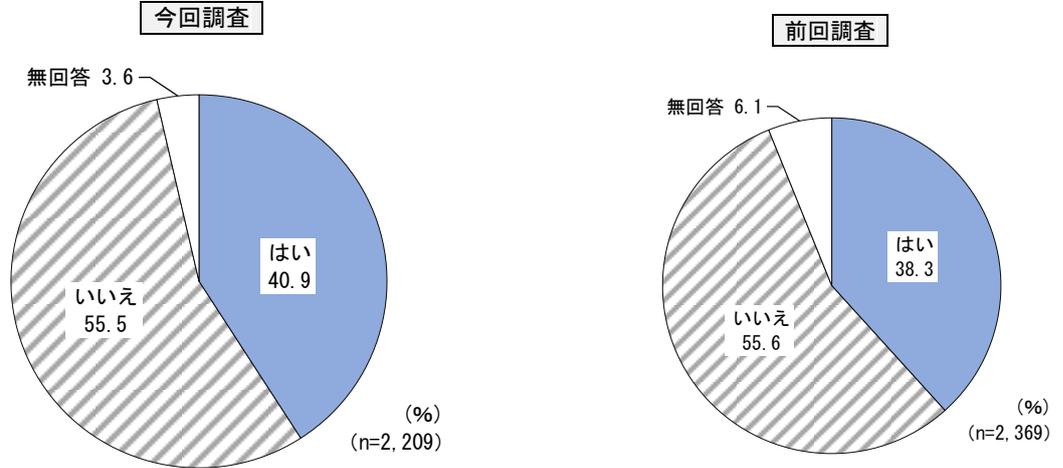
【年齢別 主観的幸福感】



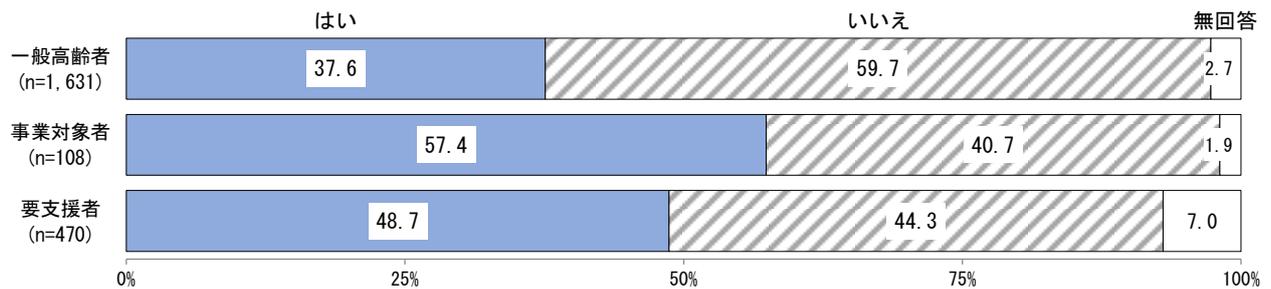
(3) ゆうつ感や物事に対する興味の喪失感

問 7(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

この1か月間にゆううつな気持ちになったりすることがあったという割合（「はい」）は約4割（40.9%）となっている。

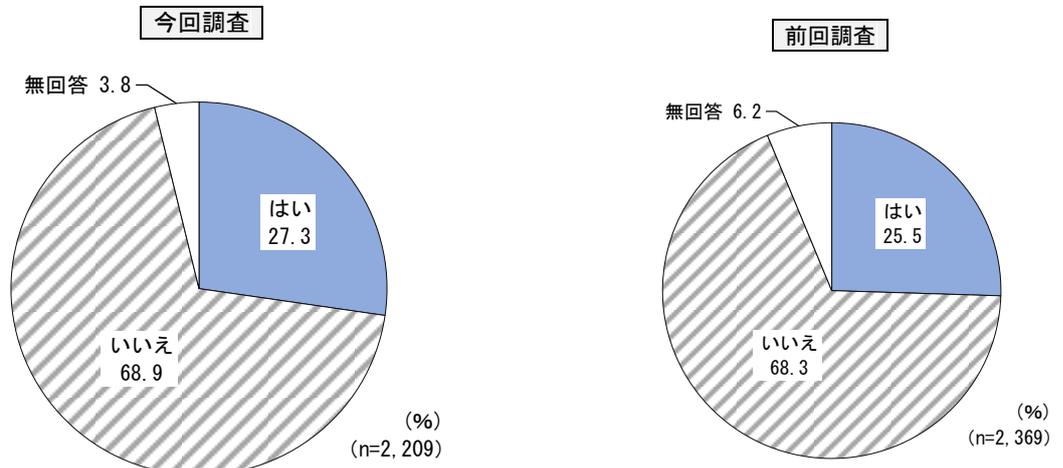


【対象者区分別 ゆうつ感】

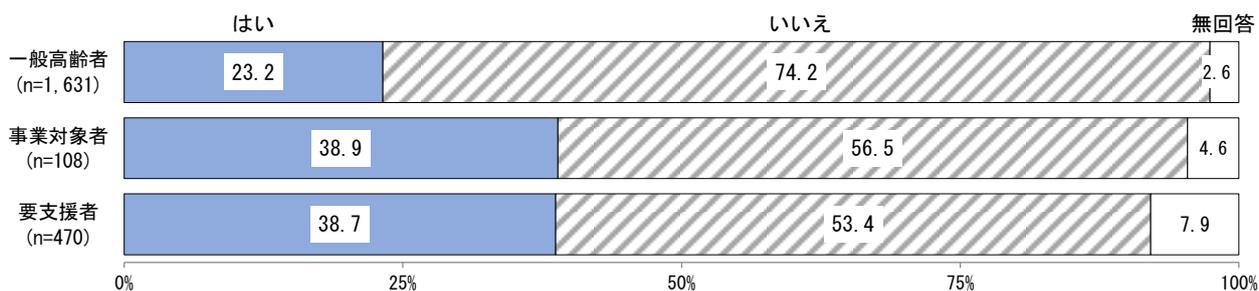


問 7(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

この1か月間に物事に対して興味がわかない感じがよくあったという割合（「はい」）は2割台（27.3%）となっている。



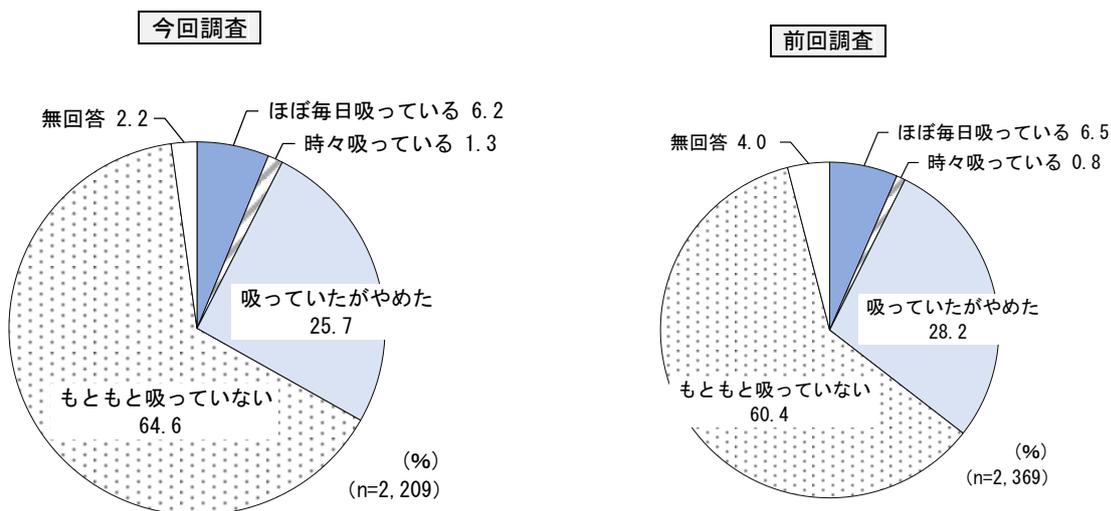
【対象者区分別 物事に対する興味の喪失感】



(4) 喫煙習慣

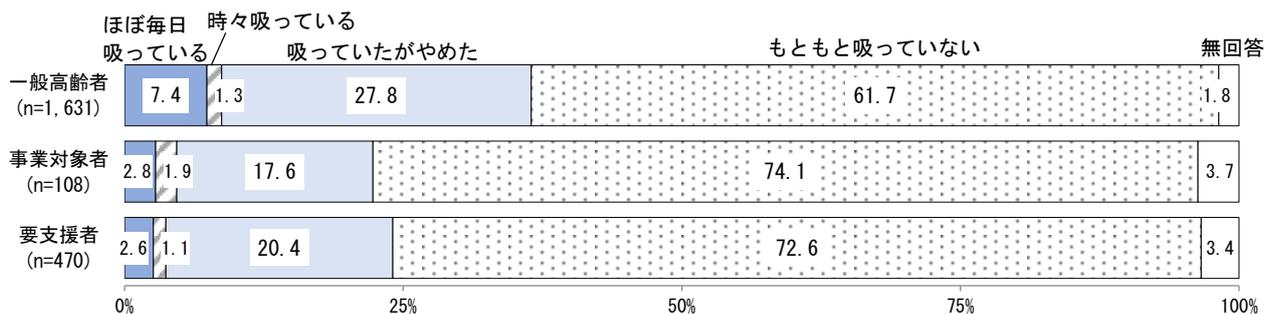
問 7(5) タバコは吸っていますか

タバコについて、「もともと吸っていない」が6割台 (64.6%) を占めており、次いで「吸っていたがやめた」が25.7%となっている。一方、「ほぼ毎日吸っている」は6.2%みられ、前回調査 (6.5%) と同程度となっている。



対象者区分別にみると、「ほぼ毎日吸っている」が一般高齢者で7.4%、事業対象者で2.8%、要支援者で2.6%となっている。

【対象者区分別 喫煙習慣】

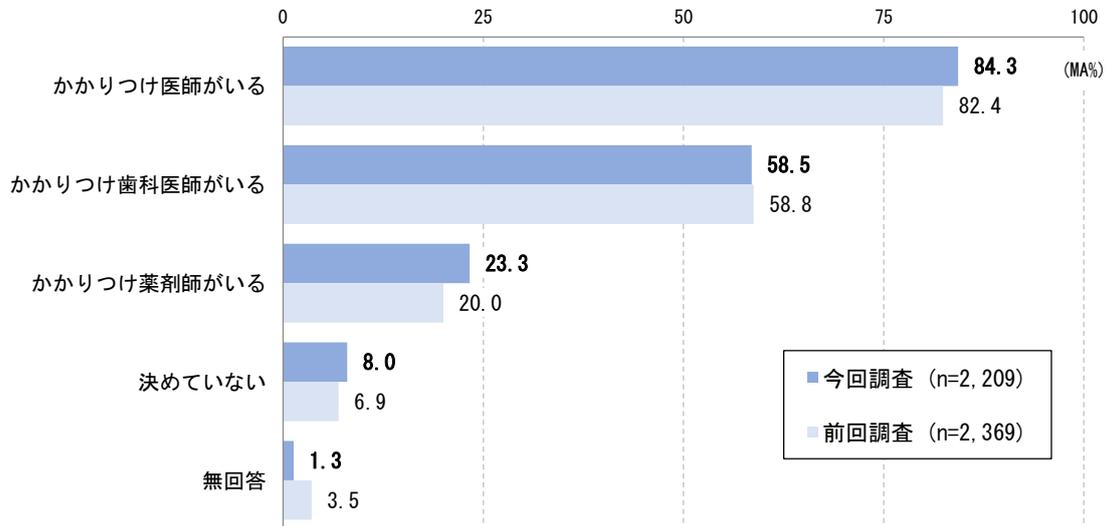


(5) かかりつけ医等の有無

問 7(6) あなたは、かかりつけ医師・歯科医師・薬剤師を決めていますか (〇はいくつでも)

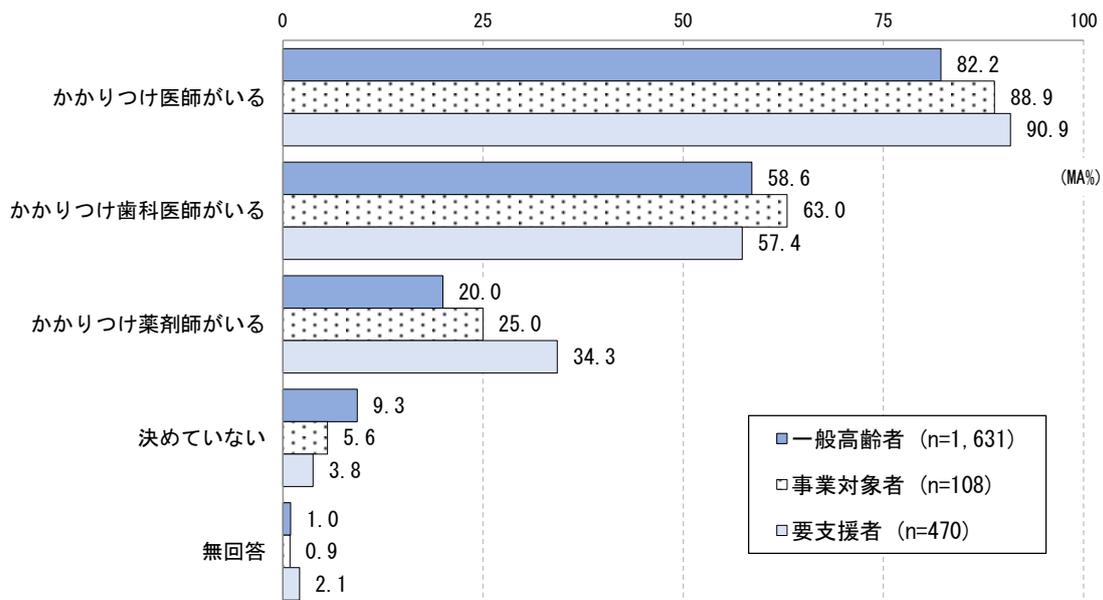
かかりつけ医等の有無としては、「かかりつけ医師がいる」が 84.3%と最も多く、次いで「かかりつけ歯科医師がいる」が 58.5%、「かかりつけ薬剤師がいる」が 23.3%となっている。

前回調査と比べると、「かかりつけ薬剤師がいる」(前回 20.0%) が 3.3 ポイント増えている。



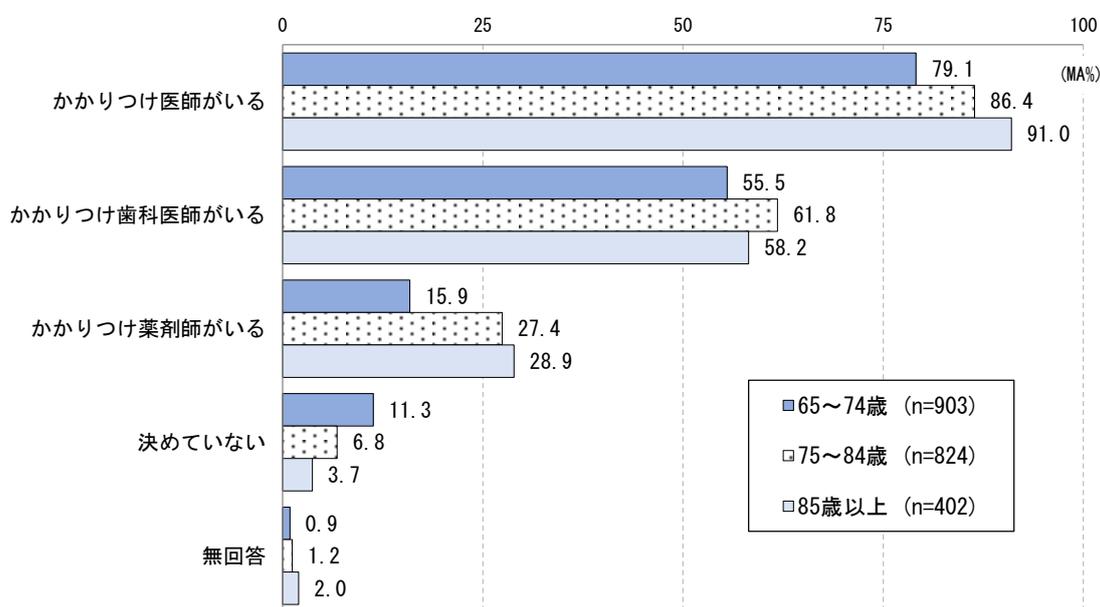
対象者区別にみても、いずれも「かかりつけ医師がいる」は 8 割以上となっており、一般高齢者で 82.2%、事業対象者で 88.9%、要支援者で 90.9%となっている。

【対象者区別 かかりつけ医等の有無】



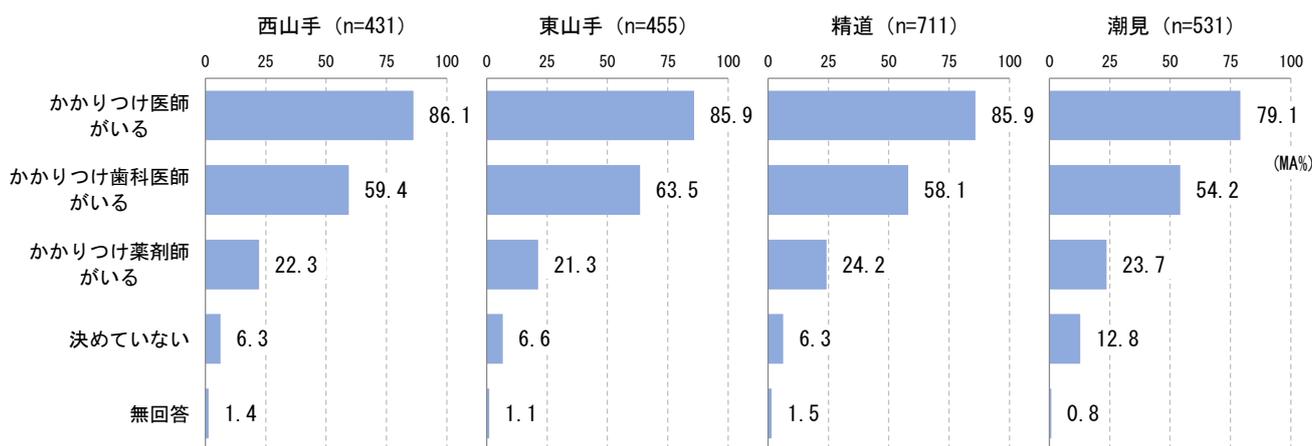
年齢別にみると、「かかりつけ医師がいる」が、65～74歳で79.1%、75～84歳で86.4%、85歳以上で91.0%となっている。一方、「決めていない」が65～74歳で1割台（11.3%）みられる。

【年齢別 かかりつけ医等の有無】



居住地域別にみると、潮見地域において、「かかりつけ医師がいる」（79.1%）、「かかりつけ歯科医師がいる」（54.2%）が、ともに他の地域に比べてやや低い割合となっており、「決めていない」が1割台（12.8%）みられる。

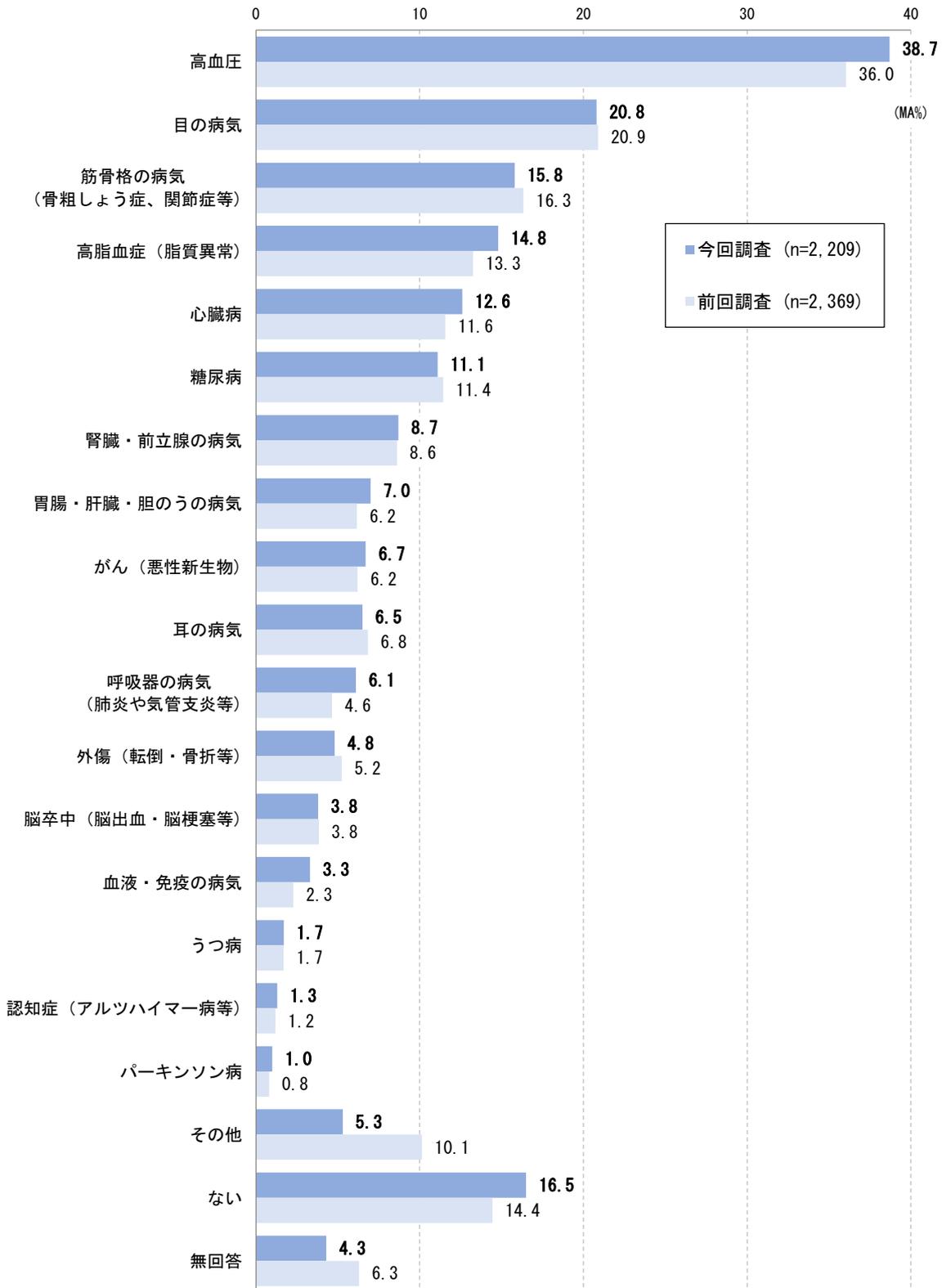
【居住地域別 かかりつけ医等の有無】



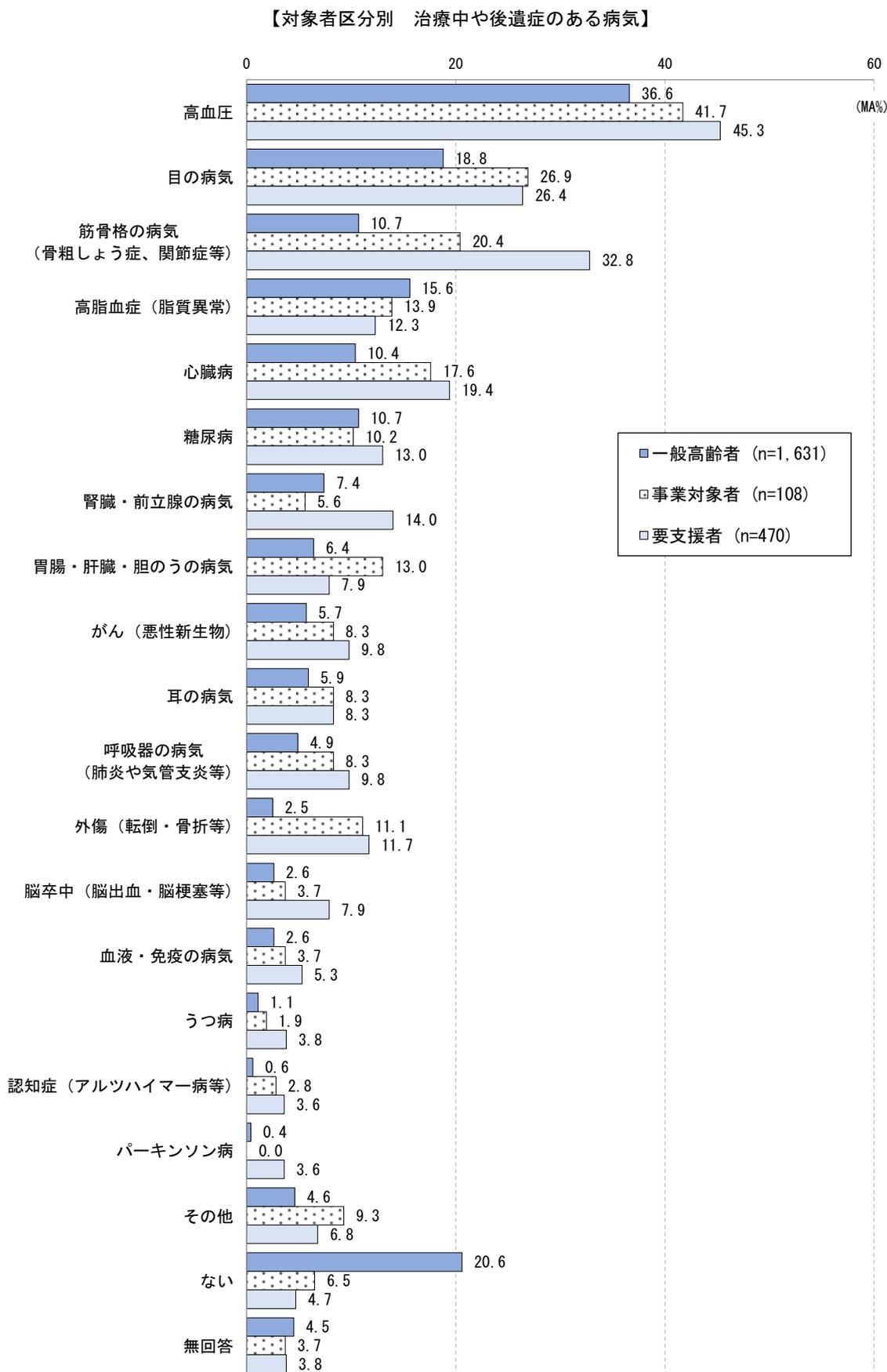
(6) 治療中や後遺症のある病気

問 7(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (○はいくつでも)

現在治療中または後遺症のある病気としては、「高血圧」が 38.7%と最も多く、次いで「目の病気」が 20.8%、「筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)」が 15.8%、「高脂血症 (脂質異常)」が 14.8% となっており、前回調査と同じ傾向となっている。一方、「ない」は 1 割台 (16.5%) みられる。

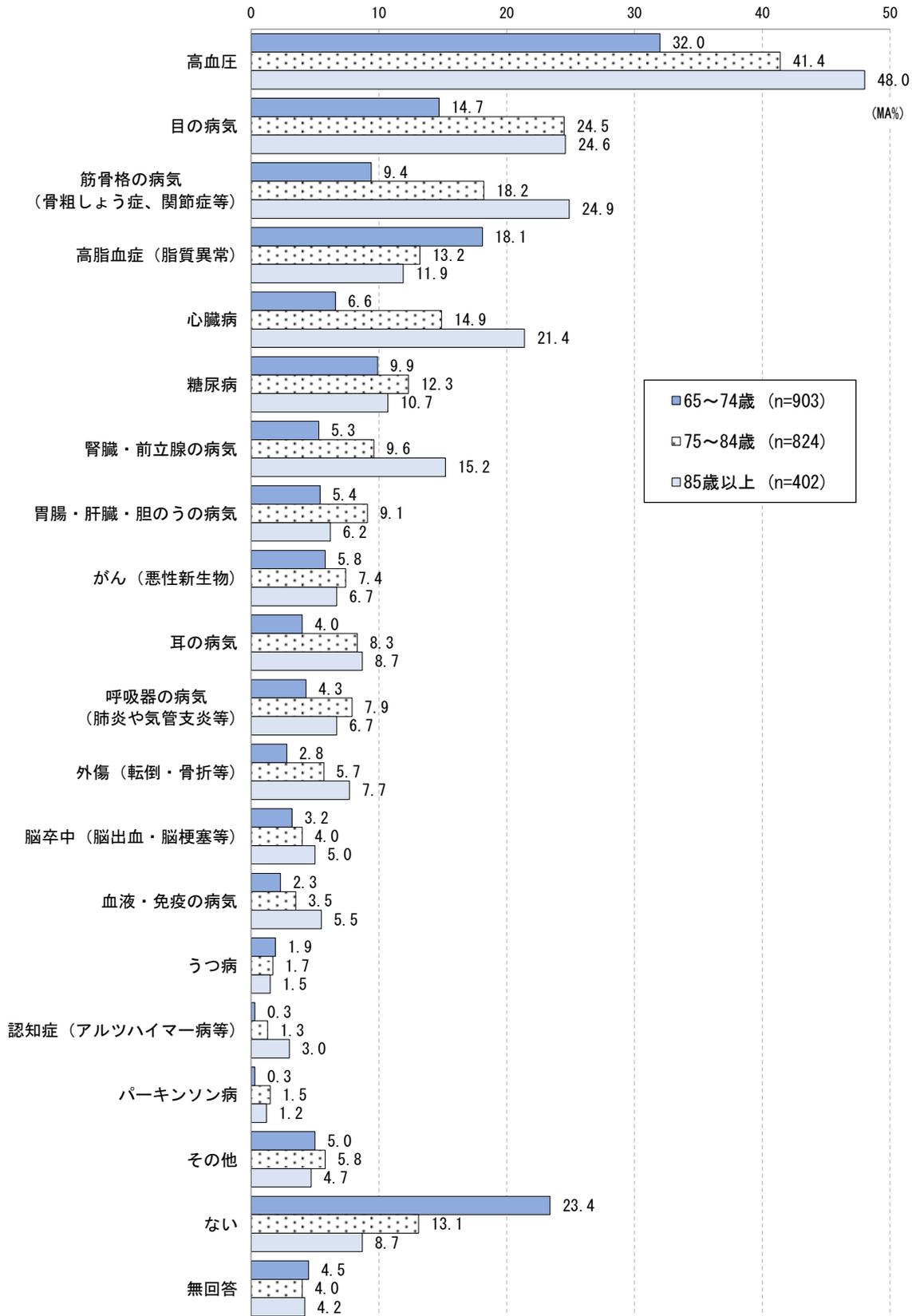


対象者区分別にみても、いずれも「高血圧」が最も多く、一般高齢者で36.6%、事業対象者で41.7%、要支援者で45.3%となっている。また、要支援者では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」も32.8%と多い。



年齢別にみると、いずれの年齢層も「高血圧」が3～4割台と最も多くなっている。また、85歳以上で「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」が24.9%、「心臓病」が21.4%、「腎臓・前立腺の病気」が15.2%、65～74歳で「高脂血症（脂質異常）」が18.1%と、それぞれ他の年齢層に比べて高い割合となっている。

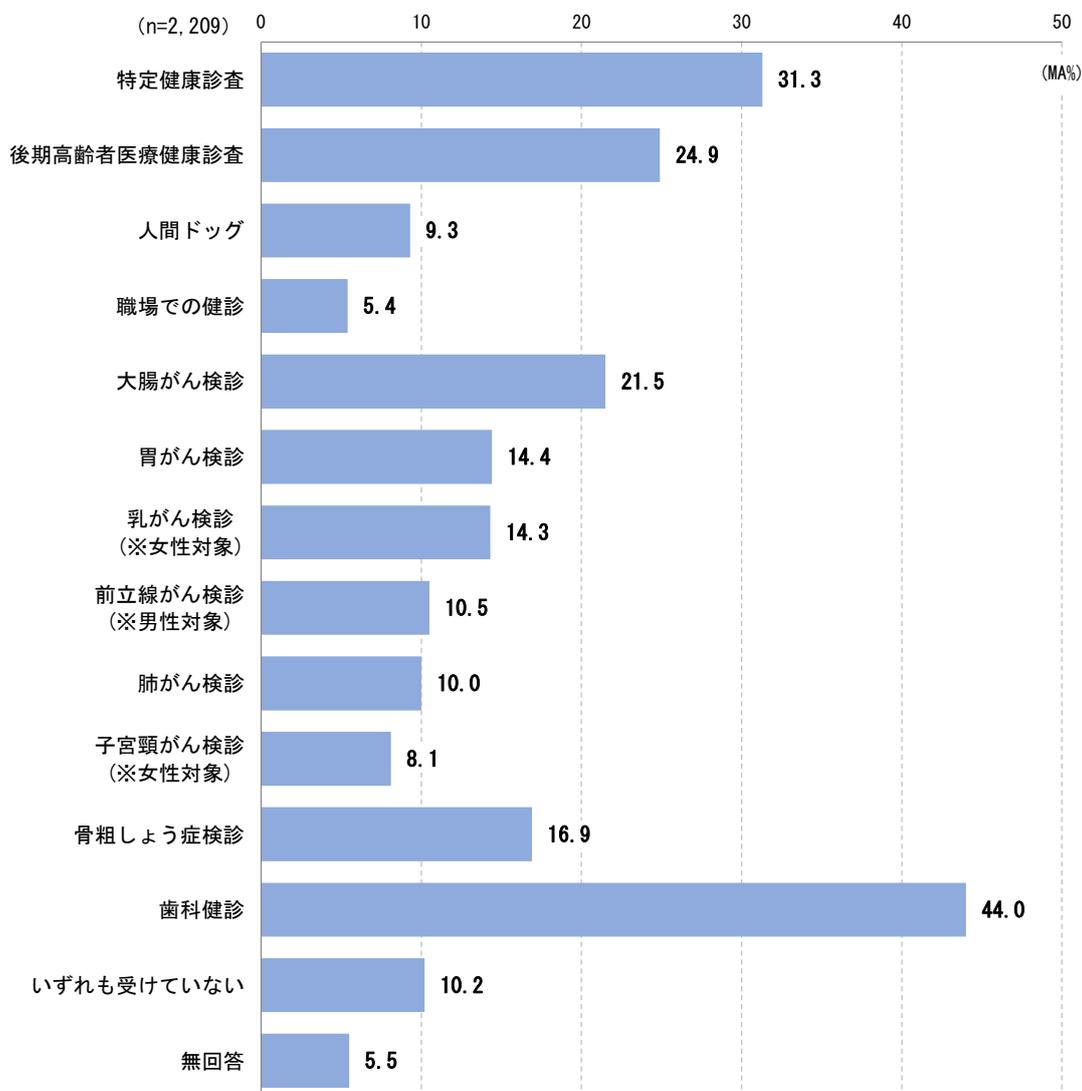
【年齢別 治療中や後遺症のある病気】



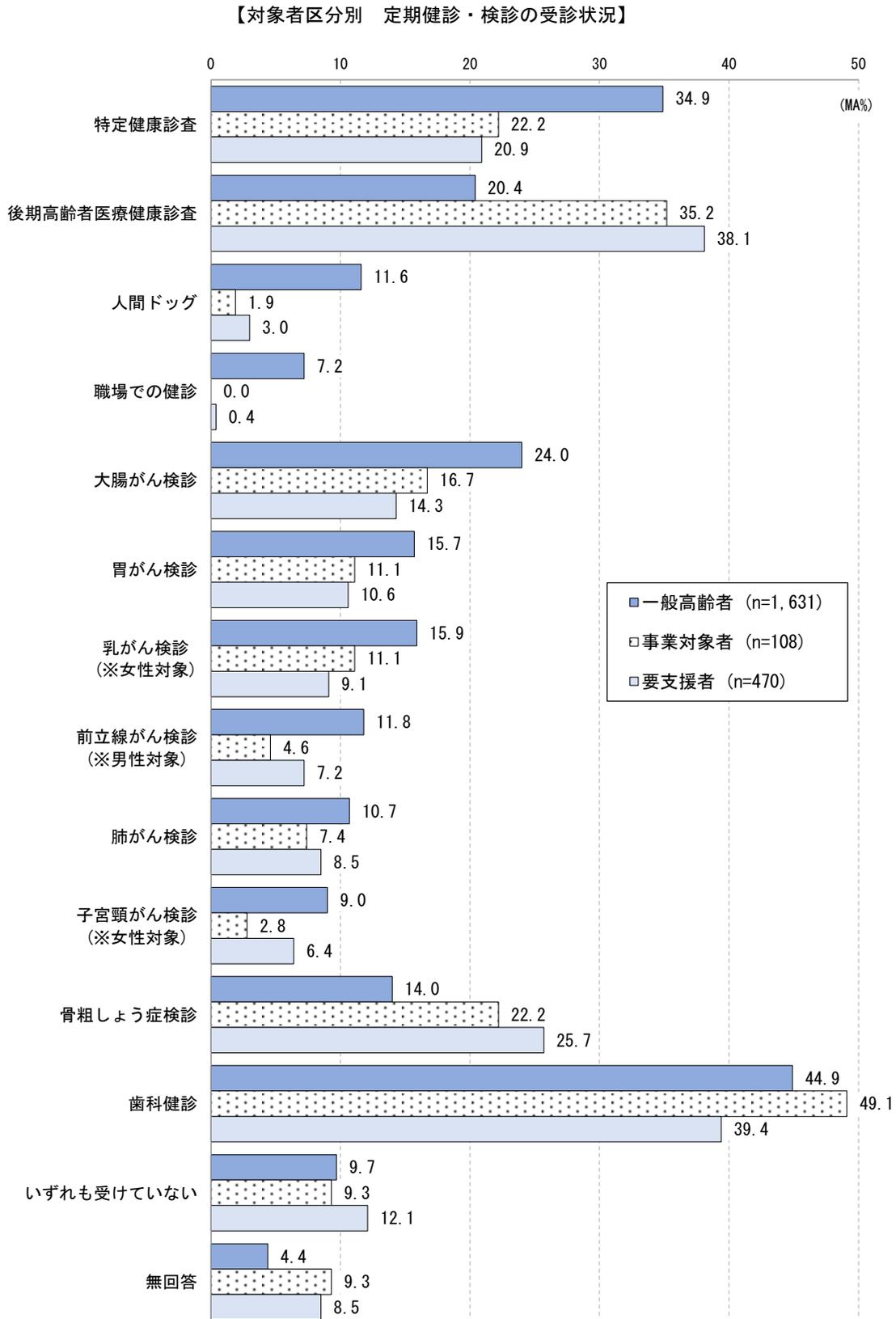
(7) 定期健診・検診の受診状況

問 7(8) この1年または2年の間に、以下の定期健診・検診を受けていますか (〇はいくつでも)

この1年(一部2年)の間に受けた定期健診・検診としては、「歯科健診」が44.0%と最も多く、次いで「特定健康診査」が31.3%、「後期高齢者医療健康診査」が24.9%、「大腸がん検診」が21.5%となっている。一方、「いずれも受けていない」は約1割(10.2%)みられる。



対象者区分別にみると、いずれも「歯科健診」が最も多く、一般高齢者で 44.9%、事業対象者で 49.1%、要支援者で 39.4%となっている。これに続くのが、一般高齢者では「特定健康診査」、事業対象者・要支援者では「後期高齢者医療健康診査」となっており、いずれも 3 割台となっている。また、「大腸がん検診」が一般高齢者で 24.0%、「骨粗しょう症検診」が要支援者で 25.7%、事業対象者で 22.2%と、それぞれ高い。

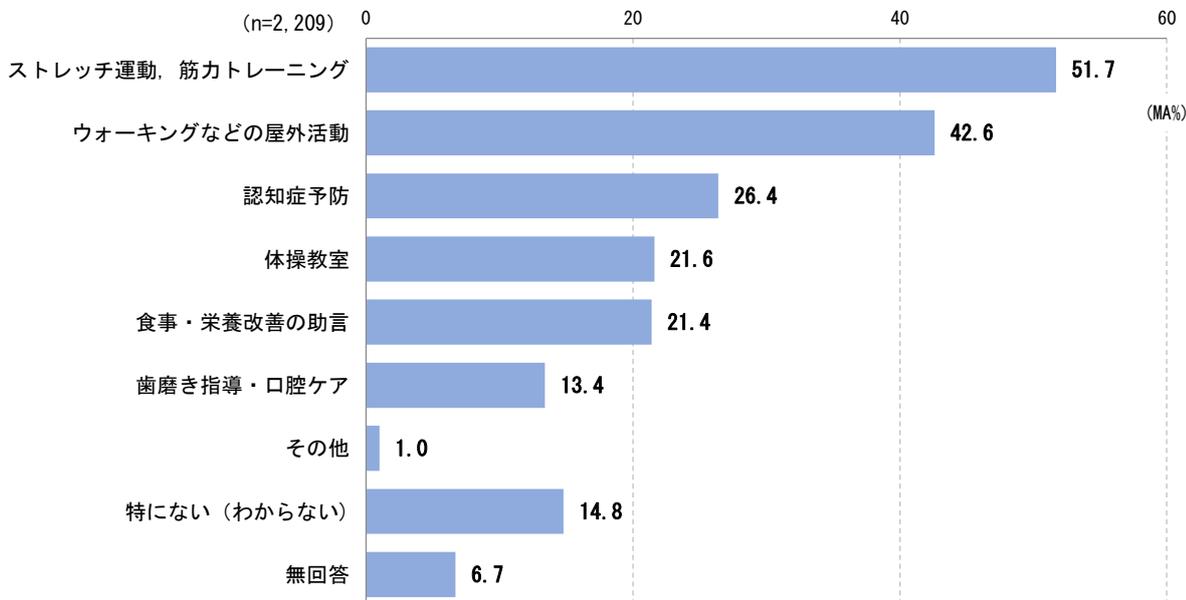


(8) 介護予防の取組意向

① 取り組みたいメニュー

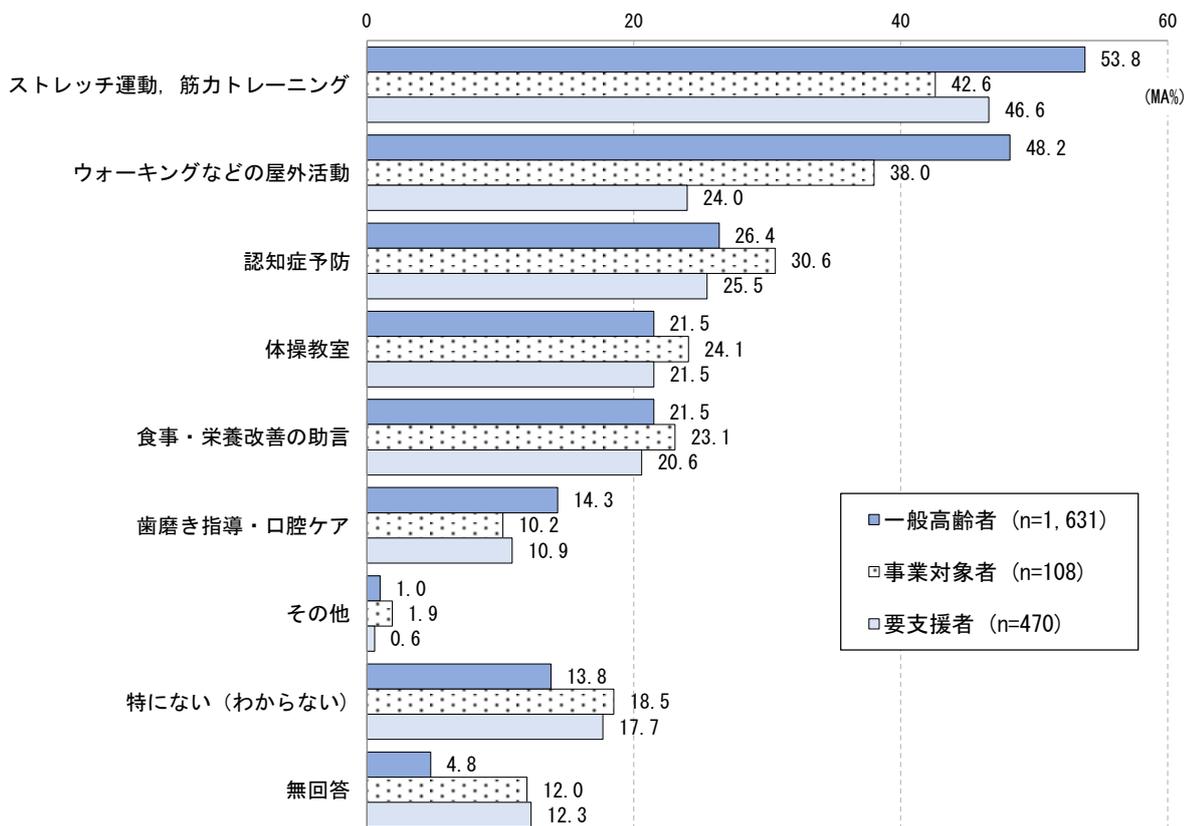
問 7(9) 介護予防のために取り組みたいメニューは何ですか (〇はいくつでも)

介護予防のために取り組みたいメニューとしては、「ストレッチ運動, 筋力トレーニング」が 51.7% と最も多く, 次いで「ウォーキングなどの屋外活動」が 42.6% となっている。

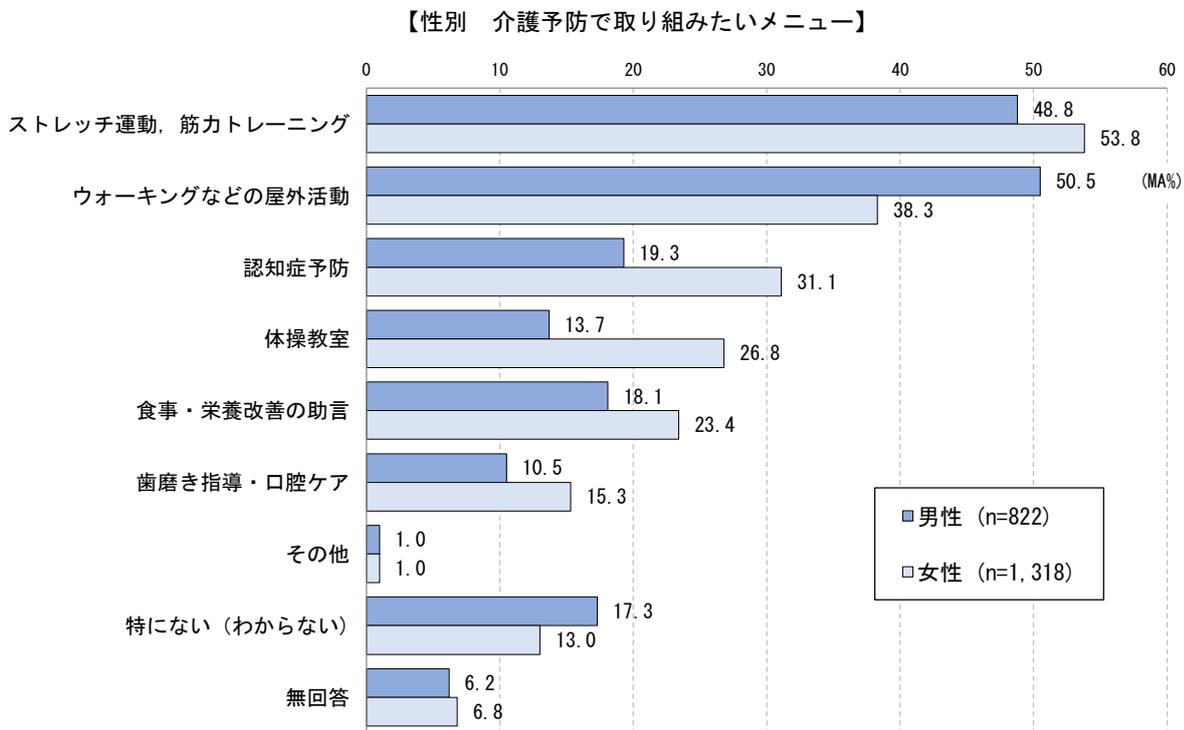


対象者区分別にみても, いずれも「ストレッチ運動, 筋力トレーニング」が最も多く, 一般高齢者で 53.8%, 事業対象者で 42.6%, 要支援者で 46.6% となっている。

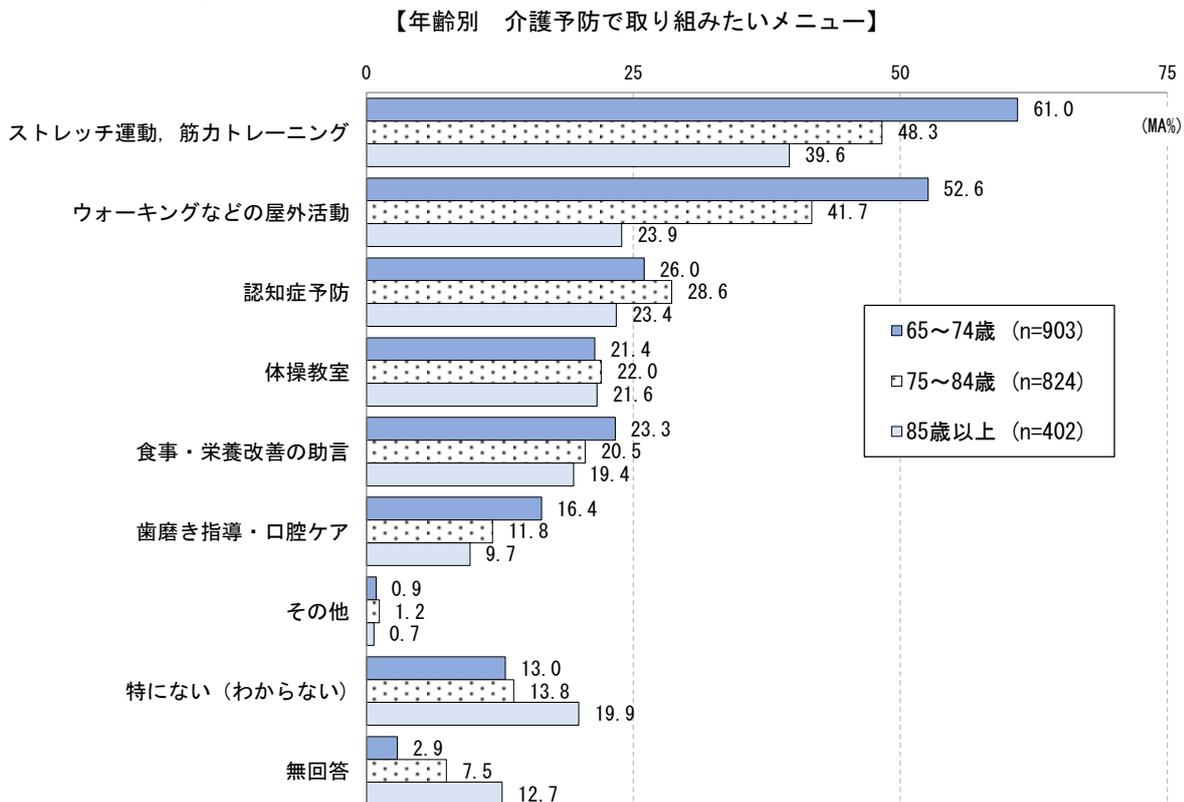
【対象者区分別 介護予防で取り組みたいメニュー】



性別にみると、男性では「ウォーキングなどの屋外活動」が50.5%、女性では「ストレッチ運動、筋力トレーニング」が53.8%と、それぞれ最も多くなっている。また、他の項目についてはいずれも女性のほうが5～10ポイント程度高い割合となっている。



年齢別にみると、いずれの年齢層も「ストレッチ運動、筋力トレーニング」が最も多く、次いで「ウォーキングなどの屋外活動」となっており、ともに年齢層が上がるにしたがって割合は低くなる傾向にある。

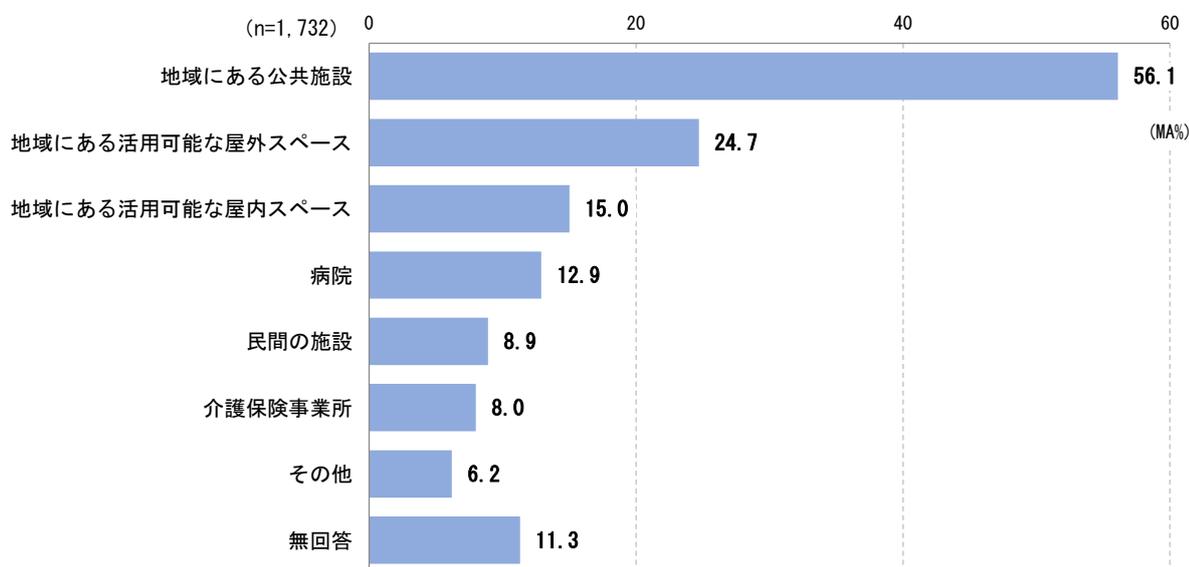


②介護予防事業を行う場所の希望

【問7(9)でのいずれかのメニュー（「特にない（わからない）」以外）をお答えの方】

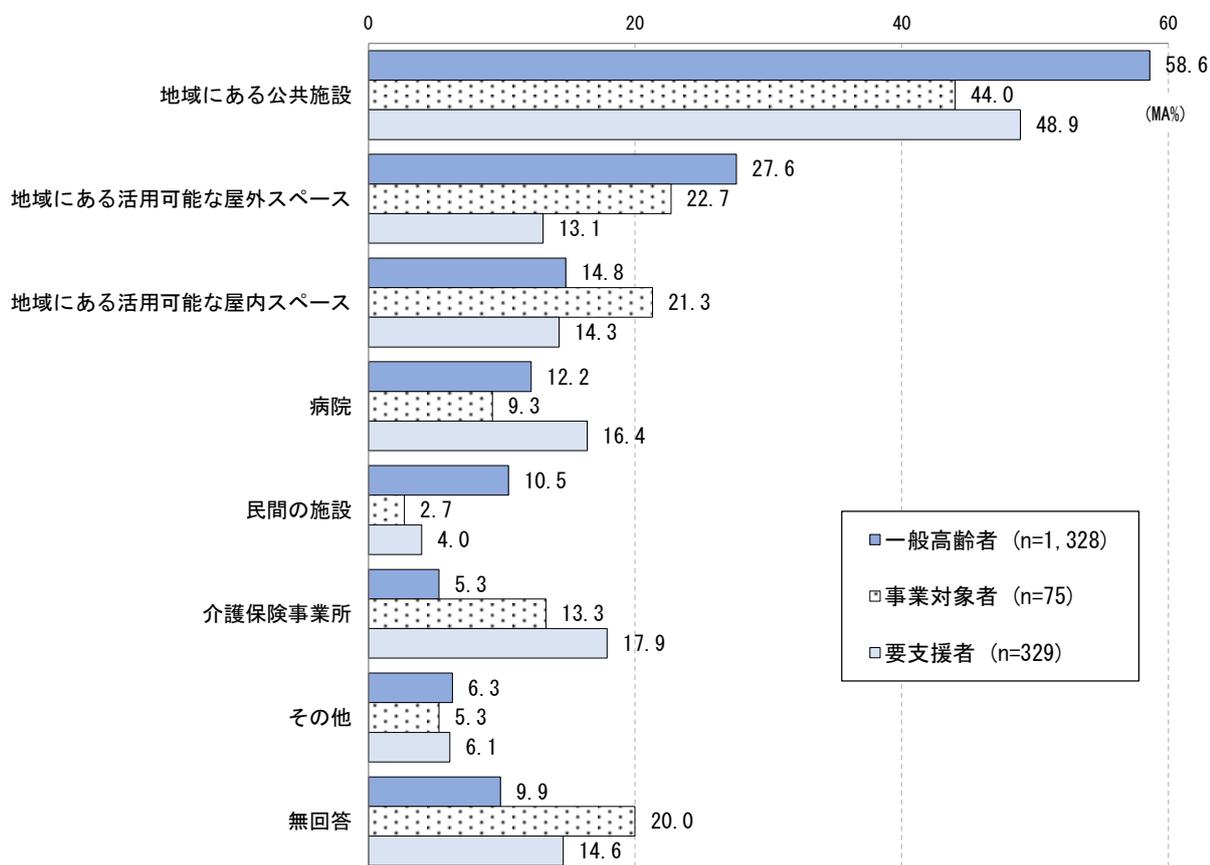
問7(9)-1 介護予防を行うにあたって、希望する場所はどこですか（〇はいくつでも）

いずれかのメニューを回答した人が希望する実施場所としては、「地域にある公共施設」が56.1%と最も多く、次いで「地域にある活用可能な屋外スペース」が24.7%となっている。



対象者区分別にみても、いずれも「地域にある公共施設」が最も多く、一般高齢者で58.6%、事業対象者で44.0%、要支援者で48.9%となっている。

【対象者区分別 介護予防事業を行う場所の希望】

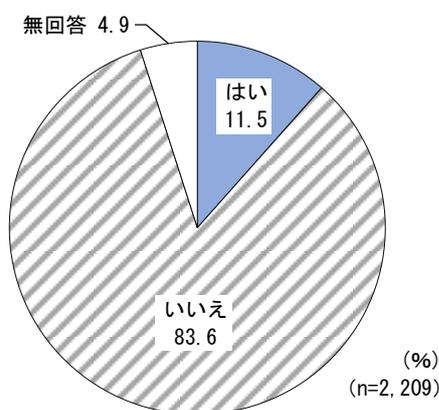


9 認知症について

(1) 認知症の症状の有無

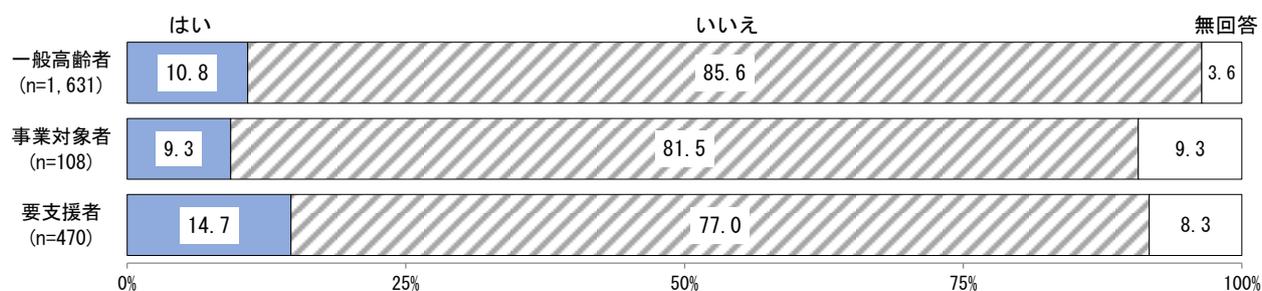
問 8(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

自身または家族に認知症の症状がある人がいるという割合（「はい」）は、全体の1割台（11.5%）となっている。



対象者区分別にみると、認知症の症状がある人がいるという割合が、一般高齢者で10.8%、事業対象者で9.3%、要支援者で14.7%となっている。

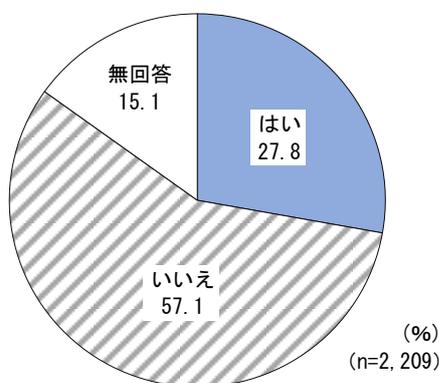
【対象者区分別 認知症の症状の有無】



(2) 認知症になる可能性に対する認識

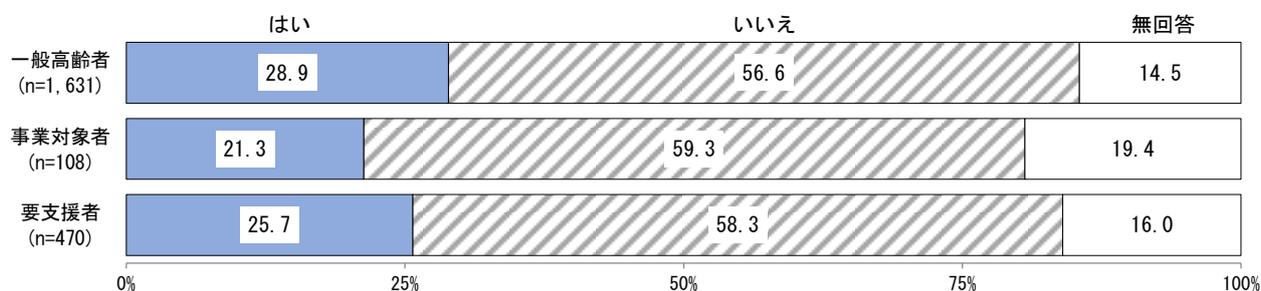
問 8(2) あなたは認知症になる（患う）と思いますか

自身が認知症になる（患う）と思うという人の割合（「はい」）は、全体の3割近く（27.8%）となっている。



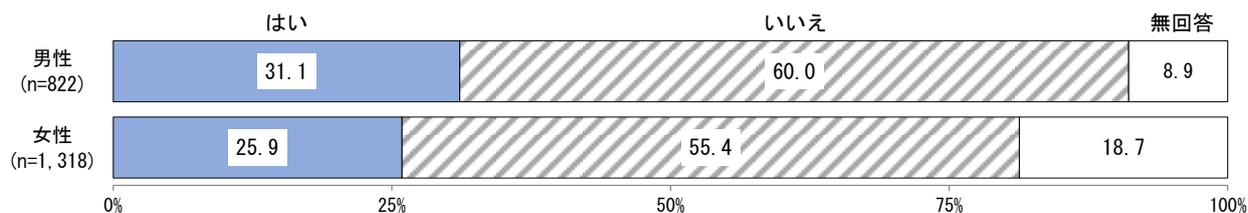
対象者区別にみると、認知症になると思うという人の割合が、一般高齢者で 28.9%、事業対象者で 21.3%、要支援者で 25.7%となっている。

【対象者区分別 認知症になる可能性に対する認識】



性別にみると、認知症になると思うという人の割合が、男性で 31.1%、女性で 25.9%となっている。

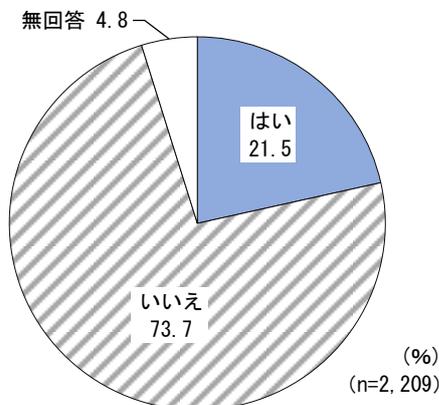
【性別 認知症になる可能性に対する認識】



(3) 認知症に関する相談窓口の認知度

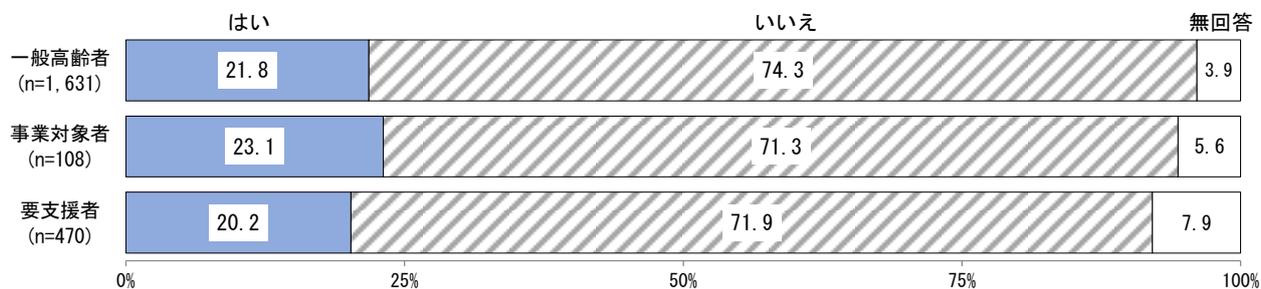
問 8(3) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

認知症に関する相談窓口を知っているという割合（「はい」）は、全体の2割台（21.5%）となっている。



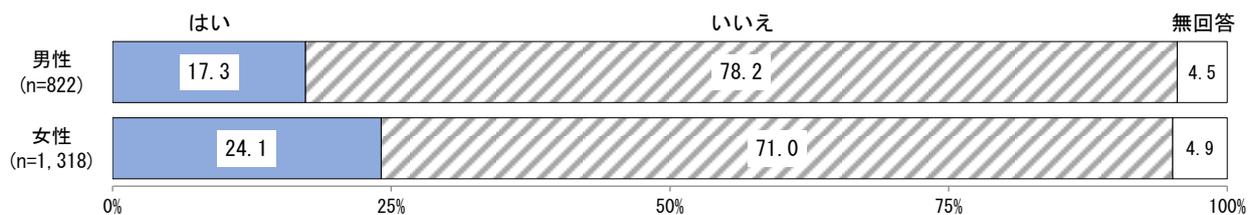
対象者区分別にみると、知っているという割合が、一般高齢者で 21.8%、事業対象者で 23.1%、要支援者で 20.2%となっている。

【対象者区分別 認知症に関する相談窓口の認知度】



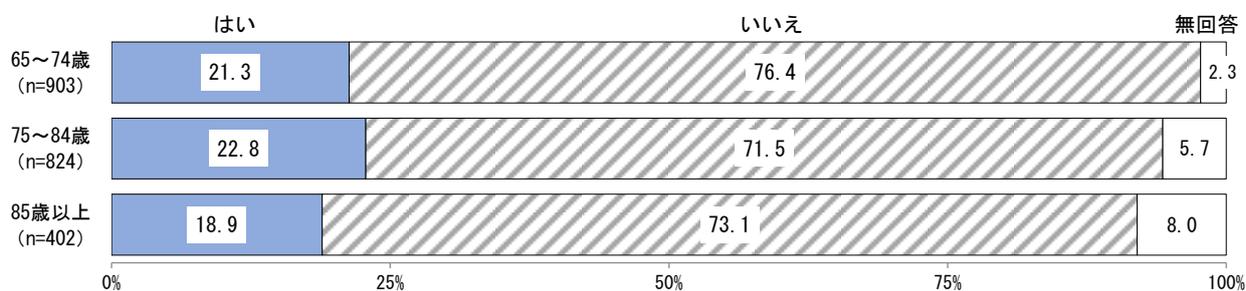
性別にみると、知っているという割合が、男性で 17.3%、女性で 24.1%となっている。

【性別 認知症に関する相談窓口の認知度】



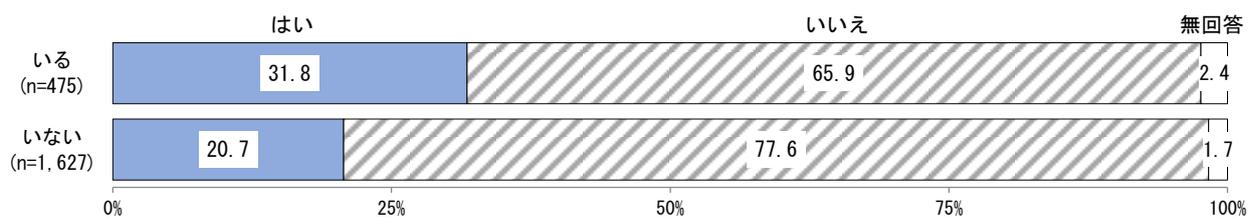
年齢別にみると、知っているという割合はいずれの年齢層も2割前後となっており、75～84歳で22.8%、65～74歳で21.3%に対し、85歳以上では18.9%とやや低い。

【年齢別 認知症に関する相談窓口の認知度】



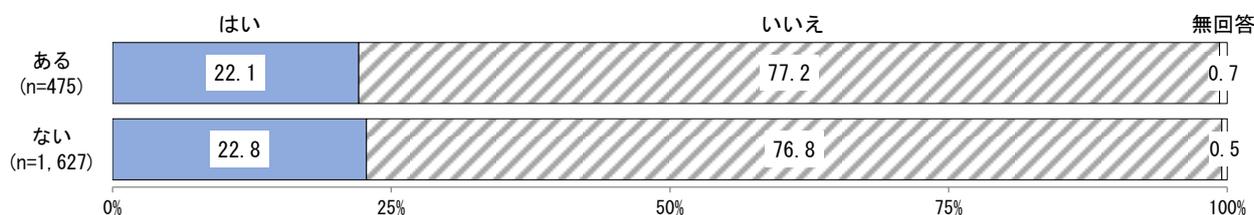
認知症の症状の有無（問 8(1)）別にみると、知っているという割合が、自身または家族に認知症の症状がある人が「いる」でも3割台（31.8%）にとどまっている。

【認知症の症状の有無別 認知症に関する相談窓口の認知度】



認知症になる可能性に対する認識（問 8(2)）別にみると、知っているという割合が、不安に思う人（「ある」）で2割台（22.1%）にとどまっている。

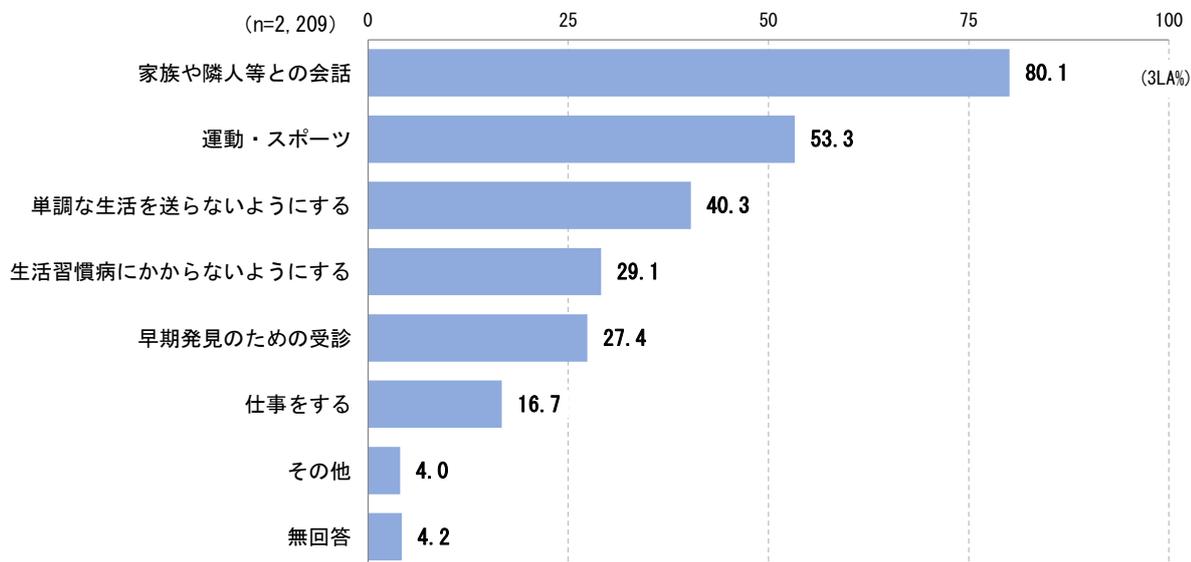
【認知症になる可能性に対する認識別 認知症に関する相談窓口の認知度】



(4) 認知症予防に重要と思う方法

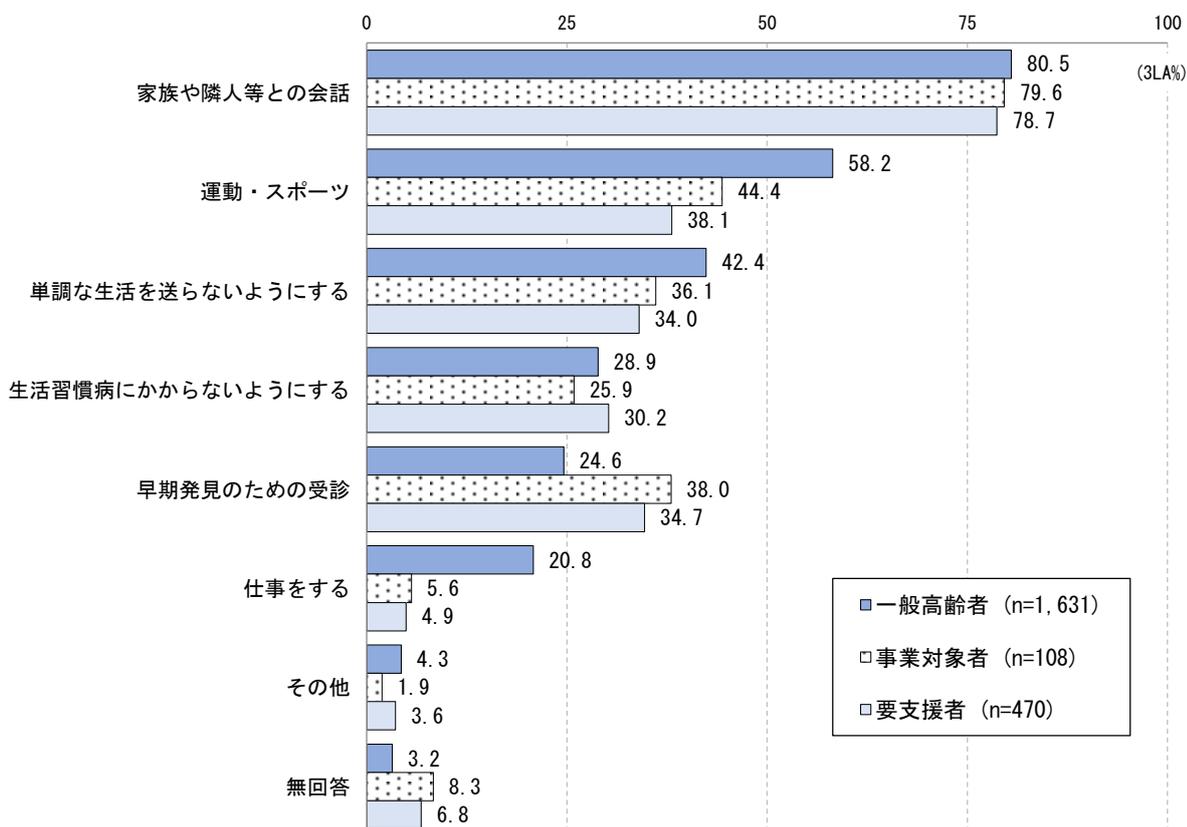
問 8(4) 認知症予防の方法として、重要なことはどのようなことだと思いますか (〇は主なもの3つまで)

認知症予防の方法として重要と思うこととしては、「家族や隣人等との会話」が 80.1%と最も多く、次いで「運動・スポーツ」が 53.3%、「単調な生活を送らないようにする」が 40.3%となっている。



対象者区分別にみても、いずれも「家族や隣人等との会話」(一般高齢者 80.5%、事業対象者 79.6%、要支援者 78.7%) が最も多く、次いで「運動・スポーツ」(一般高齢者 58.2%、事業対象者 44.4%、要支援者 38.1%) となっている。

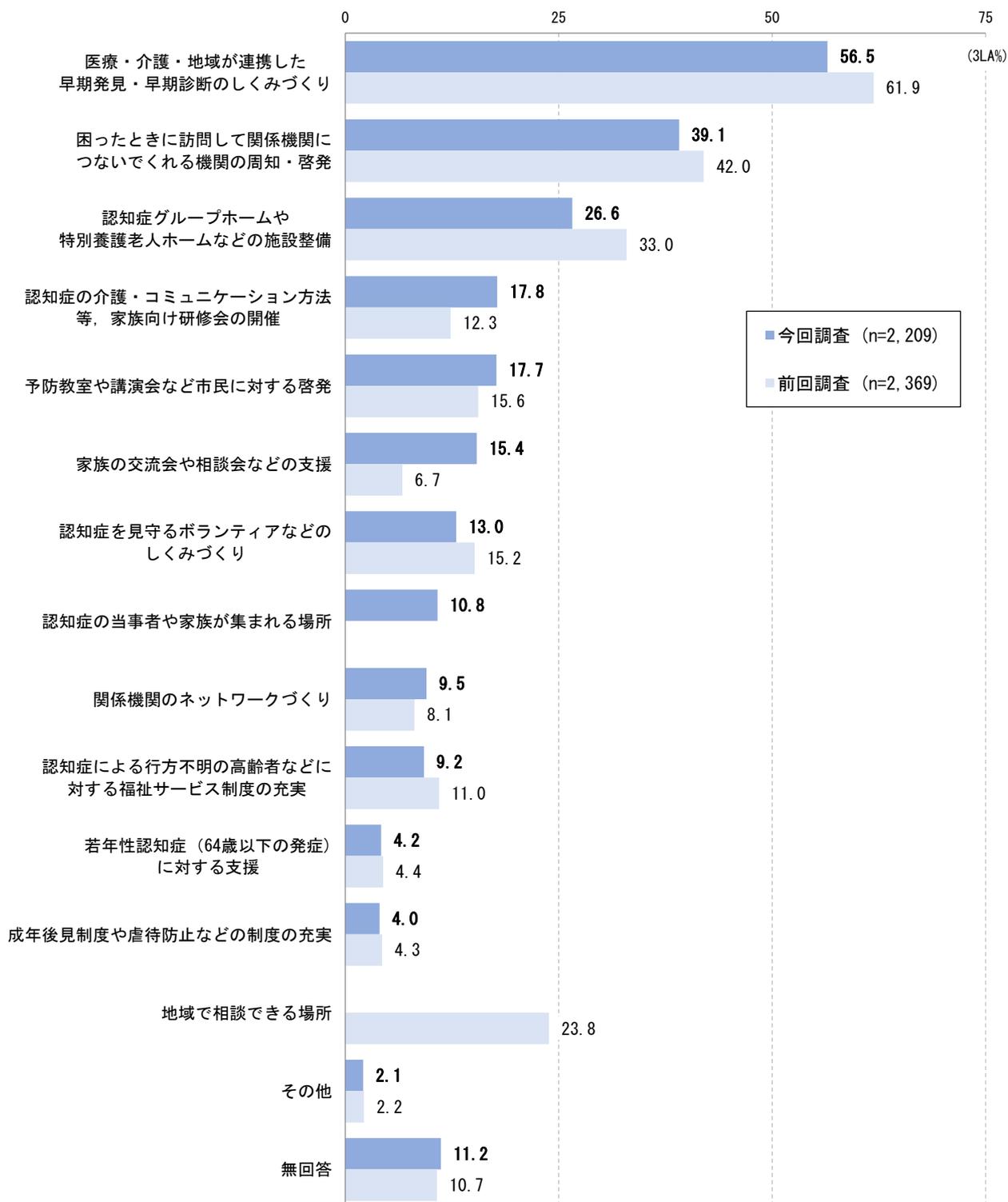
【対象者区分別 認知症予防に重要と思う方法】



(5) 認知症の人に必要と思う支援

問 8(5) 認知症の人への支援で必要なことはどのようなことだと思いますか (〇は主なものを3つまで)

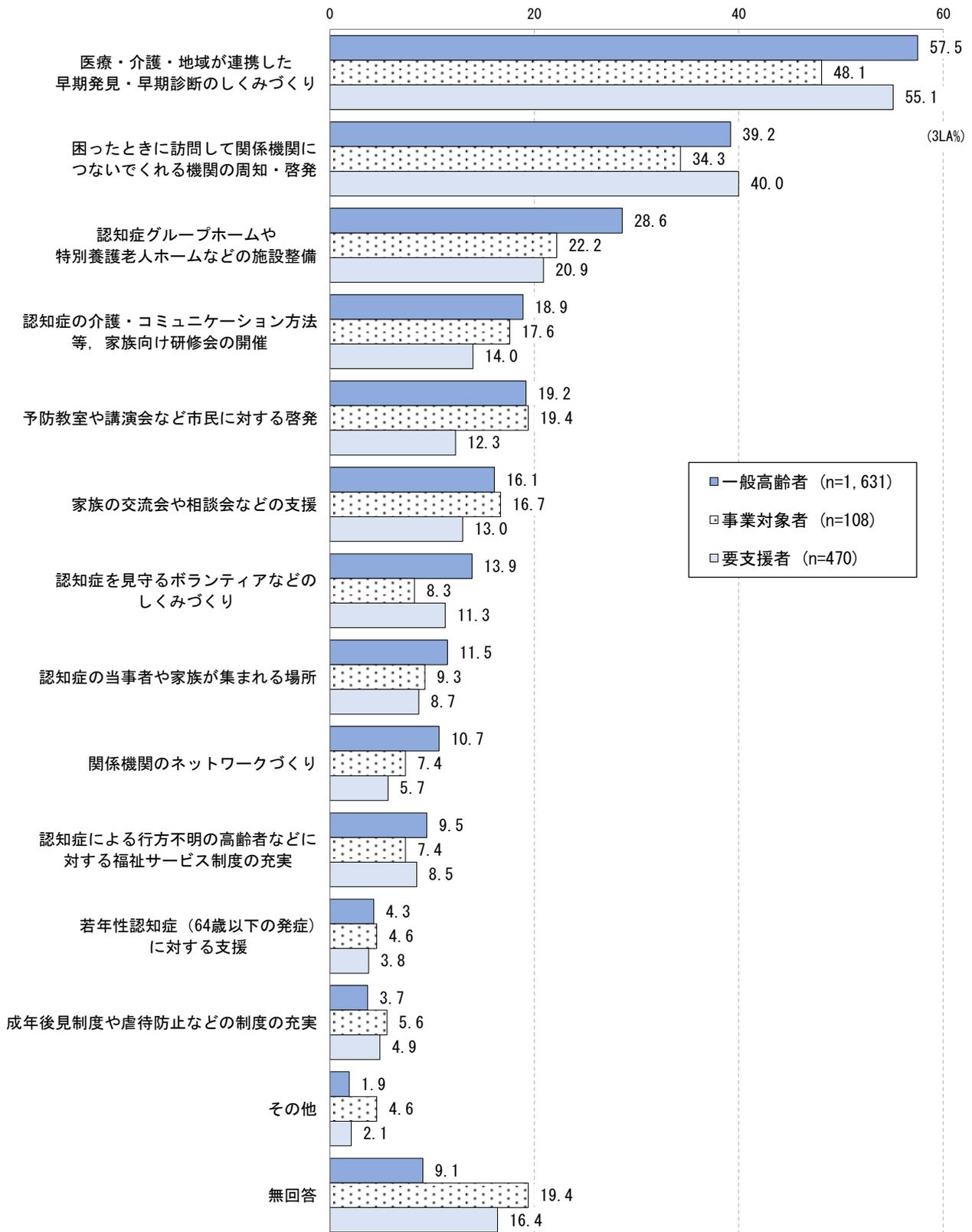
認知症の人への支援で必要と思うこととしては、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が 56.5%と最も多く、次いで「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関の周知・啓発」が 39.1%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」が 26.6%となっており、いずれも前回調査から 5 ポイント前後減っている。



※ 「認知症の当事者や家族が集まれる場所」は新規項目 (前回調査なし), 「地域で相談できる場所」は今回調査なし

対象者区分別にみても、いずれも「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」（一般高齢者 57.5%，事業対象者 48.1%，要支援者 55.1%）が最も多く、次いで「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関の周知・啓発」（一般高齢者 39.2%，事業対象者 34.3%，要支援者 40.0%）となっている。

【対象者区分別 認知症の人に必要と思う支援】



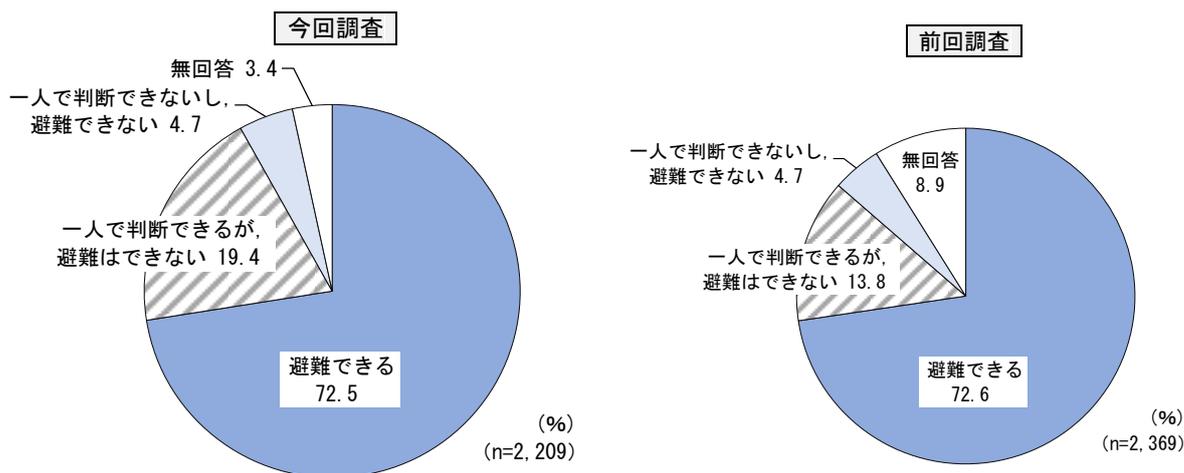
10 災害時や緊急時の対応などについて

(1) 災害時や緊急時の避難対応

① 避難の可否

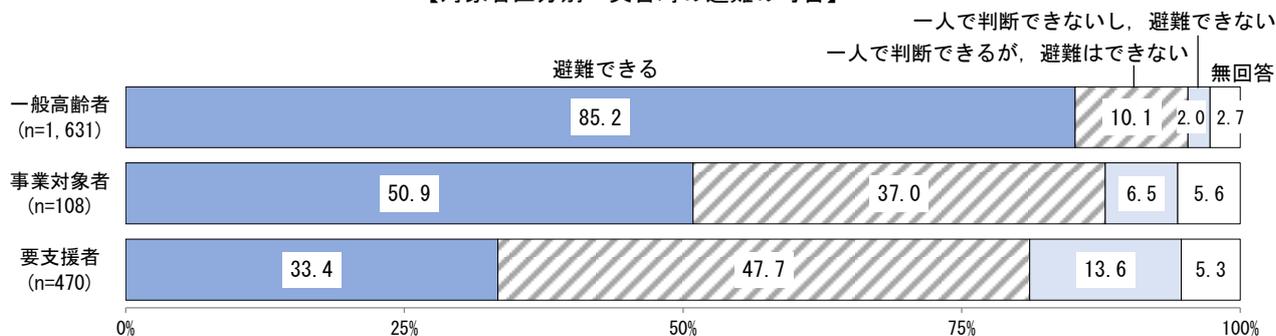
問 9(1) あなたは、災害時(台風や地震など)や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか

災害時や火災などの緊急時の自力での避難について、「一人で判断できるが、避難はできない」が19.4%と、前回調査(13.8%)から5.6ポイント増えている。また、「一人で判断できないし、避難できない」(4.7%)を合わせると、一人で避難できないという割合が2割台(24.1%)みられる。



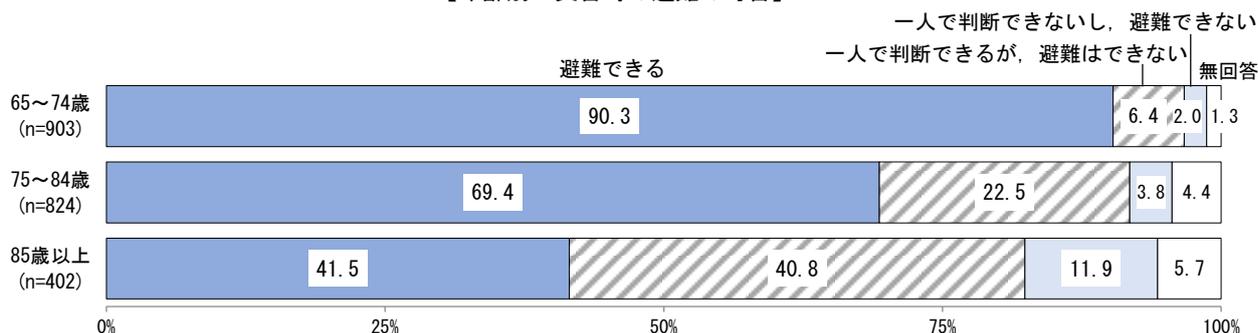
対象者区分別にみると、一人で避難できないという割合が、一般高齢者で12.1%、事業対象者で43.5%、要支援者で61.3%となっている。

【対象者区分別 災害時の避難の可否】



年齢別にみると、一人で避難できないという割合が、85歳以上では半数以上(52.7%)を占めている。

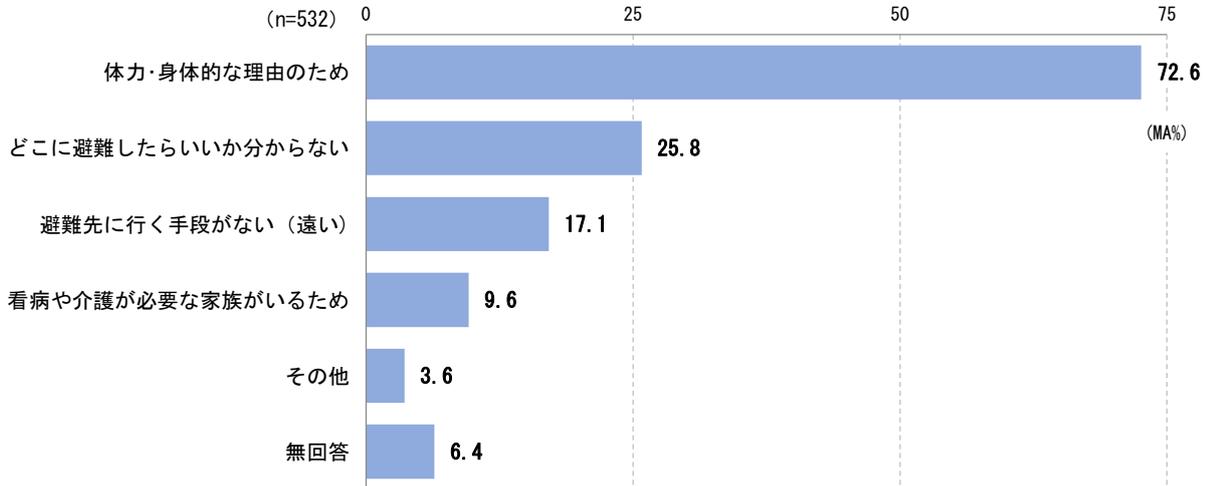
【年齢別 災害時の避難の可否】



②避難できない理由

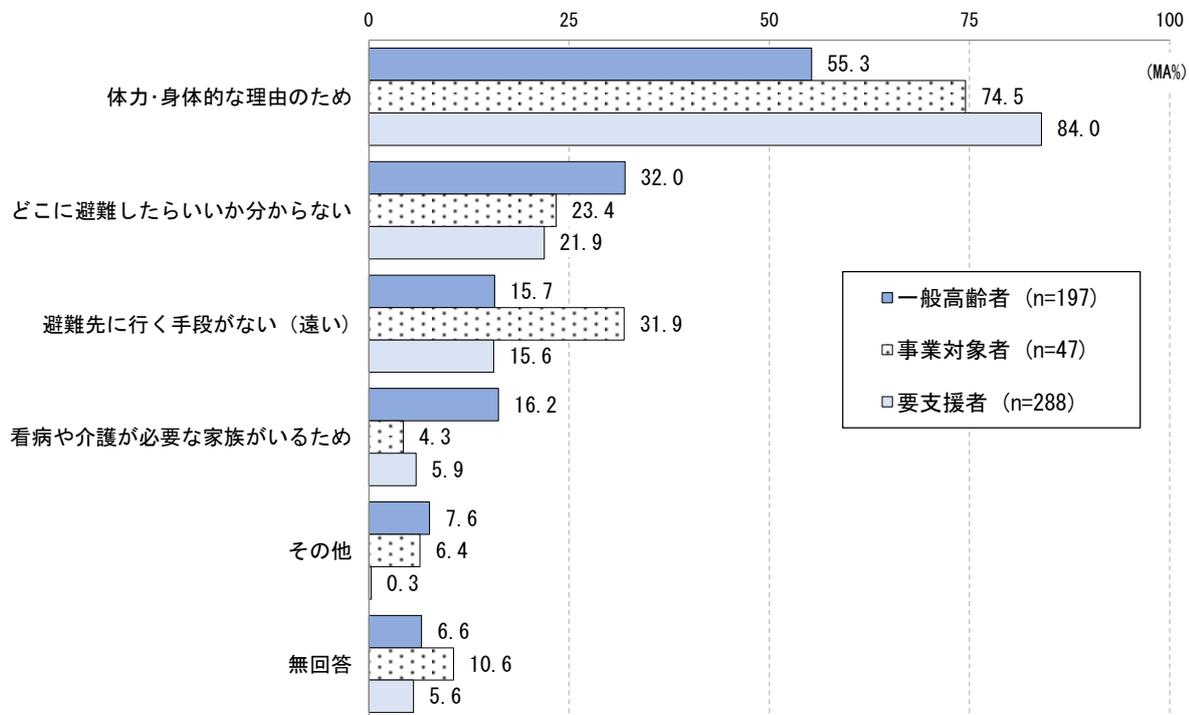
【問9(1)で「一人で判断できるが、避難はできない」または「一人で判断できないし、避難できない」とお答えの方】
問9(1)-1 避難できない理由は何ですか（○はいくつでも）

災害時等に一人で避難できない理由としては、「体力・身体的な理由のため」が7割台（72.6%）と最も多く、次いで「どこに避難したらいいか分からない」が25.8%となっている。



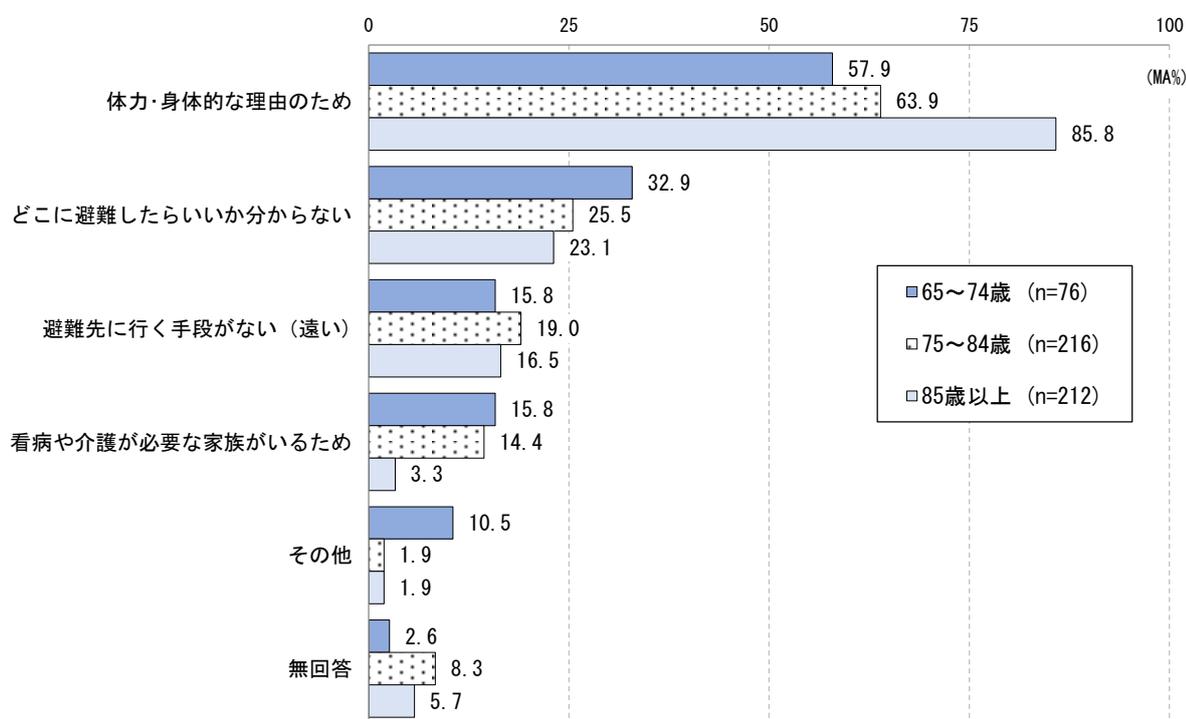
対象者区分別にみても、いずれも「体力・身体的な理由のため」が最も多く、一般高齢者で55.3%、事業対象者で74.5%、要支援者で84.0%となっている。

【対象者区分別 避難できない理由】



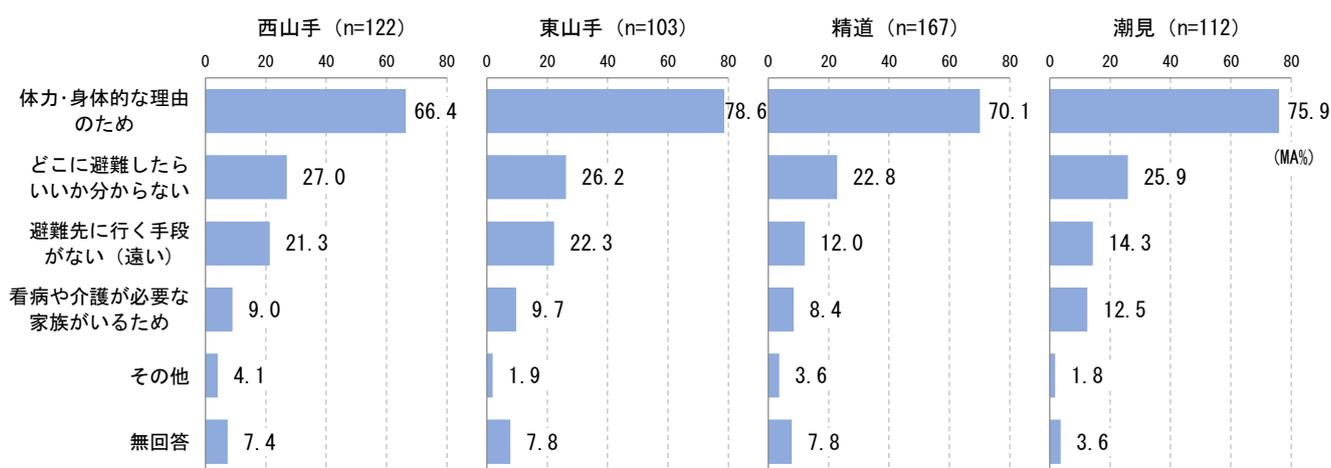
年齢別にみると、いずれも「体力・身体的な理由のため」が最も多くなっており、65～84歳で6割前後に対し、85歳以上では85.8%と高い。

【年齢別 避難できない理由】



居住地域別にみると、いずれも「体力・身体的な理由のため」が6～7割台と最も多くなっている。また、「避難先に行く手段がない(遠い)」が東山手地域で22.3%、西山手地域で21.3%と、他の地域に比べて高くなっている。

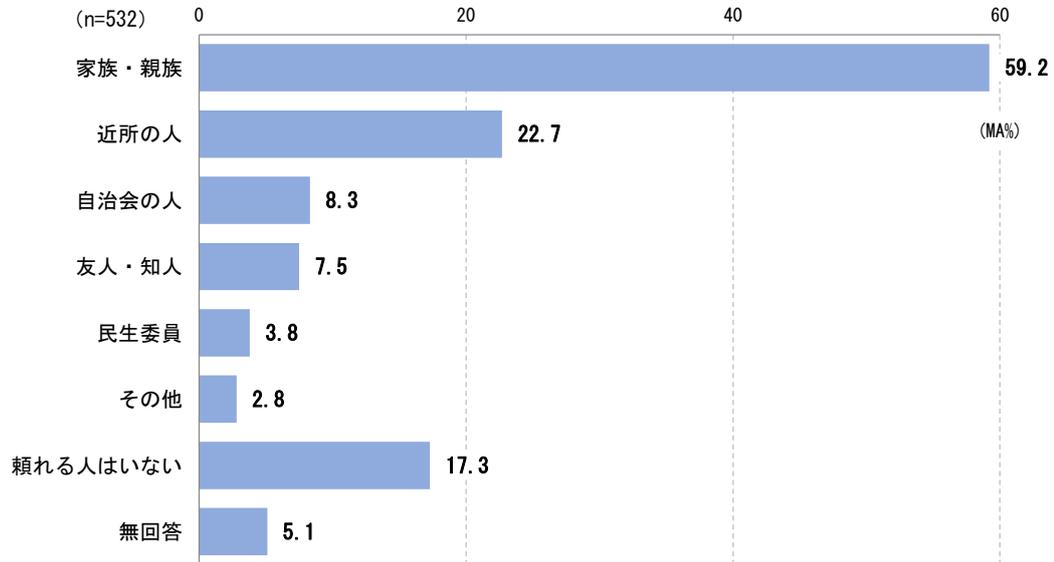
【居住地域別 避難できない理由】



③避難時に手助けを頼める人の有無

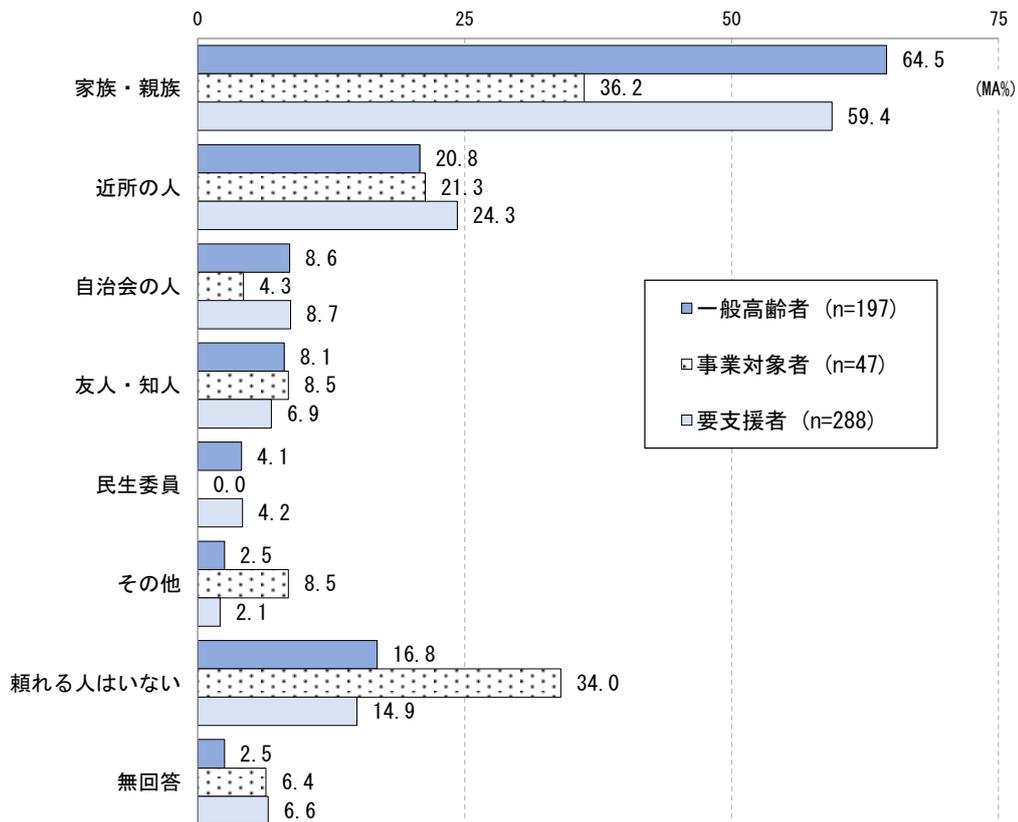
【問9(1)で「一人で判断できるが、避難はできない」または「一人で判断できないし、避難できない」とお答えの方】
問9(1)-2 災害時や火災など緊急時に避難する際、手助けを頼める人はいますか（○はいいくつでも）

一人で避難できないという人が避難時に手助けを頼める人としては、「家族・親族」が59.2%と最も多く、次いで「近所の人」が22.7%となっている。一方、「頼れる人はいない」は1割台（17.3%）みられる。



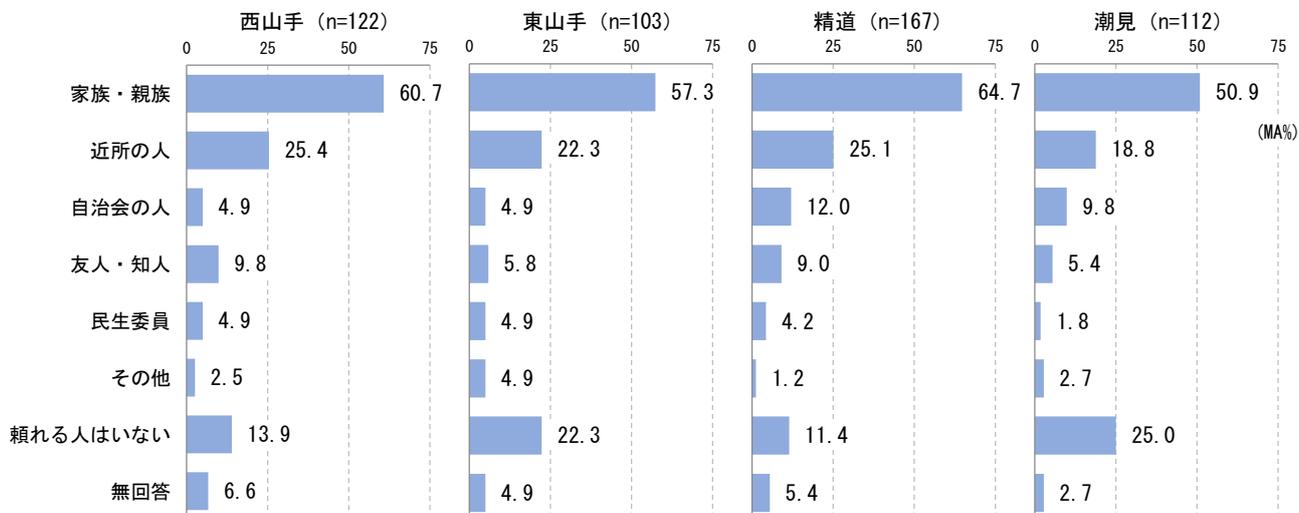
対象者区別にみても、いずれも「家族・親族」が最も多くなっているものの、一般高齢者で64.5%、要支援者で59.4%に対し、事業対象者では36.2%と低く、「頼れる人はいない」が3割台（34.0%）と高くなっている。

【対象者区別別 避難時に手助けを頼める人の有無】



居住地域別にみても、いずれも「家族・親族」が5～6割台と最も多くなっている。一方、「頼れる人はいない」が潮見地域で25.0%，東山手で22.3%と高い。

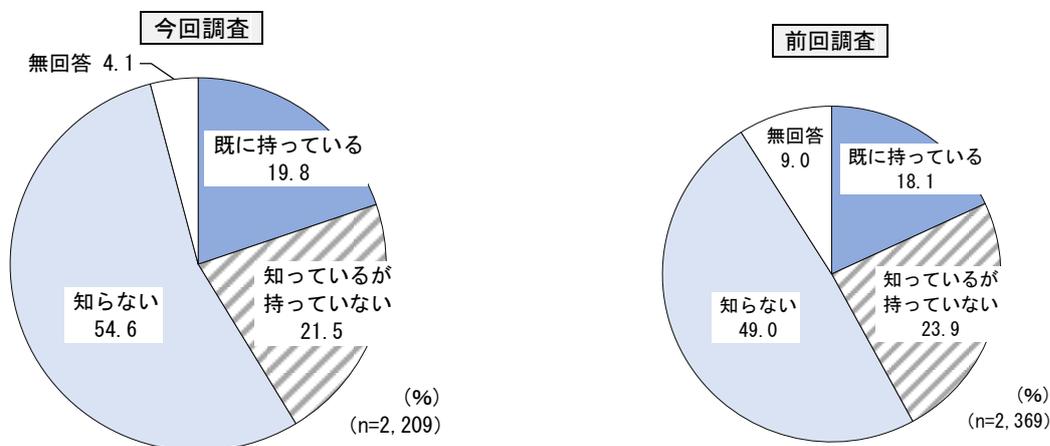
【居住地域別 避難時に手助けを頼める人の有無】



(2) 救急医療情報キットの認知度

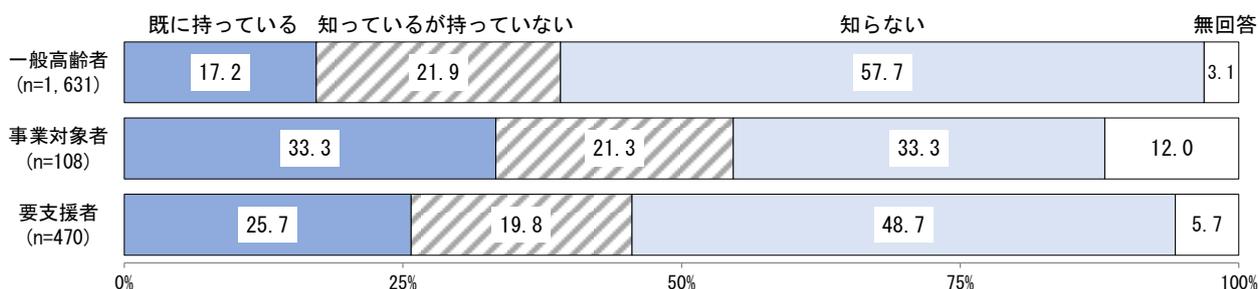
問 9(2) 万が一の災害や急病に備え、医療情報を記入した用紙を筒状の容器に入れ、ご家庭にある冷蔵庫に収納する救急医療情報キットを知っていますか

救急医療情報キットについて、「知らない」が半数以上（54.6%）を占めている。一方、「既に持っている」は約2割（19.8%）となっており、前回調査（18.1%）から1.7ポイント増えている。



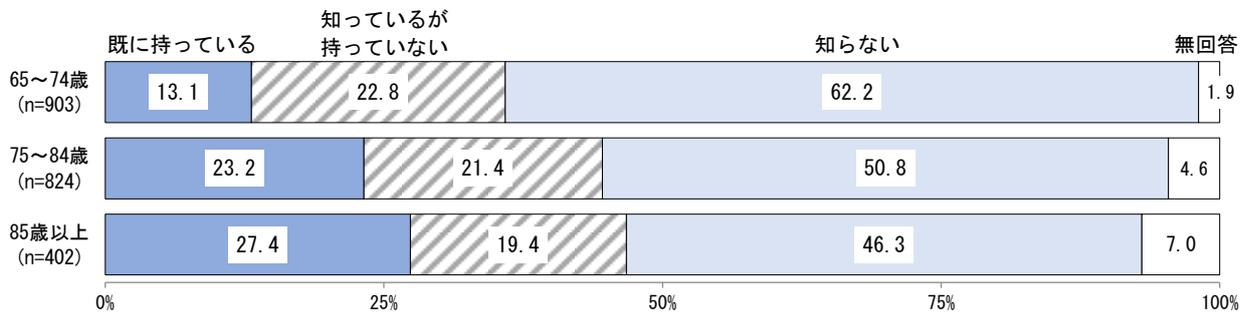
対象者区分別にみると、「既に持っている」が、一般高齢者で17.2%，事業対象者で33.3%，要支援者で25.7%となっている。

【対象者区分別 救急医療情報キットの認知度】



年齢別にみると、「既に持っている」が、75歳以上で2割台に対し、65～74歳では1割台（13.1%）と低く、「知らない」が6割台（62.2%）を占めている。

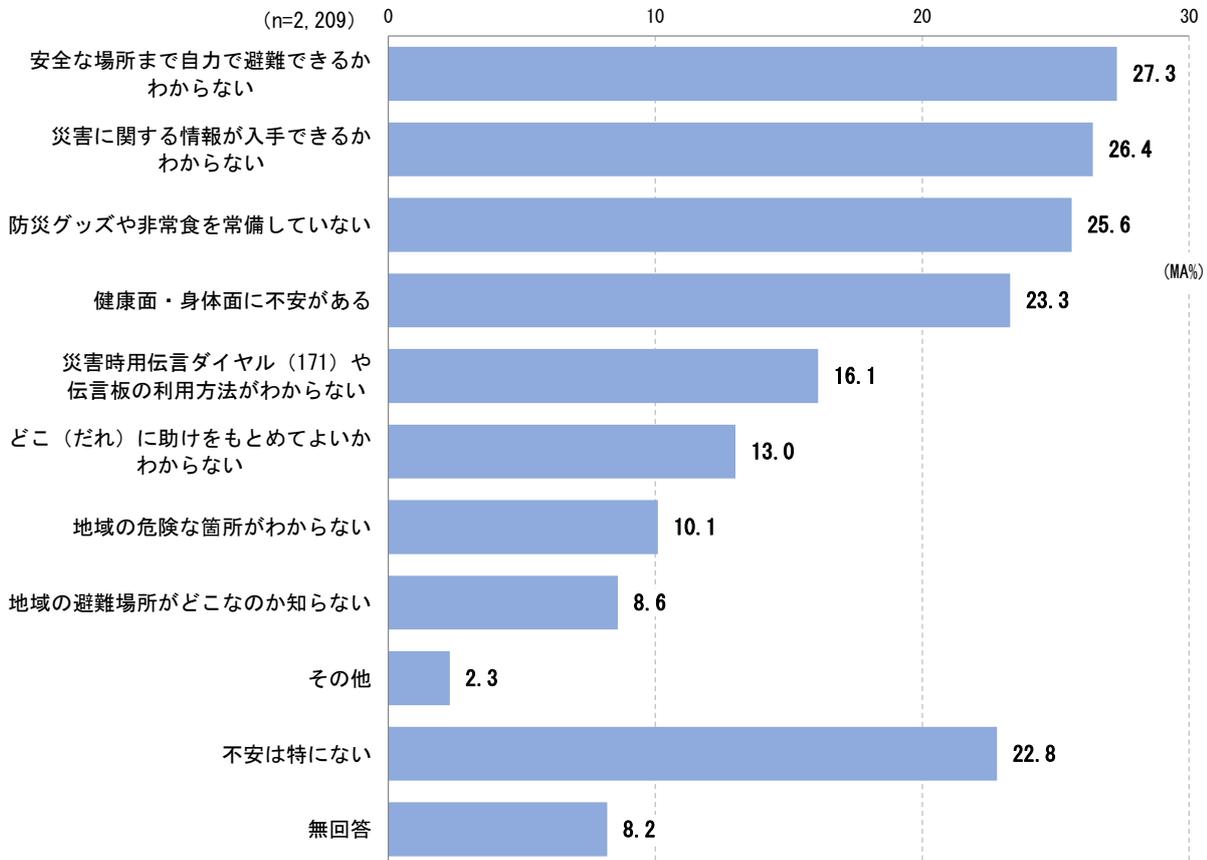
【年齢別 救急医療情報キットの認知度】



（3）災害時の不安

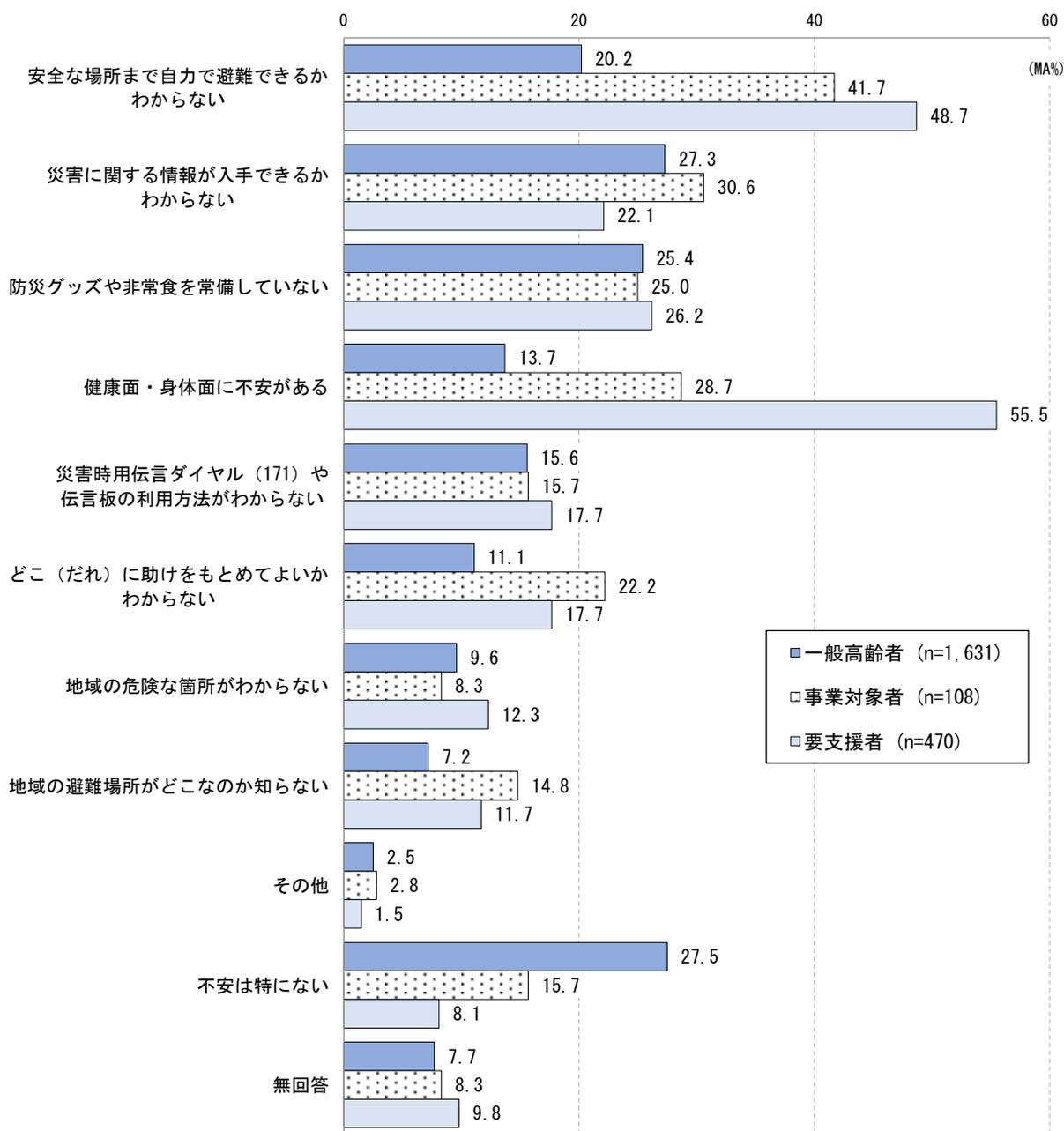
問 9(3) 地震や風水害などの災害時に対し、不安に思うことはありますか（〇はいくつでも）

災害時に対して不安に思うこととしては、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が27.3%と最も多く、次いで「災害に関する情報が入手できるかわからない」が26.4%、「防災グッズや非常食を常備していない」が25.6%、「健康面・身体面に不安がある」が23.3%となっている。一方、「不安は特にない」は2割台（22.8%）みられる。



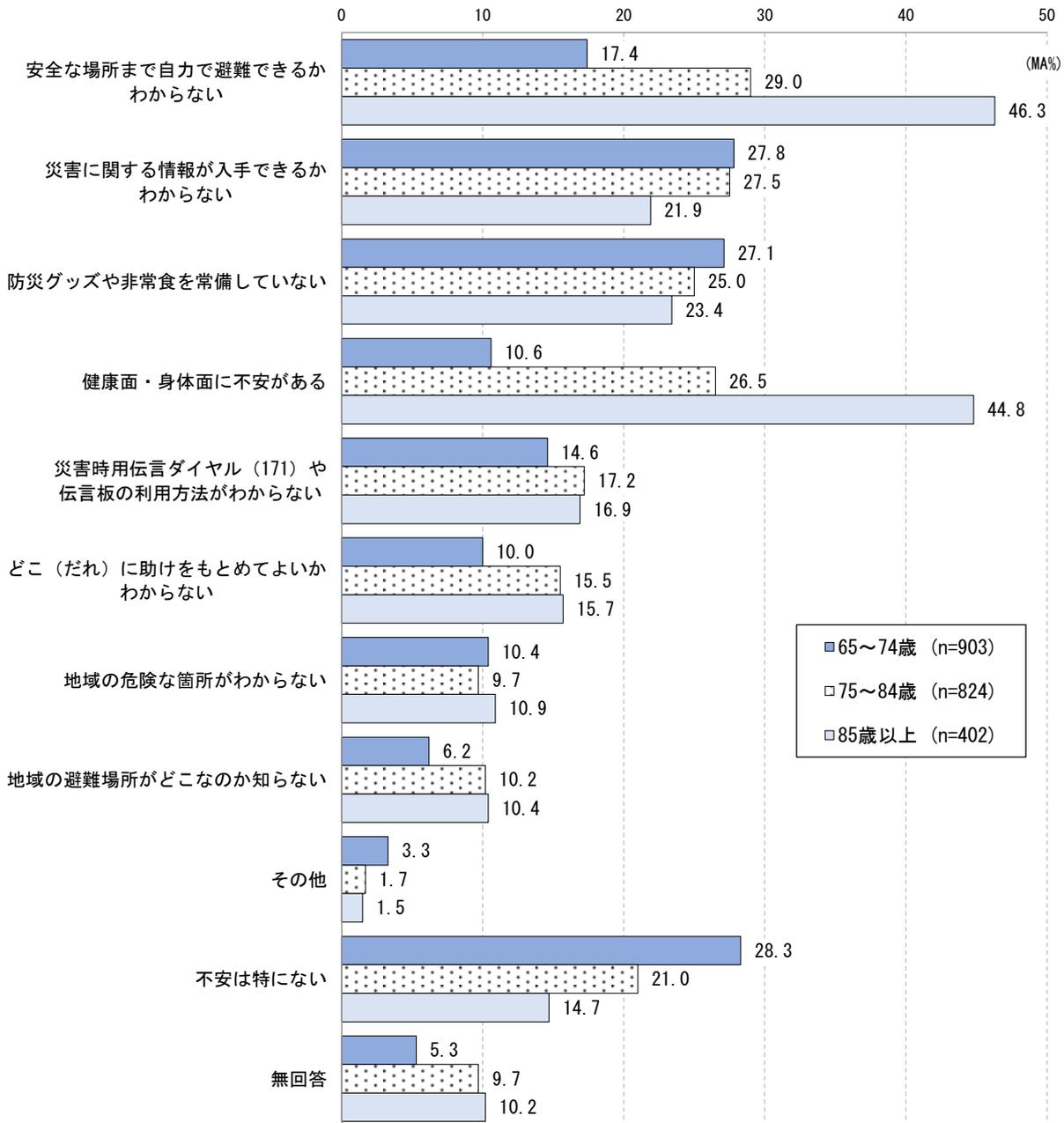
対象者区分別にみると、具体的な不安として、一般高齢者では「災害に関する情報が入手できるかわからない」が27.3%、事業対象者では「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が41.7%、要支援者では「健康面・身体面に不安がある」が55.5%と、それぞれ最も多くなっている。

【対象者区分別 災害時の不安】



年齢別にみると、85歳以上で「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が46.3%、「健康面・身体面に不安がある」が44.8%と、ともに65～84歳（1～2割台）に比べて高い割合となっている。

【年齢別 災害時の不安】



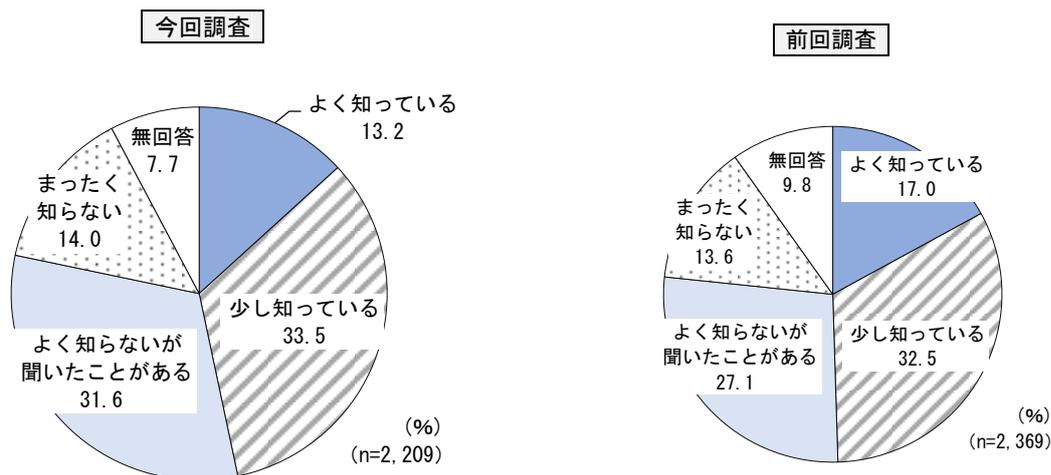
11 権利擁護の取り組みについて

(1) 成年後見制度の認知度及び利用意向

①認知度

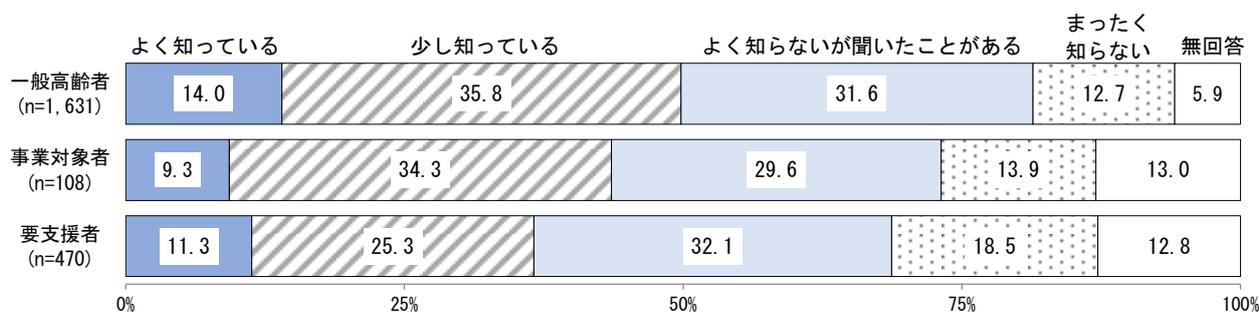
問 10(1) あなたは『成年後見制度』について知っていますか

成年後見制度について、「少し知っている」が33.5%と最も多く、「よく知っている」(13.2%)を合わせると、知っているという割合は4割台(46.7%)となっており、前回調査(49.5%)から2.8ポイント減っている。



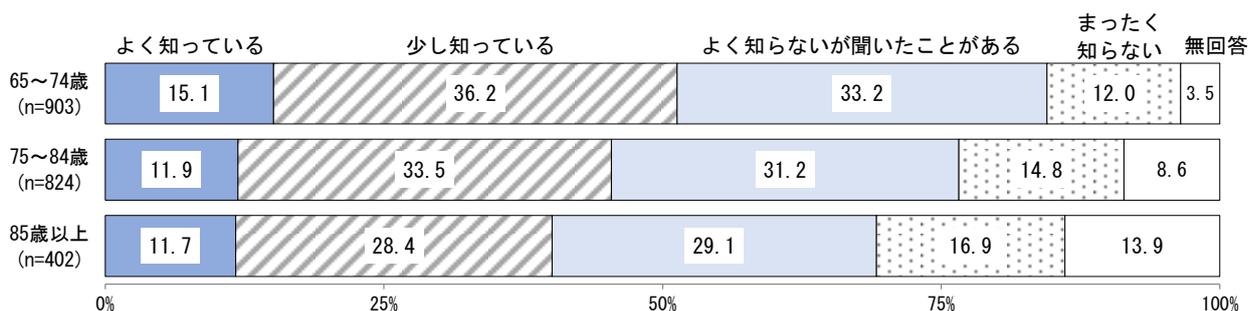
対象者区分別にみると、知っているという割合が、一般高齢者で49.8%、事業対象者で43.5%、要支援者で36.6%となっている。

【対象者区分別 成年後見制度の認知度】



年齢別にみると、知っているという割合が、65～74歳で51.3%と最も高く、年齢が上がるにしたがって割合は低くなる傾向にある。

【年齢別 成年後見制度の認知度】

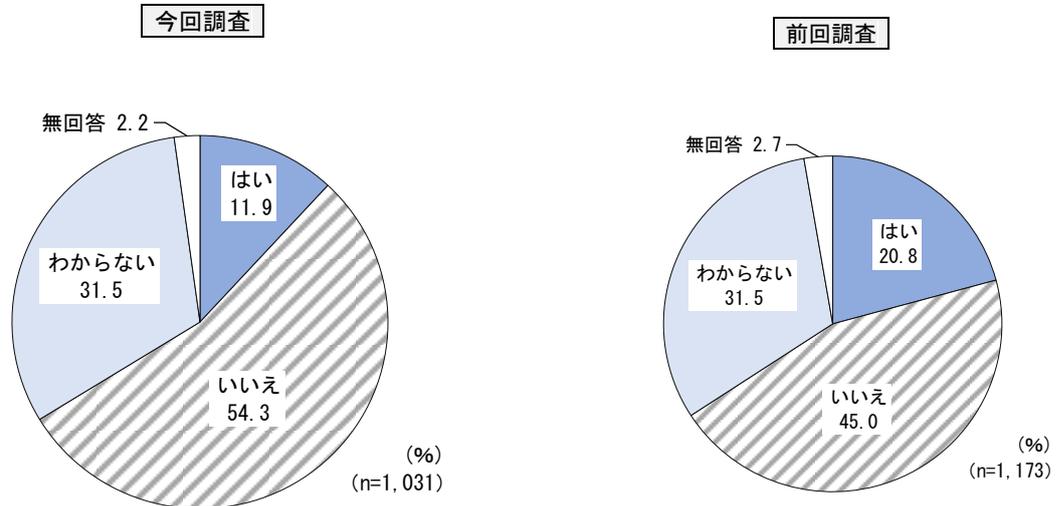


②利用意向

【問 10(1)で「よく知っている」または「少し知っている」とお答えの方】

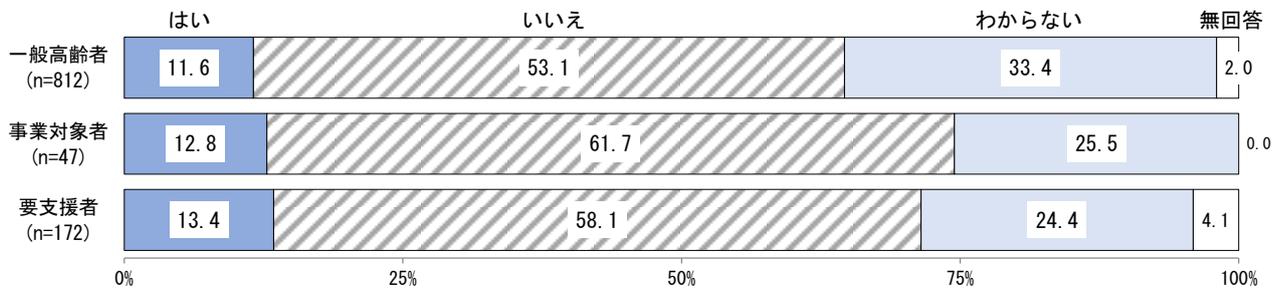
問 10(1)-1 今後、あなたは成年後見制度を利用したいですか

成年後見制度について知っている人のうち、今後利用したいという人の割合（「はい」）は1割台（11.9%）にとどまっており、前回調査（20.8%）からも8.9ポイント減っている。



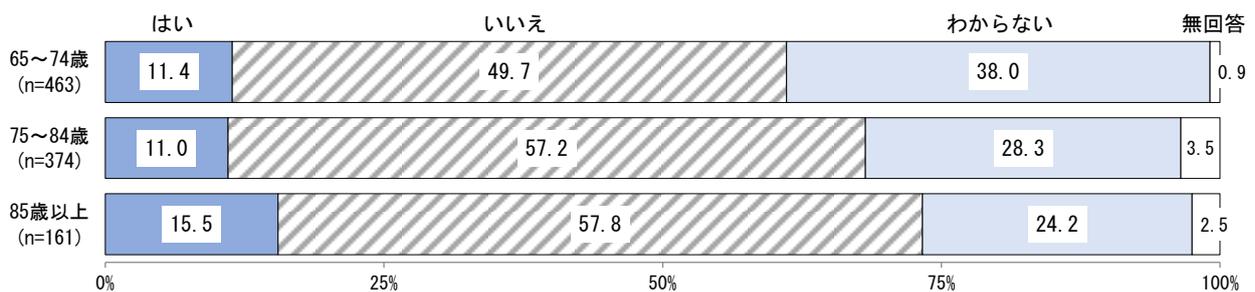
対象者区分別にみると、利用したいという割合が、一般高齢者で 11.6%、事業対象者で 12.8%、要支援者で 13.4%となっている。

【対象者区分別 成年後見制度の利用意向】



年齢別にみると、利用したいという割合はいずれの年齢層も1割台となっており、85歳以上で15.5%とやや高い。

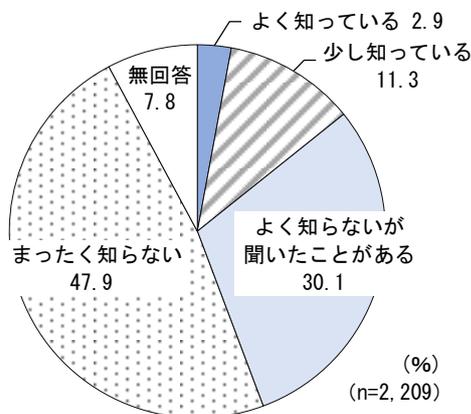
【年齢別 成年後見制度の利用意向】



(2) 市民後見人の認知度

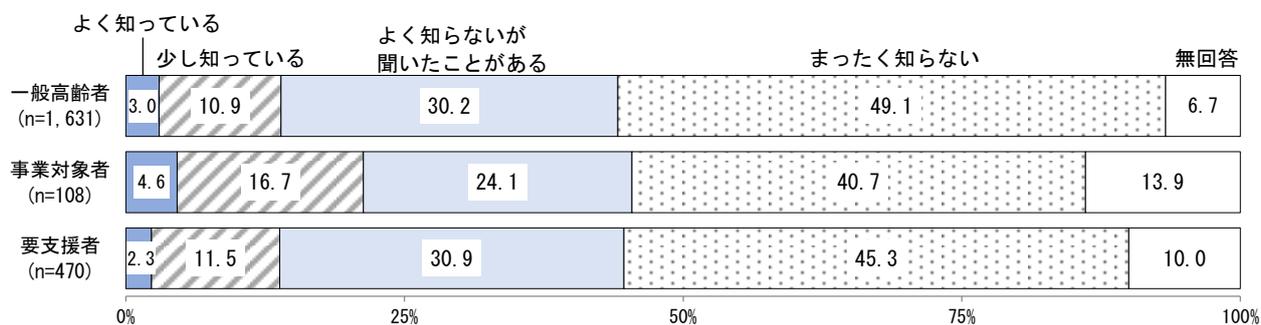
問 10(2) あなたは『市民後見人』について知っていますか

市民後見人について、「よく知っている」が 2.9%、「少し知っている」が 11.3%となっており、合わせると、知っているという割合は1割台（14.3%）となっている。



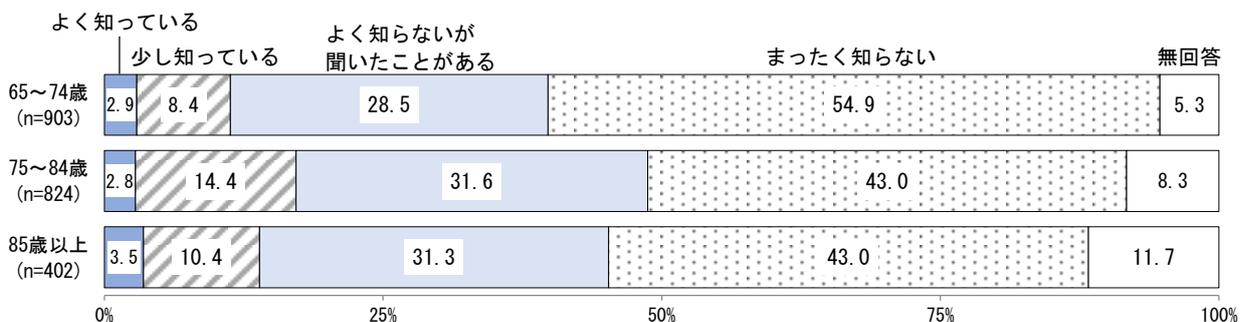
対象者区分別にみると、知っているという割合が、一般高齢者で 13.9%、事業対象者で 21.3%、要支援者で 13.8%となっている。

【対象者区分別 市民後見人の認知度】



年齢別にみると、知っているという割合はいずれの年齢層も1割台となっており、75～84歳で 17.2%と高い。

【年齢別 市民後見人の認知度】



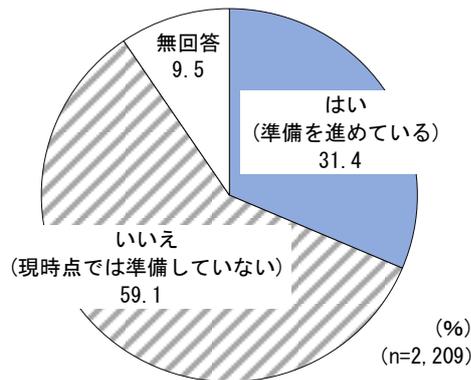
12 人生の最終段階について

(1) 人生の最終段階を迎える準備の状況

①準備の有無

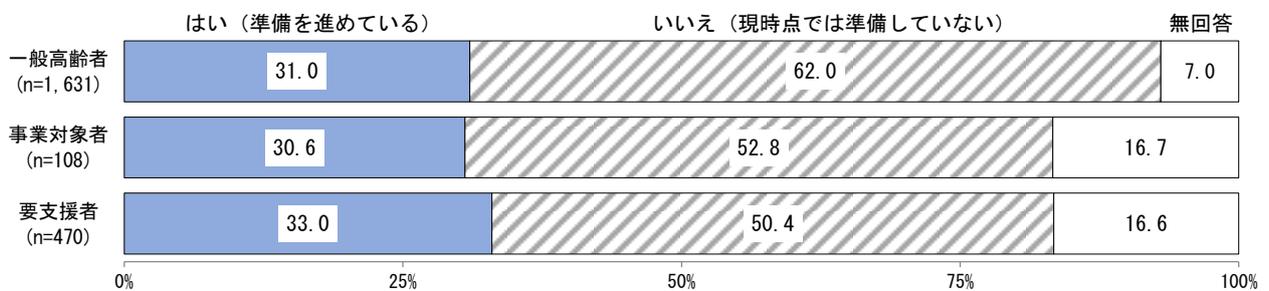
問 11(1) 自身の人生の最終段階に向けて、何か準備していることはありますか

人生の最終段階に向けて準備しているという人（「はい」）は、全体の3割台（31.4%）となっている。



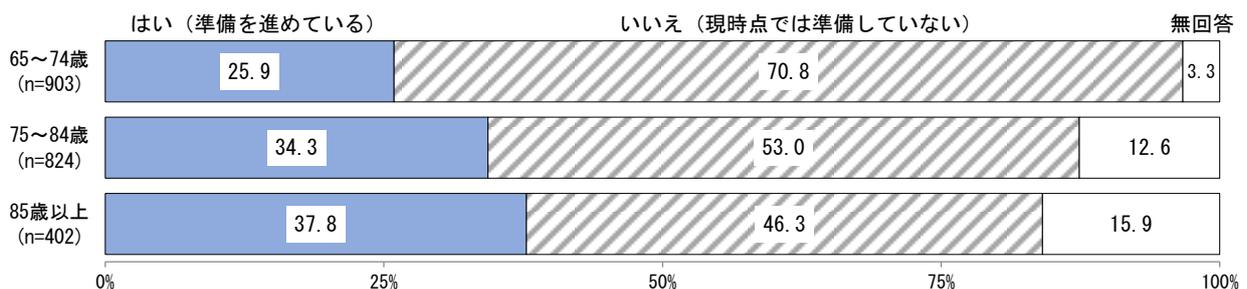
対象者区分別にみると、準備しているという人が、一般高齢者で31.0%、事業対象者で30.6%、要支援者で33.0%と、いずれも3割台となっている。

【対象者区分別 人生の最終段階に向けた準備の有無】



年齢別にみると、準備しているという人が、65～74歳で25.9%、75～84歳で34.3%、85歳以上で37.8%となっている。

【年齢別 人生の最終段階に向けた準備の有無】

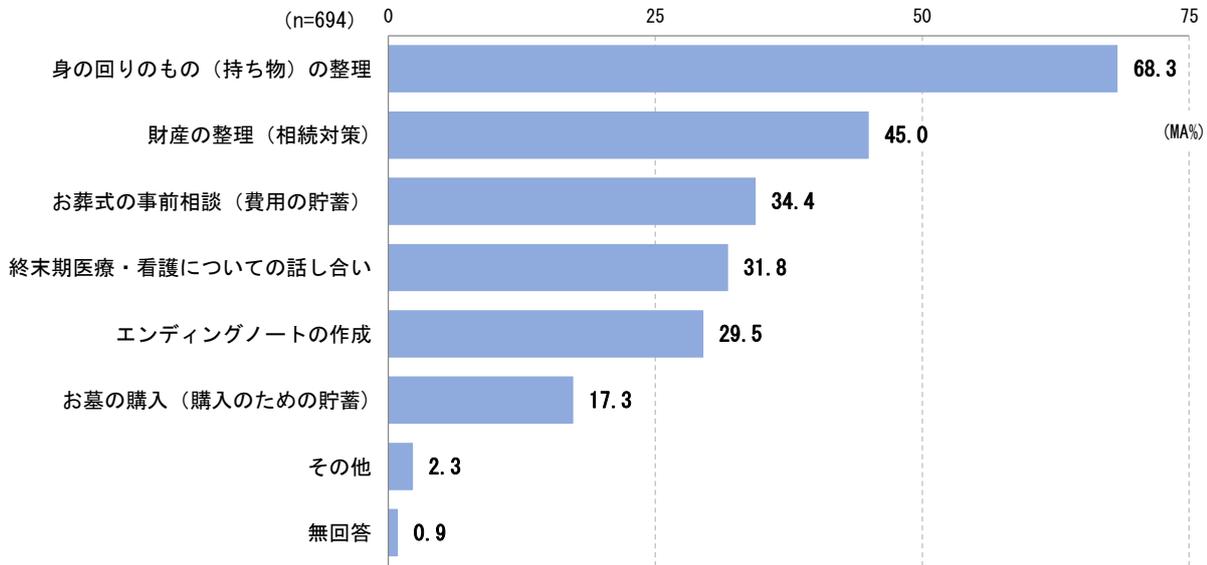


②準備を進めている内容

【問 11(1)で「はい（準備を進めている）」とお答えの方】

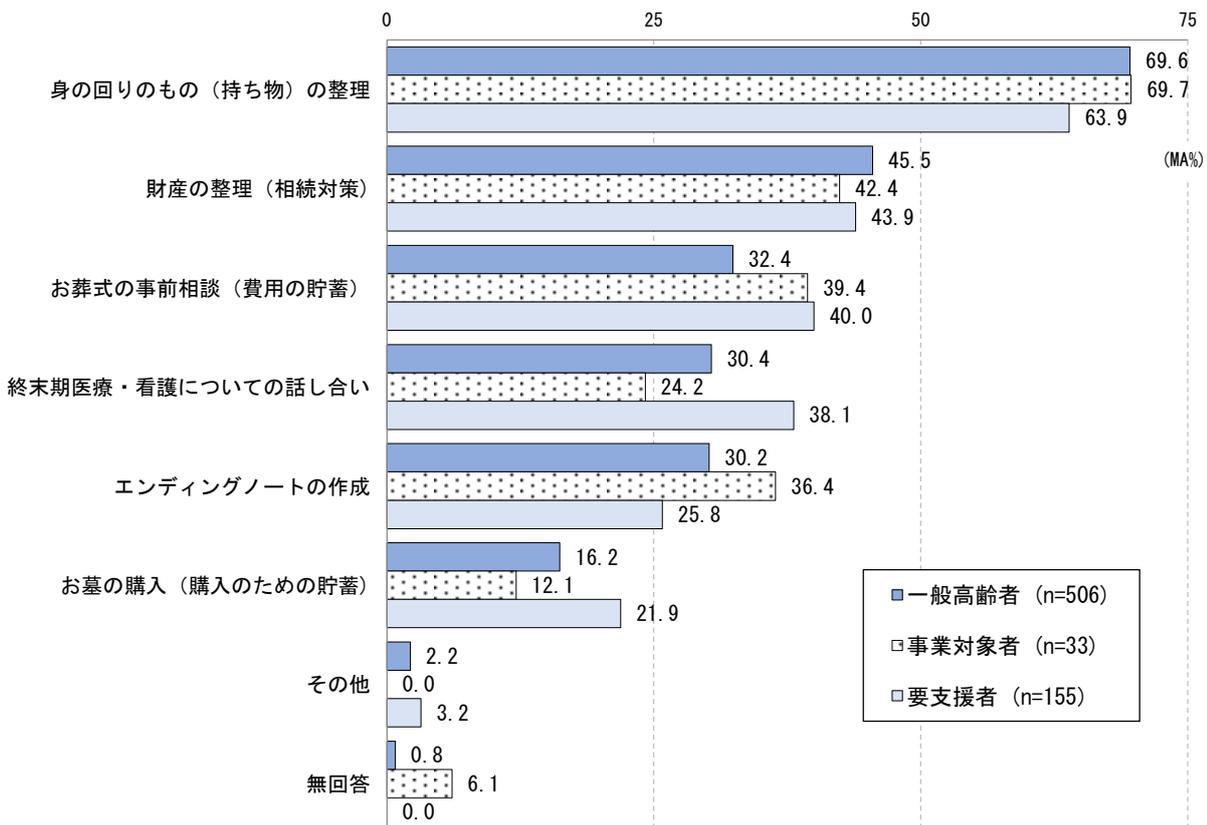
問 11(1)-1 具体的に準備を進めていることは何ですか（〇はいくつでも）

具体的に準備を進めていることとしては、「身の回りのもの（持ち物）の整理」が68.3%と最も多く、次いで「財産の整理（相続対策）」が45.0%となっている。



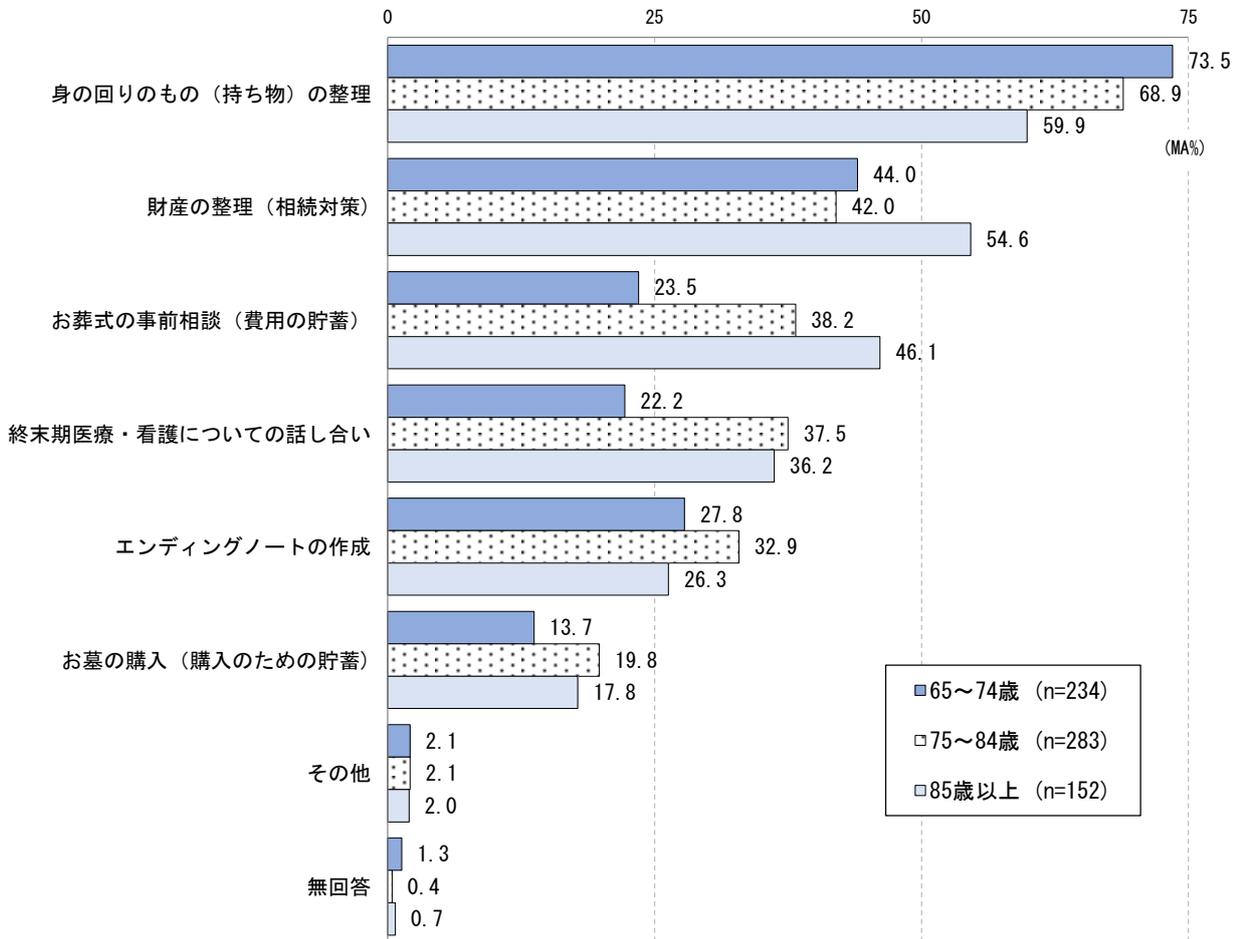
対象者区分別にみても、いずれも「身の回りのもの（持ち物）の整理」（一般高齢者 69.6%、事業対象者 69.7%、要支援者 63.9%）が最も多く、次いで「財産の整理（相続対策）」（一般高齢者 45.5%、事業対象者 42.4%、要支援者 43.9%）となっている。

【対象者区分別 人生の最終段階に向けて準備を進めている内容】



年齢別にみると、いずれの年齢層も「身の回りのもの（持ち物）の整理」が最も多く、65～74歳で73.5%と高い。また、85歳以上で「財産の整理（相続対策）」が54.6%、「お葬式の事前相談（費用の貯蓄）」が46.1%と、65～84歳に比べて高い割合となっている。

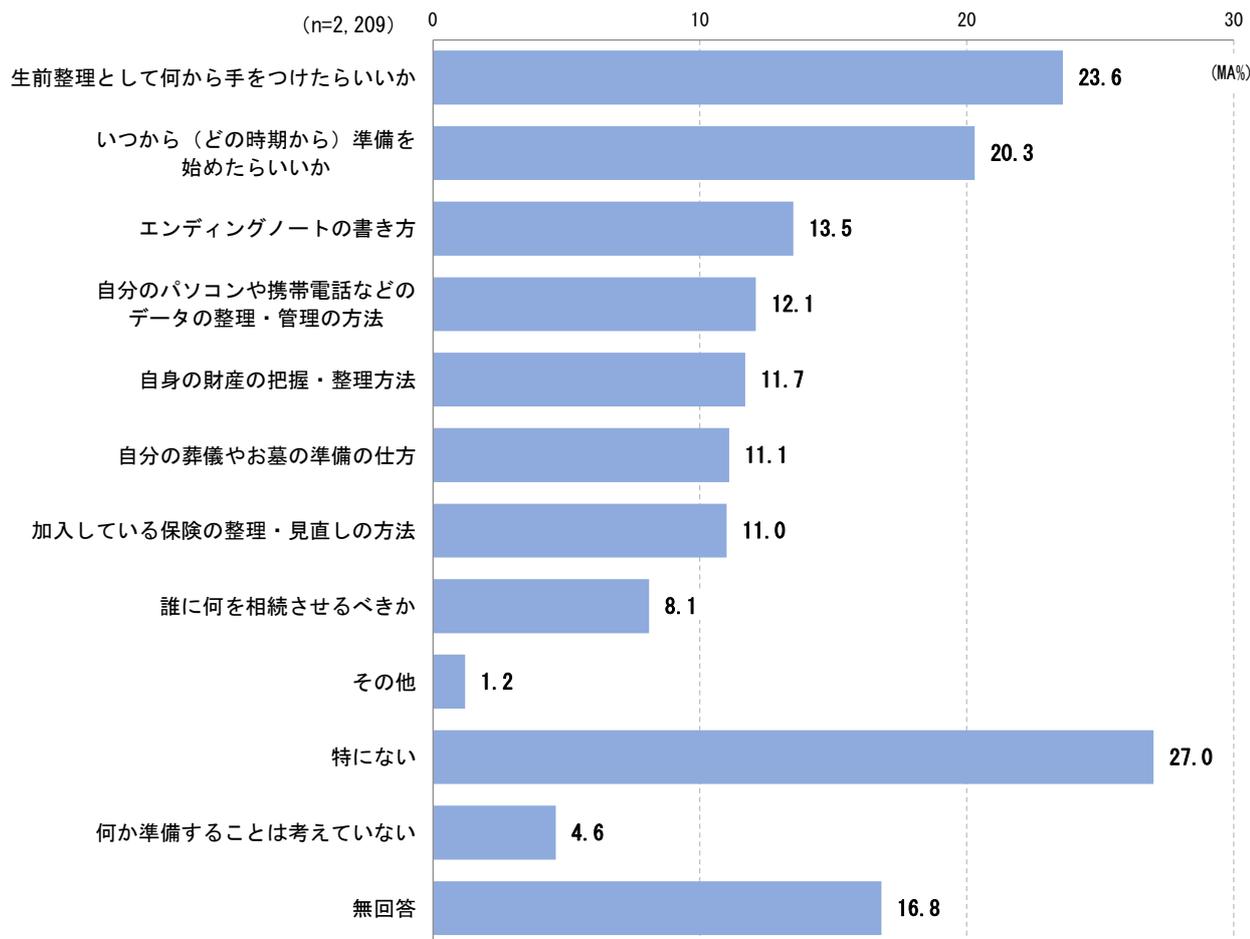
【年齢別 人生の最終段階に向けて準備を進めている内容】



(2) 人生の最終段階を迎える準備に関して知りたいこと

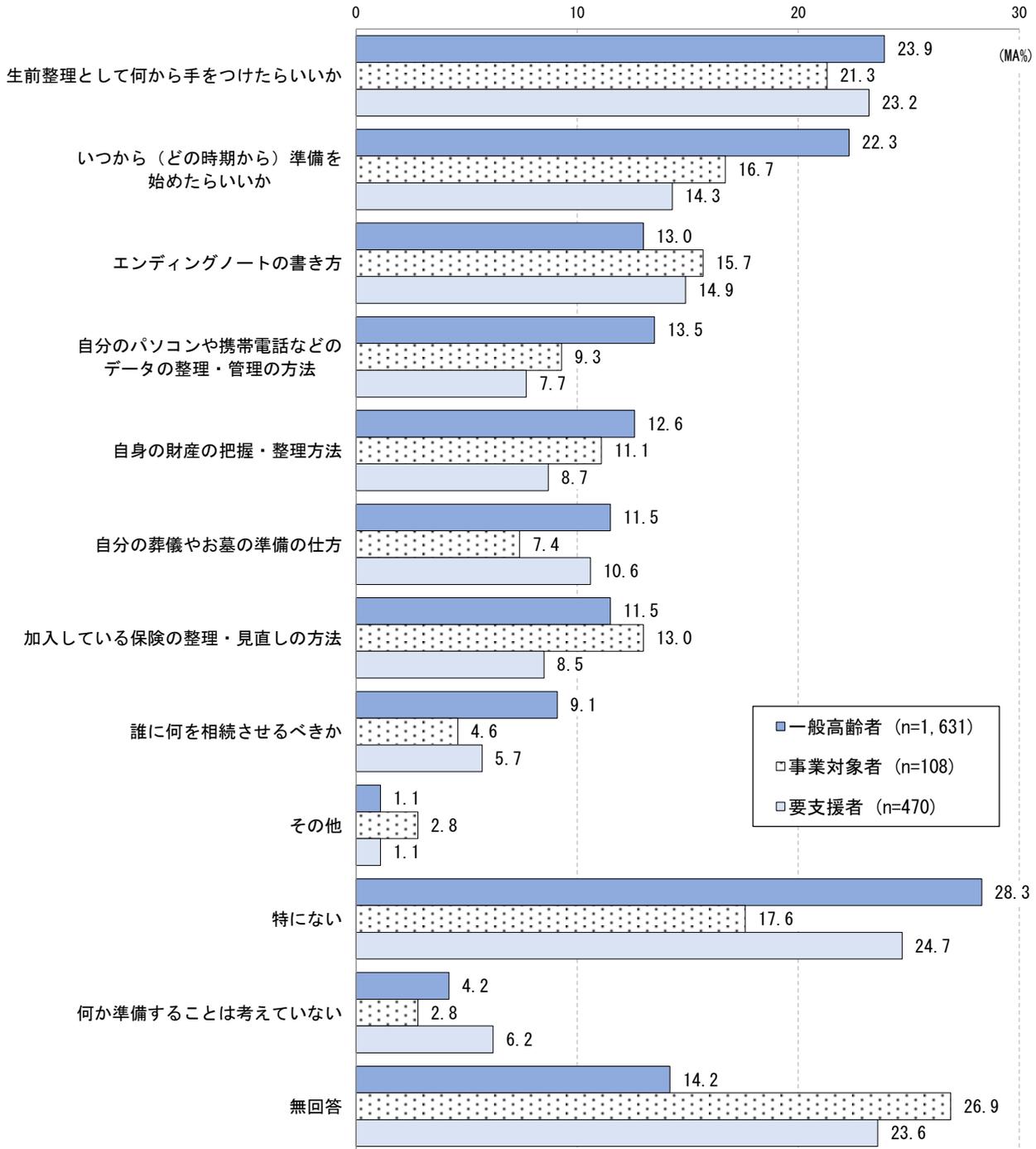
問 11(2) 将来、人生の最終段階に向けた準備を進めるにあたって（または現在準備を進めている中で）、ご自身が知りたいことや相談したいことはありますか（〇はいくつでも）

人生の最終段階に向けた準備を進めるにあたって知りたいことや相談したいこととしては、「生前整理として何から手をつけたらいいか」が 23.6%と最も多く、次いで「いつから（どの時期から）準備を始めたらいいか」が 20.3%、「エンディングノートの書き方」が 13.5%となっている。一方、「特にない」は 27.0%みられる。



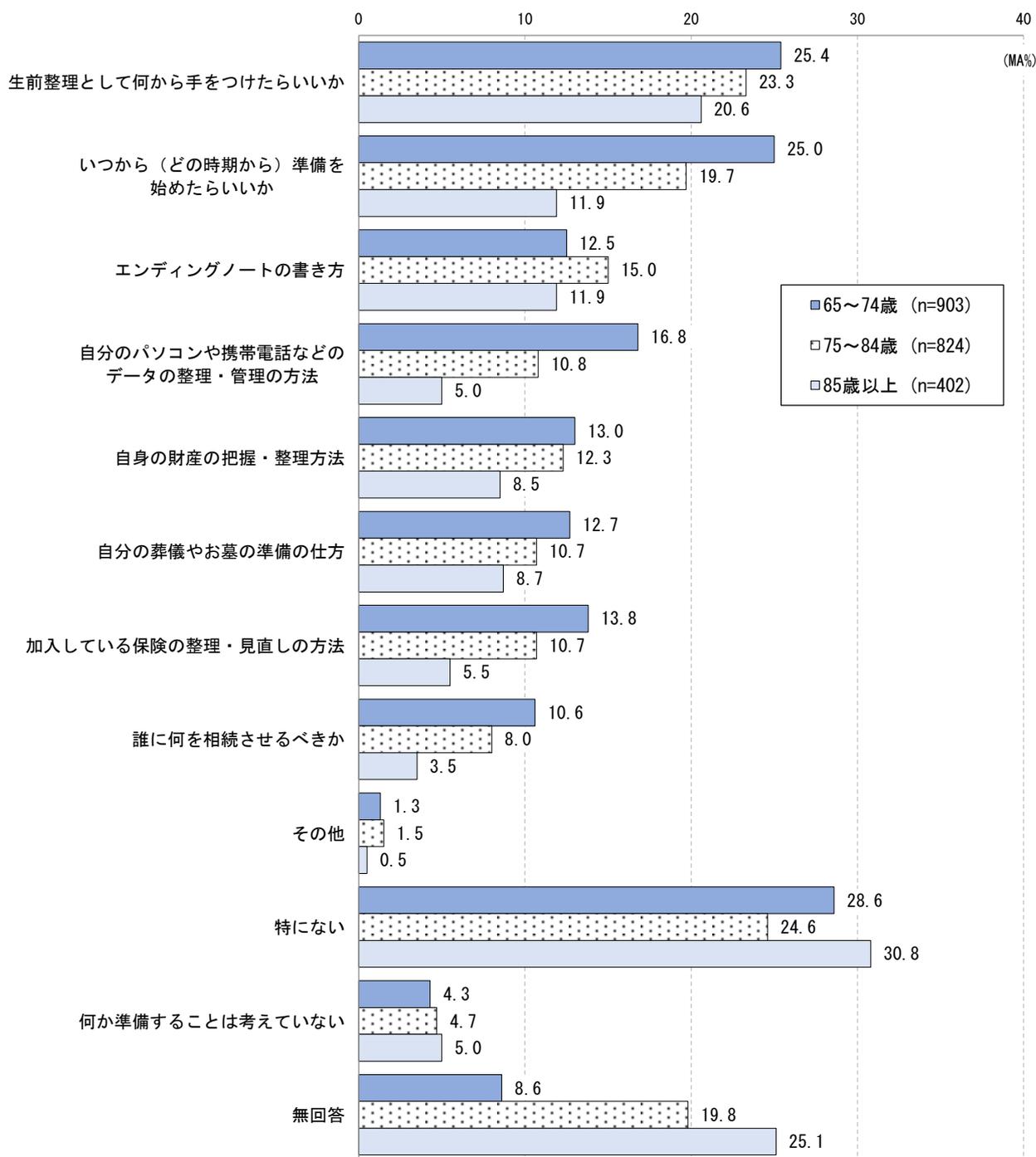
対象者区分別にみても、「生前整理として何から手をつけたらいいか」が最も多く、一般高齢者で23.9%、事業対象者で21.3%、要支援者で23.2%となっている。

【対象者区分別 人生の最終段階を迎える準備に関して知りたいこと】



年齢別にみると、いずれの年齢層も「生前整理として何から手をつけたらいいか」が2割台と最も多くなっている。また、65～74歳において、「いつから（どの時期から）準備を始めたらいいか」が25.0%、「自分のパソコンや携帯電話などのデータの整理・管理の方法」が16.8%と、75歳以上に比べて特に高い割合となっている。

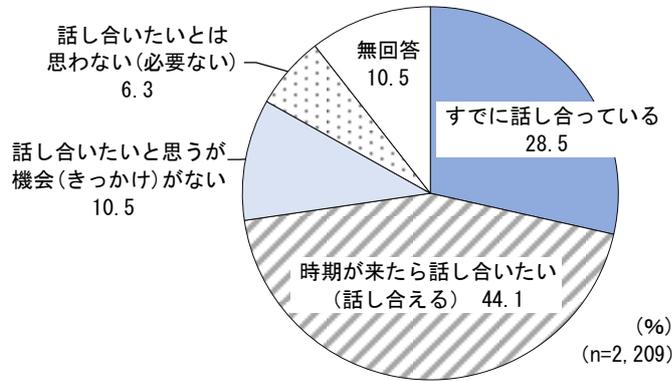
【年齢別 人生の最終段階を迎える準備に関して知りたいこと】



(3) 家族との話し合いの意向

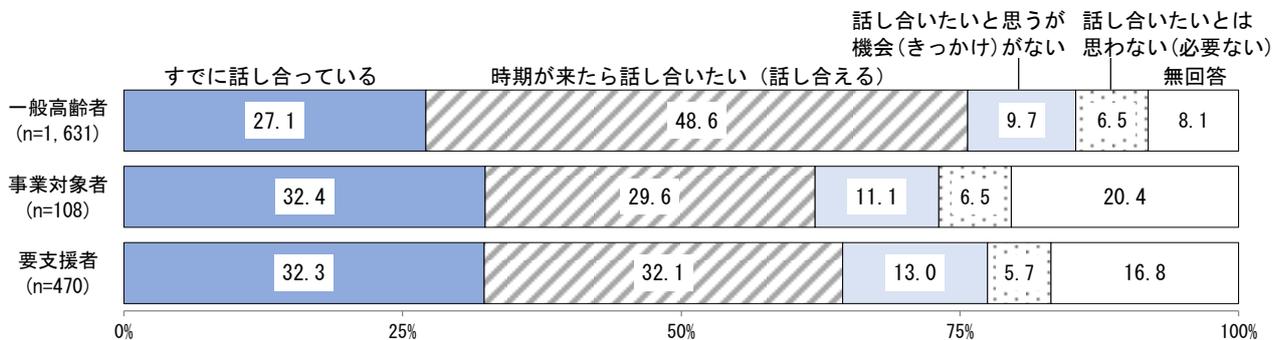
問 11(3) 今後、ご家族と話し合う機会を作りたいと思いますか

今後、家族と話し合う機会を作りたいと思うかたずねたところ、「時期が来たら話し合いたい（話し合える）」が44.1%と最も多く、次いで「すでに話し合っている」が28.5%となっている。



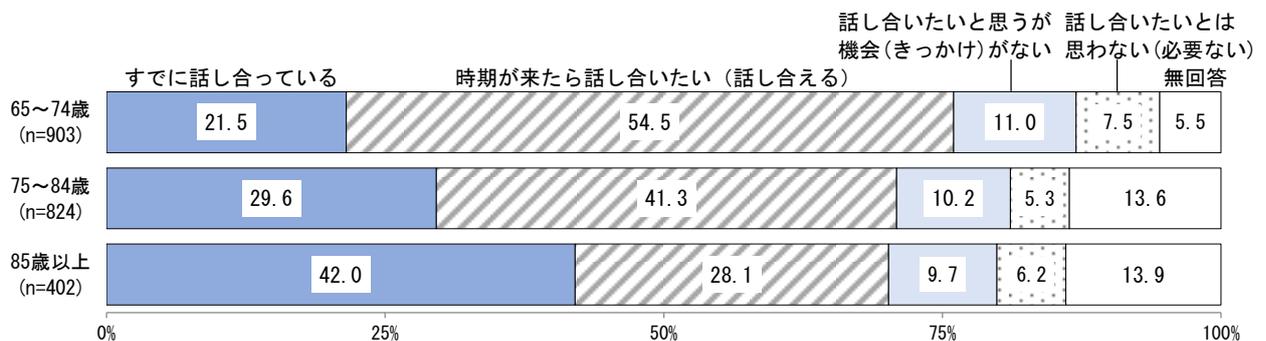
対象者区分別にみると、「すでに話し合っている」が事業対象者で32.4%、要支援者で32.3%と、それぞれ最も多くなっているのに対し、一般高齢者では「時期が来たら話し合いたい（話し合える）」が半数近く（48.6%）を占めている。

【対象者区分別 家族との話し合いの意向】



年齢別にみると、「すでに話し合っている」が65～74歳で21.5%、75～84歳で29.6%に対し、85歳以上で42.0%となっている。

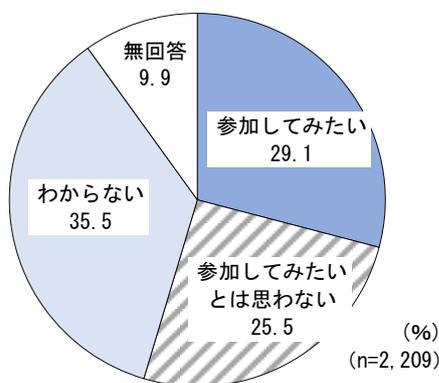
【年齢別 家族との話し合いの意向】



(4) セミナーへの参加意向

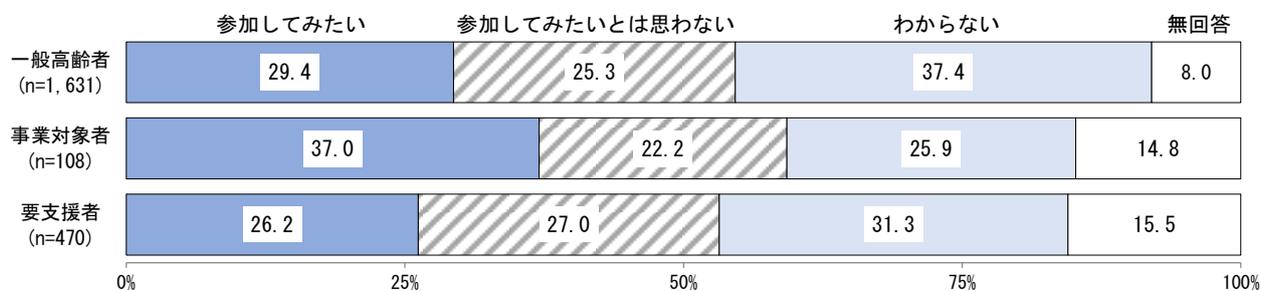
問 11(4) 人生の最終段階を迎える準備に関するセミナー（講演会）が身近な場所で開催された場合、あなたは参加してみたいと思いますか

人生の最終段階を迎える準備に関するセミナー（講演会）が身近な場所で開催された場合、「参加してみたい」が 29.1%に対し、「参加してみたいとは思わない」が 25.5%となっている。



対象者区分別にみると、「参加してみたい」が、一般高齢者で 29.4%、事業対象者で 37.0%、要支援者で 26.2%となっている。

【対象者区分別 人生の最終段階を迎える準備に関するセミナーへの参加意向】

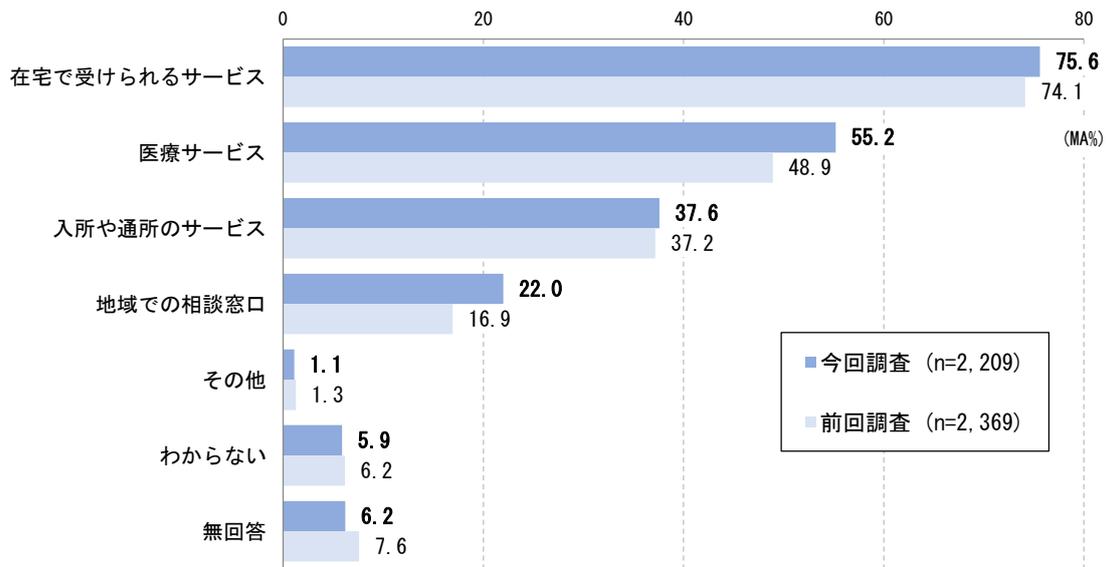


13 今後のサービスの利用について

(1) 身の回りのことができなくなった場合に必要なサービス

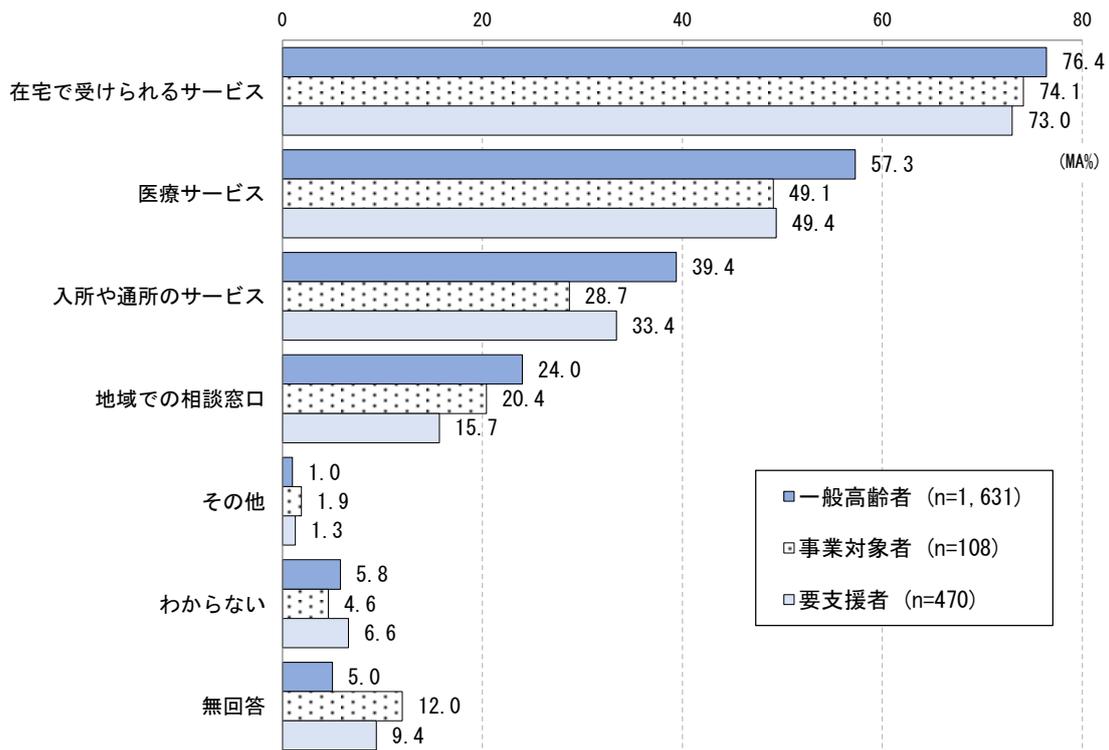
問 12(1) 今後、自分の身の回りのことができなくなったときに、どのようなサービスがあれば在宅生活を続けていくことができますか (〇はいくつでも)

身の回りのことができなくなったときに必要なサービスとしては、「在宅で受けられるサービス」が75.6%と最も多く、次いで「医療サービス」が55.2%となっている。



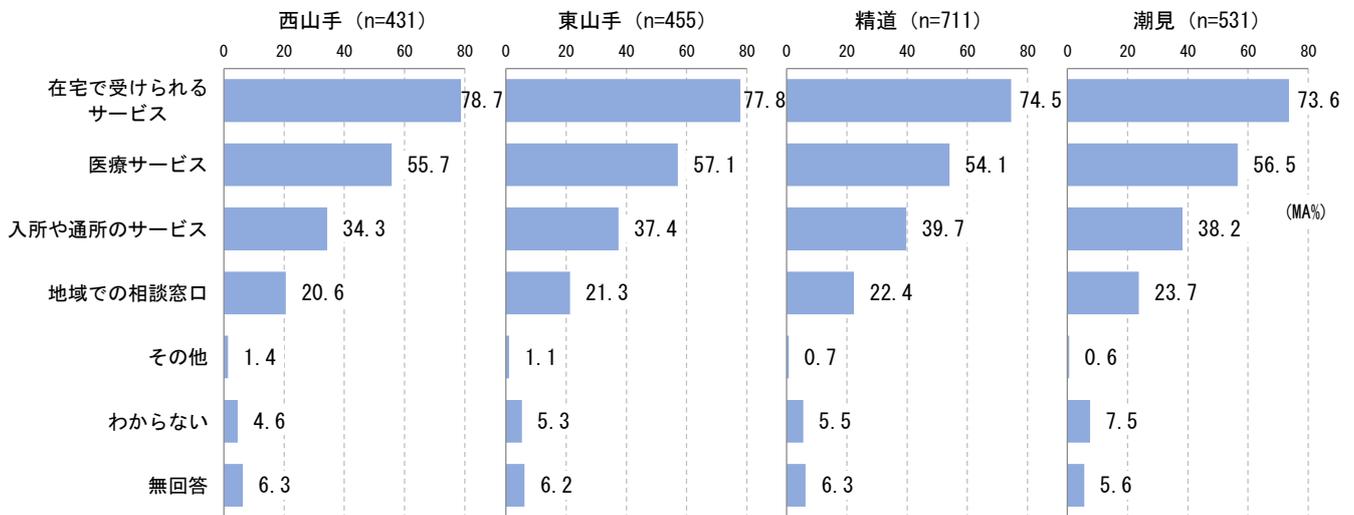
対象者区分別にみても、いずれも「在宅で受けられるサービス」が最も多く、一般高齢者で76.4%、事業対象者で74.1%、要支援者で73.0%となっている。

【対象者区分別 身の回りのことができなくなった場合に必要なサービス】



居住地域別にみても、いずれの地域も「在宅で受けられるサービス」が7割台と最も多く、次いで「医療サービス」が5割台となっている。

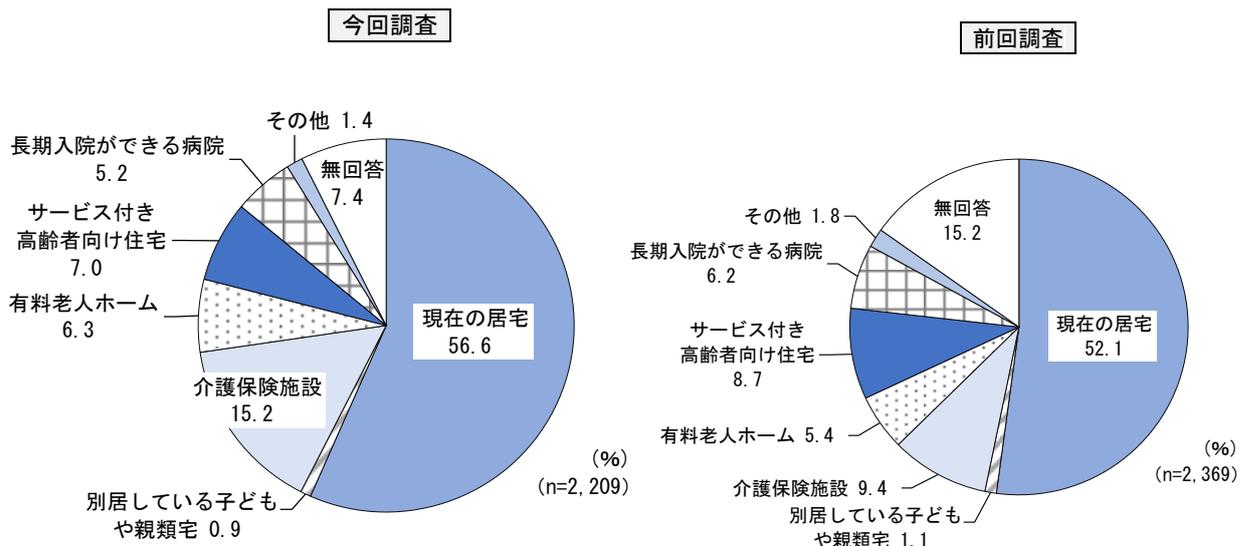
【居住地域別 身の回りのことができなくなった場合に必要なサービス】



(2) 介護が必要になった場合に希望する住まい

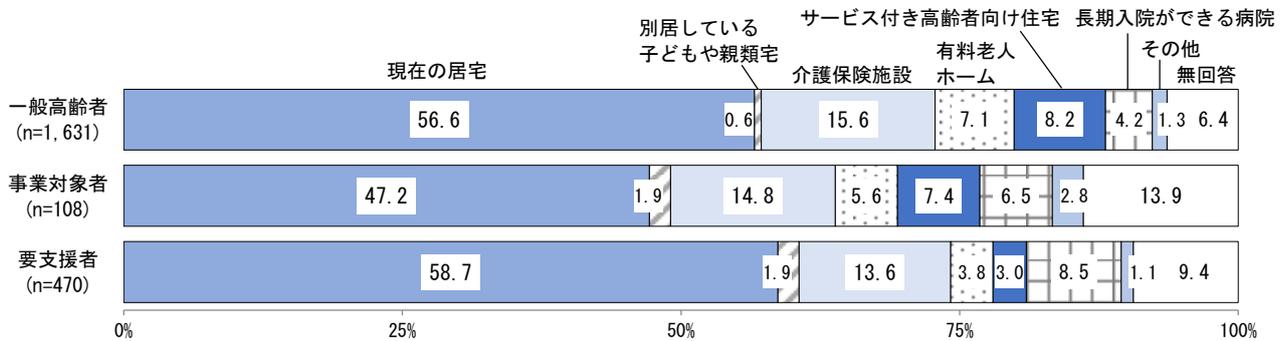
問 12(2) 将来の住まいとして、あなたはどのような場所で介護を受けたいとお考えですか

将来の住まいとして、どのような場所で介護を受けたいかたずねたところ、「現在の居宅」が半数以上 (56.6%) を占めている。これに続くのが、「介護保険施設」で 15.2% となっており、前回調査 (9.4%) から 5.6 ポイント増えている。



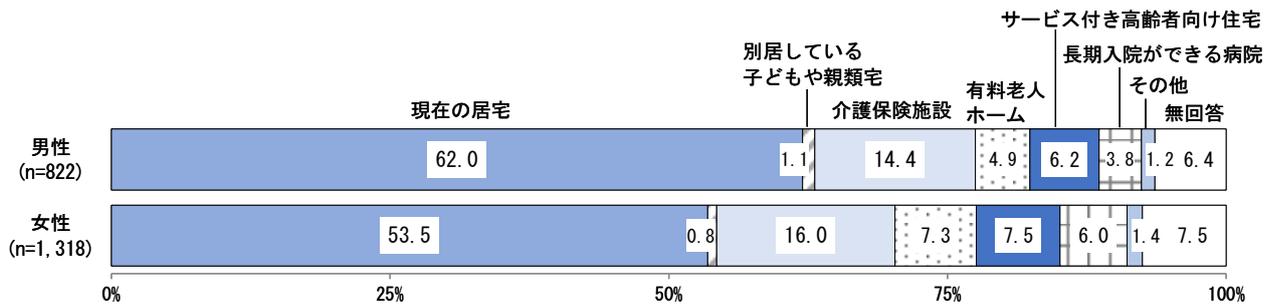
対象者区分別にみると、「現在の居宅」が一般高齢者で 56.6%，事業対象者で 47.2%，要支援者で 58.7%，「介護保険施設」が一般高齢者で 15.6%，事業対象者で 14.8%，要支援者で 13.6%となっている。

【対象者区分別 介護が必要になった場合に希望する住まい】



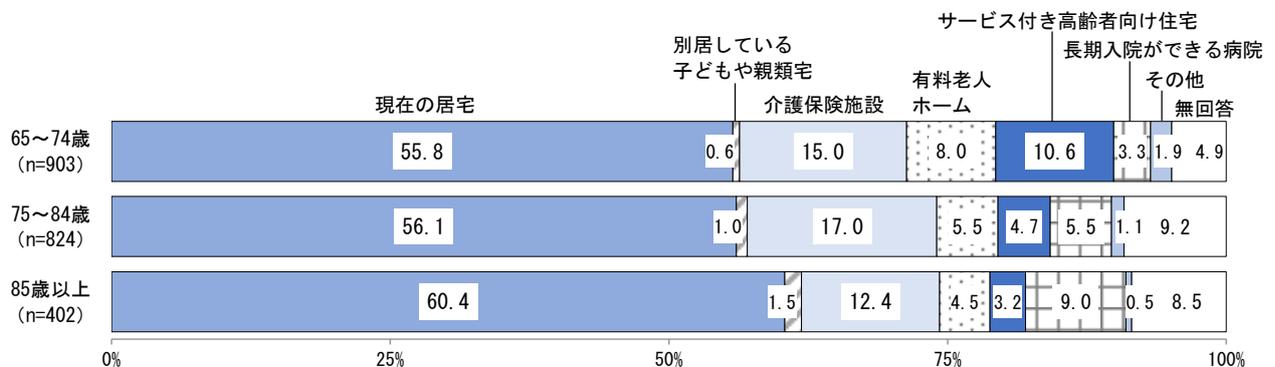
性別にみると、「現在の居宅」が男性で6割台（62.0%）に対し、女性では5割台（53.5%）となっており、女性のほうが施設や病院等への入所（入院）を希望する割合が高い。

【性別 介護が必要になった場合に希望する住まい】



年齢別にみると、「現在の居宅」が 65～84 歳で 5割台に対し、85 歳以上では 60.4%とやや高い。また、「サービス付き高齢者向け住宅」が 65～74 歳で 10.6%と、75 歳以上に比べて高い割合となっている。

【年齢別 介護が必要になった場合に希望する住まい】

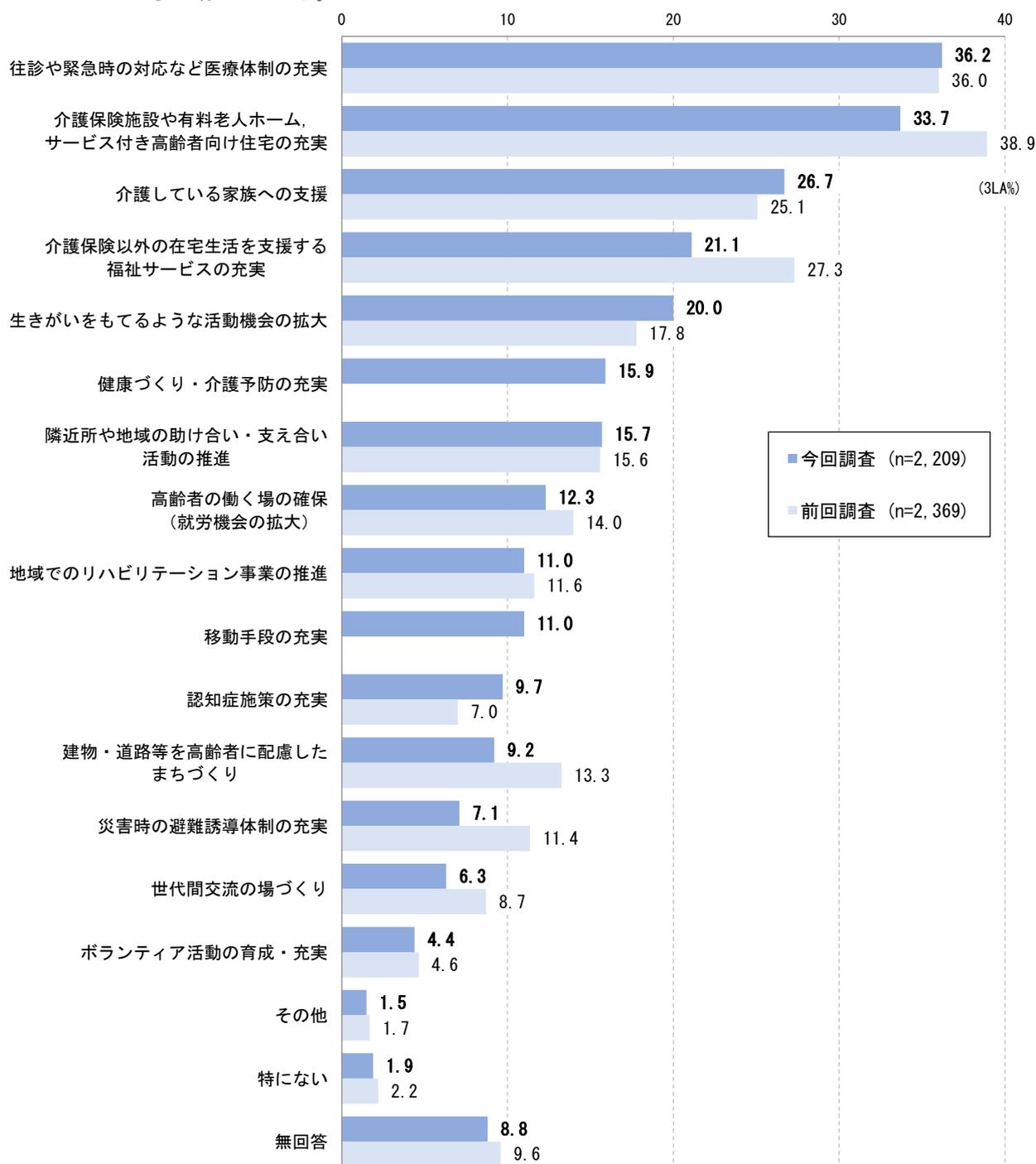


(3) 高齢者への支援で必要なこと

問 12(3) 高齢者への支援で必要なことはどのようなことだと思いますか（主なもの3つまでに○）

高齢者への支援で特に必要と思うこととしては、「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が36.2%と最も多く、次いで「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」が33.7%、「介護している家族への支援」が26.7%、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が21.1%、「生きがいをもてるような活動機会の拡大」が20.0%となっている。

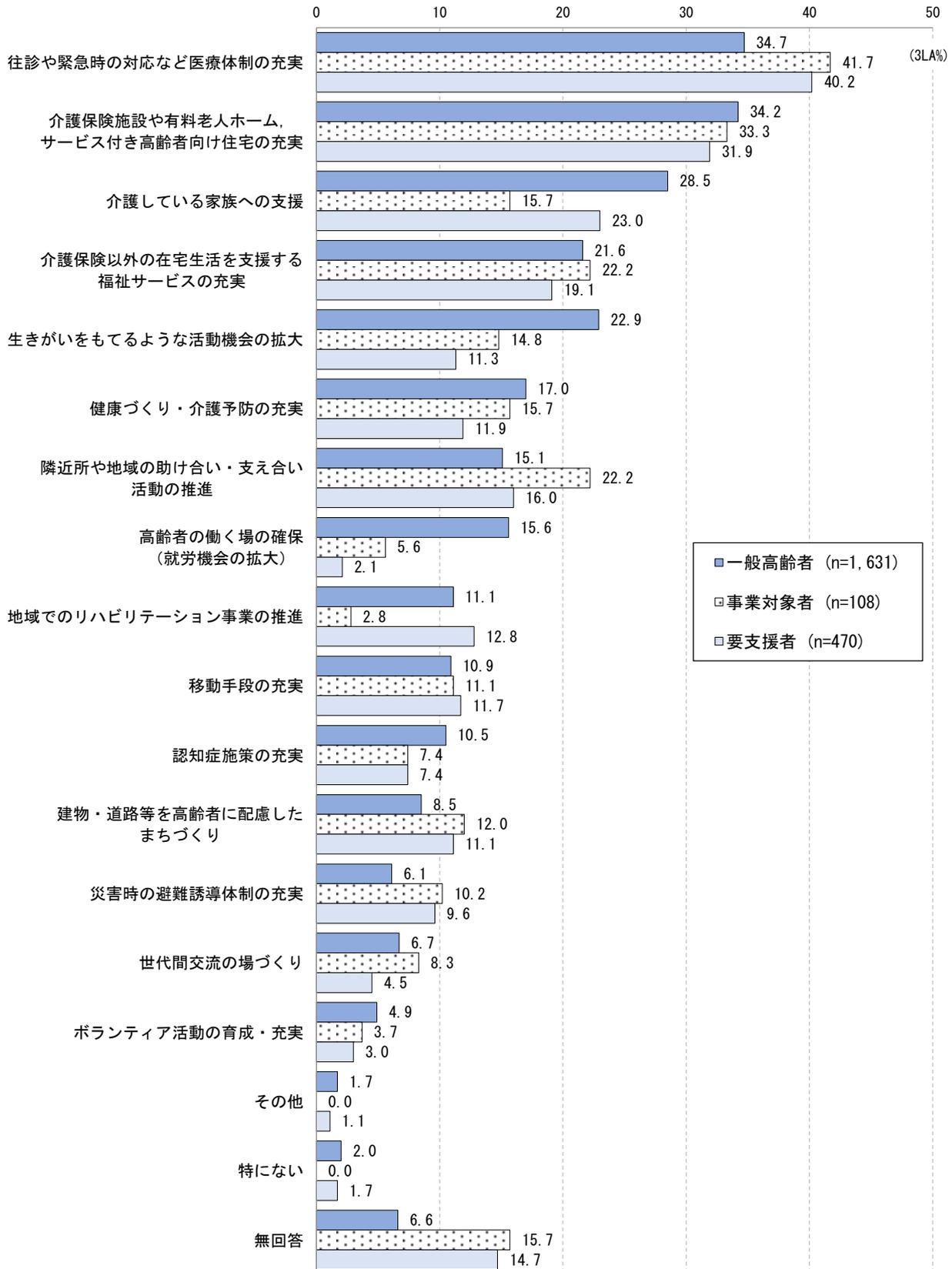
前回調査と比べると、「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」（前回 38.9%）、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」（前回 27.3%）が、ともに5ポイント以上減っている。



※「健康づくり・介護予防の充実」、「移動手段の充実」は新規項目（前回なし）

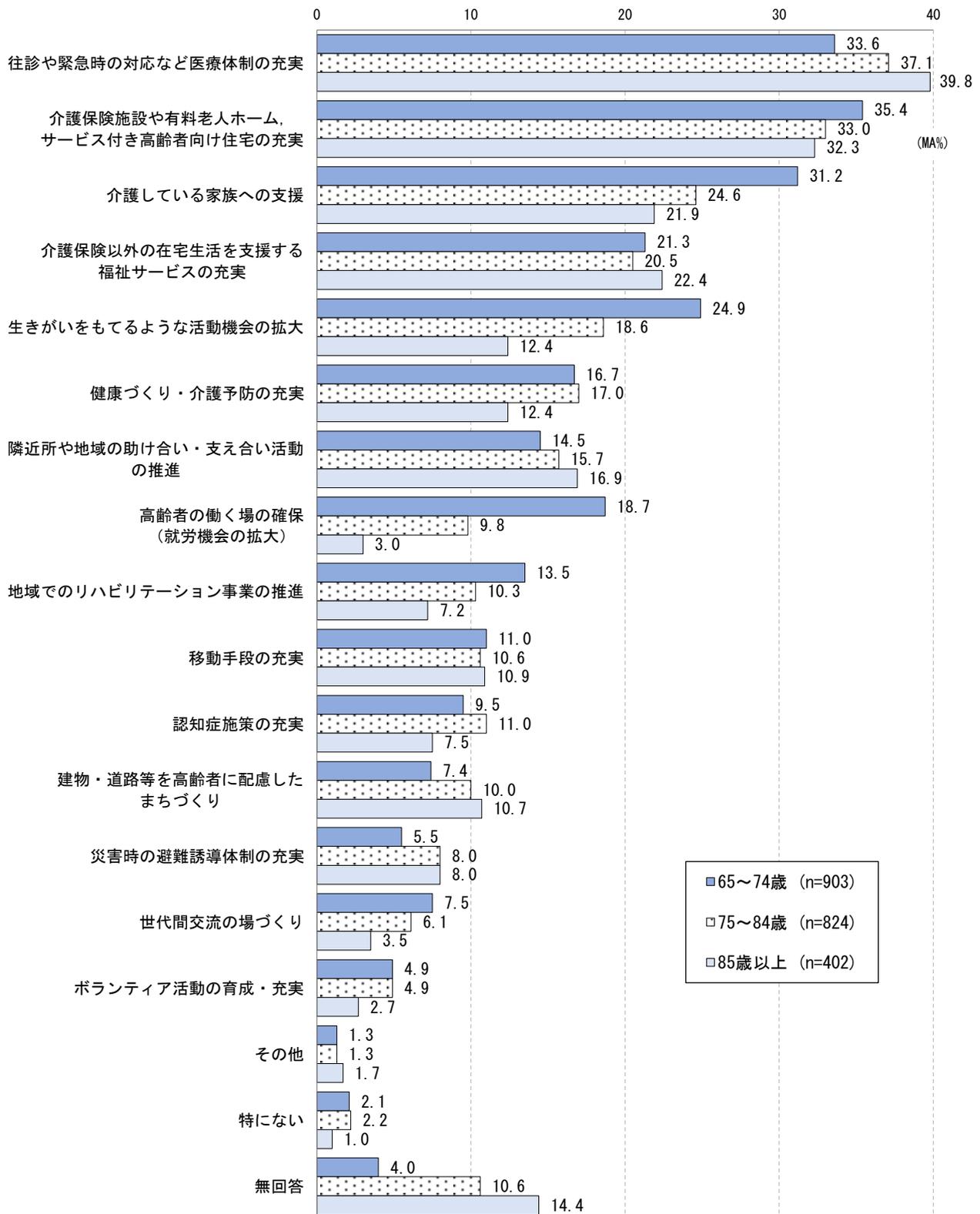
対象者区分別にみても、いずれも「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」(一般高齢者 34.7%、事業対象者 41.7%、要支援者 40.2%) が最も多く、次いで「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」(一般高齢者 34.2%、事業対象者 33.3%、要支援者 31.9%) となっている。

【対象者区分別 高齢者への支援に必要なこと】



年齢別にみると、65～74歳では「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」、75歳以上では「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が、それぞれ最も多くなっている。また、65歳以上において「介護している家族への支援」が31.2%、「生きがいをもてるような活動機会の拡大」が24.9%、「高齢者の働く場の確保（就労機会の拡大）」が18.7%と、75歳以上に比べて特に高くなっている。

【年齢別 高齢者への支援に必要なこと】

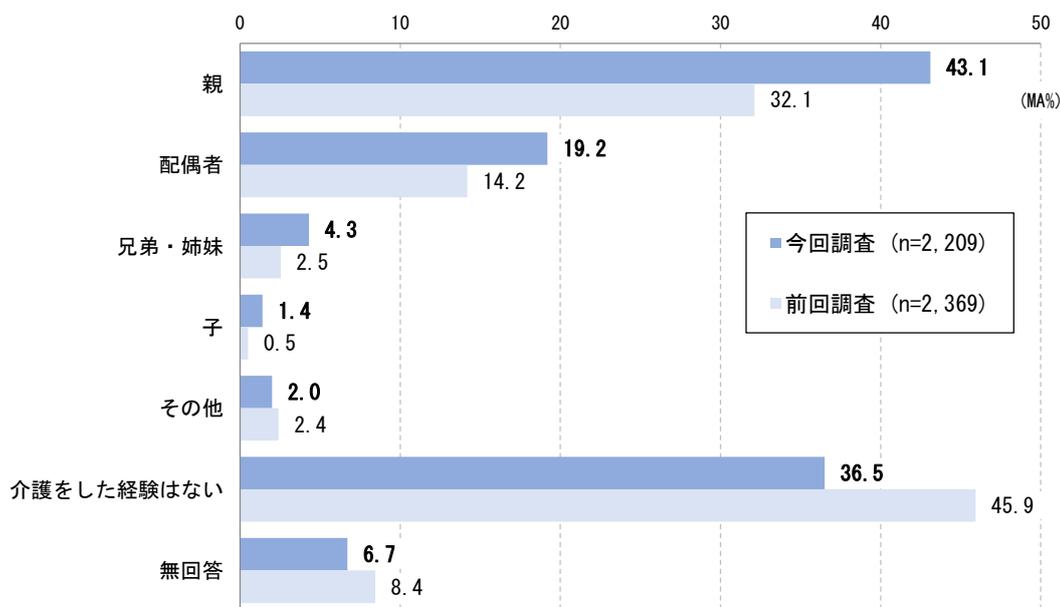


14 介護の経験について

(1) 介護経験の有無

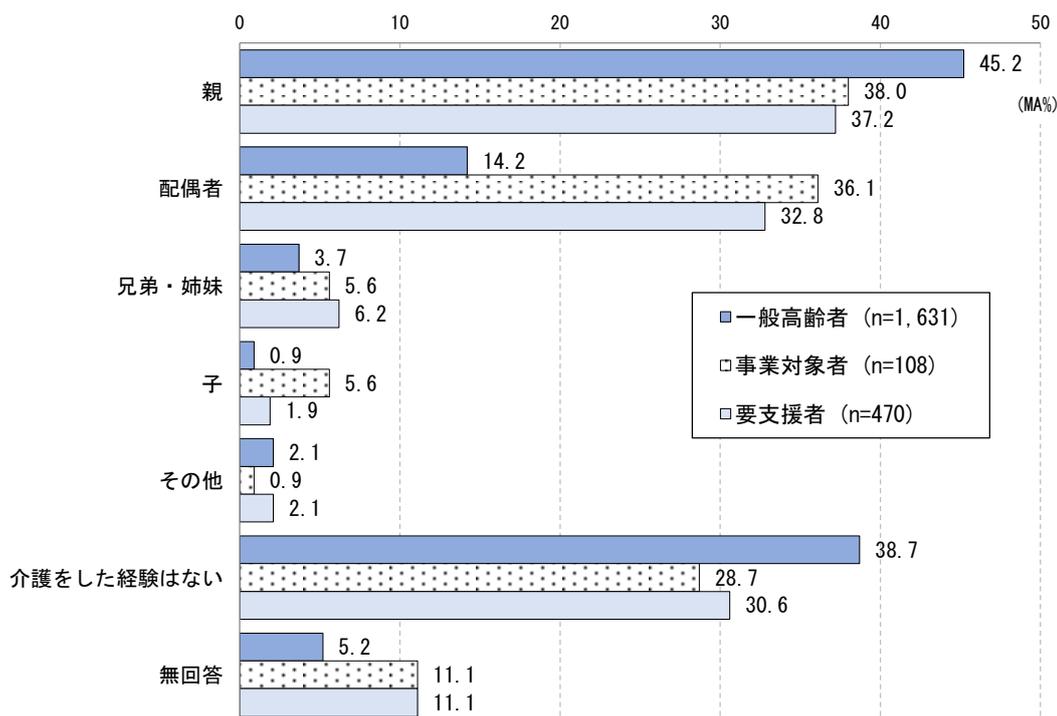
問 13(1) あなたはどなたかの介護をしたことがありますか (〇はいくつでも)

自身が介護をした経験があるという割合は、全体の5割台(56.7%)となっており、前回調査(45.6%)から11.1ポイント増えている。具体的に介護をした相手としては、「親」が43.1%と最も多く、次いで「配偶者」が19.2%となっている。



対象者区分別にみると、介護をした経験があるという割合は、一般高齢者で56.0%、事業対象者で60.2%、要支援者で58.3%となっている。また、具体的には、「親」が一般高齢者で45.2%、事業対象者で38.0%、要支援者で37.2%と、それぞれ最も多くなっている。

【対象者区分別 介護経験の有無】

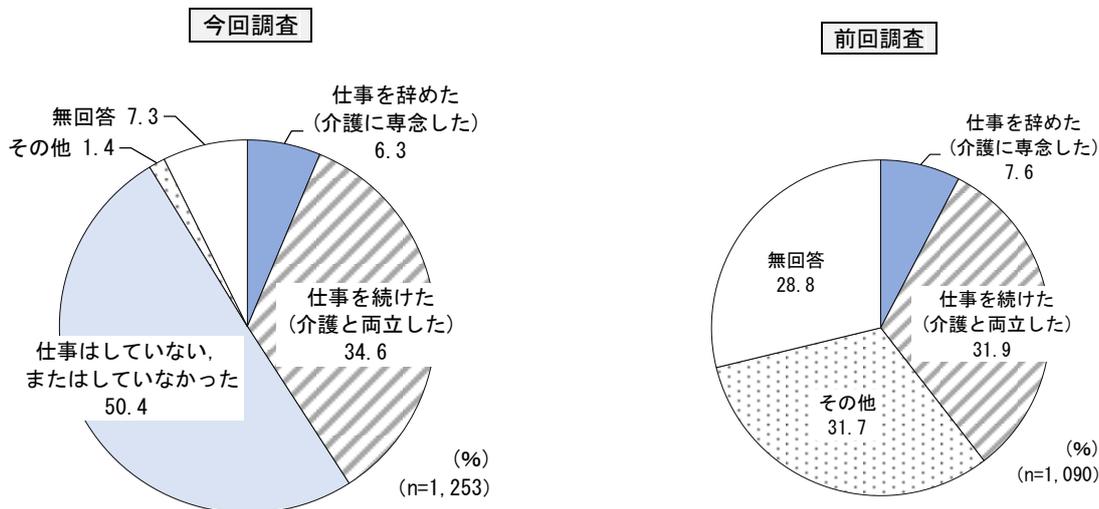


(2) 介護離職の状況

【問 13(1)で介護をしたことがある（「介護をした経験はない」以外のいずれか）とお答えの方】

問 13(1)-1 介護をしていた間に、介護を主な理由として仕事を辞めたことがありましたか

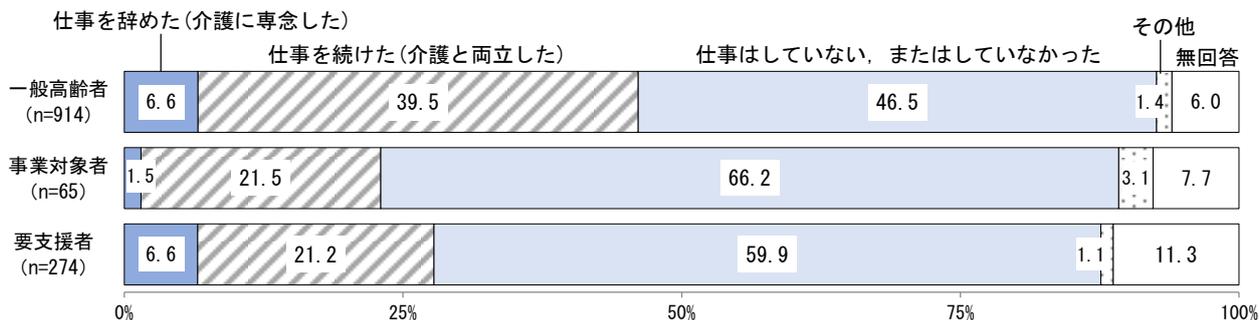
介護をした経験がある人の介護離職の状況としては、「仕事はしていない、またはしていなかった」が約半数（50.4%）を占めている。一方、「仕事を続けた（介護と両立した）」が34.6%に対し、「仕事を辞めた（介護に専念した）」は6.3%となっている。



※「仕事はしていない、またはしていなかった」は新規項目（前回なし）

対象者区分別にみると、「仕事を辞めた（介護に専念した）」が、一般高齢者で6.6%、事業対象者で1.5%、要支援者で6.6%となっている。

【対象者区分別 介護離職の状況】



Ⅱ-2 生活機能評価等に関する分析

本調査は、地域における高齢者の課題や必要な支援・サービス等をよりの確に把握するため、国が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を取り入れており、介護予防事業の「基本チェックリスト」や「手段的自立度（IADL）」などの指標の判定に関する調査項目が設定されている。

本報告書の『生活機能評価等に関する分析』では、これらの調査項目を使用し、各指標の判定（リスク評価等）を行っている。

1 生活機能評価

(1) 運動器の機能低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を『運動器の機能低下』のリスク該当者と判定している。

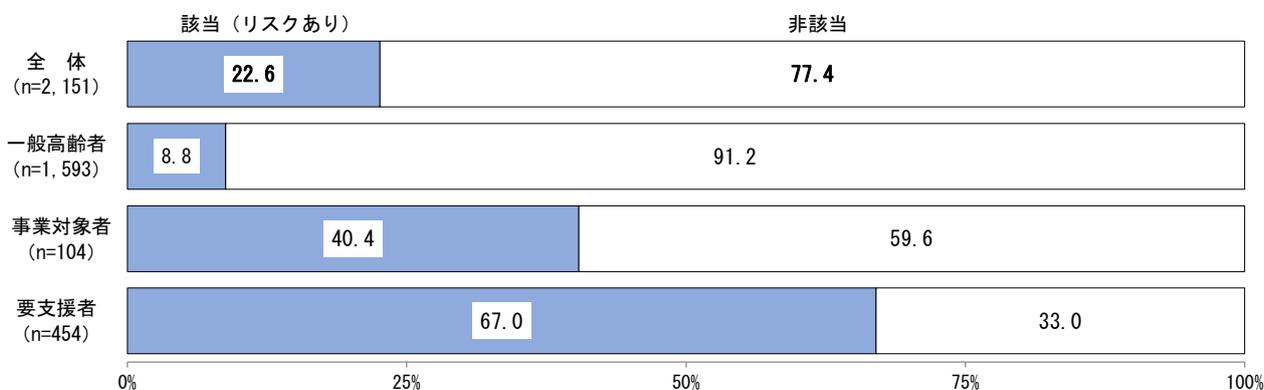
≪判定設問≫

問番号	設問	該当する選択肢
問2	(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
	(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
	(3) 15分位続けて歩いていますか	3. できない
	(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
	(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

≪リスク該当状況≫ ※無回答により判定・評価困難な場合は、調査数（n数）から除外して集計している。（以下、同様）

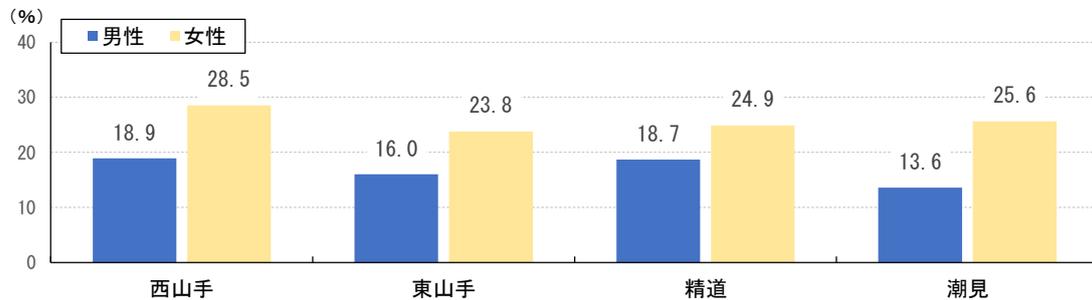
国の手引きに基づく『運動器の機能低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は2割台（22.6%）となっている。

対象者区分別にみると、該当者は、一般高齢者で8.8%、事業対象者で40.4%、要支援者で67.0%となっている。



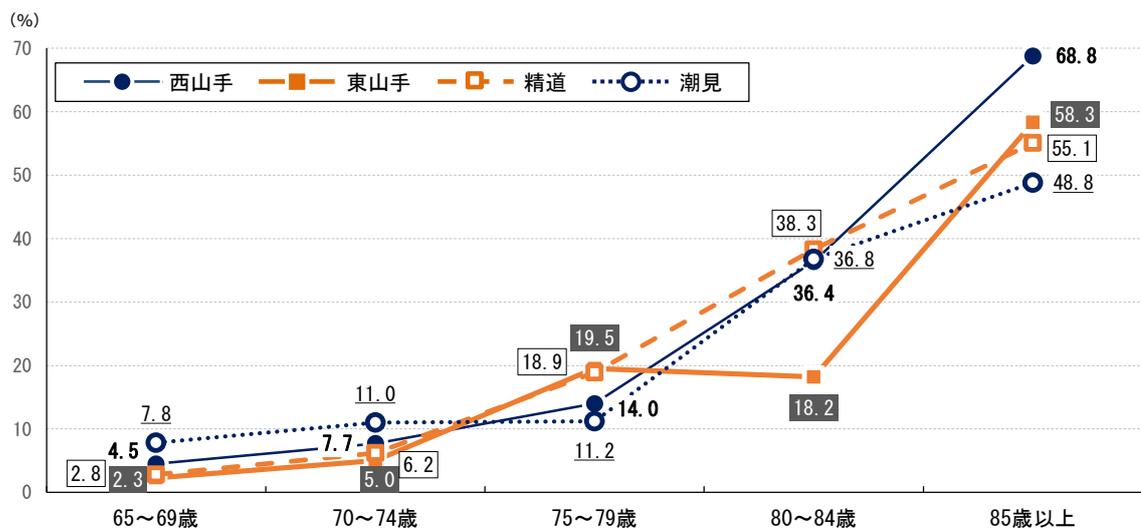
『運動器の機能低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に性別にみると、いずれの地域も女性のほうが高くなっており、西山手の女性で28.5%と最も高い。

【居住地域・性別 生活機能評価『運動器の機能低下』※「該当者(リスクあり)」の割合



『運動器の機能低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、西山手の85歳以上で68.8%と最も高くなっている。

【居住地域・年齢別 生活機能評価『運動器の機能低下』※「該当者(リスクあり)」の割合



(2) 転倒リスク

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『転倒リスク』の該当者と判定している。

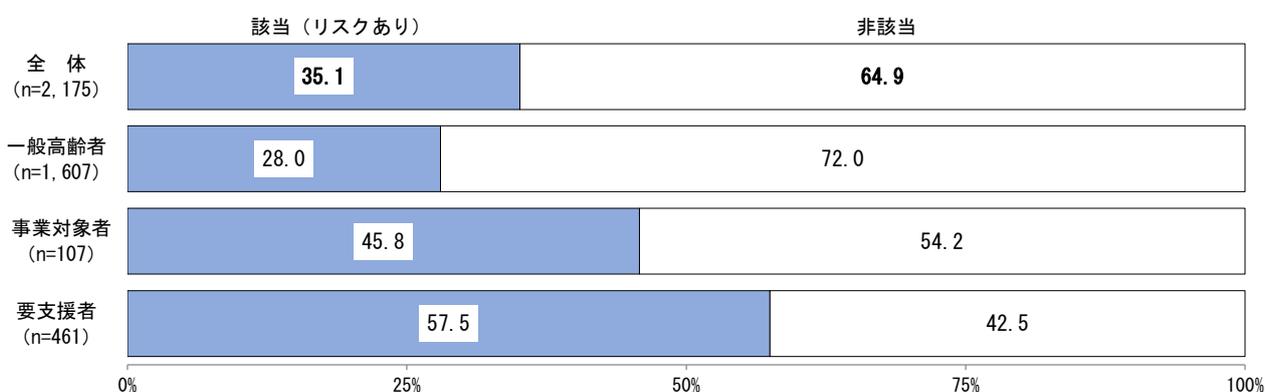
《判定設問》

問番号	設問	該当する選択肢
問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

《リスク該当状況》

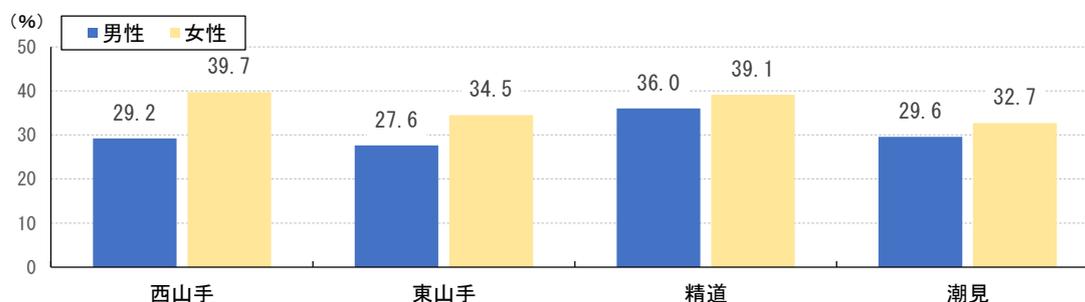
国の手引きに基づく『転倒リスク』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は3割台（35.1%）となっている。

対象者区分別にみると、該当者は、一般高齢者で28.0%、事業対象者で45.8%、要支援者で57.5%となっている。

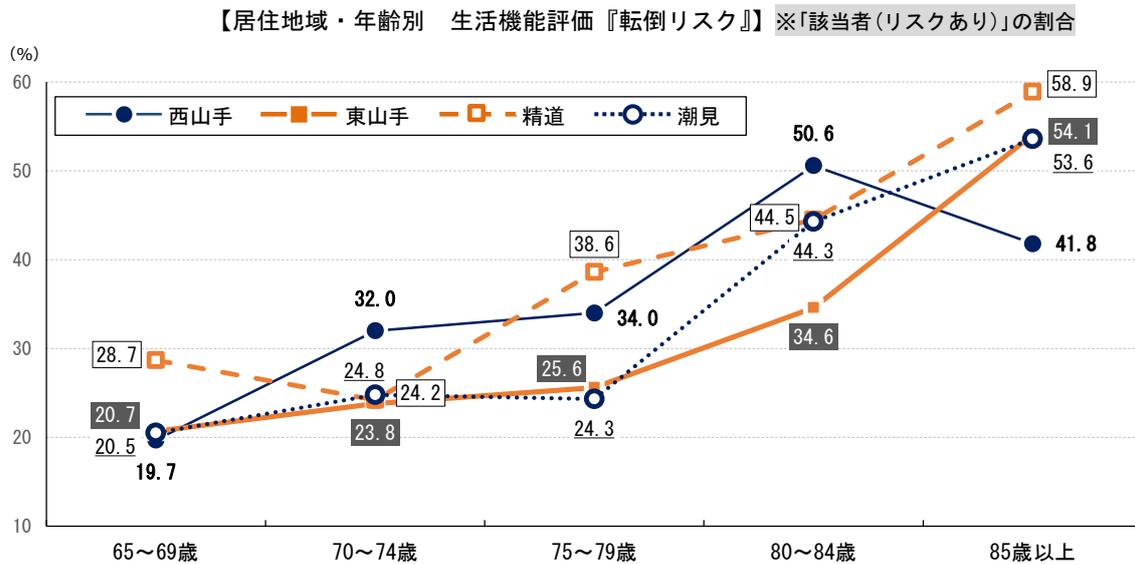


『転倒リスク』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に性別にみると、男性では精道で36.0%、女性では西山手で39.7%と、それぞれ最も高くなっている。

【居住地域・性別 生活機能評価『転倒リスク』】※「該当者(リスクあり)」の割合



『転倒リスク』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、精道の85歳以上で58.9%と最も高くなっている。また、西山手では80～84歳で50.6%と最も高い。



(3) 閉じこもり傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『閉じこもり傾向』のリスク該当者と判定している。

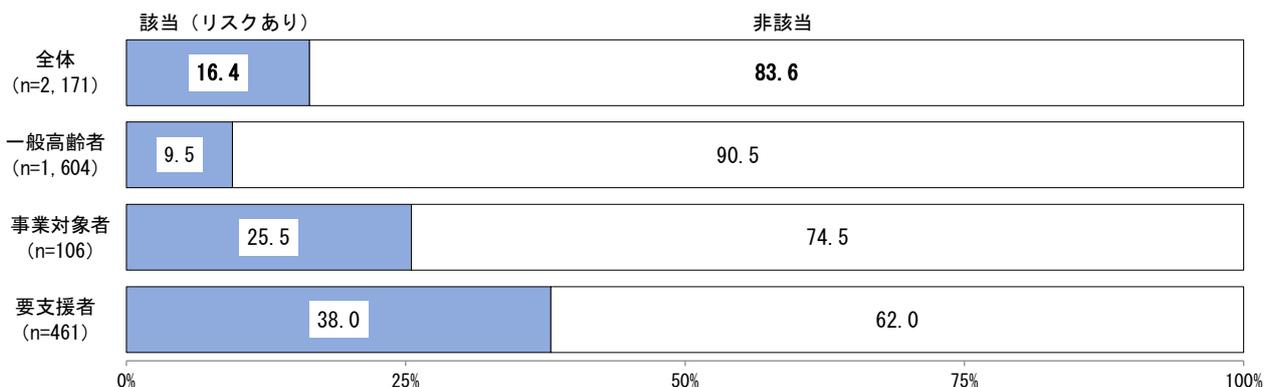
≪判定設問≫

問番号	設問	該当する選択肢
問2 (6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

≪リスク該当状況≫

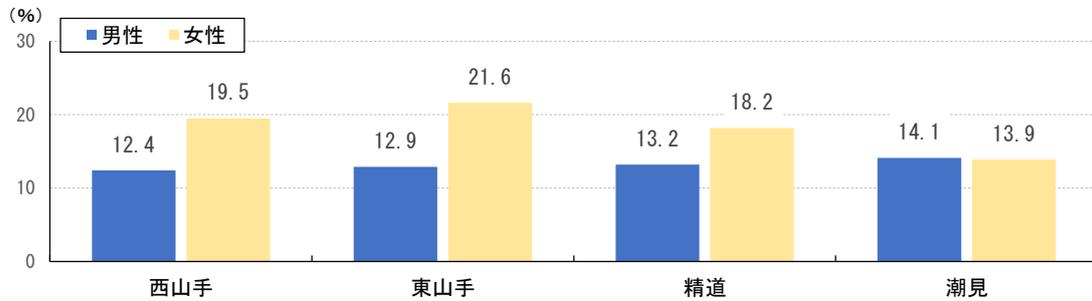
国の手引きに基づく『閉じこもり傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は1割台（16.4%）となっている。

対象者区分別にみると、該当者は、一般高齢者で9.5%、事業対象者で25.5%、要支援者で38.0%となっている。



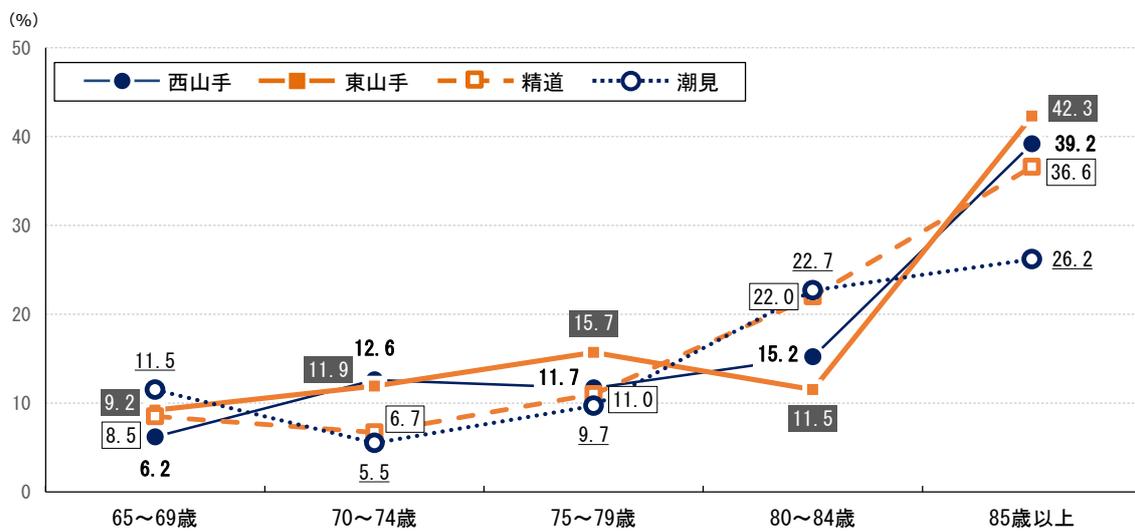
『閉じこもり傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に性別にみると、男性では潮見で14.1%、女性では東山手で21.6%と、それぞれ最も高くなっている。また、潮見以外のいずれの地域も女性のほうが男性よりも5ポイント以上高い割合となっている。

【居住地域・性別 生活機能評価『閉じこもり傾向』】※「該当者(リスクあり)」の割合



『閉じこもり傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、いずれの地域も85歳以上で最も高くなっているものの、東山手で42.3%、西山手で39.2%、精道で36.6%に対し、潮見では26.2%と低い。

【居住地域・年齢別 生活機能評価『閉じこもり傾向』】※「該当者(リスクあり)」の割合



(4) 低栄養の傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を『低栄養の傾向』のリスク該当者と判定している。

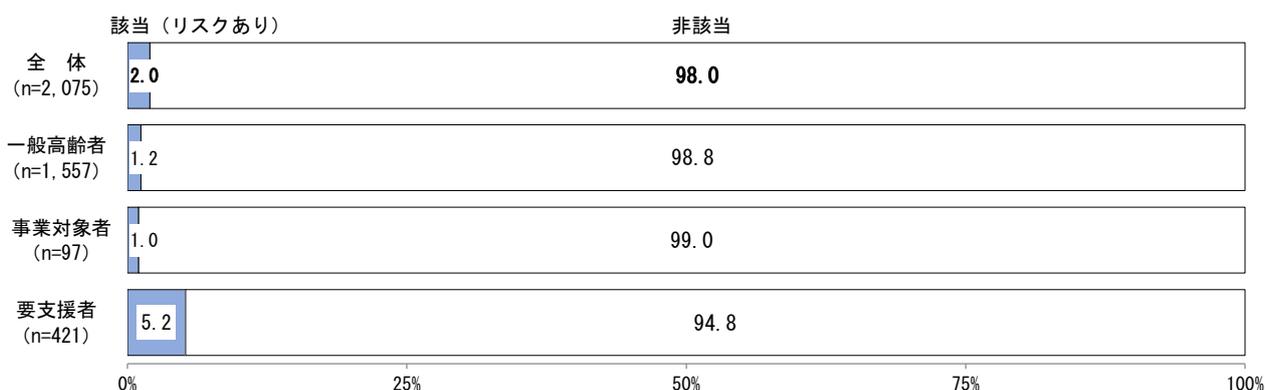
《判定設問》

問番号	設問	該当する選択肢
問3	(1) 身長・体重を記入ください	BMI 18.5 未満
	(2) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

《リスク該当状況》

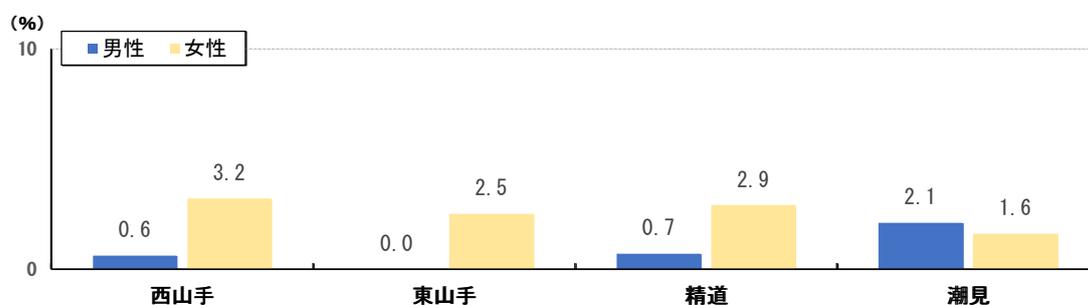
国の手引きに基づく『低栄養の傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は2.0%にとどまっている。

対象者区分別にみると、該当者は、一般高齢者で1.2%、事業対象者で1.0%、要支援者で5.2%となっている。

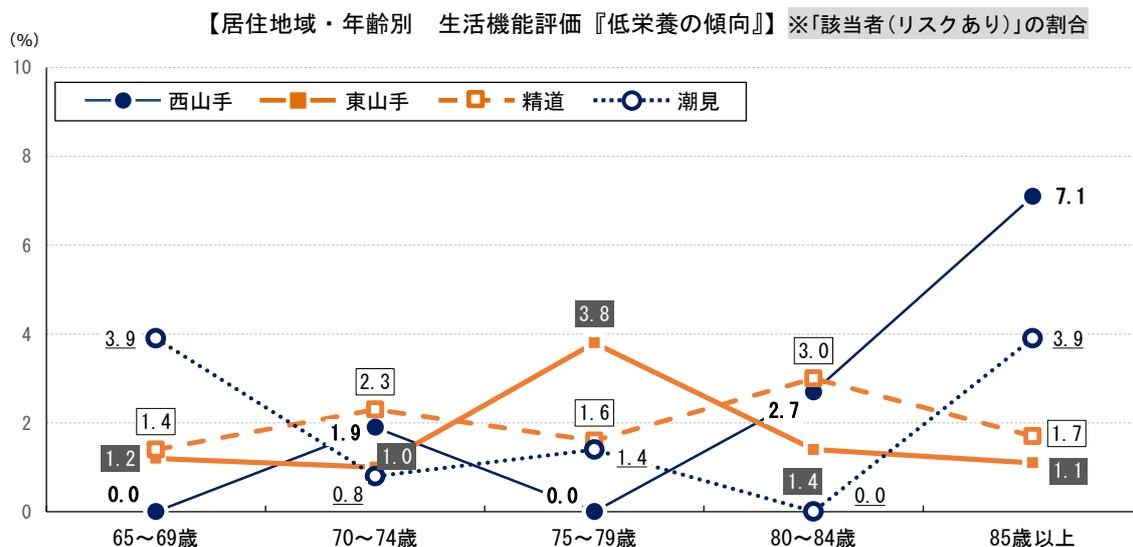


『低栄養の傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に性別にみると、男性では潮見で2.1%、女性では西山手で3.2%と、それぞれ最も高くなっている。

【居住地域・性別 生活機能評価『低栄養の傾向』】※「該当者(リスクあり)」の割合



『低栄養の傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、西山手の85歳以上で7.1%と最も高くなっている。



(5) 口腔機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を『口腔機能の低下』のリスク該当者と判定している。

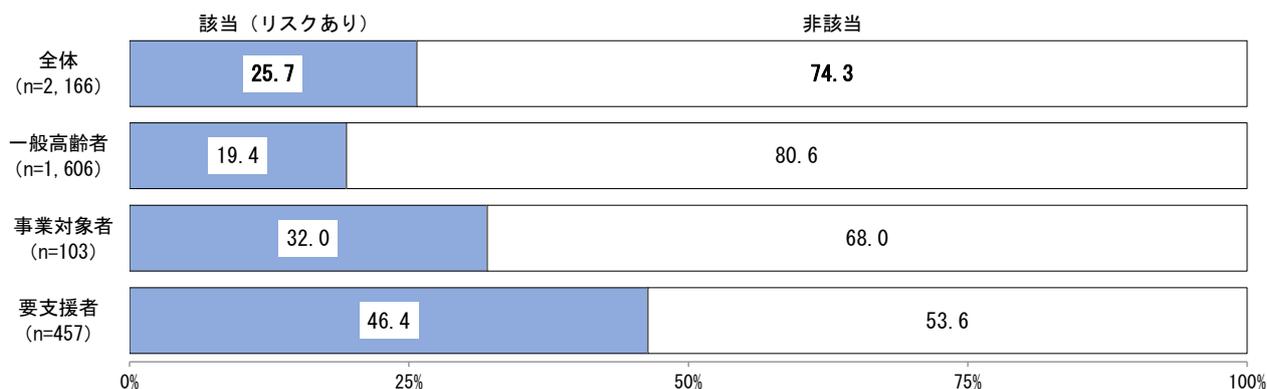
《判定設問》

問番号	設問	該当する選択肢
問3	(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
	(4) お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
	(5) 口の渇きが気になりますか	1. はい

《リスク該当状況》

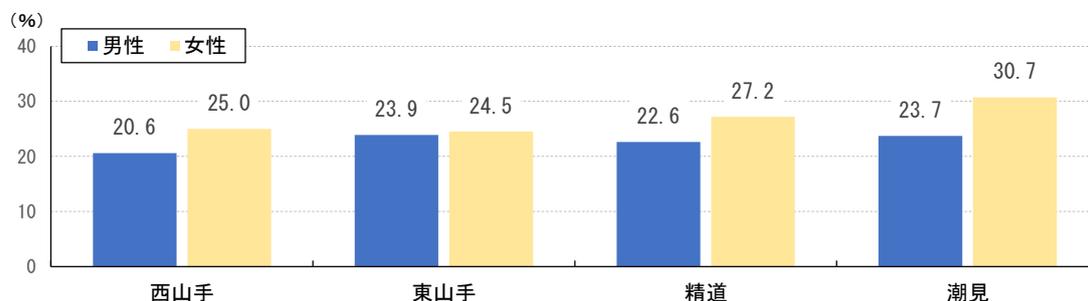
国の手引きに基づく『口腔機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は2割台（25.7%）となっている。

対象者区分別にみると、該当者は、一般高齢者で19.4%、事業対象者で32.0%、要支援者で46.4%となっている。



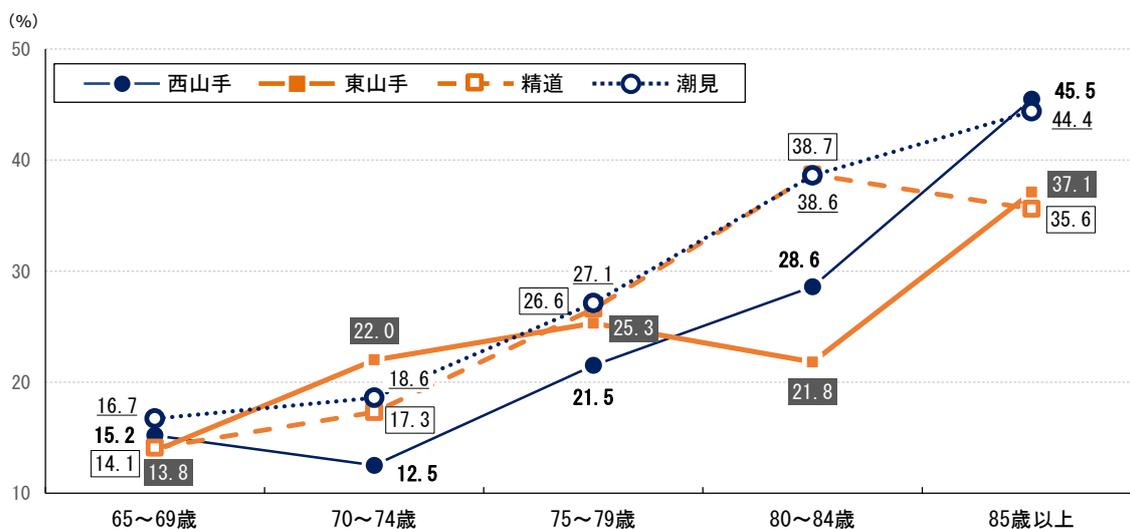
『口腔機能の低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に性別にみると、男性では東山手で23.9%、女性では潮見で30.7%と、それぞれ最も高くなっている。

【居住地域・性別 生活機能評価『口腔機能の低下』】※「該当者(リスクあり)」の割合



『口腔機能の低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、精道では80～84歳で38.7%と最も高いものの、そのほかの地域ではいずれも85歳以上で最も高くなっており、特に西山手で45.5%、潮見で44.4%と高い。

【居住地域・年齢別 生活機能評価『口腔機能の低下』】※「該当者(リスクあり)」の割合



(6) 認知機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『認知機能の低下』のリスク該当者と判定している。

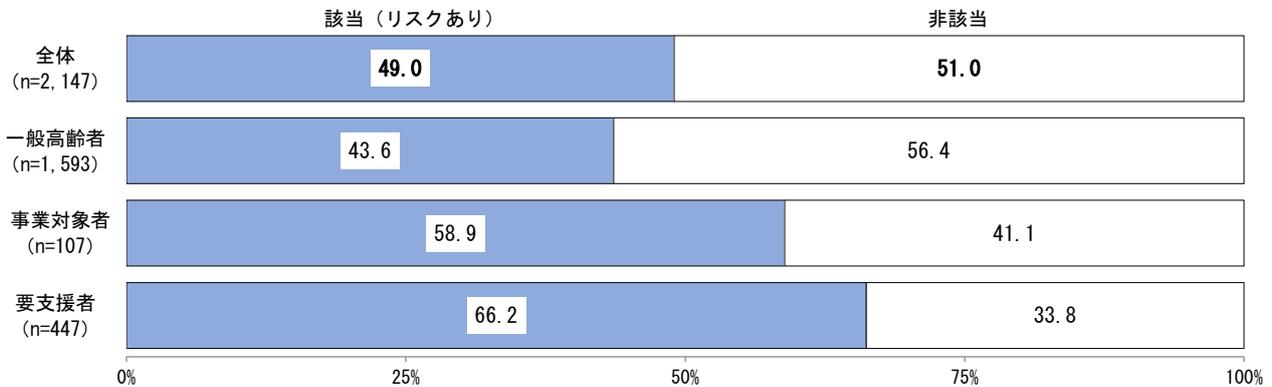
《判定設問》

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(1) 物忘れが多いと感じますか	1. はい

《リスク該当状況》

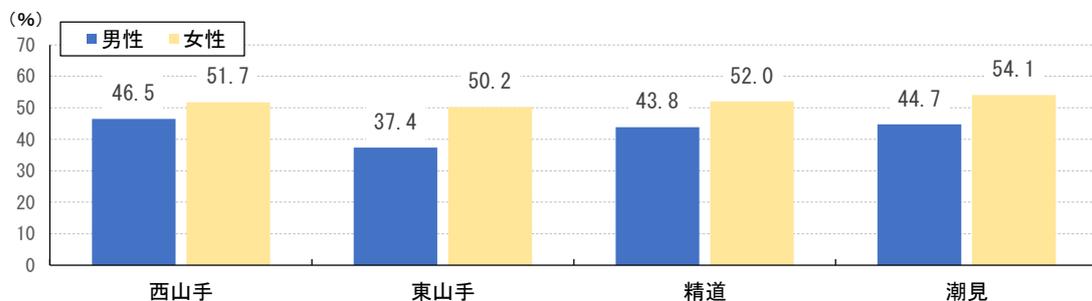
国の手引きに基づく『認知機能の低下』の判定結果をみると、該当者(リスクあり)は約半数(49.0%)となっている。

対象者区分別にみると、一般高齢者で43.6%、事業対象者で58.9%、要支援者で66.2%となっている。

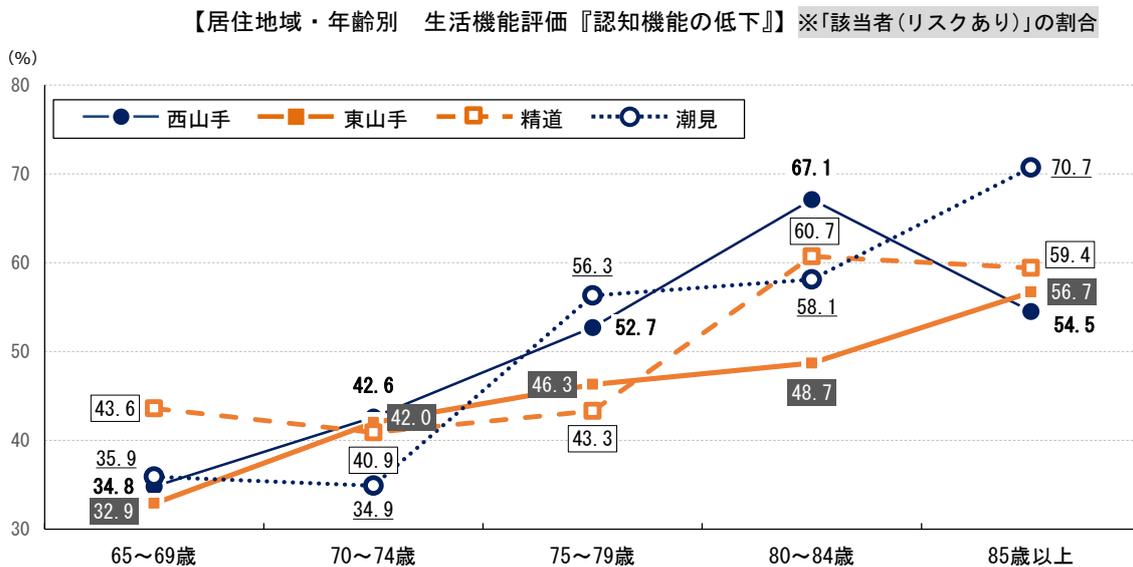


『認知機能の低下』の該当者(リスクあり)の割合について、居住地域毎に性別にみると、男性では西山手で46.5%、女性では潮見で54.1%と、それぞれ最も高くなっている。

【居住地域・性別 生活機能評価『認知機能の低下』】※「該当者(リスクあり)」の割合



『認知機能の低下』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、潮見の85歳以上で70.7%と最も高くなっている。また、これに続くのが、西山手の80～84歳で67.1%となっている。



(7) うつ傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『うつ傾向』のリスク該当者と判定している。

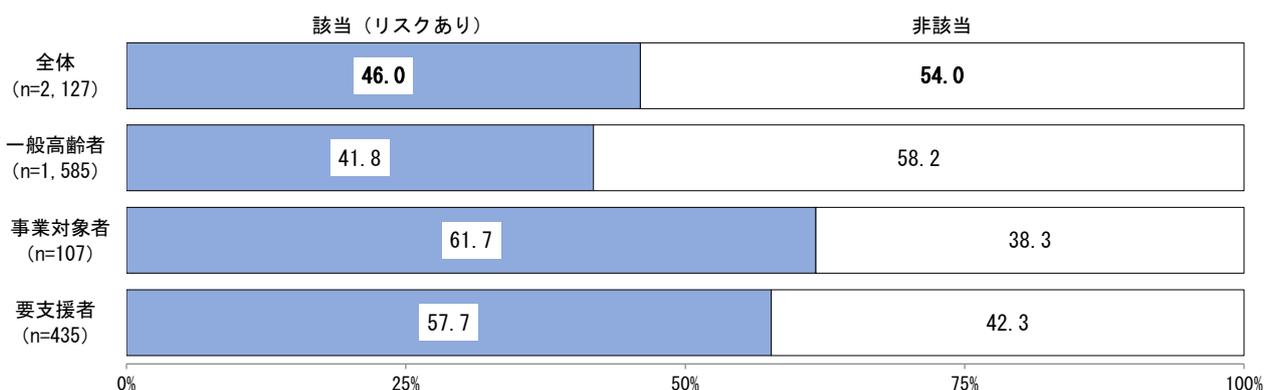
《判定設問》

問番号	設問	該当する選択肢
問7	(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
	(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

《リスク該当状況》

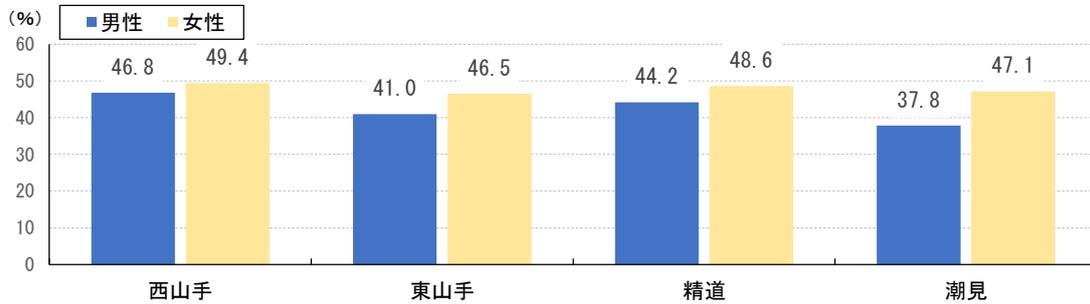
国の手引きに基づく『うつ傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は4割台（46.0%）となっている。

対象者区分別にみると、該当者は、一般高齢者で41.8%、事業対象者で61.7%、要支援者で57.7%となっている。



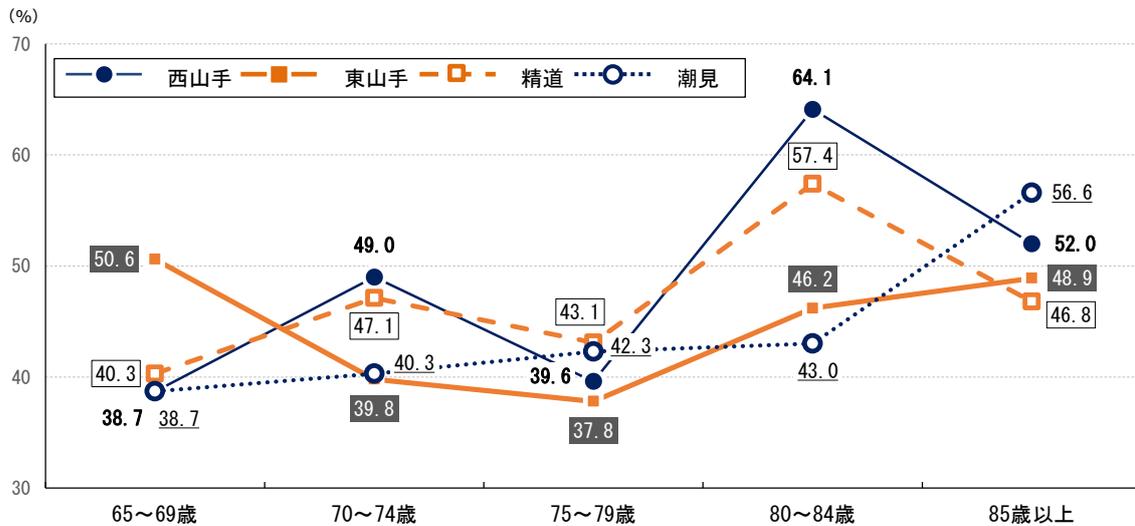
『うつ傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に性別にみると、男女ともに西山手で最も高くなっており、男性で46.8%、女性で49.4%となっている。

【居住地域・性別 生活機能評価『うつ傾向』】※「該当者(リスクあり)」の割合



『うつ傾向』の該当者（リスクあり）の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、西山手の80～84歳で64.1%と最も高く、次いで精道の80～84歳で57.4%となっている。また、東山手の65～69歳で50.6%と、他の地域に比べて高い割合となっている。

【居住地域・年齢別 生活機能評価『うつ傾向』】※「該当者(リスクあり)」の割合



2 日常生活評価

(1) 手段的自立度 (IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問（5項目）に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：IADL）が低下している人の状況を把握する。

評価は、調査票の以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を“1点”として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」（※4点以下を低下者）と評価している。

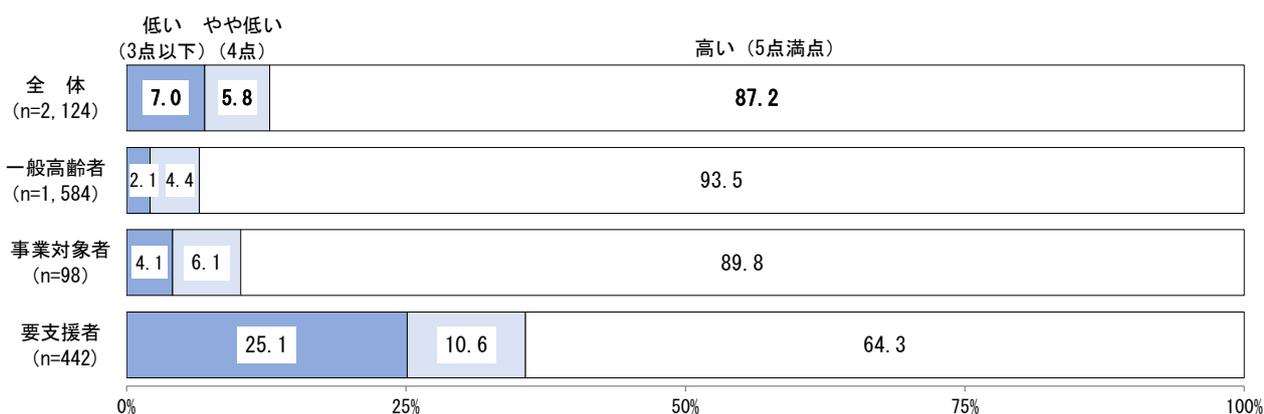
≪評価設問≫

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(4) バスや電車を使って1人で外出していますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(6) 自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(7) 自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）
	(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している（1点） 2. できるけどしていない（1点）

≪該当状況≫

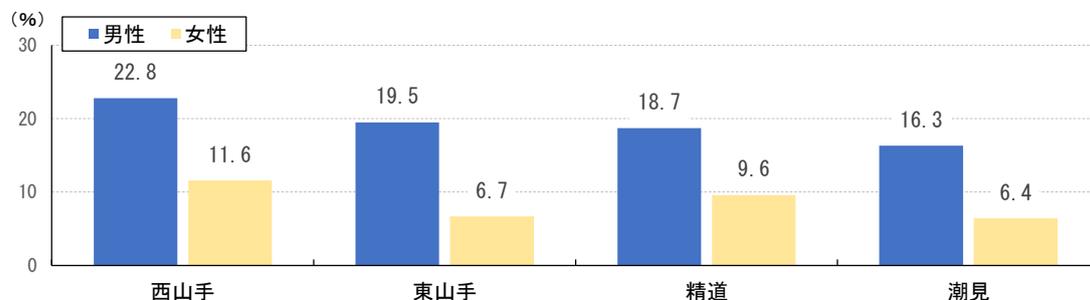
老研式活動能力指標に基づく『手段的自立度 (IADL)』の評価結果をみると、低下者（「低い」「やや低い」の計）は1割台（12.8%）となっている。

対象者区分別にみると、低下者は、一般高齢者で6.5%，事業対象者で10.2%，要支援者で35.7%となっている。



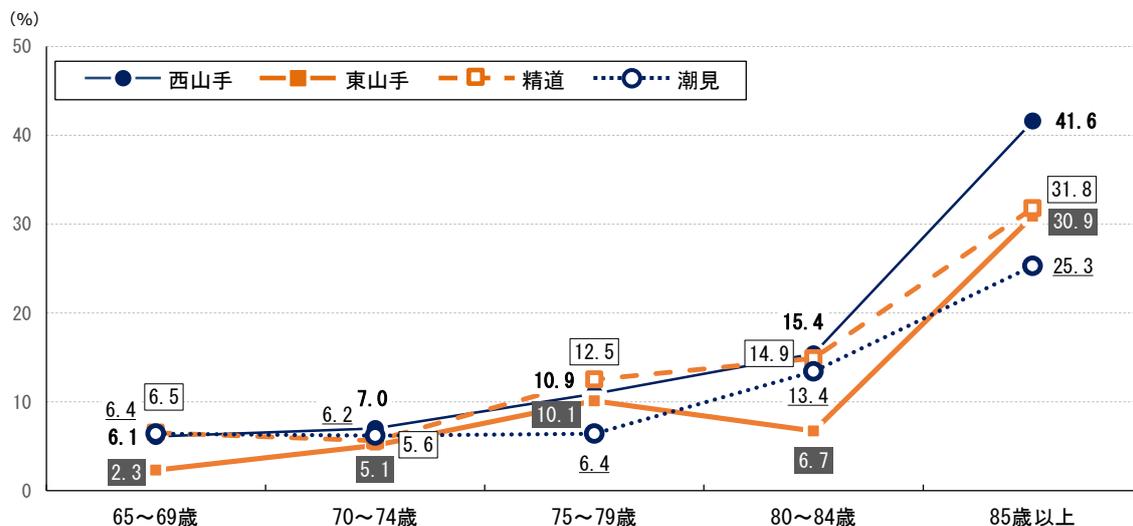
『手段的自立度（IADL）』の評価結果における低下者の割合について、居住地域毎に性別にみると、いずれの地域も男性のほうが女性よりも10ポイント前後高い割合となっており、西山手の男性で22.8%と最も高い。

【居住地域・性別 日常生活評価『手段的自立度（IADL）』】※「低下者」の割合



『手段的自立度（IADL）』の評価結果における低下者の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、いずれの地域も84歳までは1割台以下で推移しているのに対し、85歳以上では2～4割台と高く、西山手の85歳以上で41.6%と最も高くなっている。

【居住地域・年齢別 日常生活評価『手段的自立度（IADL）』】※「低下者」の割合



3 社会参加評価

(1) 知的能動性

老研式活動能力には、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力に関する設問が4問あり、『知的能動性』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握する。

評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」(※3点以下を低下者)と評価している。

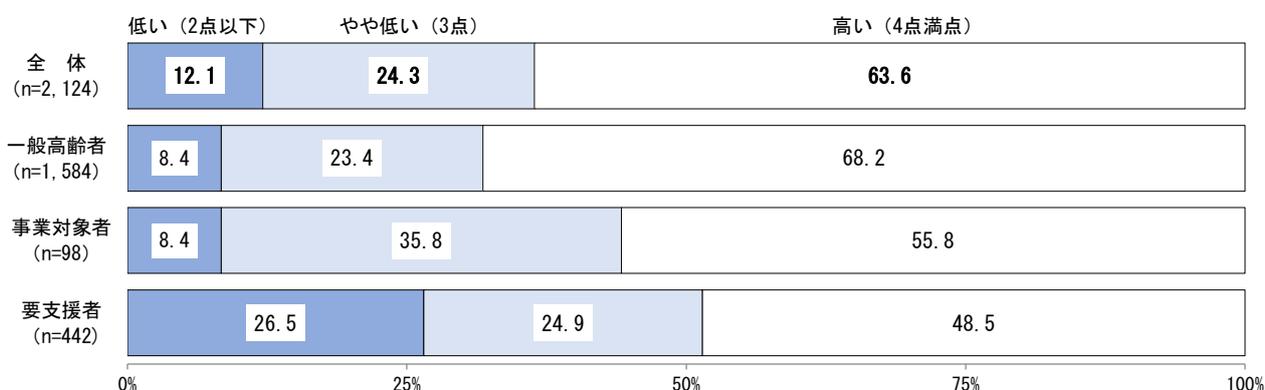
《評価設問》

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(9) 年金などの書類が書けますか	1. はい(1点)
	(10) 新聞を読んでいますか	1. はい(1点)
	(11) 本や雑誌を読んでいますか	1. はい(1点)
	(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい(1点)

《該当状況》

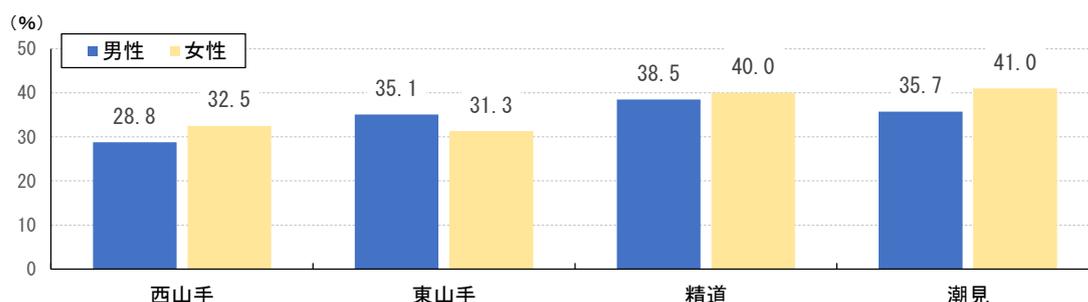
老研式活動能力指標に基づく『知的能動性』の評価結果をみると、低下者(「やや低い」「低い」の計)は3割台(36.4%)となっている。

対象者区分別にみると、低下者は、一般高齢者で31.8%、事業対象者で44.2%、要支援者で51.5%となっている。

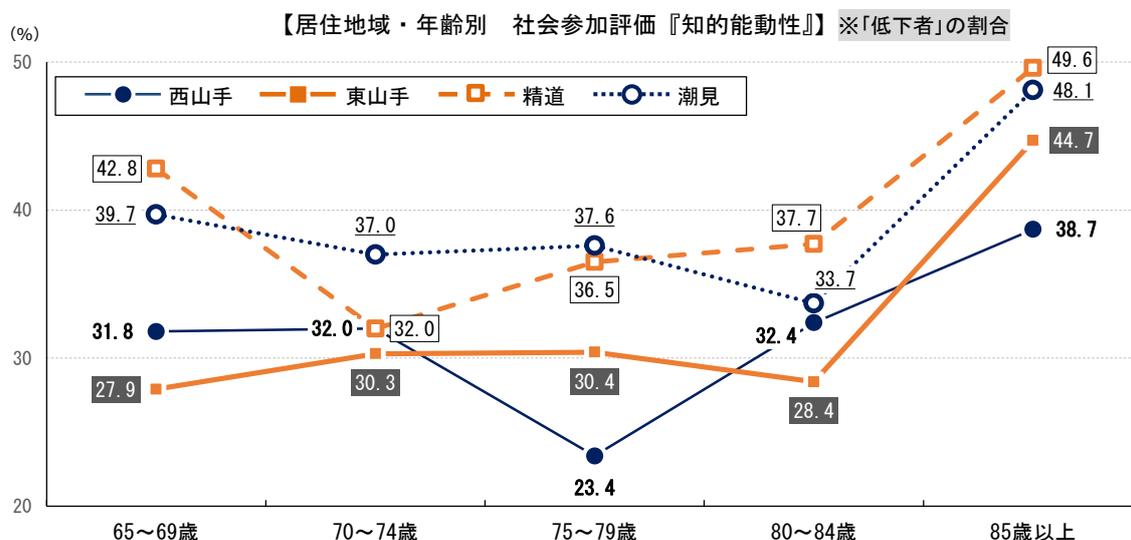


『知的能動性』の評価結果における低下者の割合について、居住地域毎に性別にみると、男性では精道で38.5%、女性では潮見で41.0%と、それぞれ最も高くなっている。

【居住地域・性別 社会参加評価『知的能動性』※「低下者」の割合



『知的能動性』の評価結果における低下者の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、いずれの地域も85歳以上で最も高くなっており、特に精道で49.6%、潮見で48.1%と高い。また、精道の65～69歳で42.8%、潮見の65～69歳で39.7%と、84歳以下では高い割合となっている。



(2) 社会的役割

老研式活動能力には、地域で社会的な役割を果たす能力に関する設問が4問あり、『社会的役割』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握する。

評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“1点”として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」(※3点以下を低下者)と評価している。

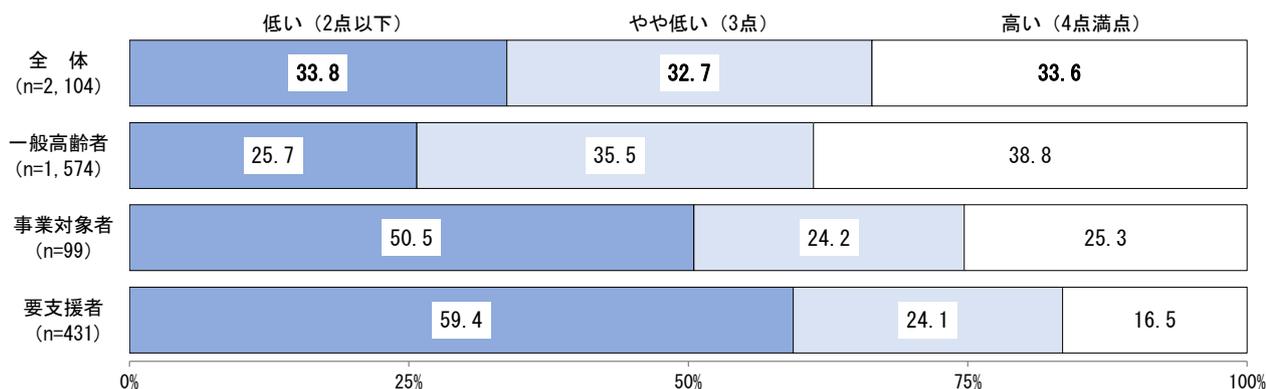
《評価設問》

問番号	設問	該当する選択肢
問4	(14) 友人の家を訪ねていますか	1. はい (1点)
	(15) 家族や友人の相談にのっていますか	1. はい (1点)
	(16) 病人を見舞うことができますか	1. はい (1点)
	(17) 若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい (1点)

《該当状況》

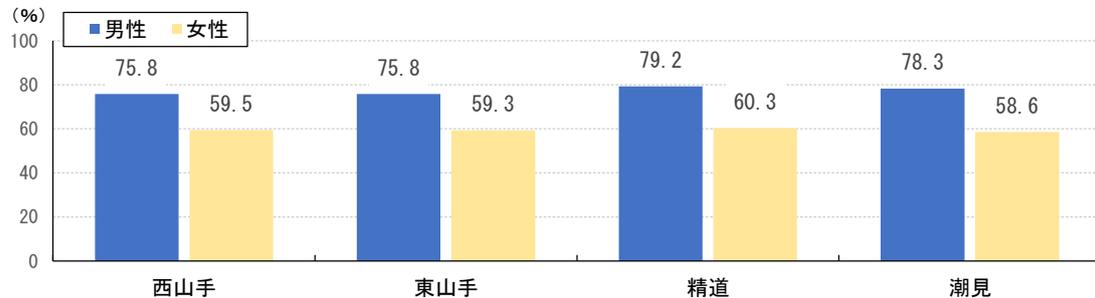
老研式活動能力指標に基づく『社会的役割』の評価結果をみると、低下者(「やや低い」「低い」の計)は6割台(66.4%)となっている。

対象者区分別にみると、低下者は、一般高齢者で61.2%、事業対象者で74.7%、要支援者で83.5%となっている。



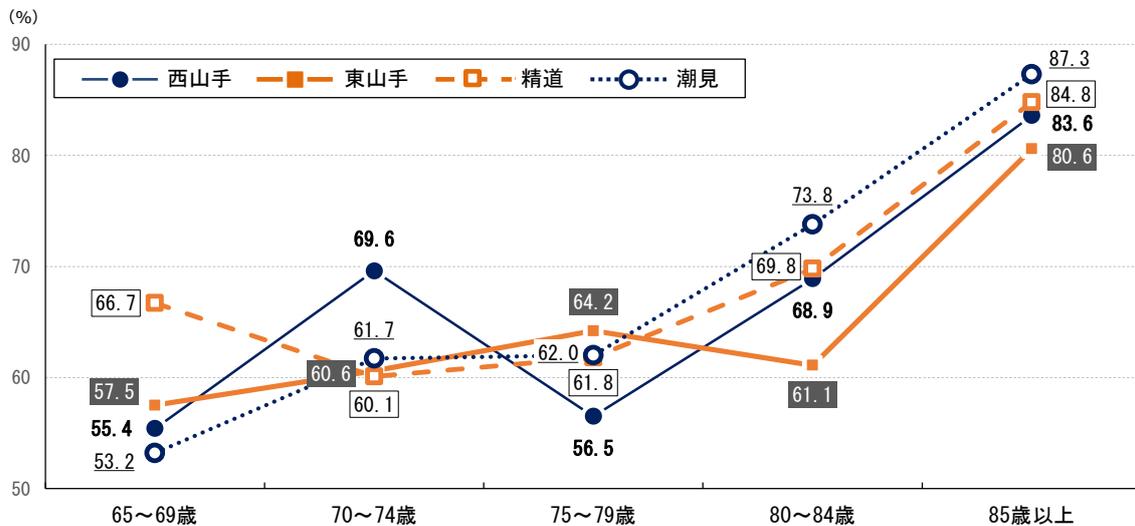
『社会的役割』の評価結果における低下者の割合について、居住地域毎に性別にみると、いずれの圏域も男性のほうが女性よりも15～20ポイント高い割合となっており、精道の男性で79.2%と最も高い。

【居住地域・性別 社会参加評価『社会的役割』】※「低下者」の割合



『社会的役割』の評価結果における低下者の割合について、居住地域毎に年齢別にみると、いずれの地域も85歳以上で8割台と最も高くなっている。また、65～69歳で精道が66.7%、70～74歳で西山手が69.6%と、それぞれ他の地域に比べて高い割合となっている。

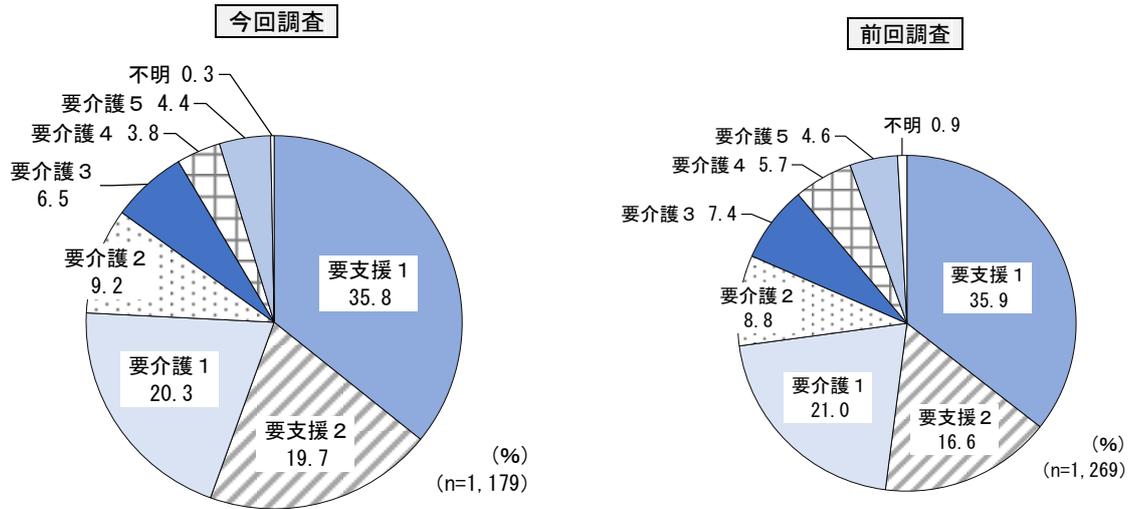
【居住地域・年齢別 社会参加評価『社会的役割』】※「低下者」の割合



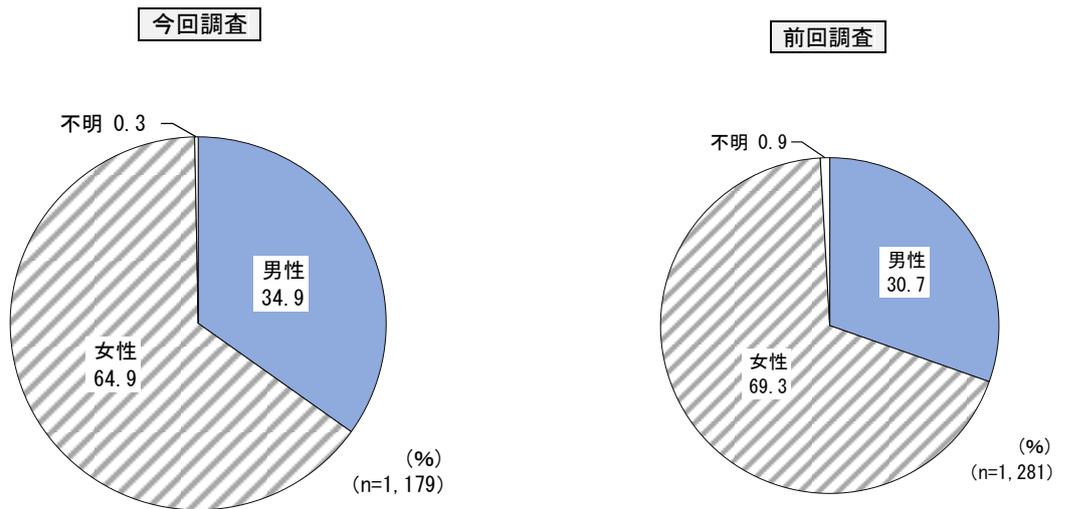
Ⅱ-3 在宅介護実態調査

1 基本属性

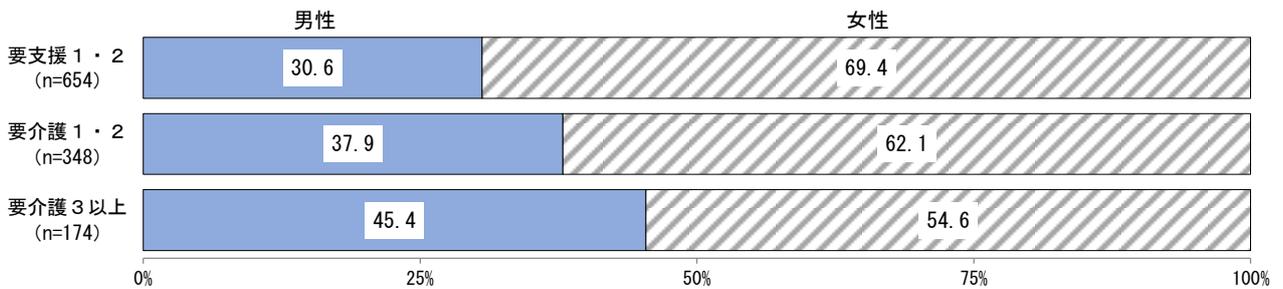
(1) 要介護度



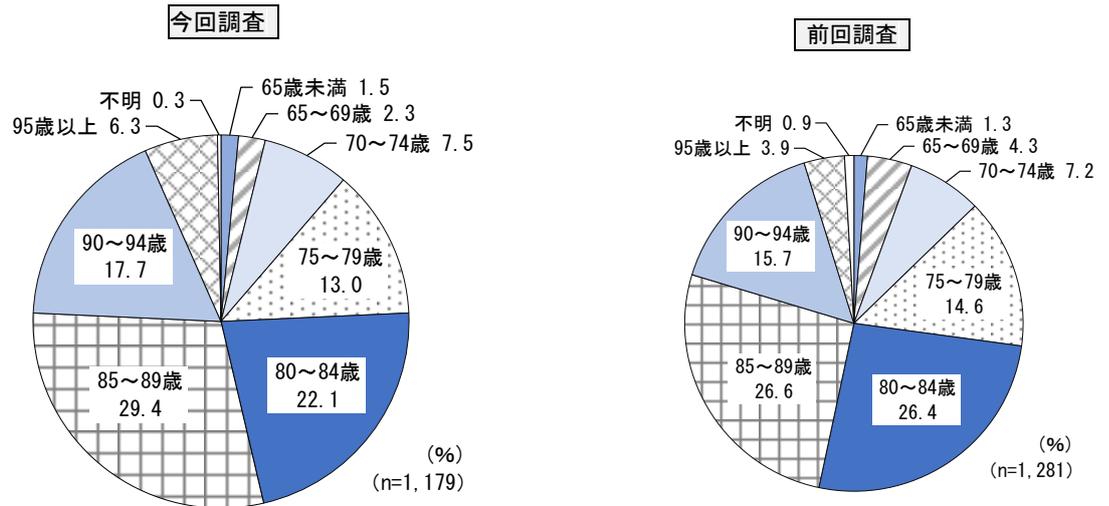
(2) 性別



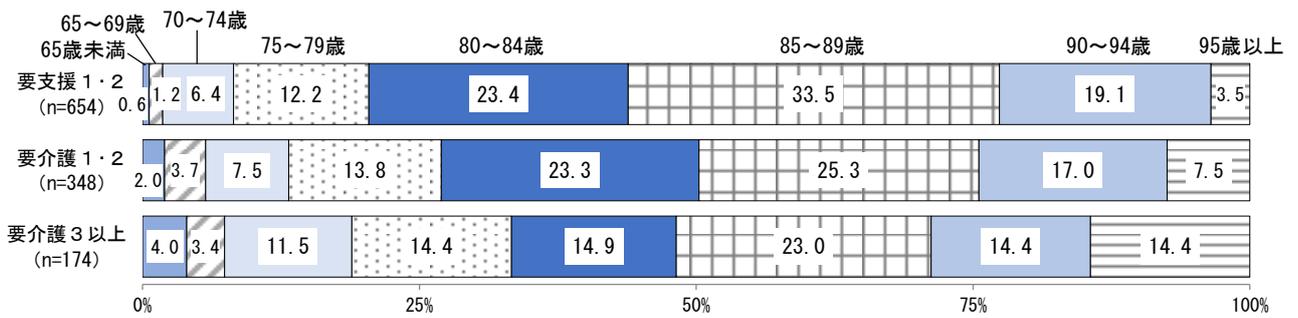
【要介護度別 性別】



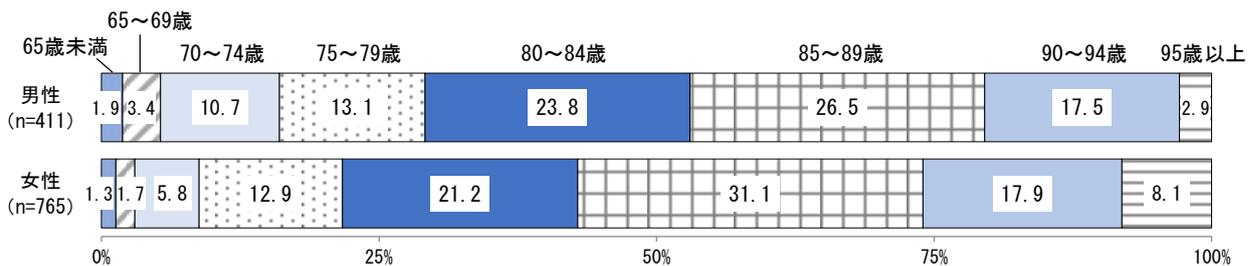
(3) 年齢



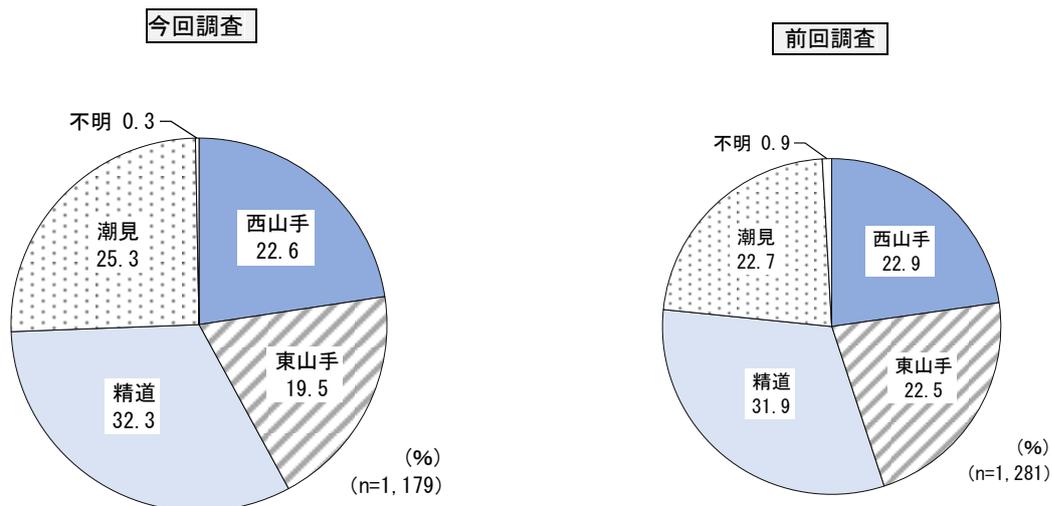
【要介護度別 年齢】



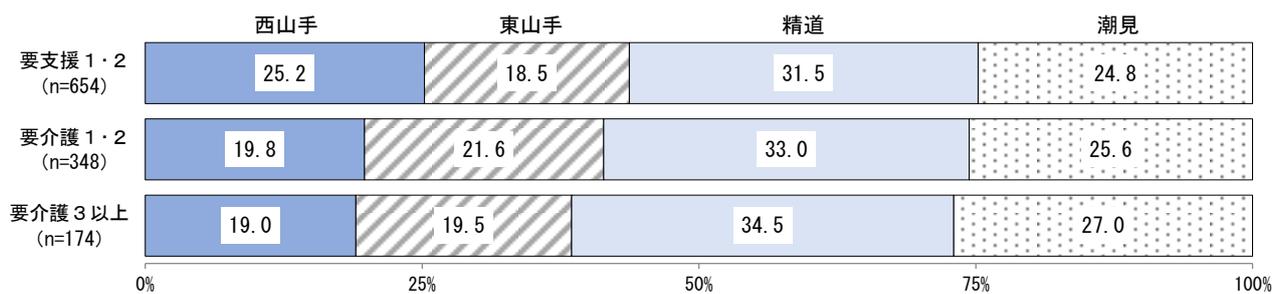
【性別 年齢】



(4) 居住地域



【要介護度別 居住地域】



本アンケートは、以下の2種類から構成されている。

[A票] 調査対象者本人について（全員回答）

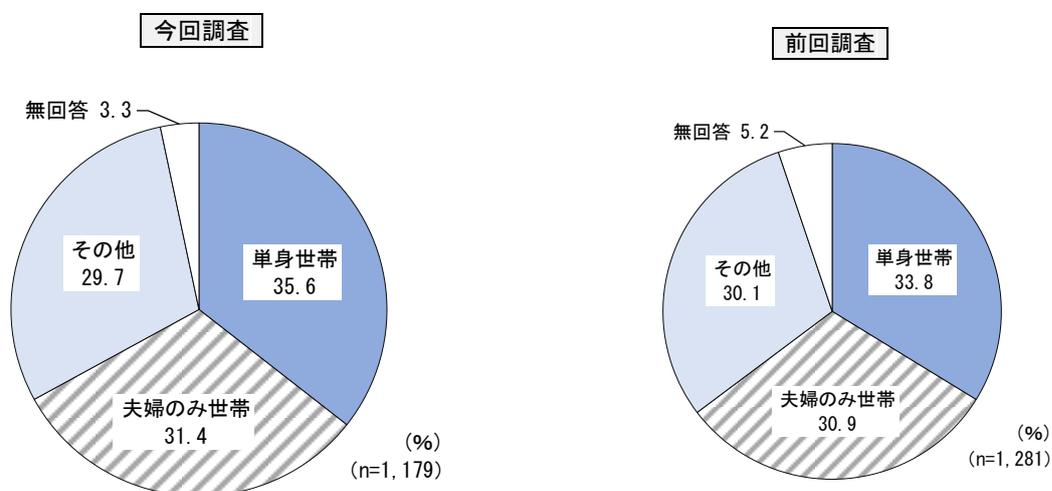
[B票] 主たる介護者の方について（調査対象者が介護を受けている場合のみ回答）

2 本人の状況について

(1) 世帯類型

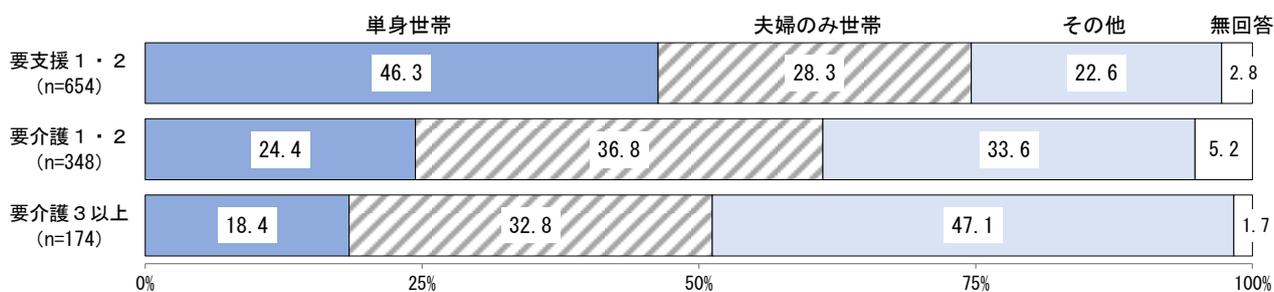
[A票] 問1 世帯類型について、ご回答ください

世帯類型としては、「単身世帯」が35.6%と最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」が31.4%、「その他」が29.7%となっており、前回調査と同程度となっている。



要介護度別にみると、要支援1・2では「単身世帯」が46.3%、要介護1・2では「夫婦のみ世帯」が36.8%、要介護3以上では「その他」が47.1%と、それぞれ最も多くなっている。

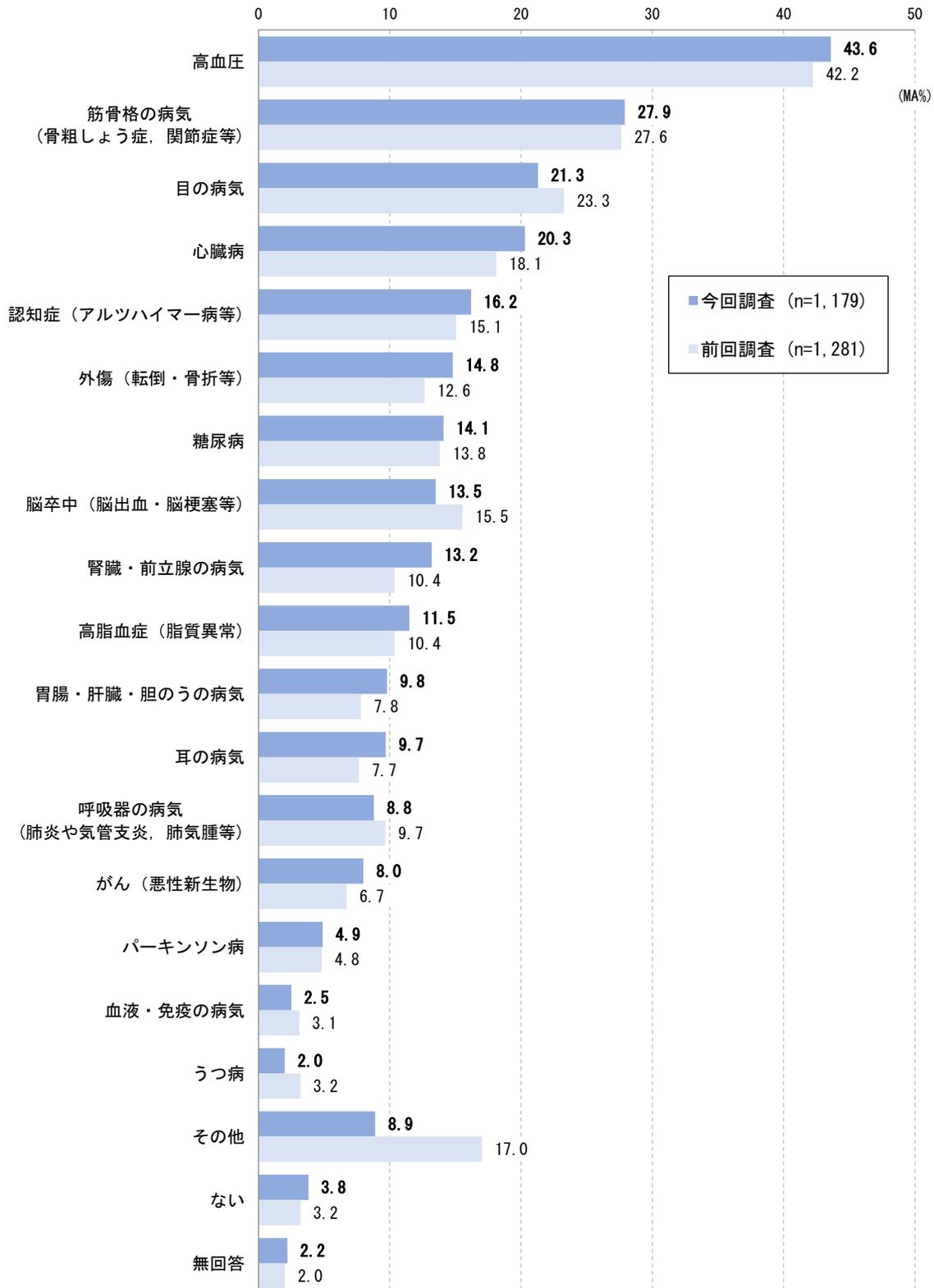
【要介護度別 世帯類型】



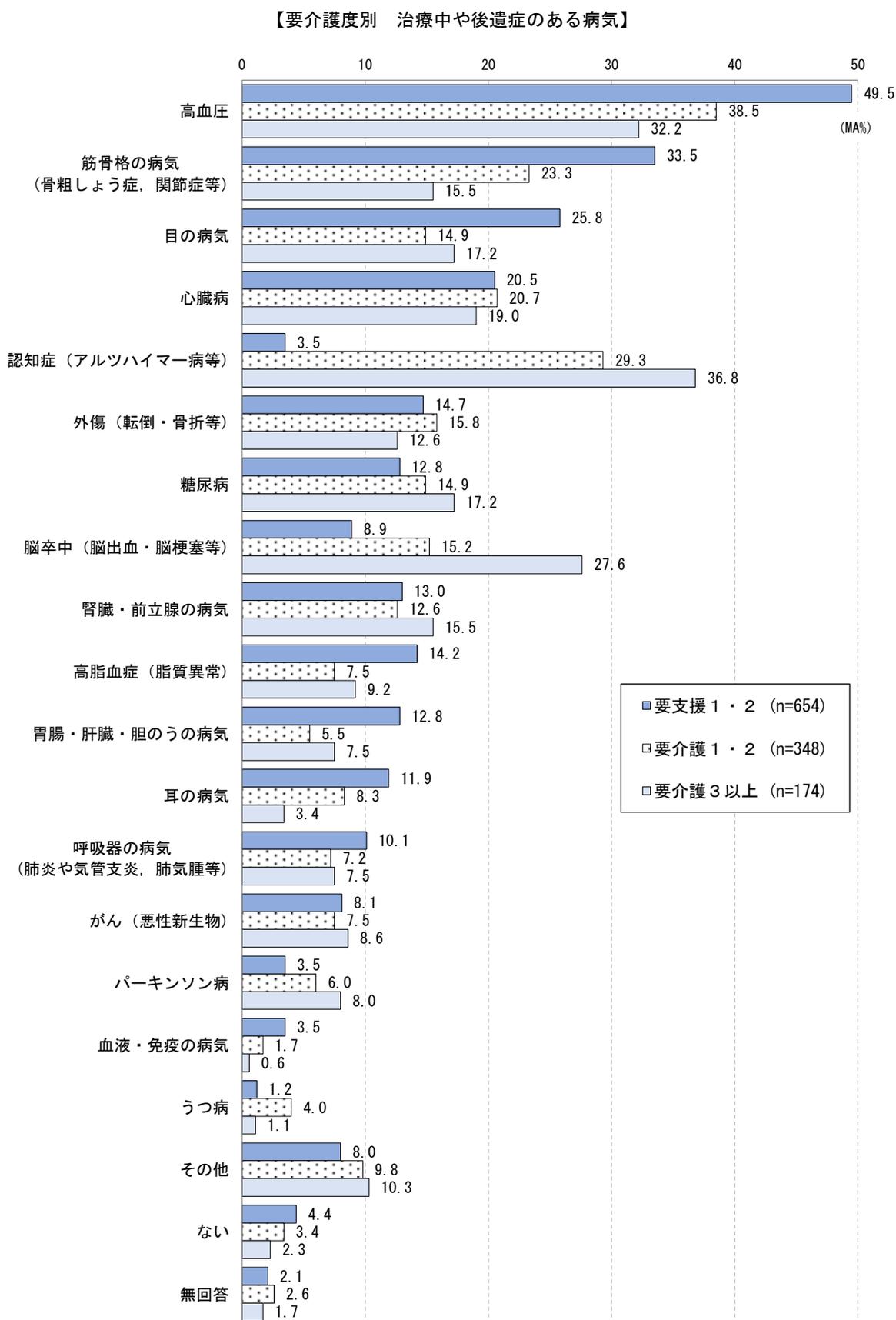
(2) 治療中や後遺症のある病気

[A票] 問2 ご本人が現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (〇はいくつでも)

現在治療中または後遺症のある病気としては、「高血圧」が43.6%と最も多く、次いで「筋骨格の病気 (骨粗しょう症, 関節症等)」が27.9%, 「目の病気」が21.3%, 「心臓病」が20.3%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



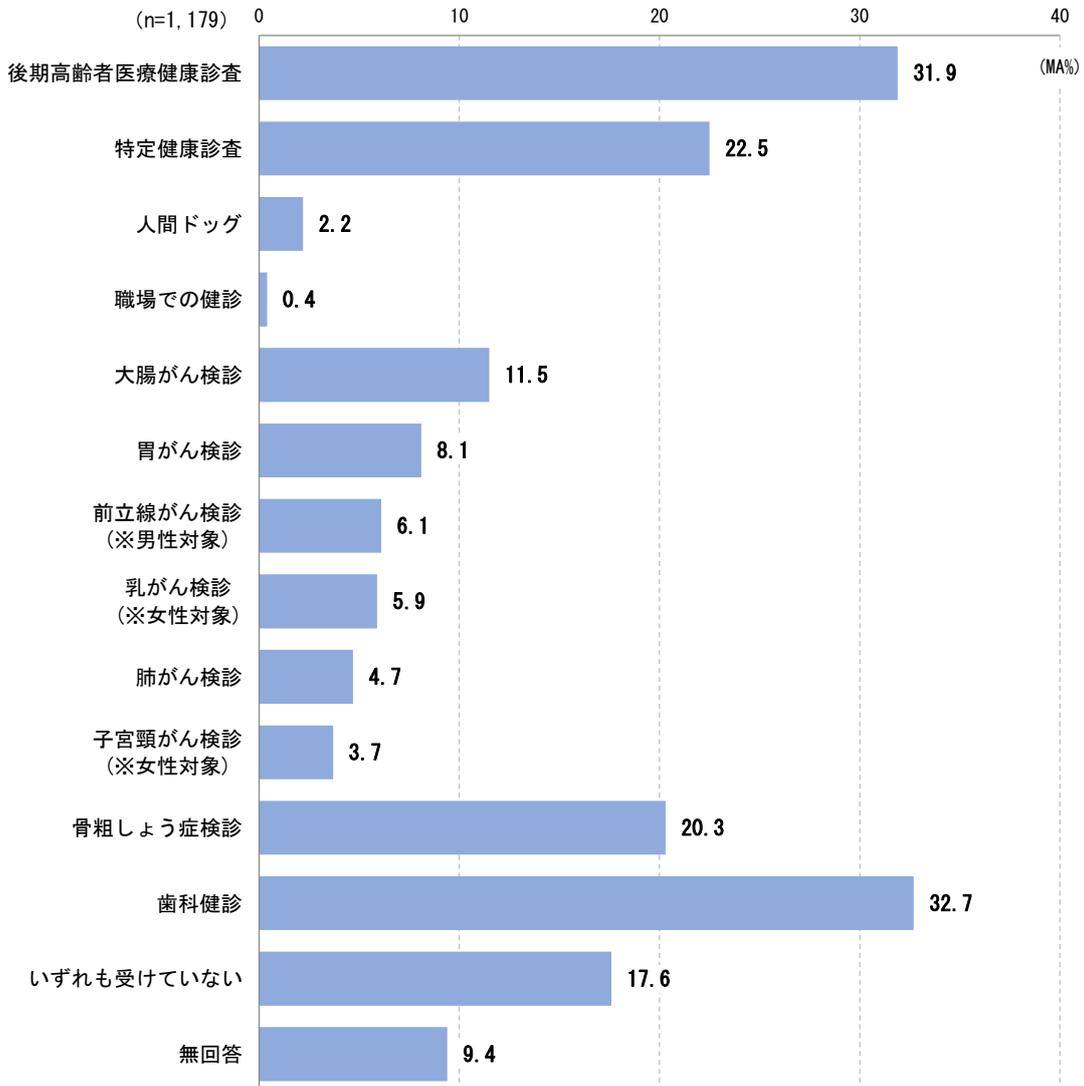
要介護度別にみると、「高血圧」が要支援1・2で49.5%、要介護1・2で38.5%と、それぞれ最も多いのに対し、要介護3以上では「認知症（アルツハイマー病等）」が36.8%と最も多くなっている。また、要介護3以上では「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が27.6%と高い。



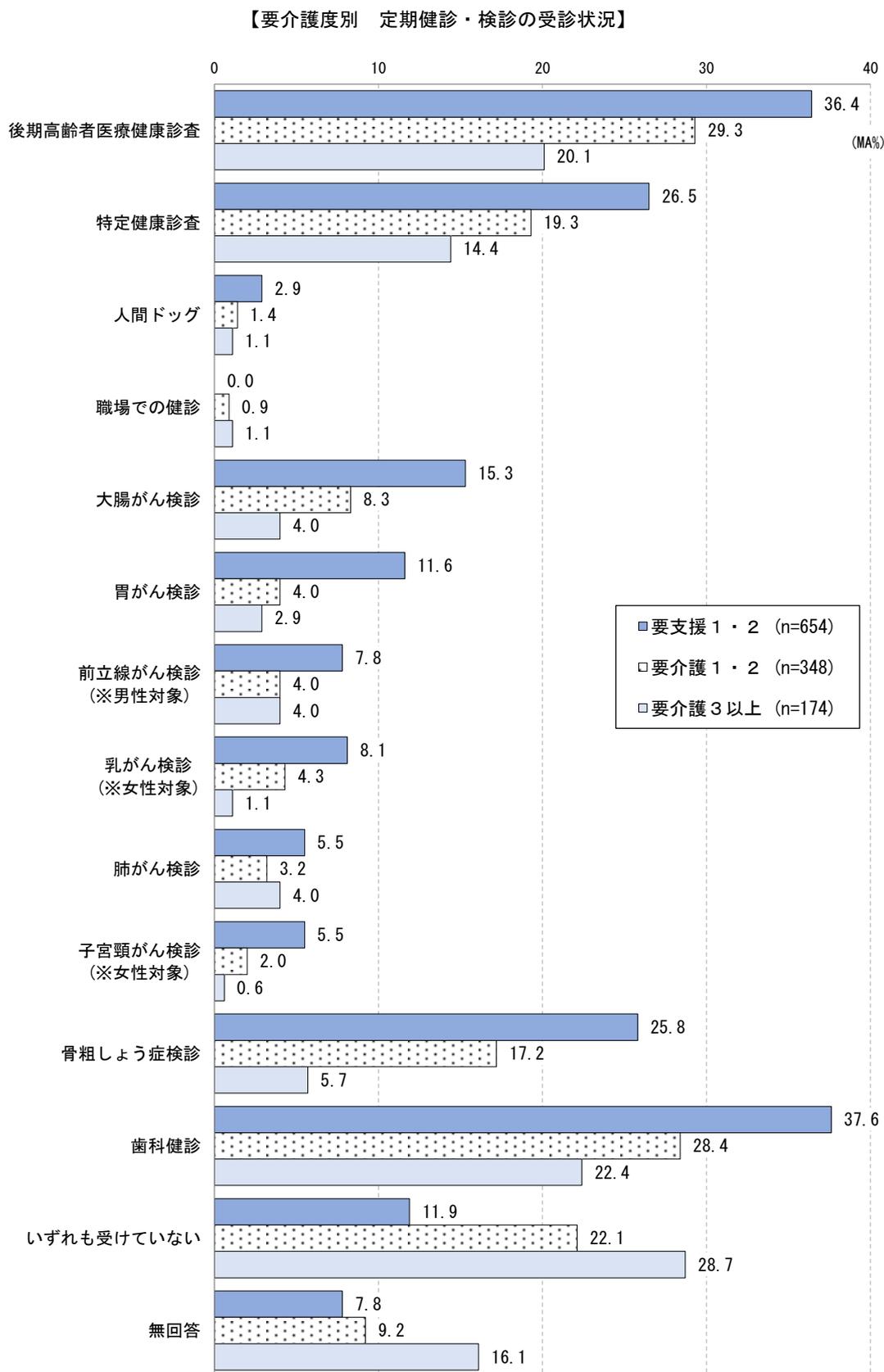
(3) 定期健診・検診の受診状況

[A票] 問3 ご本人は、この1年または2年の間に、以下の定期健診・検診を受けていますか
(〇はいくつでも)

この1年（一部2年）の間に受けた定期健診・検診としては、「歯科健診」が32.7%、「後期高齢者医療健康診査」が31.9%と多く、次いで「特定健康診査」が22.5%、「骨粗しょう症検診」が20.3%、「大腸がん検診」が11.5%となっている。一方、「いずれも受けていない」は17.6%みられる。



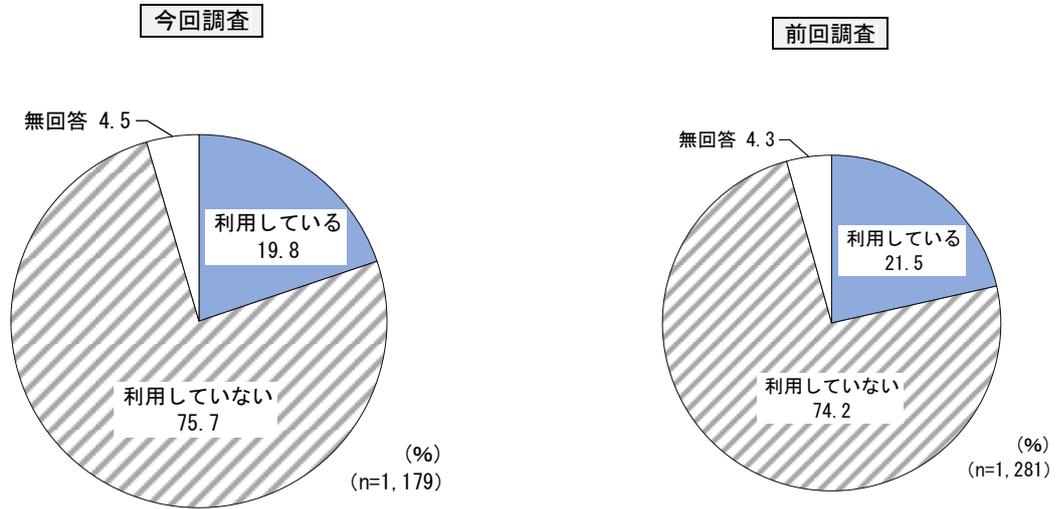
要介護度別にみると、概ねいずれの健診・検診についても、要支援1・2で最も高い割合となっている。一方、「いずれも受けていない」は、要支援1・2で11.9%に対し、要介護1・2では22.1%、要介護3以上では28.7%と高い。



(4) 訪問診療の利用有無

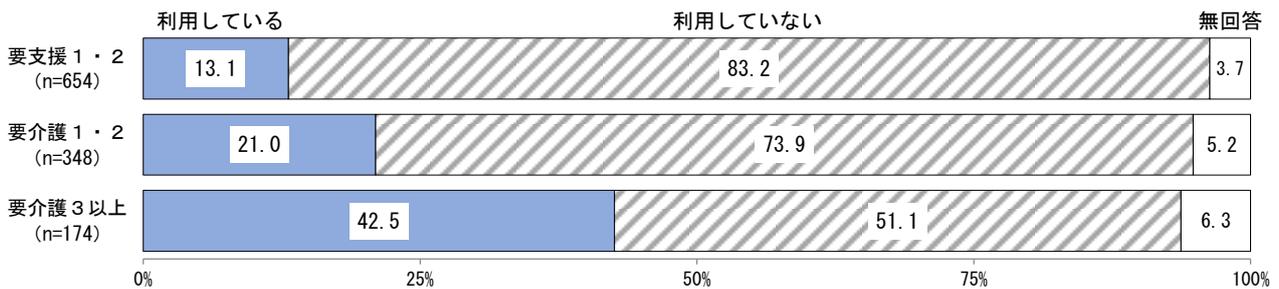
[A票] 問4 ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか

訪問診療を利用している割合は、全体の約2割(19.8%)となっており、前回調査(21.5%)から1.7ポイント減っている。



要介護度別にみると、「利用している」が、要支援1・2で13.1%、要介護1・2で21.0%、要介護3以上で42.5%となっている。

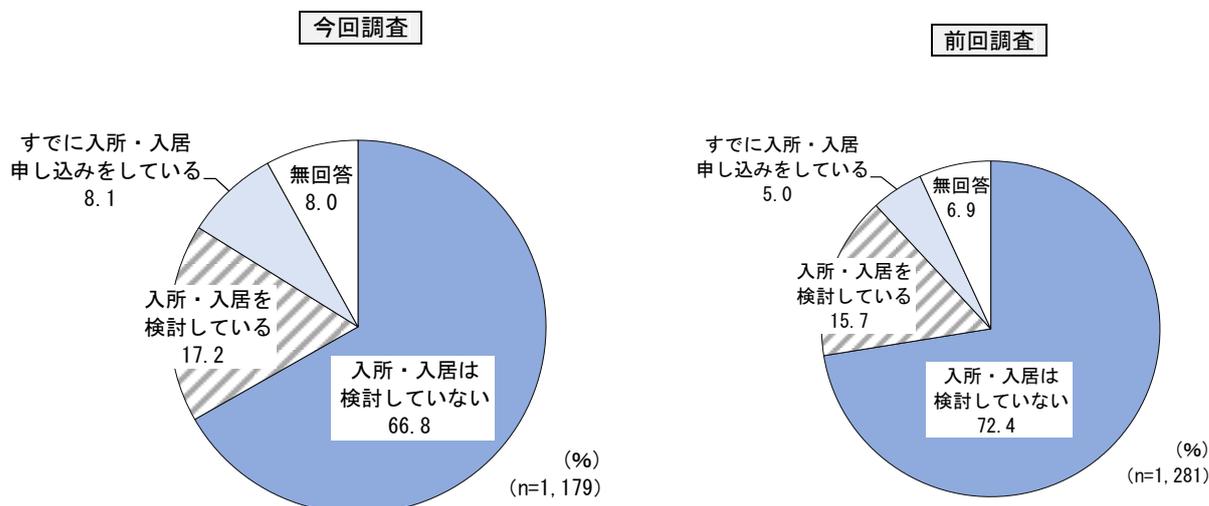
【要介護度別 訪問診療の利用有無】



(5) 入所・入居の検討状況

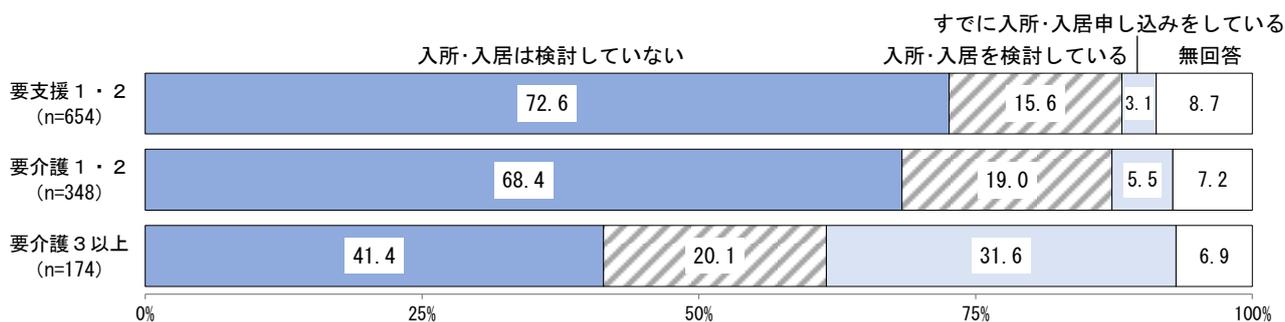
[A票] 問5 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください

施設等への入所・入居の検討状況として、「入所・入居を検討している」が17.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が8.1%となっており、合わせると、検討中または申し込み済という割合は2割台(25.3%)みられ、前回調査(20.7%)から4.6ポイント増えている。



要介護度別にみると、検討中または申し込み済という割合が、要支援1・2で18.7%、要介護1・2で24.4%に対し、要介護3以上では半数以上(51.7%)を占めており、「すでに入所・入居申し込みをしている」が31.6%と高い。

【要介護度別 入所・入居の検討状況】



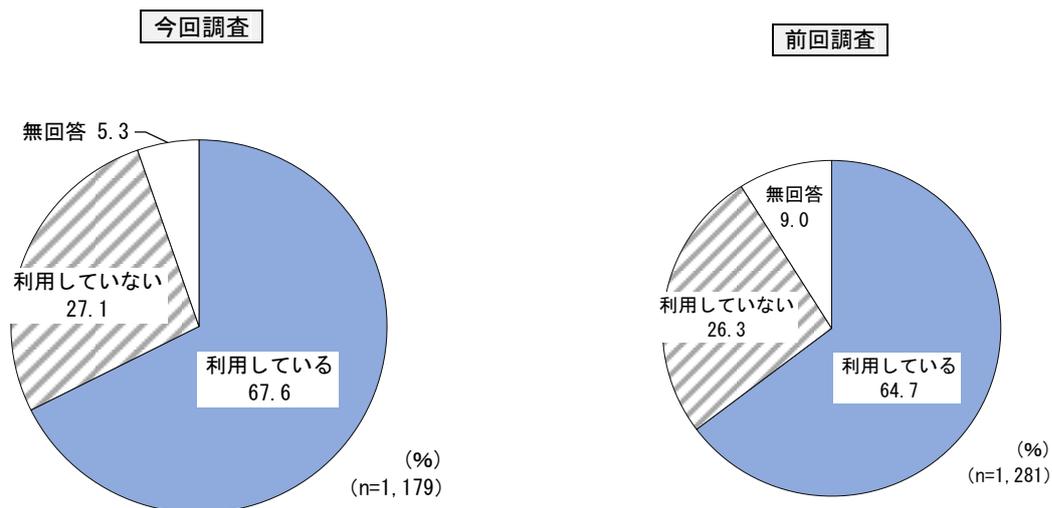
3 サービスの利用について

(1) 介護保険サービスの利用状況

① 介護保険サービスの利用有無

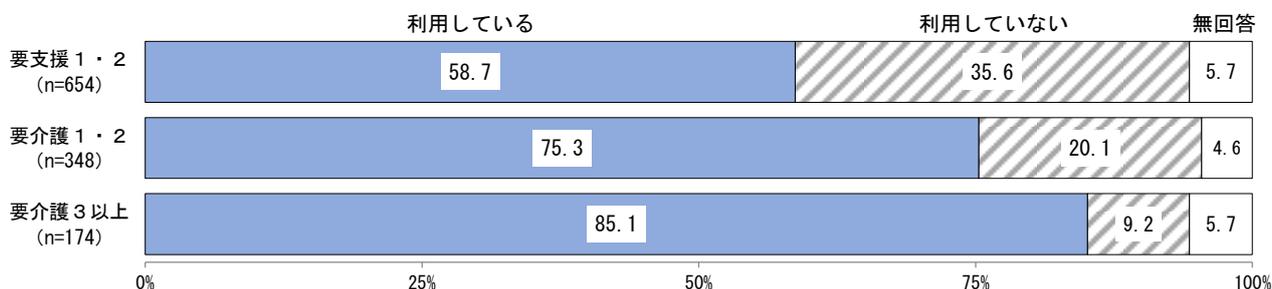
[A票] 問6 ご本人は、現在、(住宅改修, 福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスを利用していますか

現在、介護保険サービスを利用している割合は、全体の6割台(67.6%)となっており、前回調査(64.7%)から2.9ポイント増えている。



要介護度別にみると、「利用している」が、要支援1・2で58.7%、要介護1・2で75.3%、要介護3以上で85.1%となっている。

【要介護度別 介護保険サービスの利用有無】

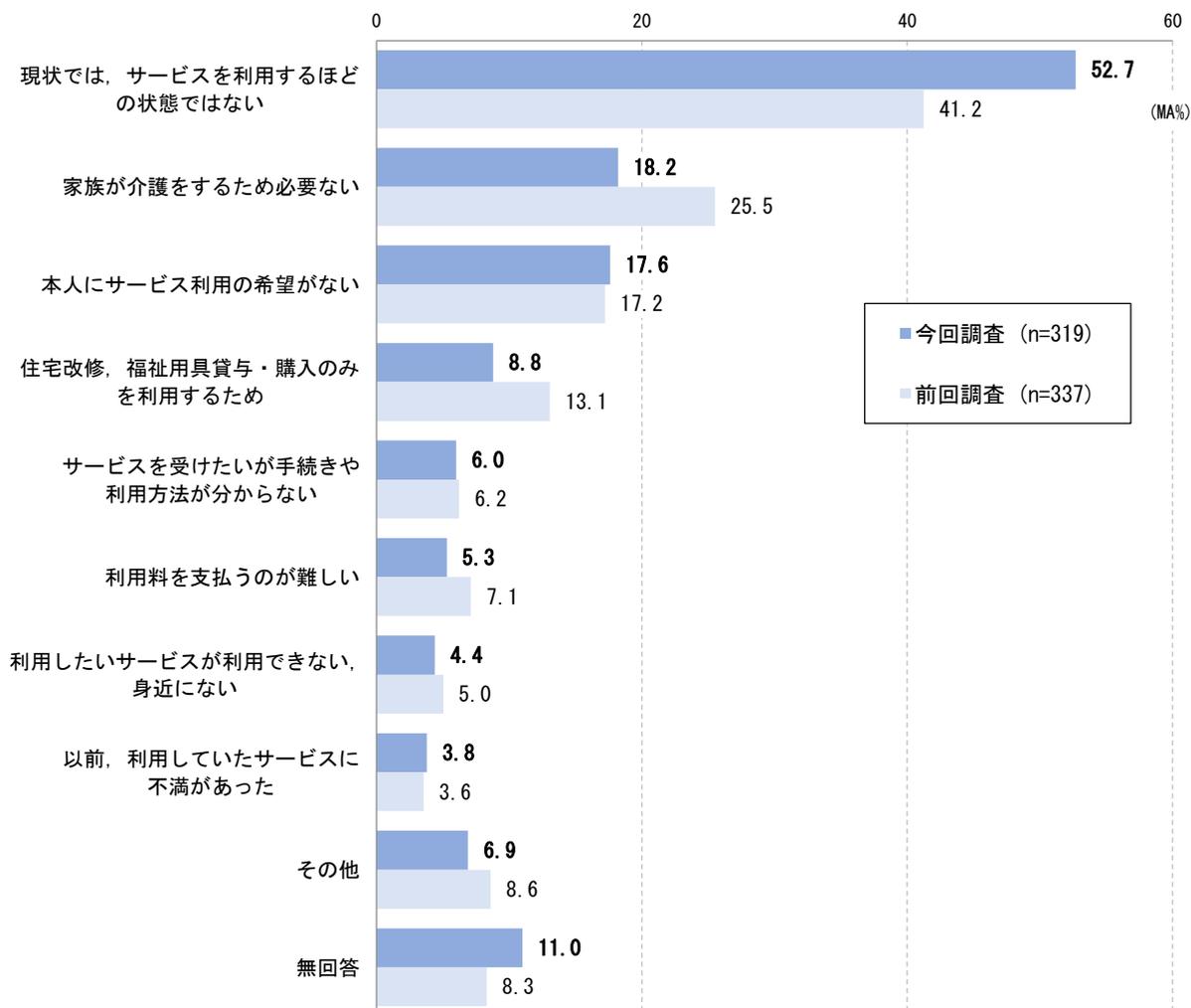


②介護保険サービスを利用していない理由

【問6で「利用していない」と回答の方のみ】

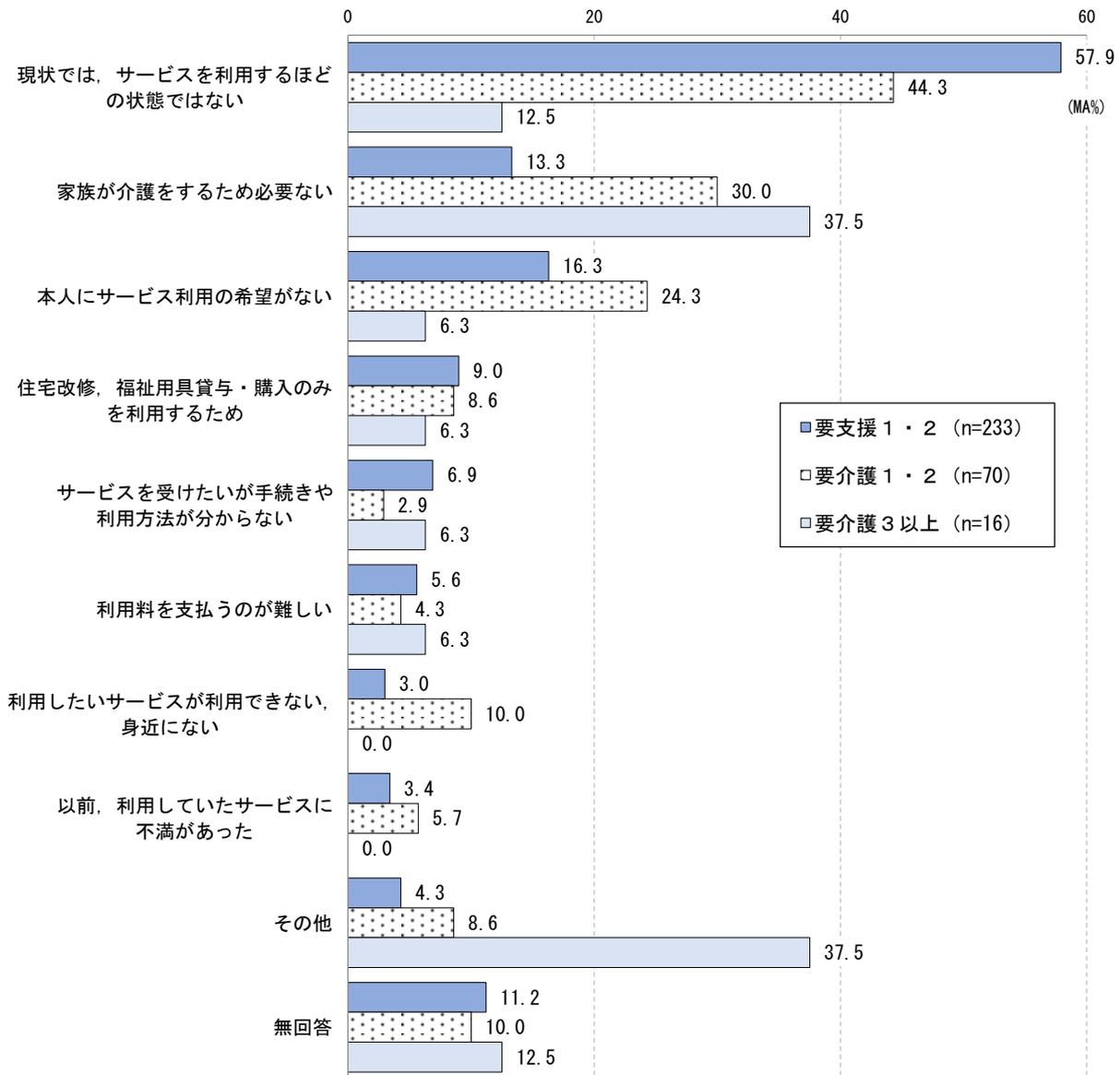
[A票] 問6-1 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（〇はいくつでも）

介護保険サービスを利用していない人の理由としては、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が52.7%と最も多くなっており、前回調査（41.2%）から11.5ポイント増えている。



要介護度別にみると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が要支援1・2で57.9%、要介護1・2で44.3%と、それぞれ最も多くなっており、要介護3以上では「家族が介護をするため必要ない」が37.5%（6人）と最も多い。

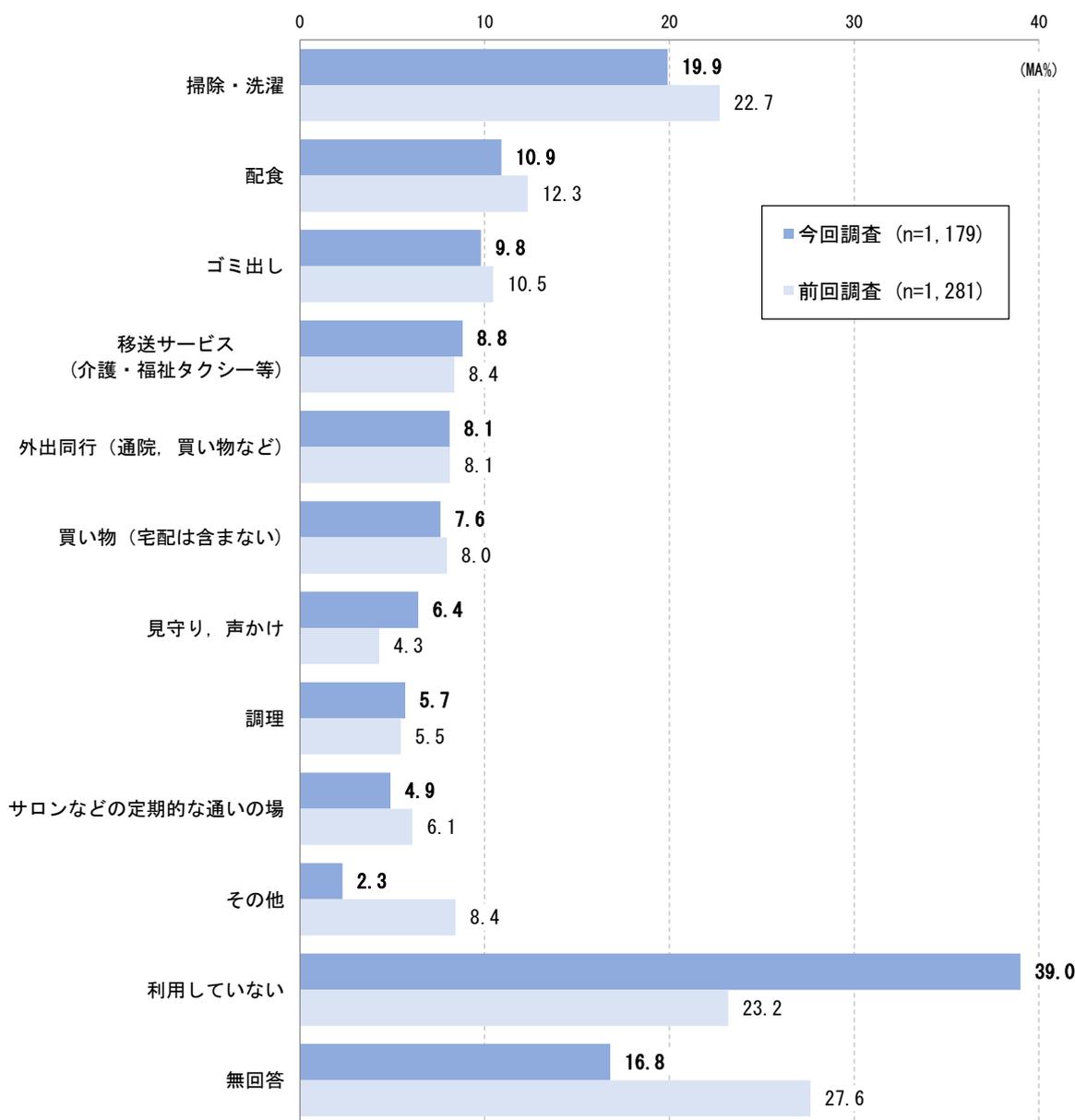
【要介護度別 介護保険サービスを利用していない理由】



(2) 介護保険以外の支援・サービスの利用状況

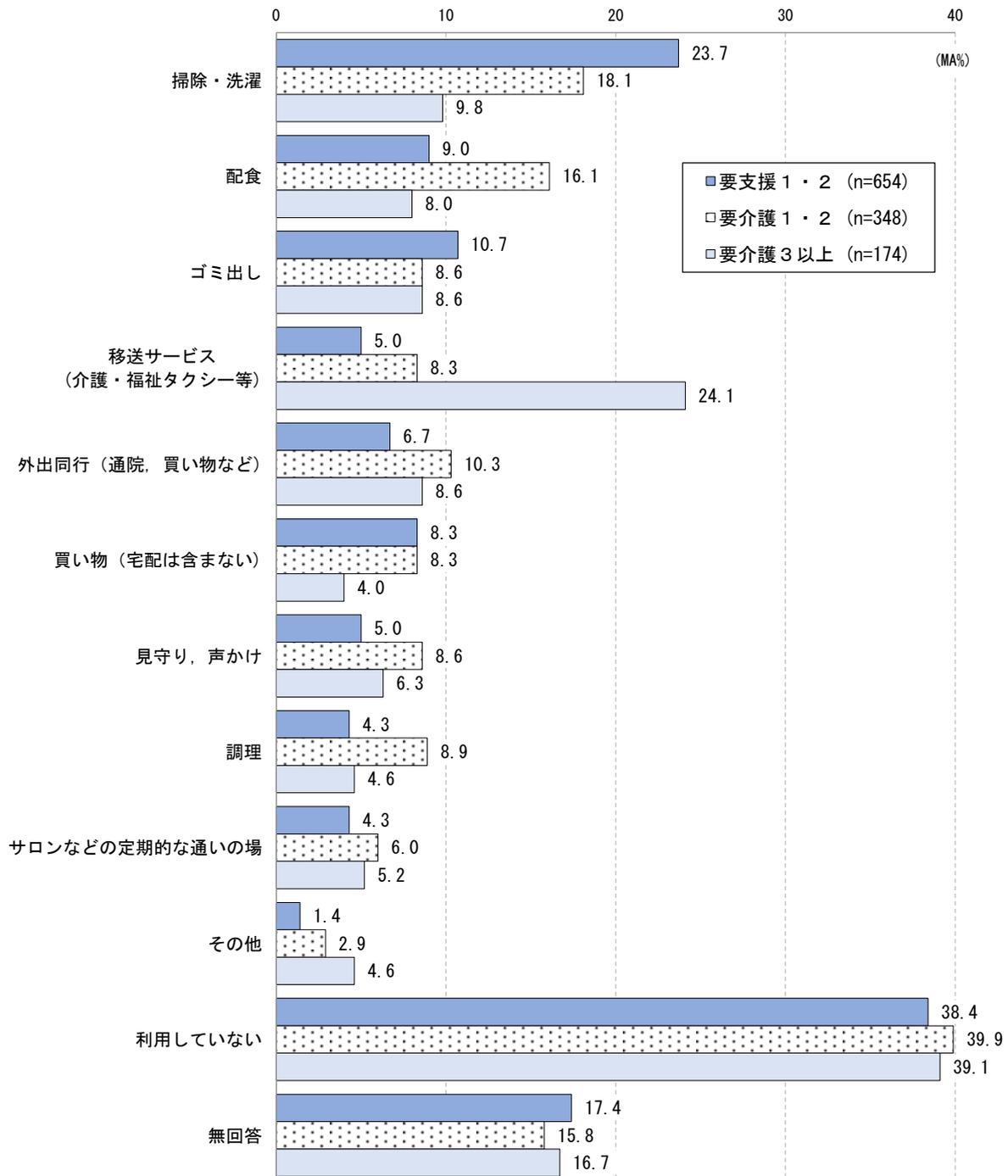
[A票] 問7 現在、ご本人が利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（〇はいくつでも）

介護保険サービス以外にいずれかの支援・サービスを利用しているという割合は、全体の4割台（44.2%）となっており、前回調査（49.2%）から5ポイント減っている。具体的に利用している支援・サービスとしては、「掃除・洗濯」が19.9%と多く、次いで「配食」が10.9%、「ゴミ出し」が9.8%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が8.8%となっている。



要介護度別にみると、いずれかの支援・サービスを利用しているという割合は、いずれも4割台となっており、具体的には、「掃除・洗濯」が要支援1・2で23.7%、要介護1・2で18.1%と、それぞれ最も多くなっている。一方、要介護3以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が24.1%と最も多い。

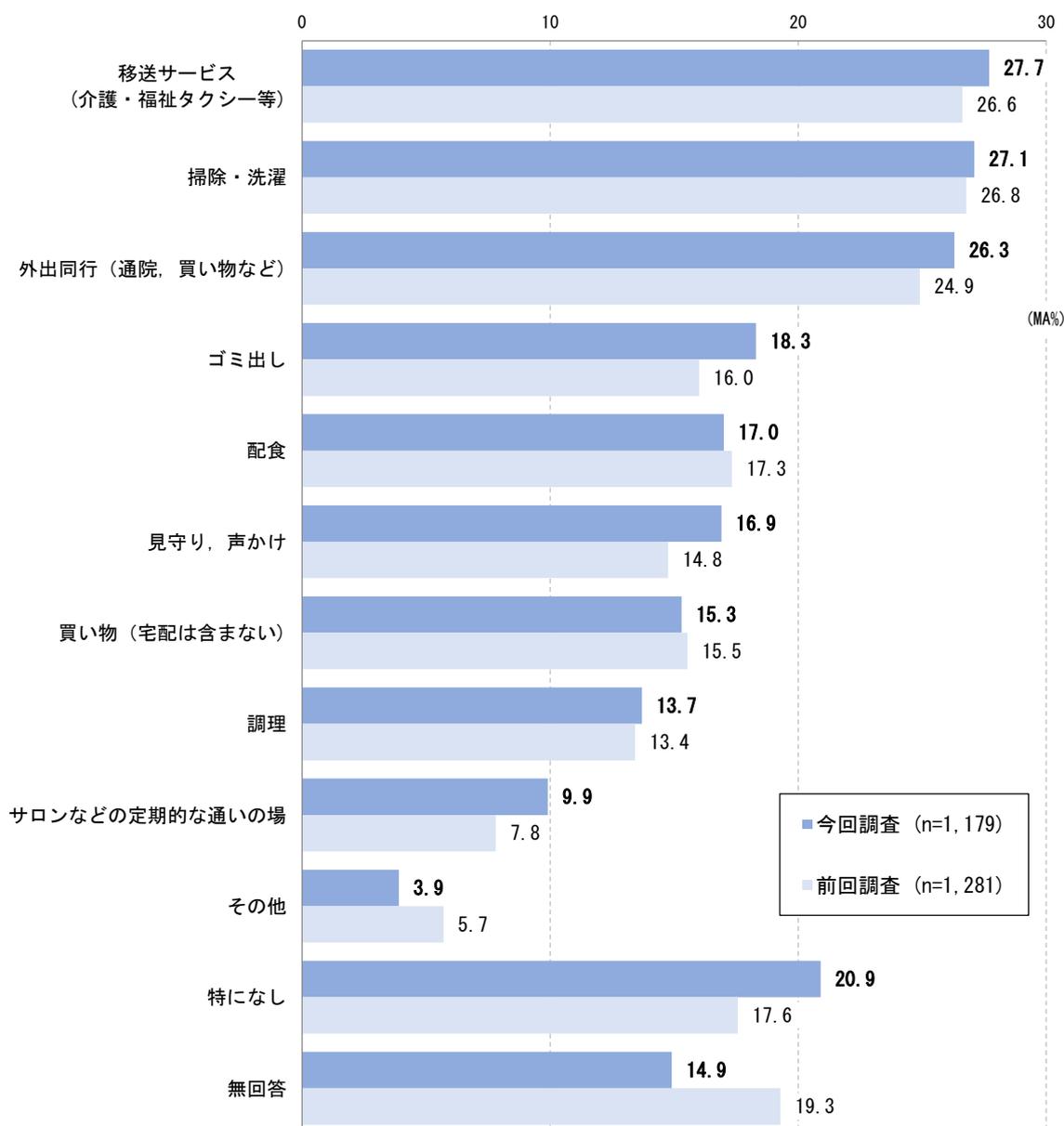
【要介護度別 介護保険以外の支援・サービスの利用状況】



(3) 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

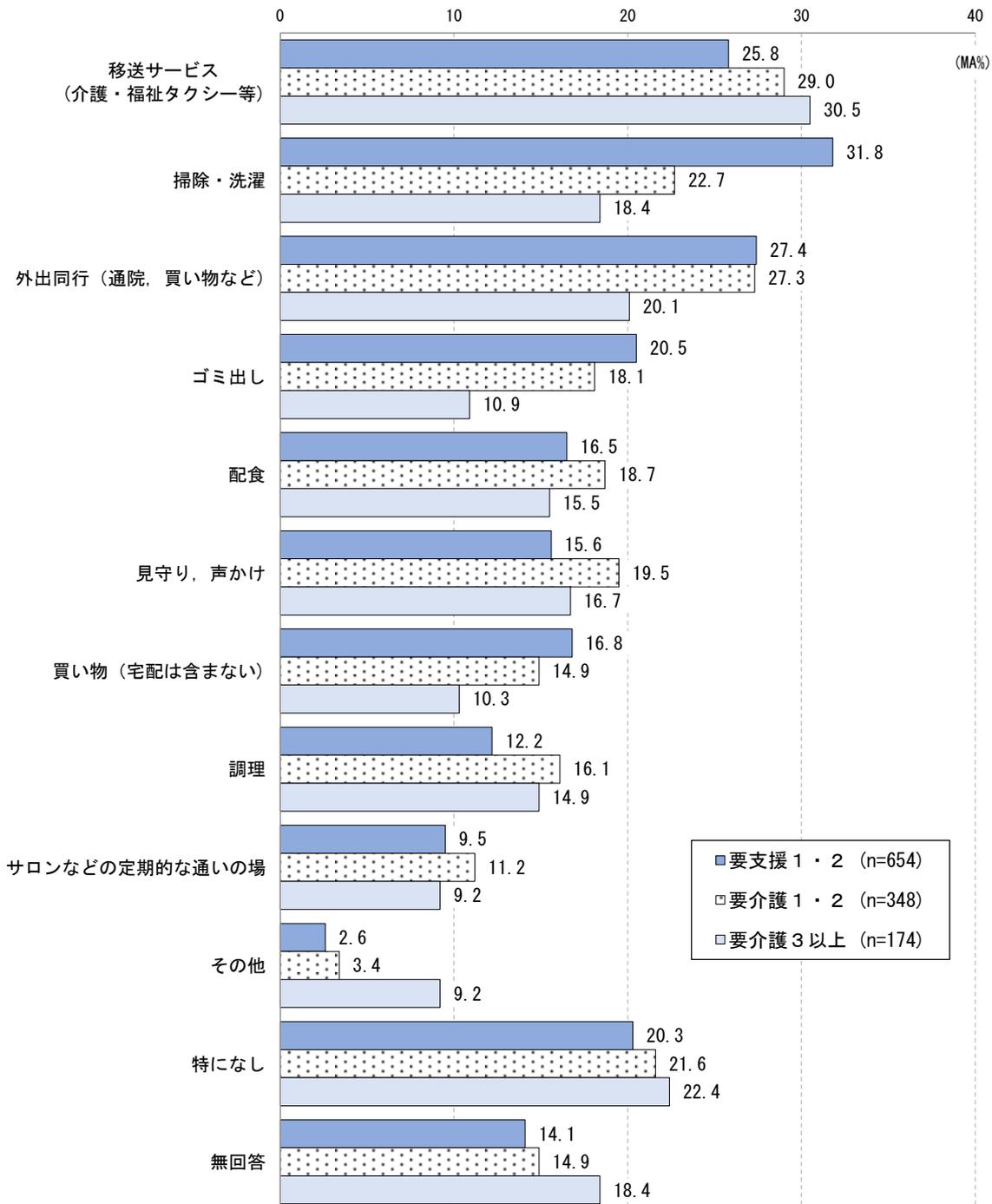
[A票] 問8 今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（〇はいくつでも）

今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービスとしては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が27.7%、「掃除・洗濯」が27.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が26.3%と多くなっており、前回調査と同じ傾向となっている。一方、「特になし」は約2割（20.9%）みられる。



要介護度別にみると、要支援1・2では「掃除・洗濯」が31.8%と最も多くなっている。一方、要介護の人では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多く、要介護1・2で29.0%、要介護3以上で30.5%となっている。

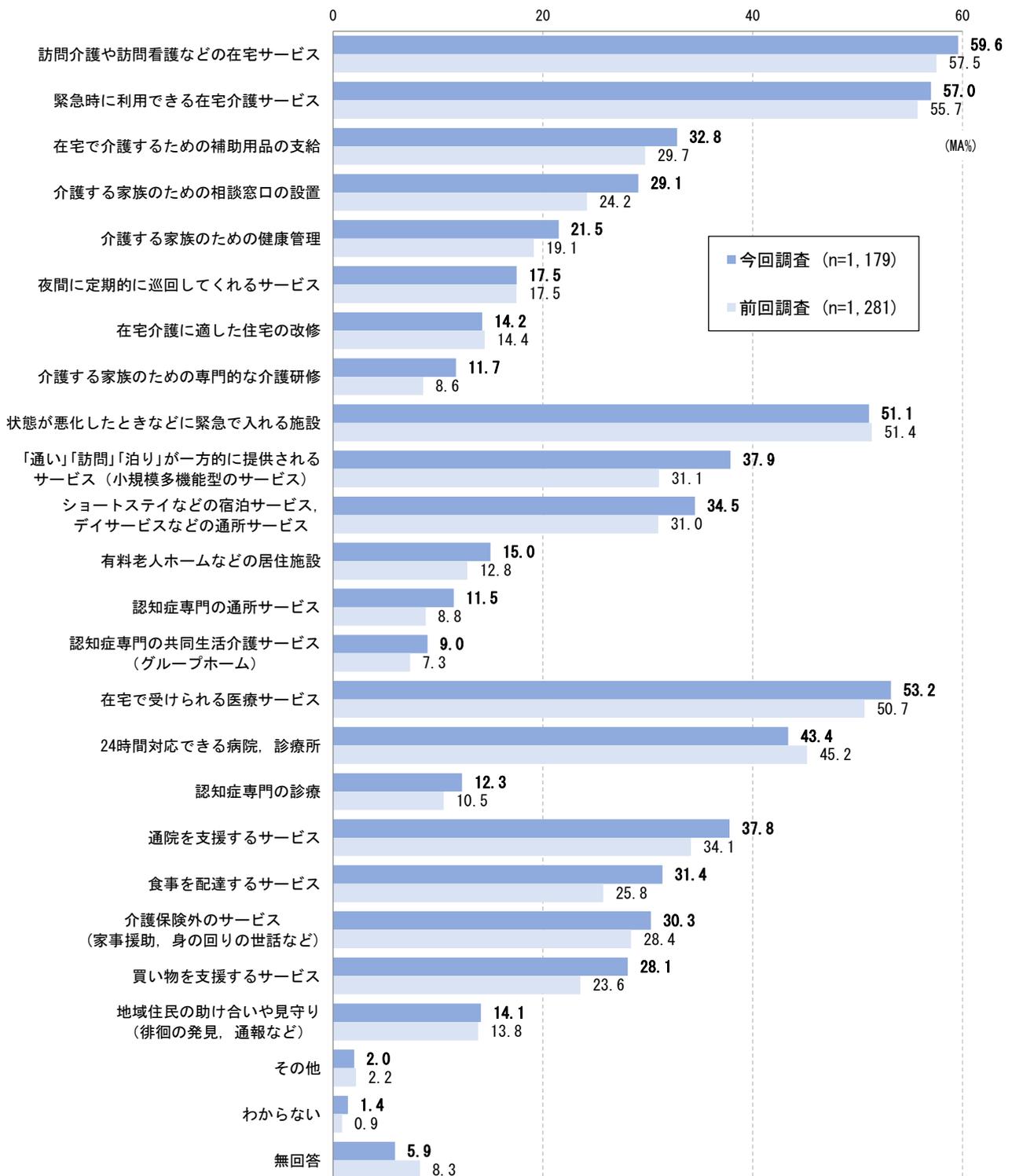
【要介護度別 在宅生活の継続に必要な支援・サービス】



(4) 身の回りのことができなくなったときに必要なサービス

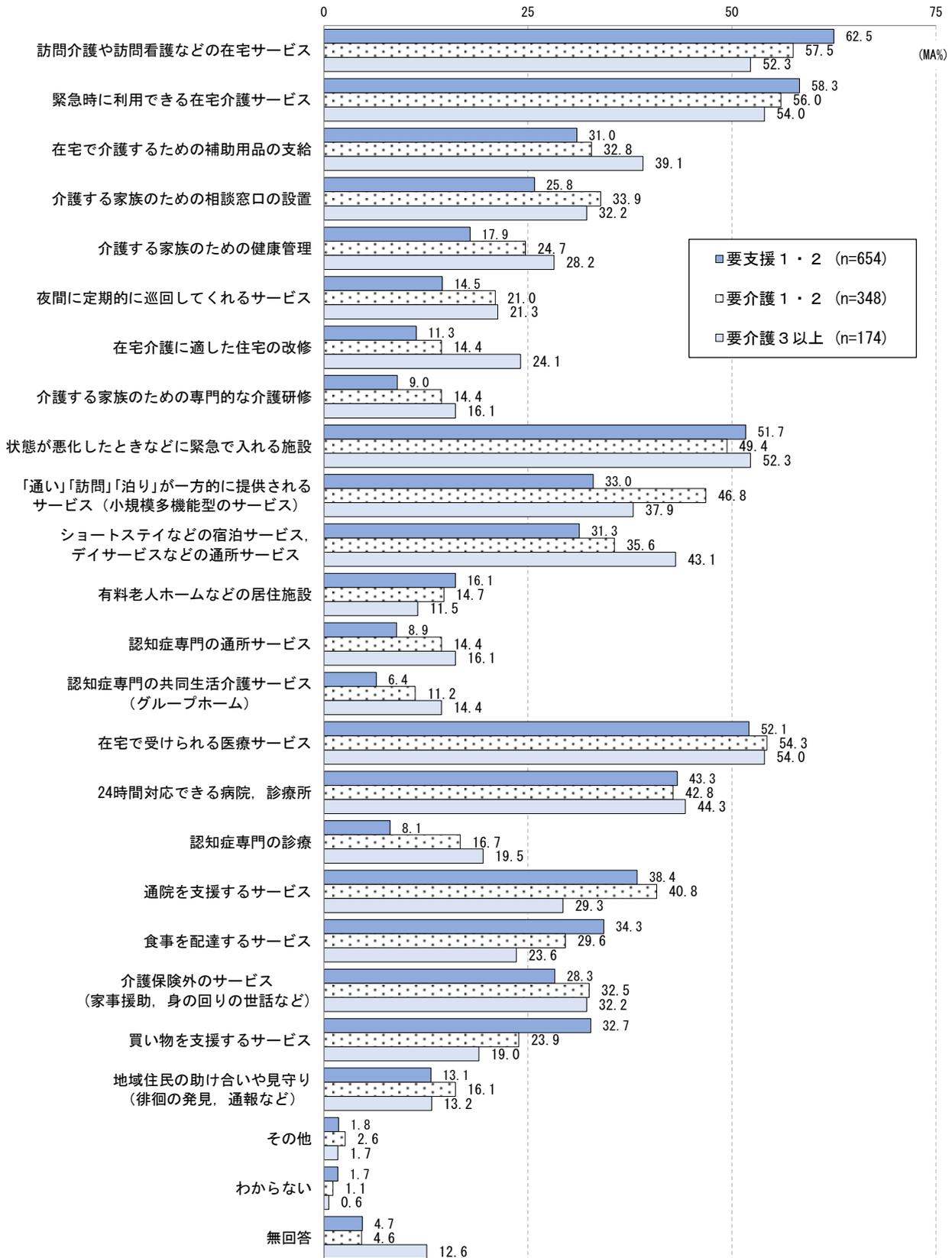
[A票] 問9 自分（ご本人）の身の回りのことができなくなったときに、どのようなサービスがあれば在宅生活を続けていくことができますか（〇はいくつでも）

身の回りのことができなくなったときに、在宅生活を続けていくために必要なサービスとしては、「訪問介護や訪問看護などの在宅サービス」が59.6%と最も多く、次いで「緊急時に利用できる在宅介護サービス」が57.0%、「在宅で受けられる医療サービス」が53.2%、「状態が悪化したときなどに緊急で入れる施設」が51.1%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



要介護度別にみると、「訪問介護や訪問看護などの在宅サービス」が要支援1・2で62.5%、要介護1・2で57.5%と、それぞれ最も多くなっており、要介護3以上では「緊急時に利用できる在宅介護サービス」、「在宅で受けられる医療サービス」がともに54.0%と最も多い。

【要介護度別 身の回りのことができなくなったときに必要なサービス】



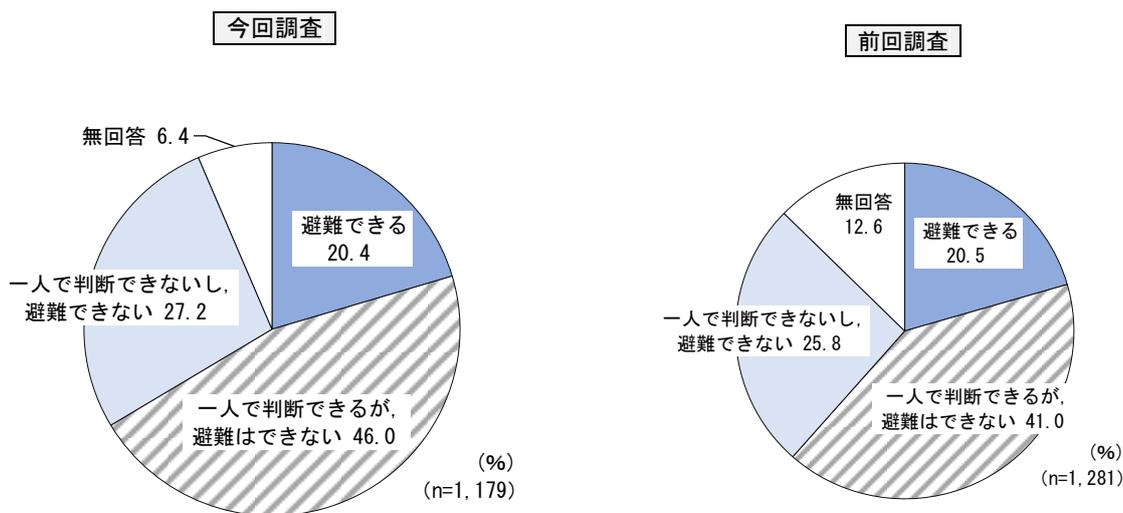
4 災害時や緊急時の対応などについて

(1) 災害時や緊急時の避難対応

① 避難の可否

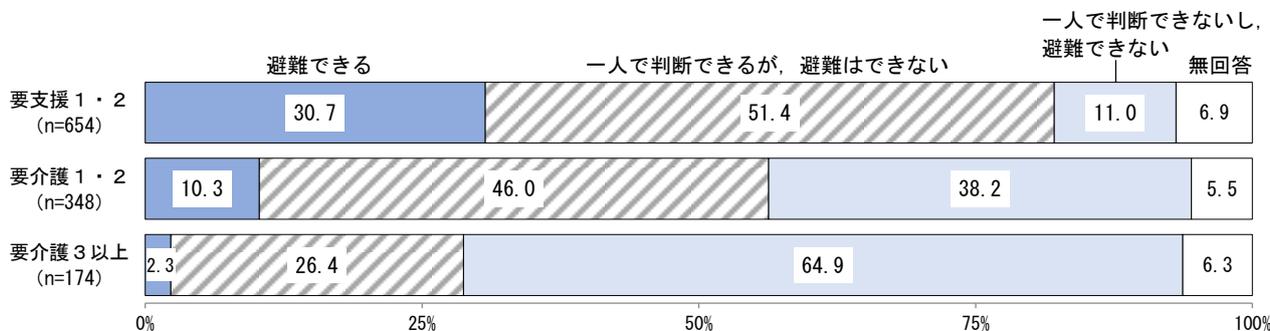
[A票] 問 10 ご本人は、災害時(台風や地震など)や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか

災害時や火災などの緊急時の自力での避難について、「一人で判断できるが、避難はできない」が46.0%と最も多く、次いで多い「一人で判断できないし、避難できない」(27.2%)を合わせると、一人で避難できないという割合が7割台(73.2%)を占めており、前回調査(66.8%)から6.4ポイント増えている。



要介護度別にみると、一人で避難できないという割合が、要支援1・2で62.4%、要介護1・2で84.2%、要介護3以上で91.4%となっている。また、要介護3以上では「一人で判断できないし、避難できない」が6割台(64.9%)を占める。

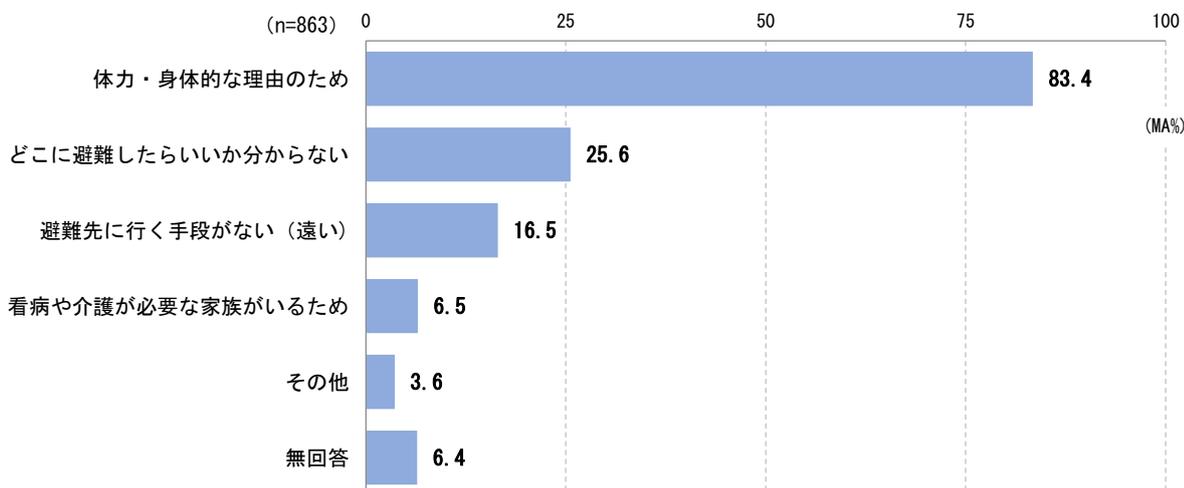
【要介護度別 災害時の避難の可否】



②避難できない理由

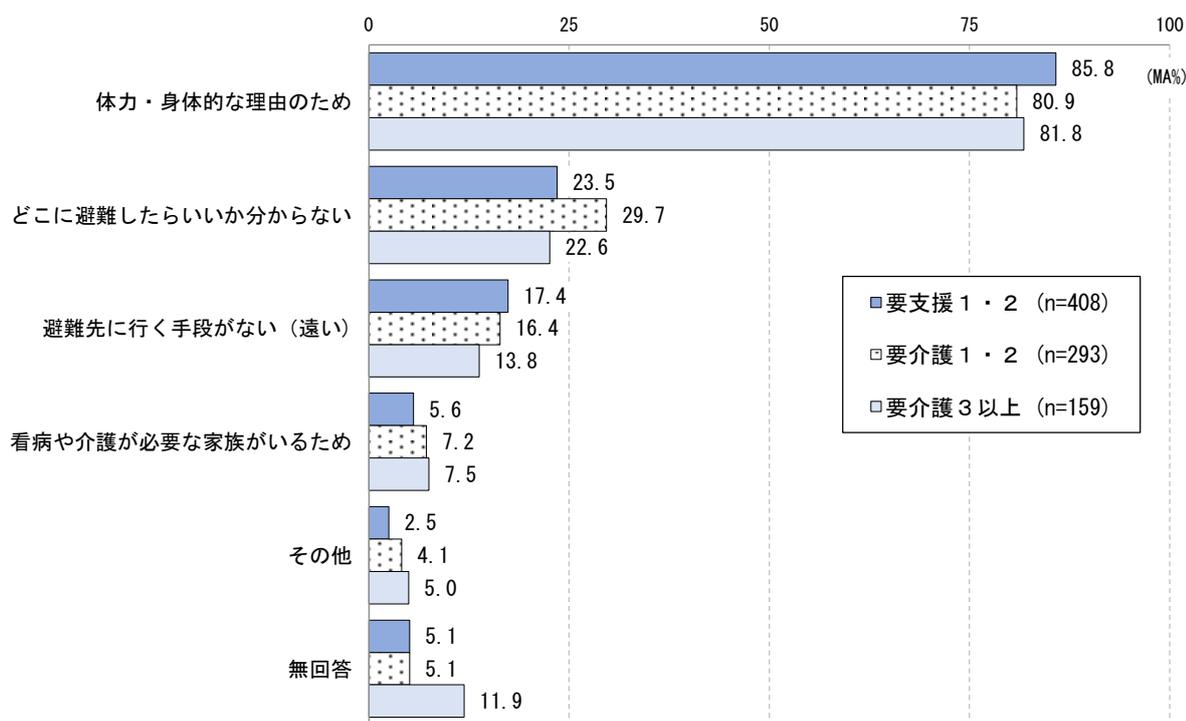
【問 10(1)で「一人で判断できるが、避難はできない」または「一人で判断できないし、避難できない」とお答えの方】
 [A票] 問 10-1 避難できない理由は何ですか (○はいくつでも)

災害時等に一人で避難できない理由としては、「体力・身体的な理由のため」が8割台 (83.4%)と最も多く、次いで「どこに避難したらいいか分からない」が25.6%となっている。



要介護度別にみても、いずれも「体力・身体的な理由のため」が最も多く、要支援1・2で85.8%、要介護1・2で80.9%、要介護3以上で81.8%となっている。

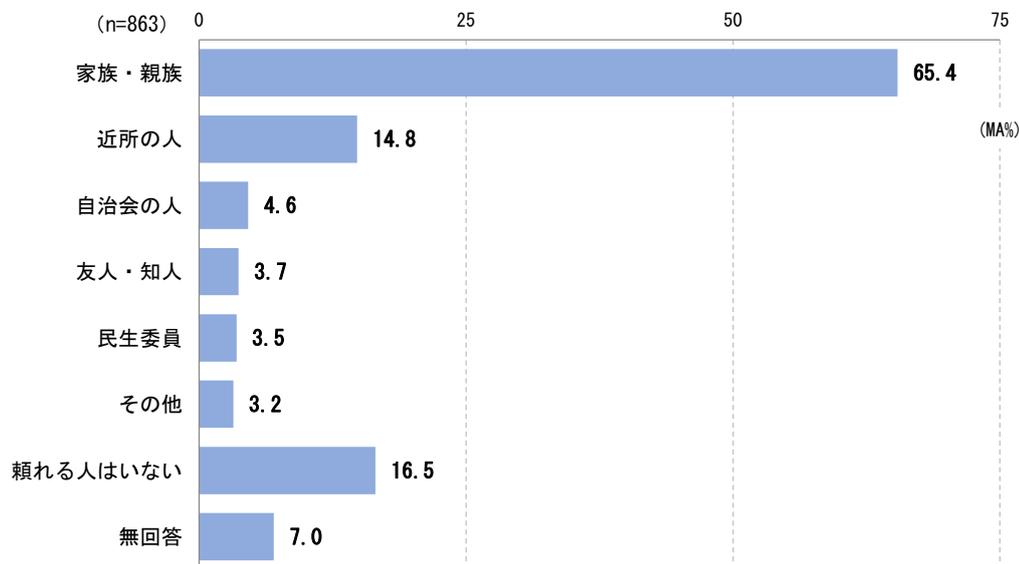
【要介護度別 避難できない理由】



③避難時に手助けを頼める人の有無

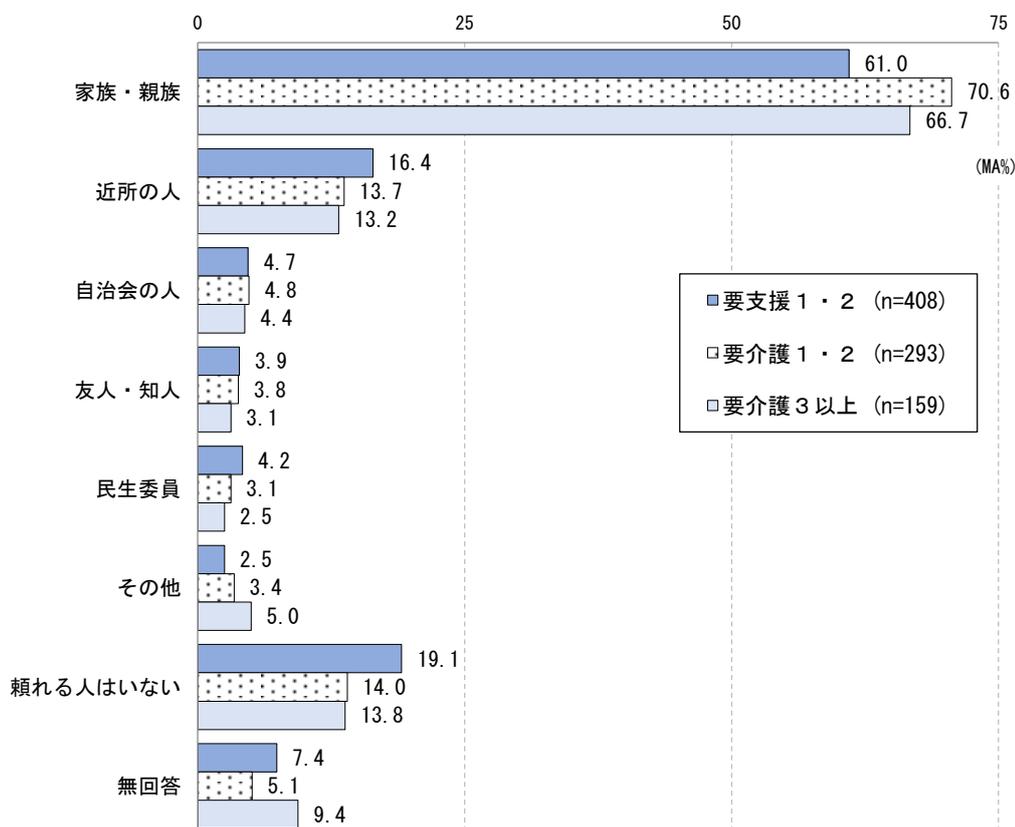
【問10で「一人で判断できるが、避難はできない」または「一人で判断できないし、避難できない」とお答えの方】
 [A票] 問10-2 災害時や火災など緊急時に避難する際、手助けを頼める人はいますか（○はいくつでも）

一人で避難できないという人が避難時に手助けを頼める人としては、「家族・親族」が65.4%と最も多く、次いで「近所の人」が14.8%となっている。一方、「頼れる人はいない」は1割台（16.5%）みられる。



要介護度別にみても、いずれも「家族・親族」が最も多くなっており、要支援1・2で61.0%、要介護1・2で70.6%、要介護3以上で66.7%となっている。

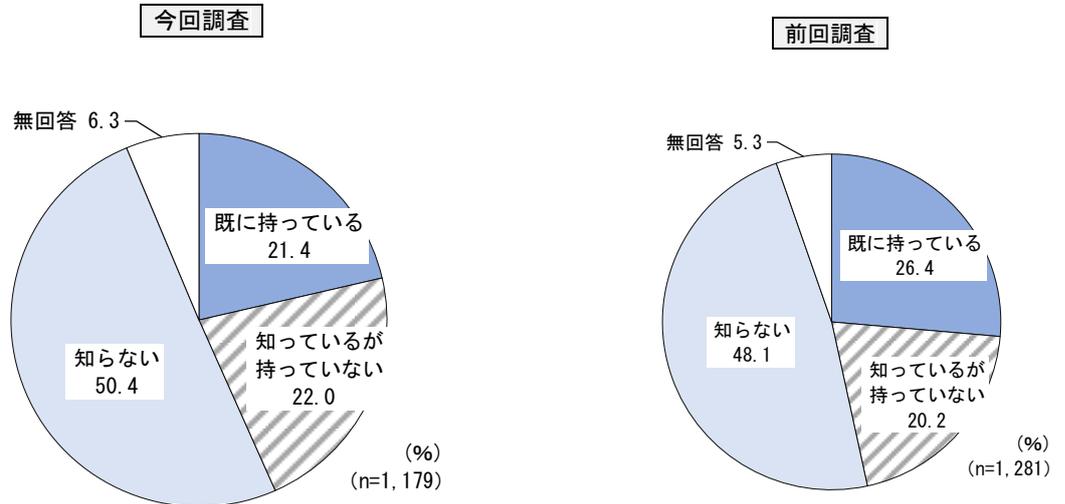
【要介護度別 避難時に手助けを頼める人の有無】



(2) 救急医療情報キットの認知度

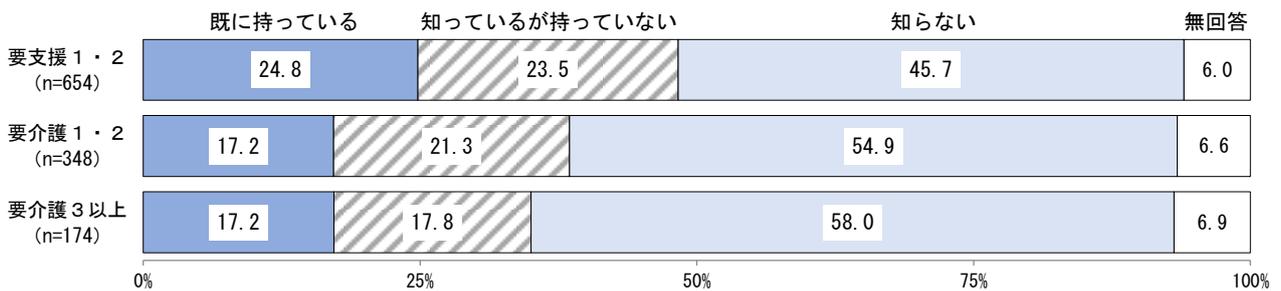
[A票] 問 11 万が一の災害や急病に備え、医療情報を記入した用紙を筒状の容器に入れ、ご家庭にある冷蔵庫に収納する救急医療情報キットを知っていますか

救急医療情報キットについて、「知らない」が約半数（50.4%）を占めている。一方、「既に持っている」は2割台（21.4%）となっており、前回調査（26.4%）から5ポイント減っている。



要介護度別にみると、「既に持っている」が、要支援1・2で24.8%、要介護1・2、要介護3以上でともに17.2%となっている。

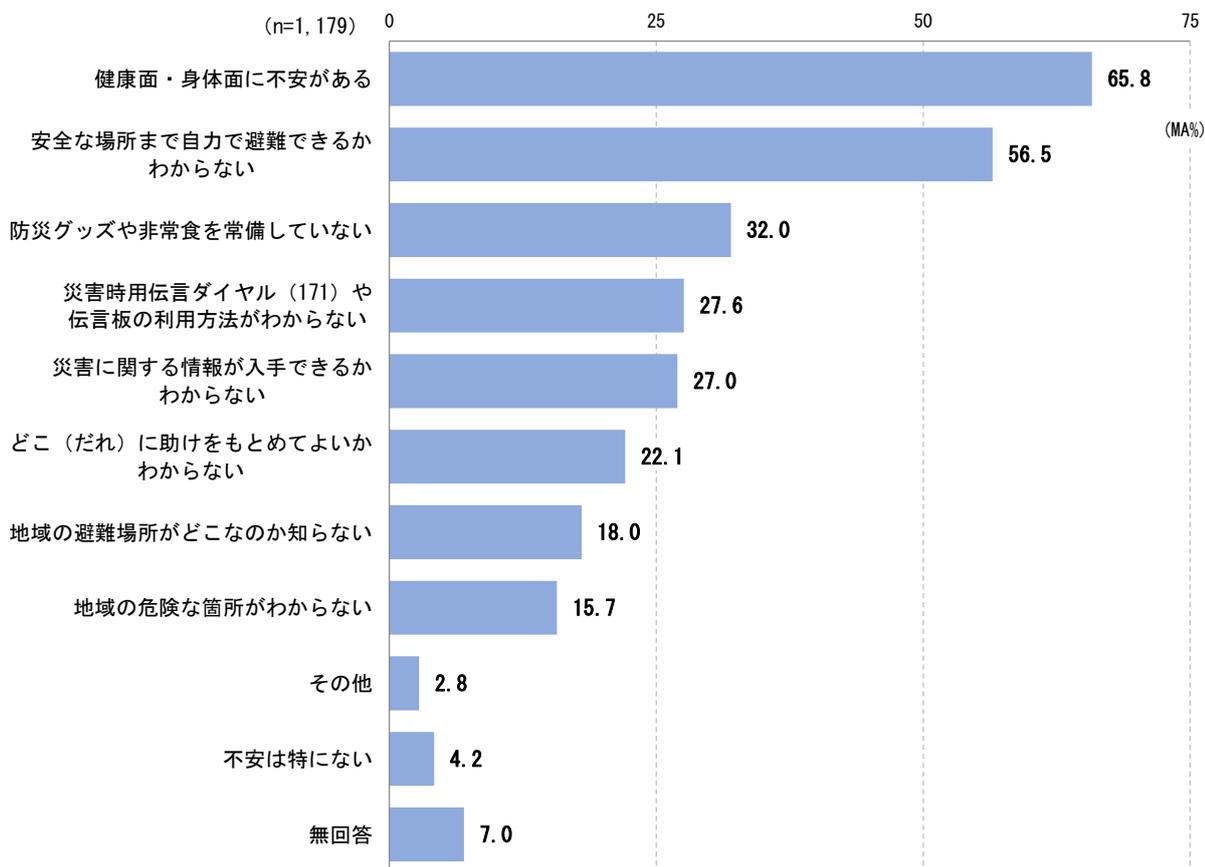
【要介護度別 救急医療情報キットの認知度】



(3) 災害時の不安

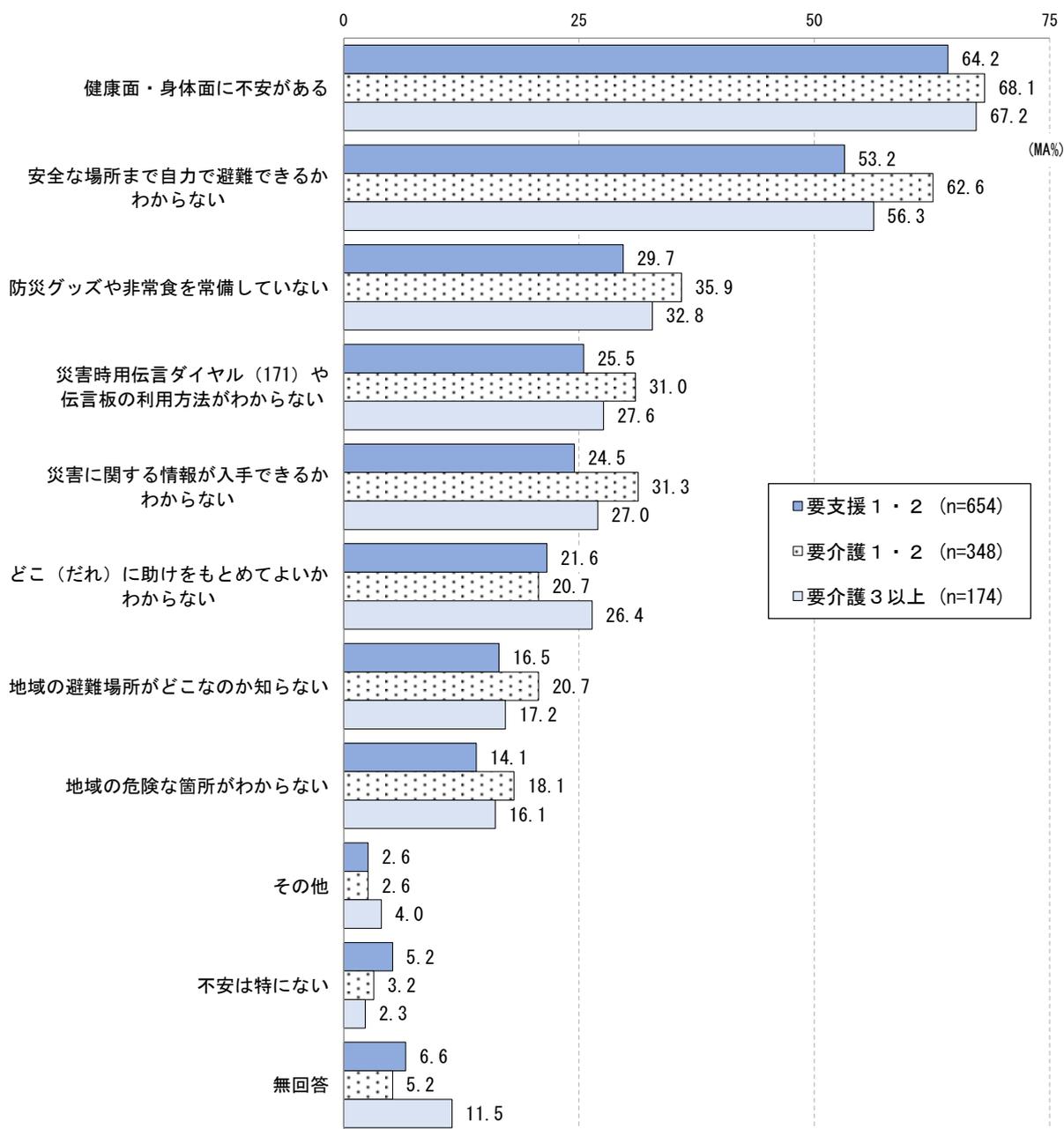
[A票] 問 12 地震や風水害などの災害時に対し、ご本人が不安に思うことはありますか (〇はいくつでも)

災害時に対して不安に思うこととしては、「健康面・身体面に不安がある」が 65.8%と最も多く、次いで「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が 56.5%、「防災グッズや非常食を常備していない」が 32.0%となっている。



要介護度別にみると、いずれも「健康面・身体面に不安がある」（要支援1・2で64.2%、要介護1・2で68.1%、要介護3以上で67.2%）が最も多く、次いで「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」（要支援1・2で53.2%、要介護1・2で62.6%、要介護3以上で56.3%）となっている。

【要介護度別 災害時の不安】



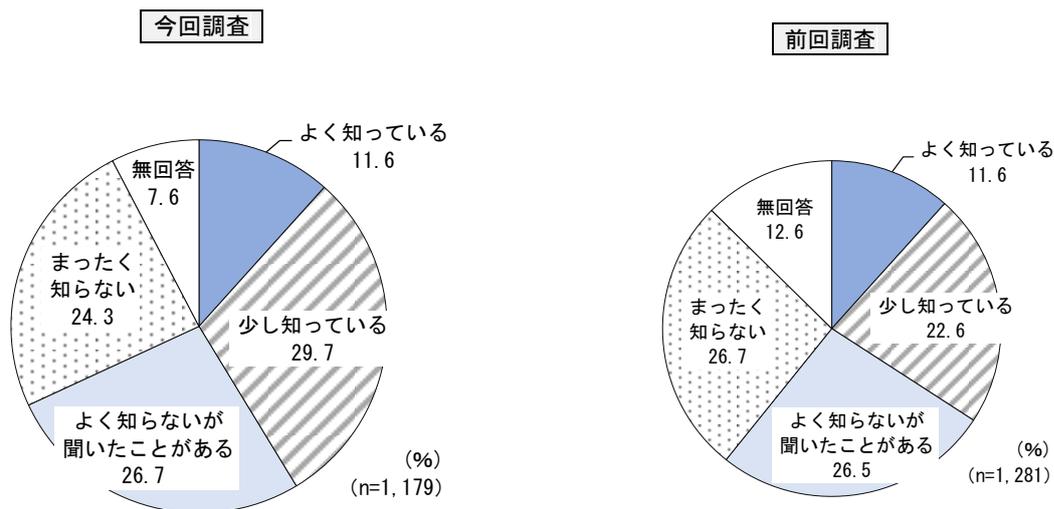
5 権利擁護の取り組みについて

(1) 成年後見制度の認知度及び利用意向

① 認知度

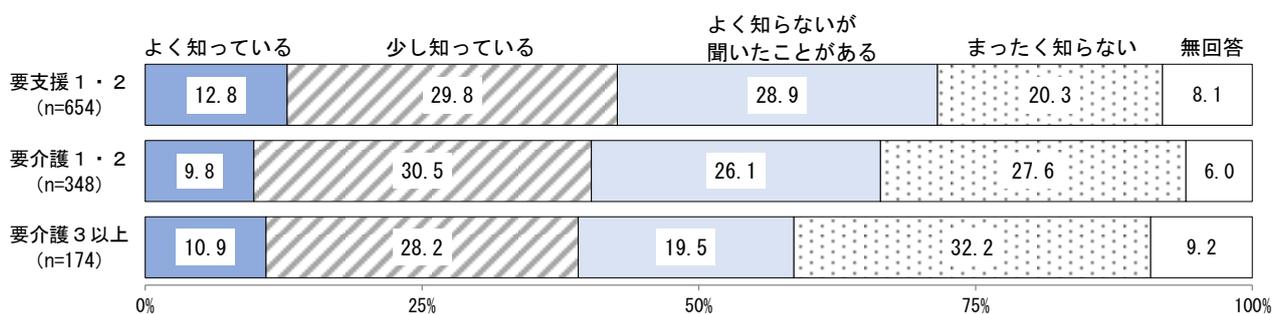
[A票] 問 13 ご本人は『成年後見制度』について知っていますか

成年後見制度について、「少し知っている」が29.7%と最も多く、「よく知っている」(11.6%)を合わせると、知っているという割合は4割台(41.3%)となっており、前回調査(34.2%)から7.1ポイント増えている。



要介護度別にみると、知っているという割合が、要支援1・2で42.7%、要介護1・2で40.2%、要介護3以上で39.1%と、いずれも4割前後となっている。

【要介護度別 成年後見制度の認知度】

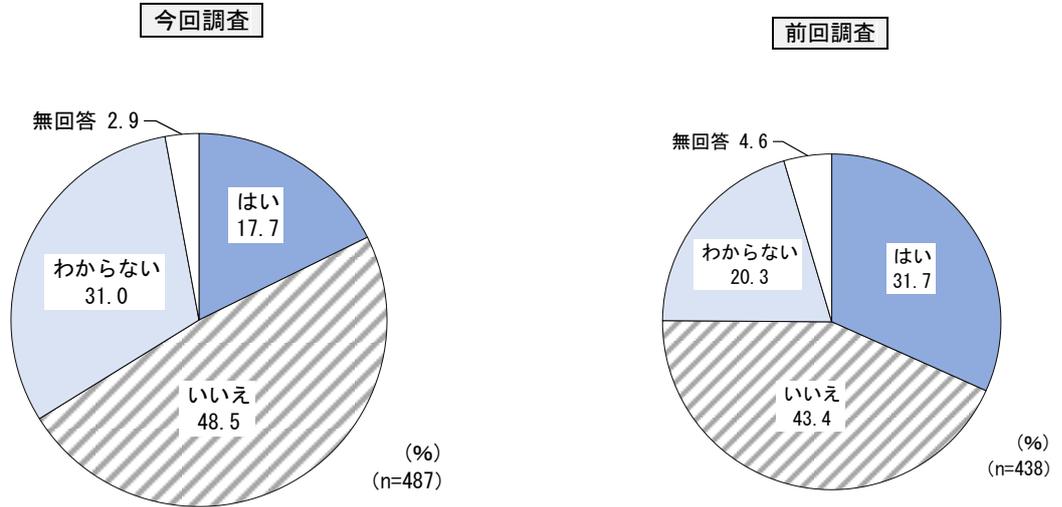


②利用意向

【問13で「よく知っている」または「少し知っている」とお答えの方】

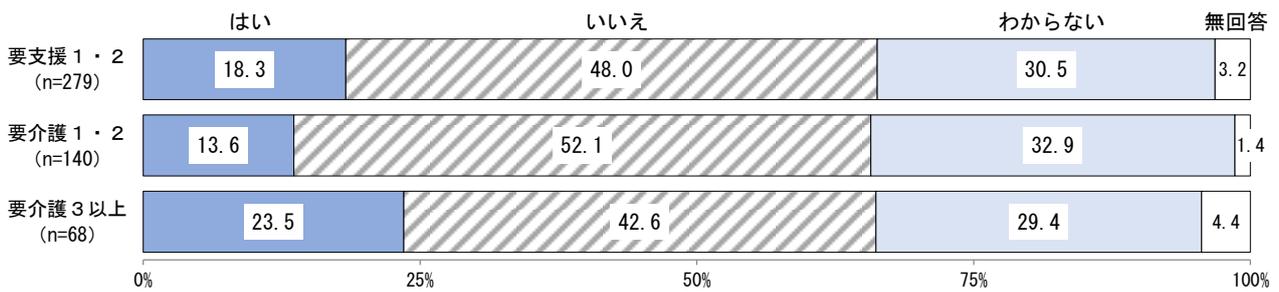
[A票] 問13-1 今後、ご本人は成年後見制度を利用したいですか

成年後見制度について知っている人のうち、今後利用したいという人の割合（「はい」）は1割台（17.7%）にとどまっており、前回調査（31.7%）からも14.0ポイント減っている。



要介護度別にみると、利用したいという割合が、要支援1・2で18.3%、要介護1・2で13.6%、要介護3以上で23.5%となっている。

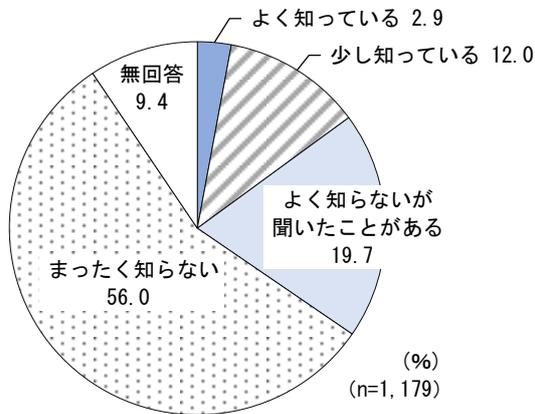
【要介護度別 成年後見制度の利用意向】



(2) 市民後見人の認知度

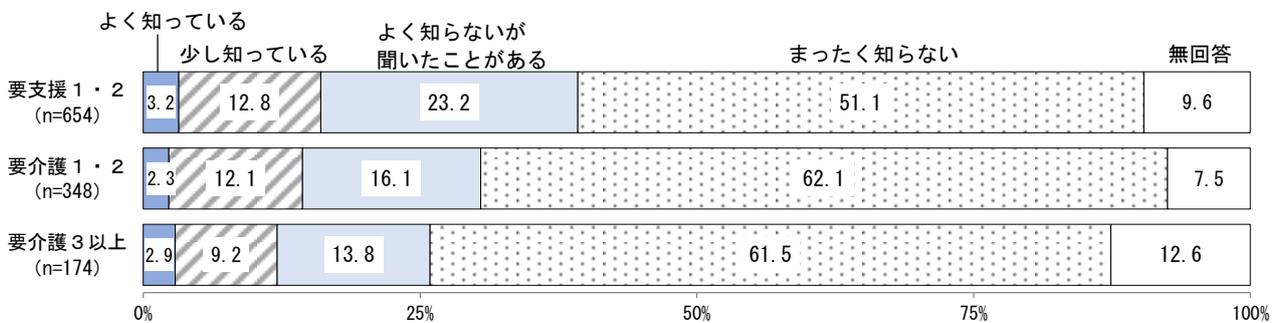
[A票] 問 14 ご本人は『市民後見人』について知っていますか

市民後見人について、「よく知っている」が 2.9%、「少し知っている」が 12.0%となっており、合わせると、知っているという割合は1割台（14.9%）となっている。



要介護度別にみると、知っているという割合が、要支援1・2で16.1%、要介護1・2で14.4%、要介護3以上で12.1%と、いずれも1割台となっている。

【要介護度別 市民後見人の認知度】



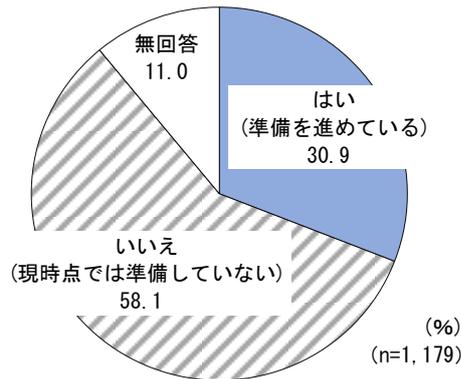
6 人生の最終段階について

(1) 人生の最終段階を迎える準備の状況

①準備の有無

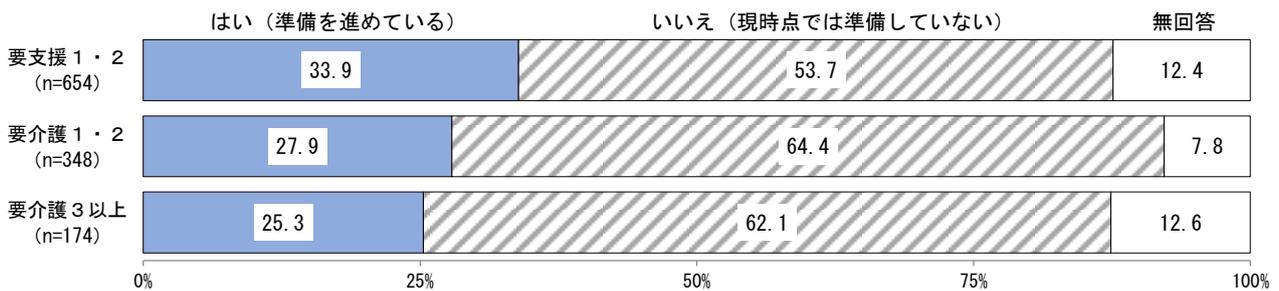
[A票] 問 11(1) 自身（ご本人）の人生の最終段階に向けて、何か準備していることはありますか

人生の最終段階に向けて準備しているという人（「はい（準備を進めている）」）は、全体の約3割（30.9%）となっている。



要介護度別にみると、準備しているという人が、要支援1・2で33.9%、要介護1・2で27.9%、要介護3以上で25.3%となっている。

【要介護度別 人生の最終段階に向けた準備の有無】

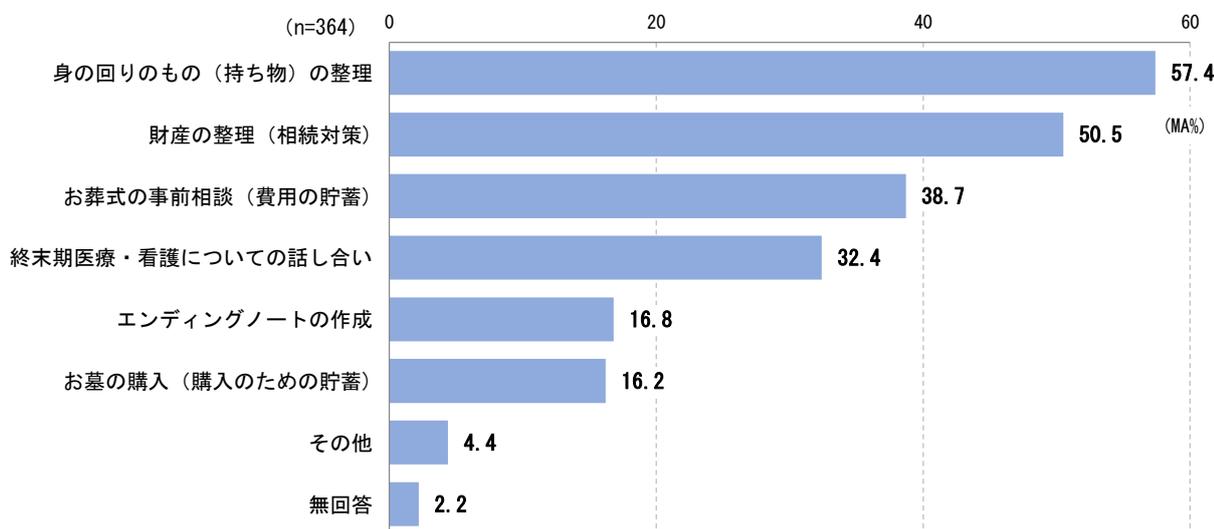


②準備を進めている内容

【問 15 で「はい（準備を進めている）」とお答えの方】

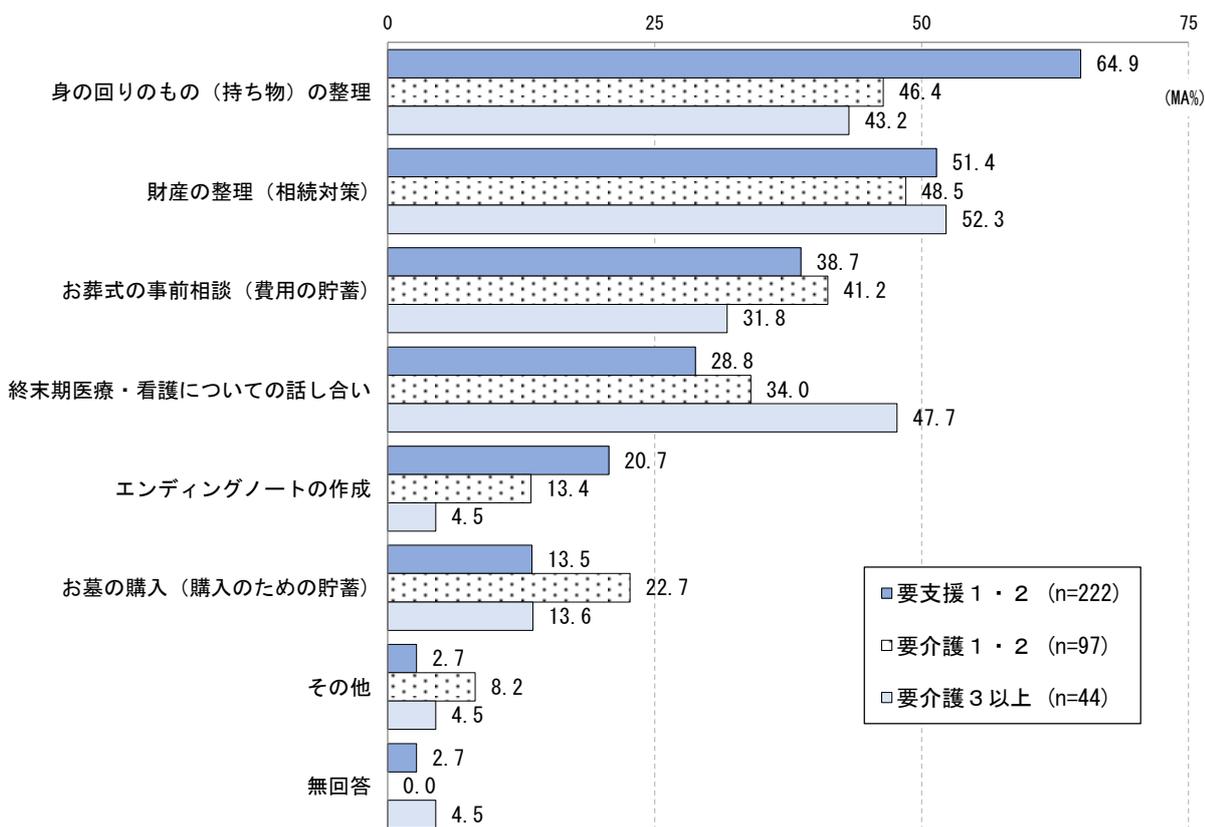
[A票] 問 15-1 具体的に準備を進めていることは何ですか（〇はいくつでも）

具体的に準備を進めていることとしては、「身の回りのもの（持ち物）の整理」が 57.4%と最も多く、次いで「財産の整理（相続対策）」が 50.5%となっている。



要介護度別にみると、要支援 1・2 では「身の回りのもの（持ち物）の整理」が 64.9%と最も多いのに対し、要介護の人では「財産の整理（相続対策）」が最も多く、要介護 1・2 で 48.5%、要介護 3 以上で 52.3%となっている。また、「終末期医療・看護についての話し合い」が要介護 3 以上で 47.7%と高い。

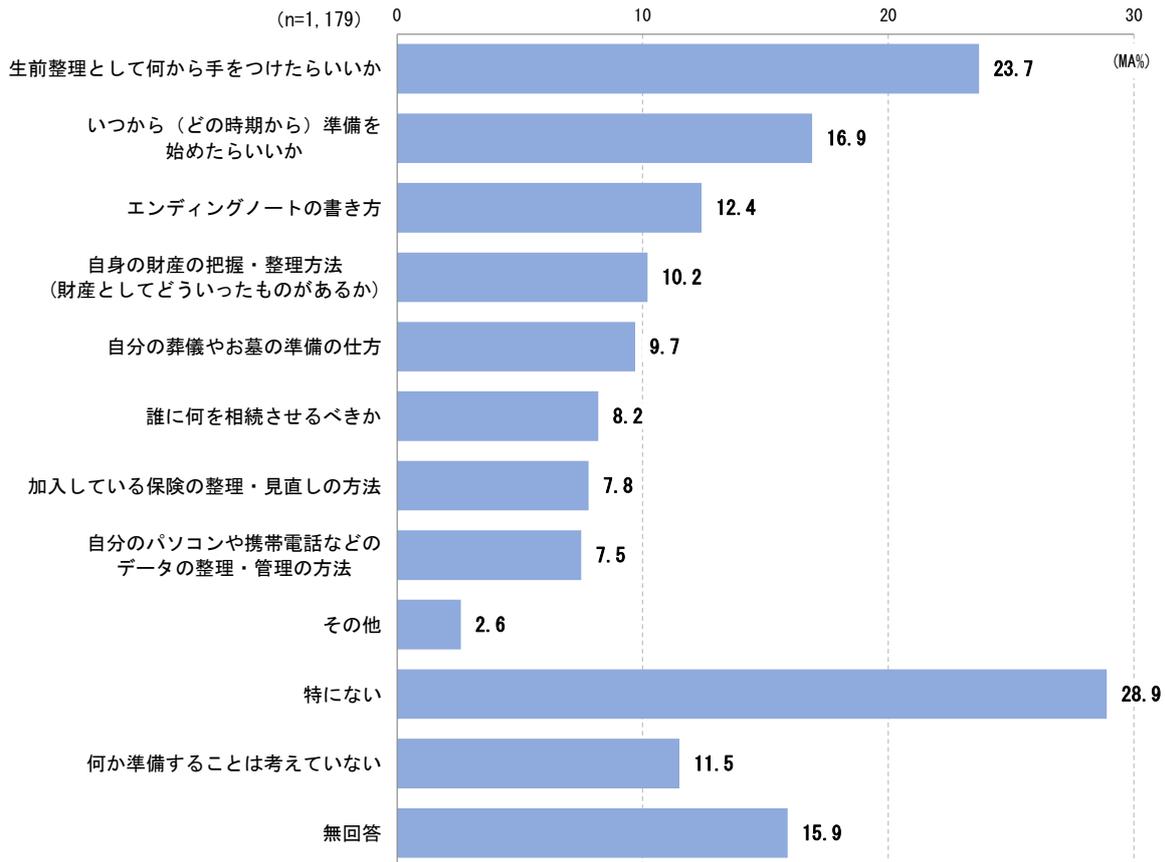
【要介護度別 人生の最終段階に向けて準備を進めている内容】



(2) 人生の最終段階を迎える準備に関して知りたいこと

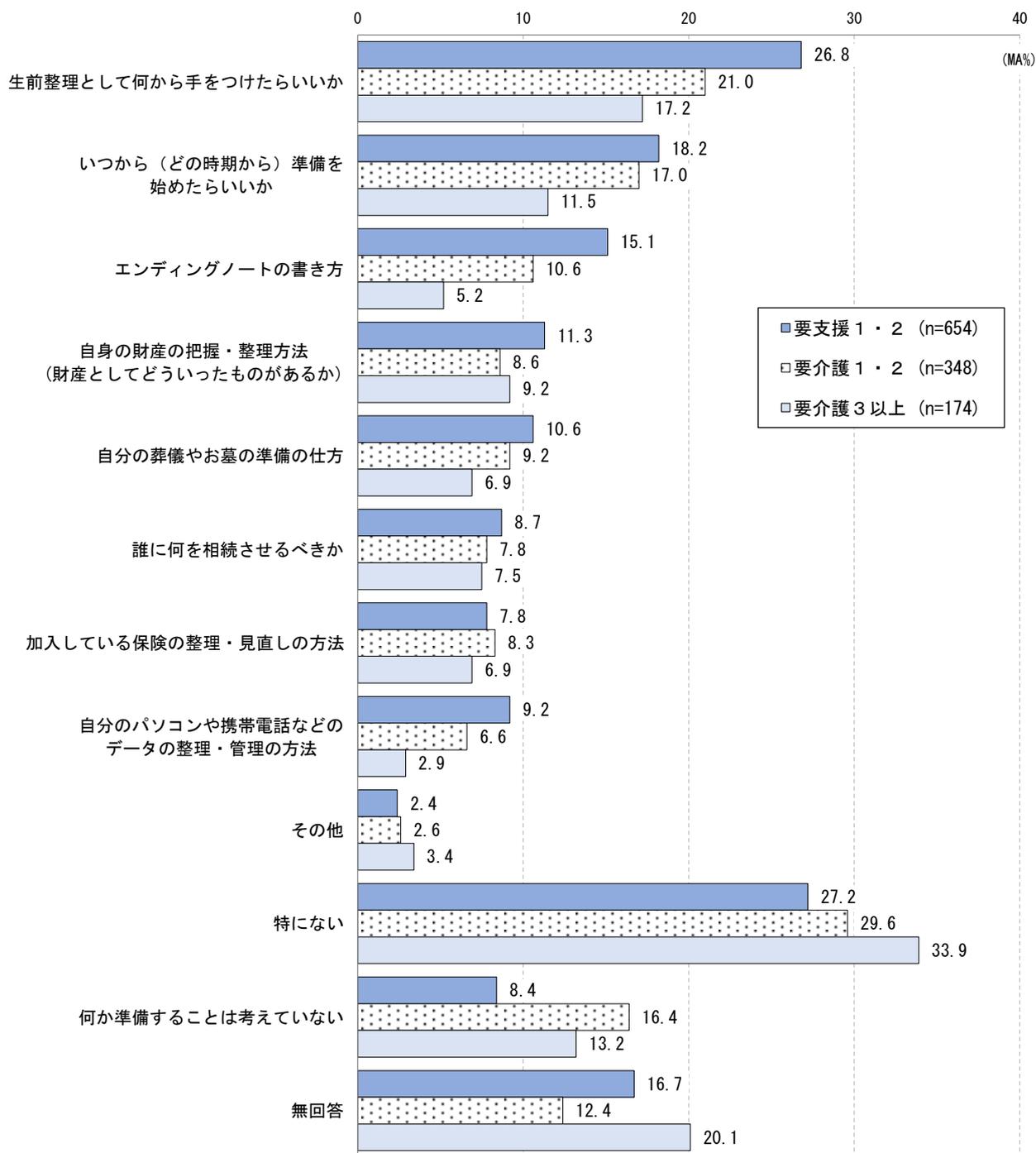
[A票] 問 16 将来、人生の最終段階に向けた準備を進めるにあたって（または現在準備を進めている中で）、ご自身が知りたいことや相談したいことはありますか（〇はいくつでも）

人生の最終段階に向けた準備を進めるにあたって知りたいことや相談したいこととしては、「生前整理として何から手をつけたらいいか」が 23.7%と最も多く、次いで「いつから（どの時期から）準備を始めたらいいか」が 16.9%、「エンディングノートの書き方」が 12.4%となっている。一方、「特にない」は3割近く（28.9%）みられる。



要介護度別にみても、「生前整理として何から手をつけたらいいか」が最も多く、要支援1・2で26.8%、要介護1・2で21.0%、要介護3以上で17.2%となっている。

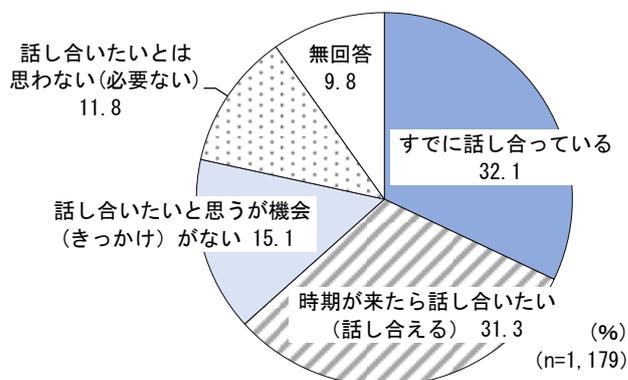
【要介護度別 人生の最終段階を迎える準備に関して知りたいこと】



(3) 人生の最終段階についての家族との話し合いの意向

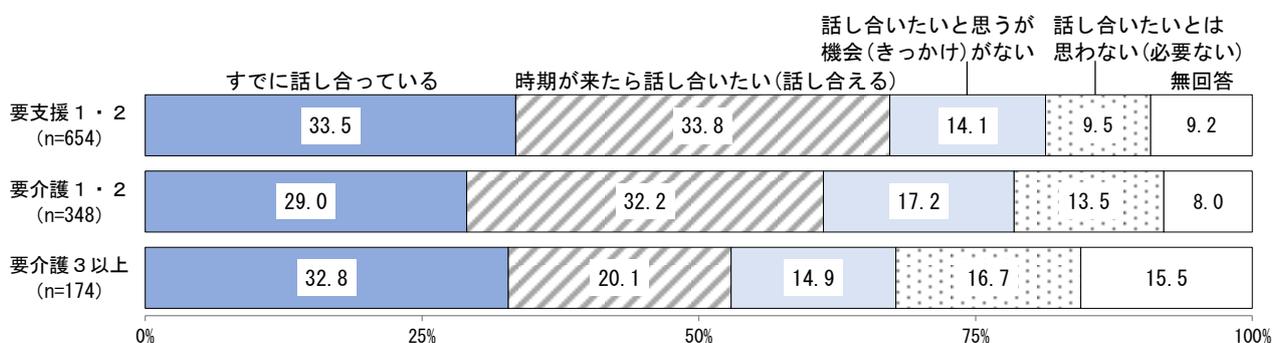
[A票] 問 17 人生の最終段階について、今後、ご家族と話し合う機会を作りたいと思いますか

今後、家族と話し合う機会を作りたいと思うかたずねたところ、「すでに話し合っている」が 32.1%と最も多く、次いで「時期が来たら話し合いたい（話し合える）」が 31.3%となっている。



要介護度別にみると、「すでに話し合っている」が要支援 1・2 で 33.5%、要介護 1・2 で 29.0%、要介護 3 以上で 32.8%と、いずれも 3 割前後みられる。

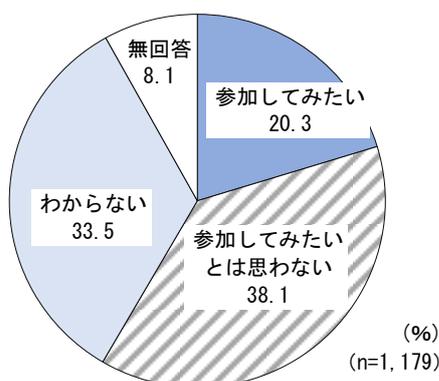
【要介護度別 人生の最終段階についての家族との話し合いの意向】



(4) 人生の最終段階を迎える準備に関するセミナーへの参加意向

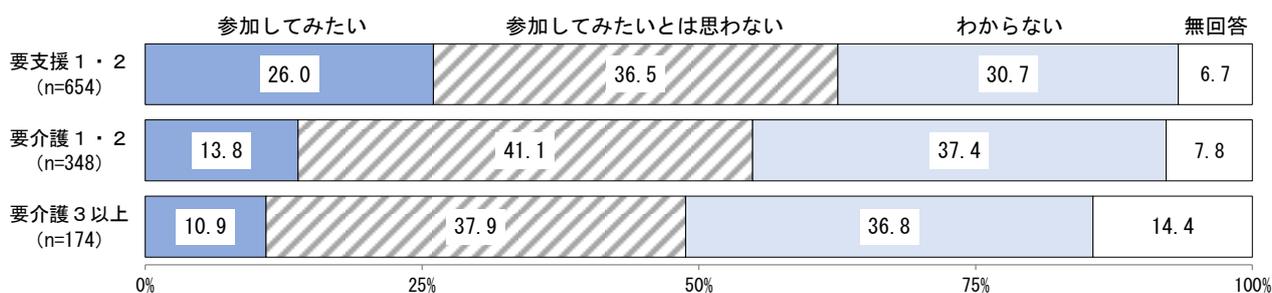
[A票] 問 18 人生の最終段階を迎える準備に関するセミナー（講演会）が身近な場所で開催された場合、あなたは参加してみたいと思いますか

人生の最終段階を迎える準備に関するセミナー（講演会）が身近な場所で開催された場合、「参加してみたい」が 20.3%に対し、「参加してみたいとは思わない」が 38.1%となっている。



要介護度別にみると、「参加してみたい」が、要支援1・2で 26.0%に対し、要介護1・2では 13.8%、要介護3以上では 10.9%となっている。

【要介護度別 人生の最終段階を迎える準備に関するセミナーへの参加意向】



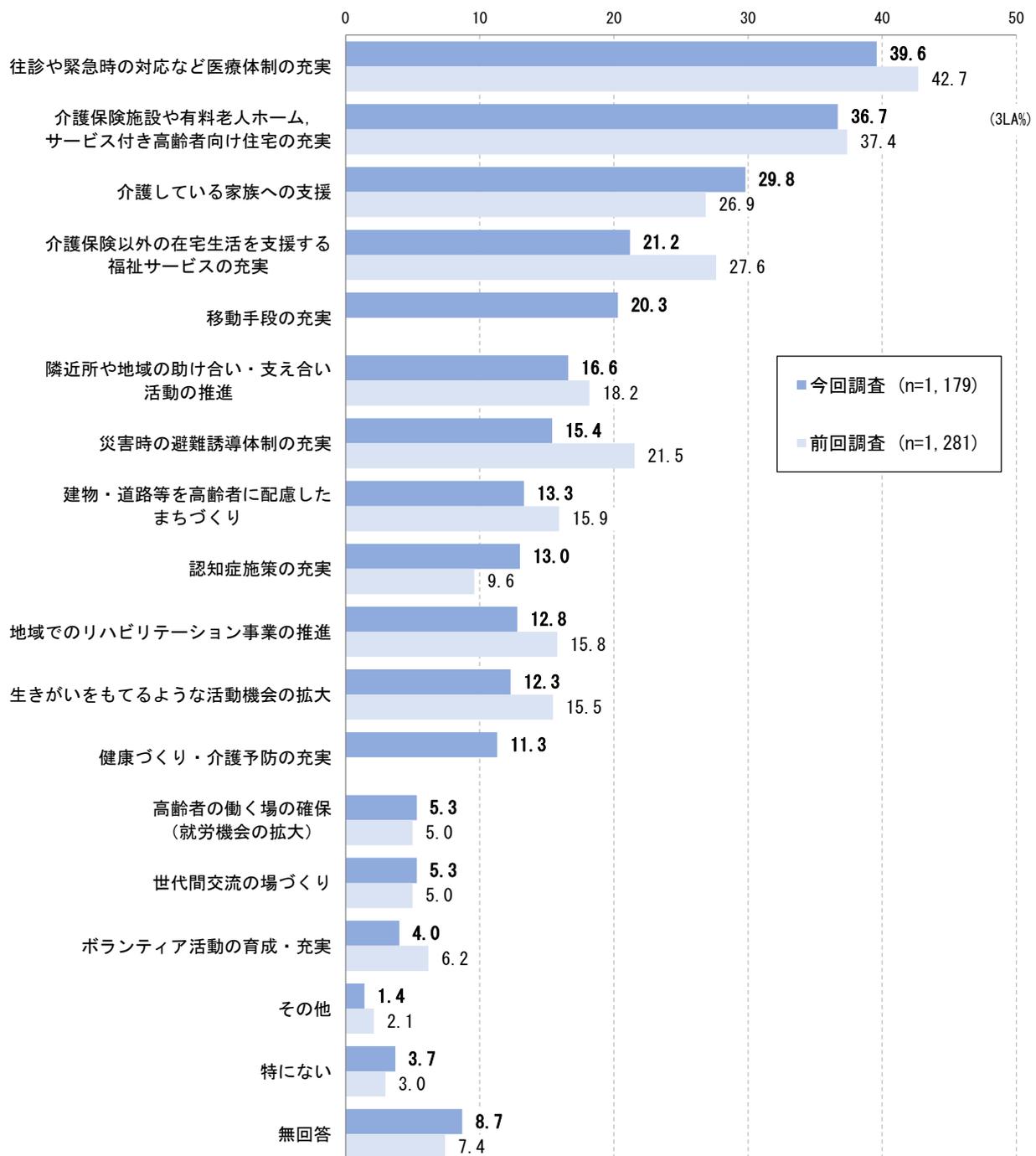
7 高齢者支援について

(1) 高齢者への支援で必要なこと

[A票] 問 19 高齢者への支援で必要なことはどのようなことだと思いますか (主なもの3つまでに○)

高齢者への支援で特に必要と思うこととしては、「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が39.6%と最も多く、次いで「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」が36.7%、「介護している家族への支援」が29.8%、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が21.2%、「移動手段の充実」が20.3%となっている。

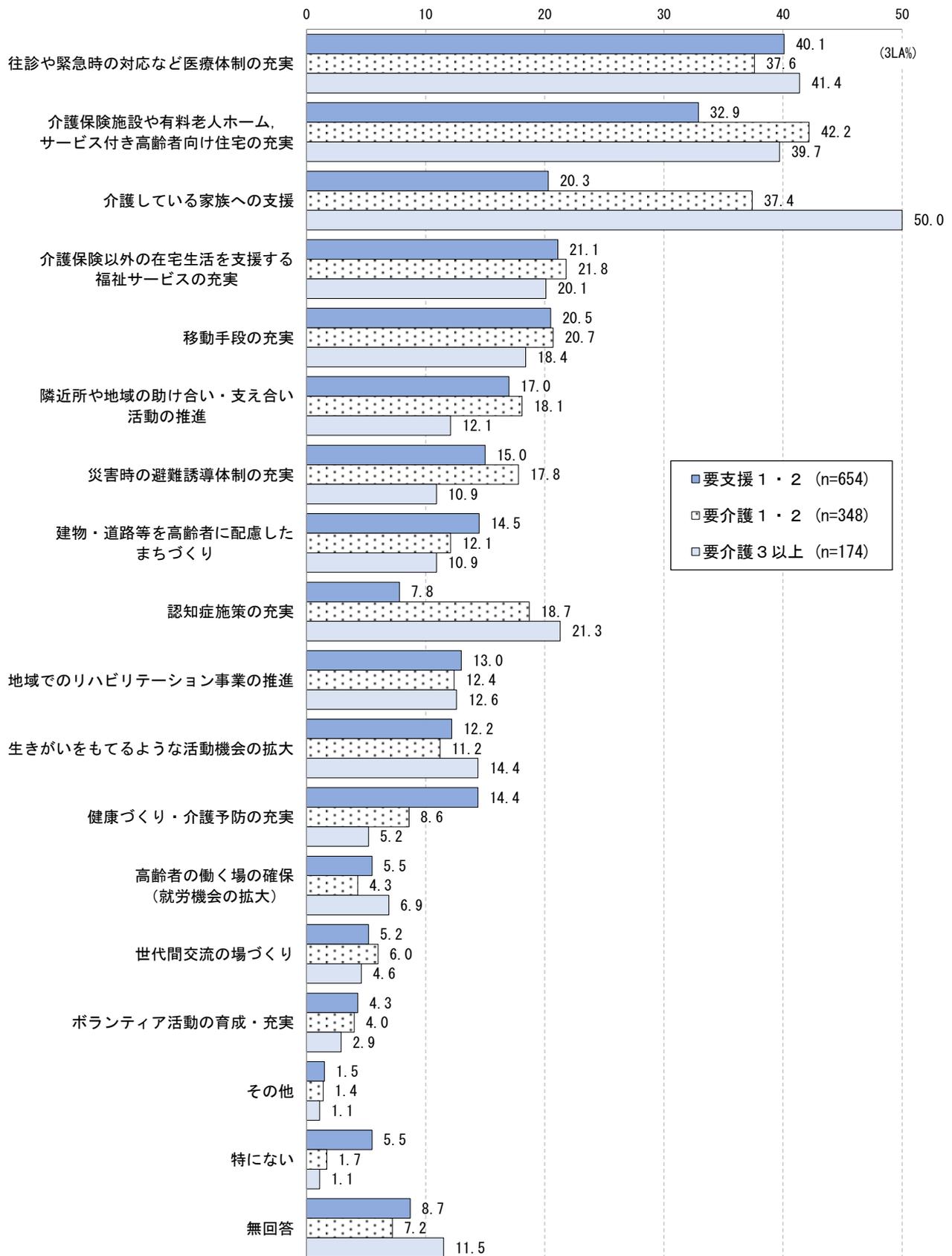
前回調査と比べると、「介護している家族への支援」(前回26.9%)、「認知症施策」(今回13.0%、前回9.6%)が3ポイント前後増えている。



※ 「移動手段の充実」、「健康づくり・介護予防の充実」は新規項目 (前回調査なし)

要介護度別にみると、要支援1・2では「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が40.1%、要介護1・2では「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」が42.2%、要介護3以上では「介護している家族への支援」が50.0%と、それぞれ最も高くなっている。

【要介護度別 高齢者への支援に必要なこと】

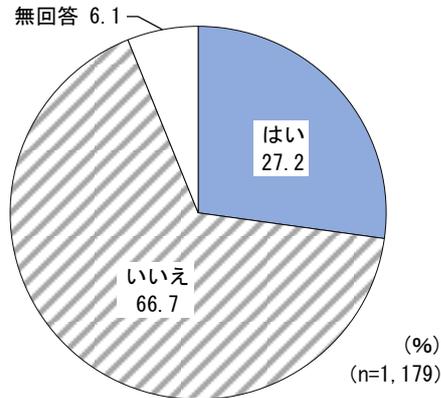


8 認知症について

(1) 認知症の症状の有無

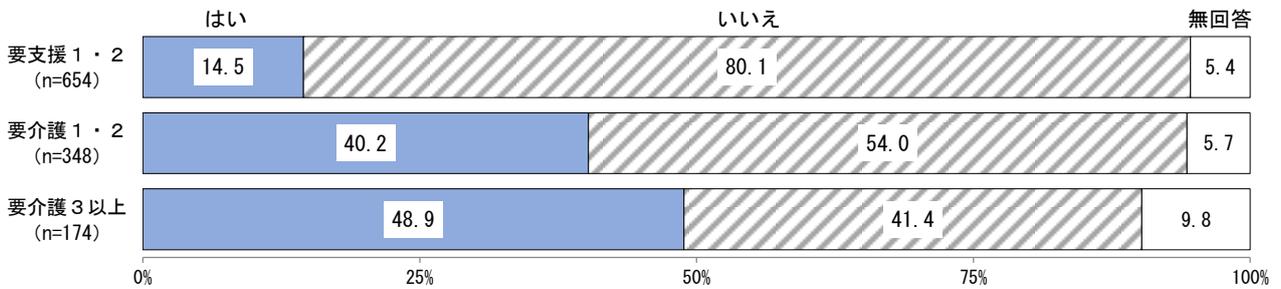
[A票] 問 20 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

自身または家族に認知症の症状がある人がいるという割合（「はい」）は、全体の2割台（27.2%）となっている。



要介護度別にみると、認知症の症状がある人がいるという割合が、要支援1・2で14.5%に対し、要介護1・2では40.2%、要介護3以上では48.9%と高くなっている。

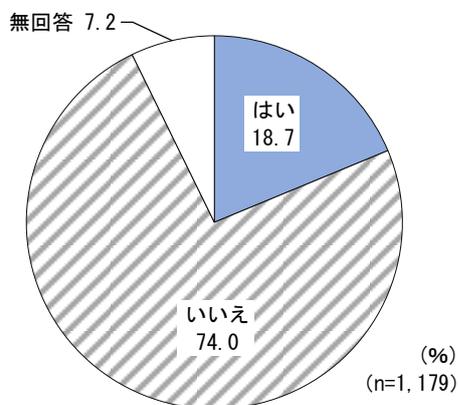
【要介護度別 認知症の症状の有無】



(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

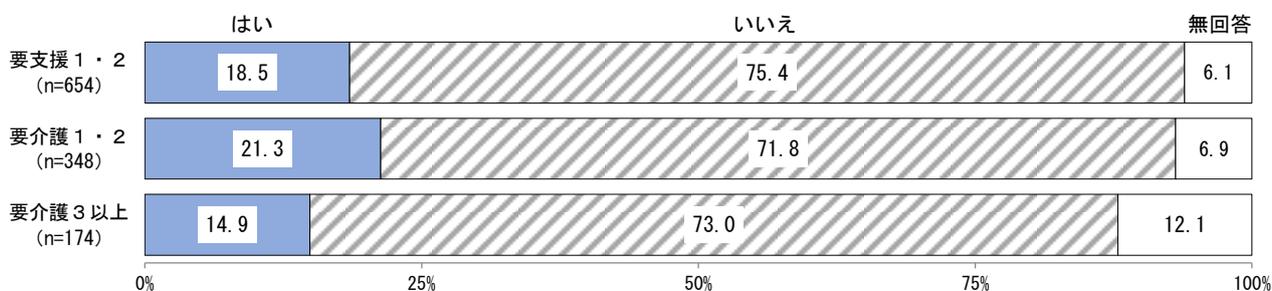
[A票] 問 21 ご本人は認知症に関する相談窓口を知っていますか

認知症に関する相談窓口を知っているという割合（「はい」）は、全体の2割近く（18.7%）となっている。



要介護度別にみると、知っているという割合が、要支援1・2で18.5%、要介護1・2で21.3%、要介護3以上で14.9%となっている。

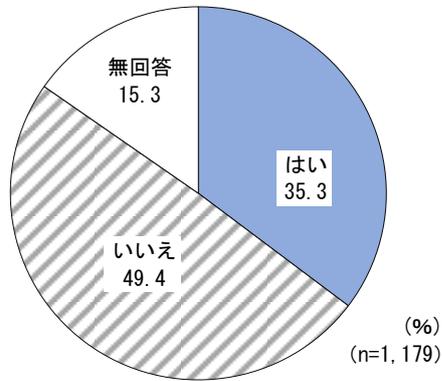
【要介護度別 認知症に関する相談窓口の認知度】



(3) 認知症になる可能性に対する認識

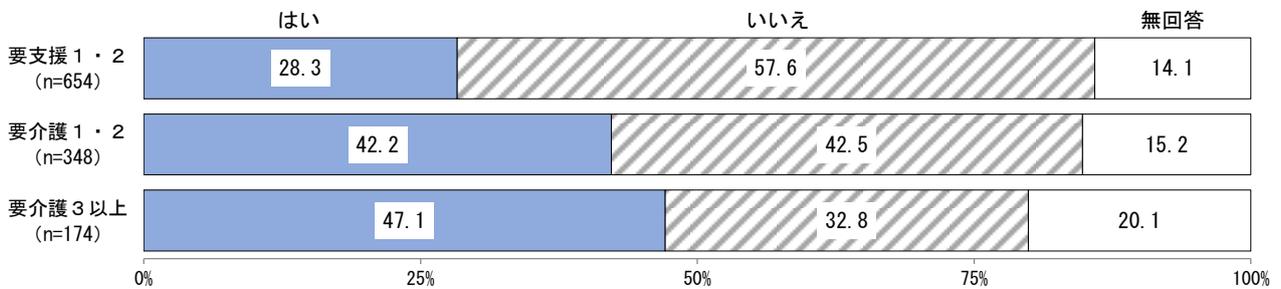
[A票] 問 22 あなた（ご本人）は認知症になる（患う）と思いますか

自身が認知症になる（患う）と思うという人の割合（「はい」）は、全体の3割台（35.3%）となっている。



要介護度別にみると、なると思うという人の割合が、要支援1・2で28.3%、要介護1・2で42.2%、要介護3以上で47.1%となっている。

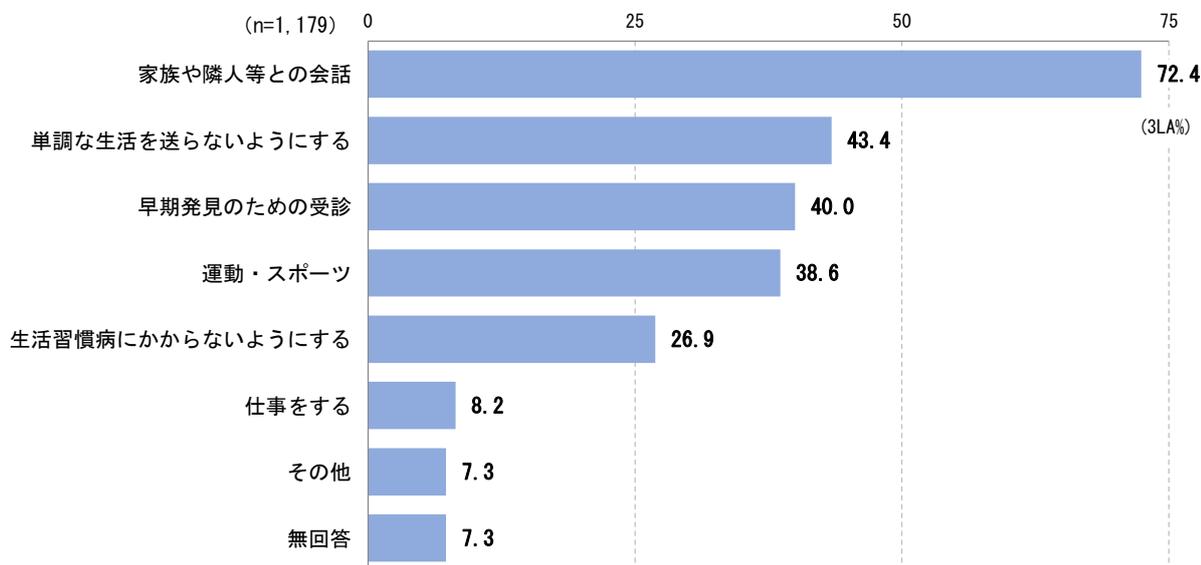
【要介護度別 認知症になる可能性に対する認識】



(4) 認知症予防に重要と思う方法

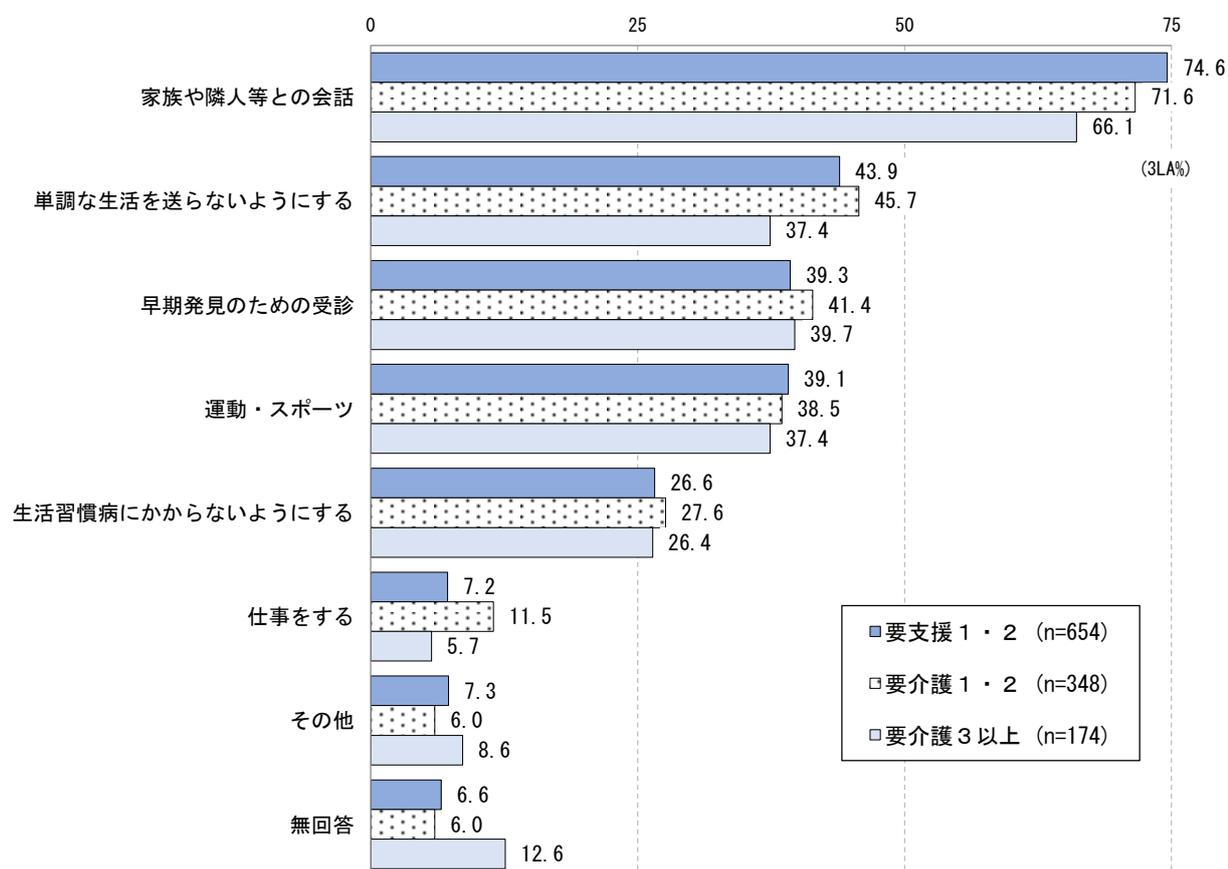
[A票] 問 23 認知症予防の方法として、重要なことはどのようなことだと思いますか (主なもの3つまでに○)

認知症予防の方法として重要と思うこととしては、「家族や隣人等との会話」が72.4%と最も多く、次いで「単調な生活を送らないようにする」が43.4%、「早期発見のための受診」が40.0%となっている。



要介護度別にみても、いずれも「家族や隣人等との会話」が最も多く、要支援1・2で74.6%、要介護1・2で71.6%、要介護3以上で66.1%となっている。

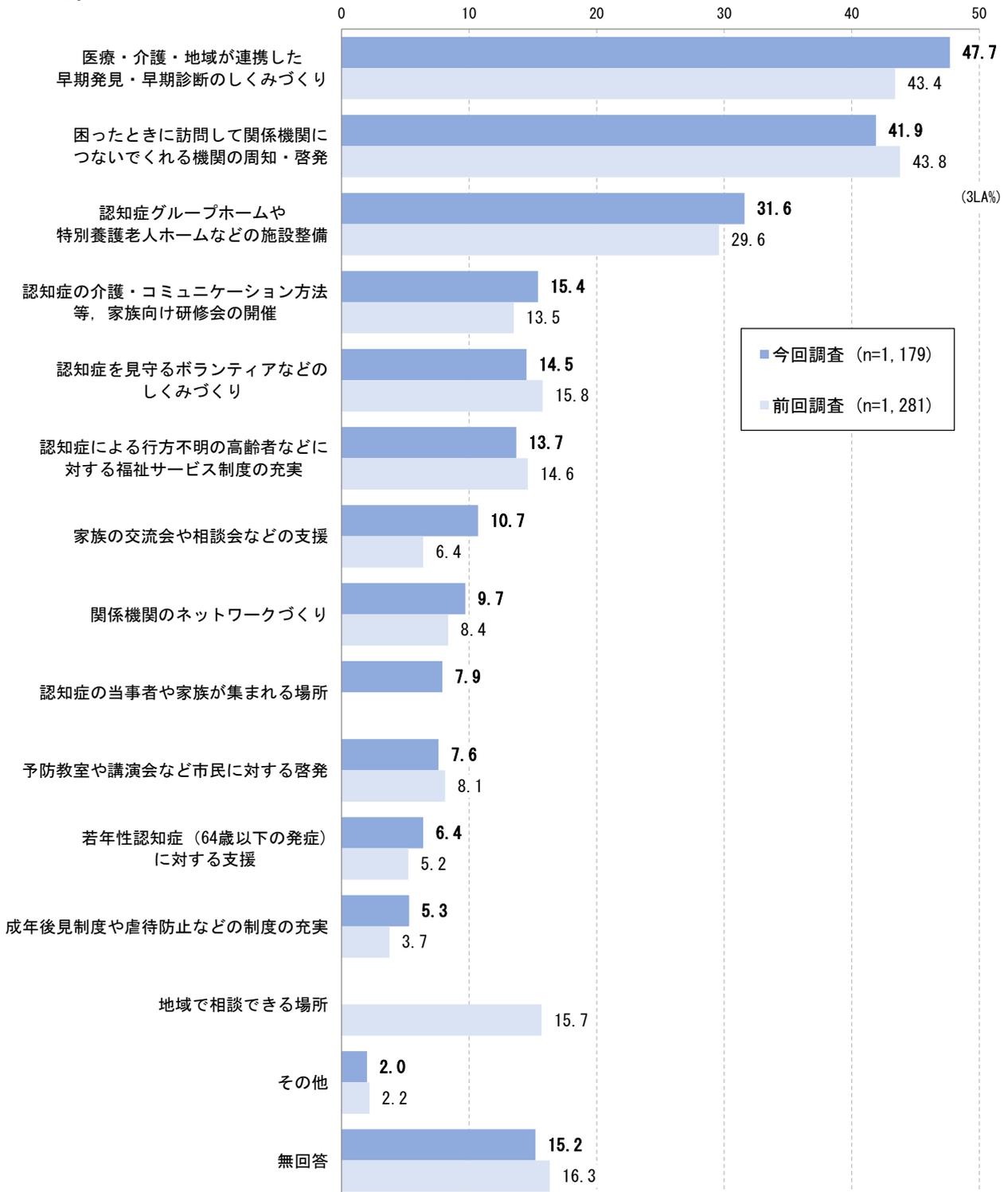
【要介護度別 認知症予防に重要と思う方法】



(5) 認知症の人に必要と思う支援

[A票] 問 24 認知症の人への支援で必要なことはどのようなことだと思いますか (主なもの3つまでに○)

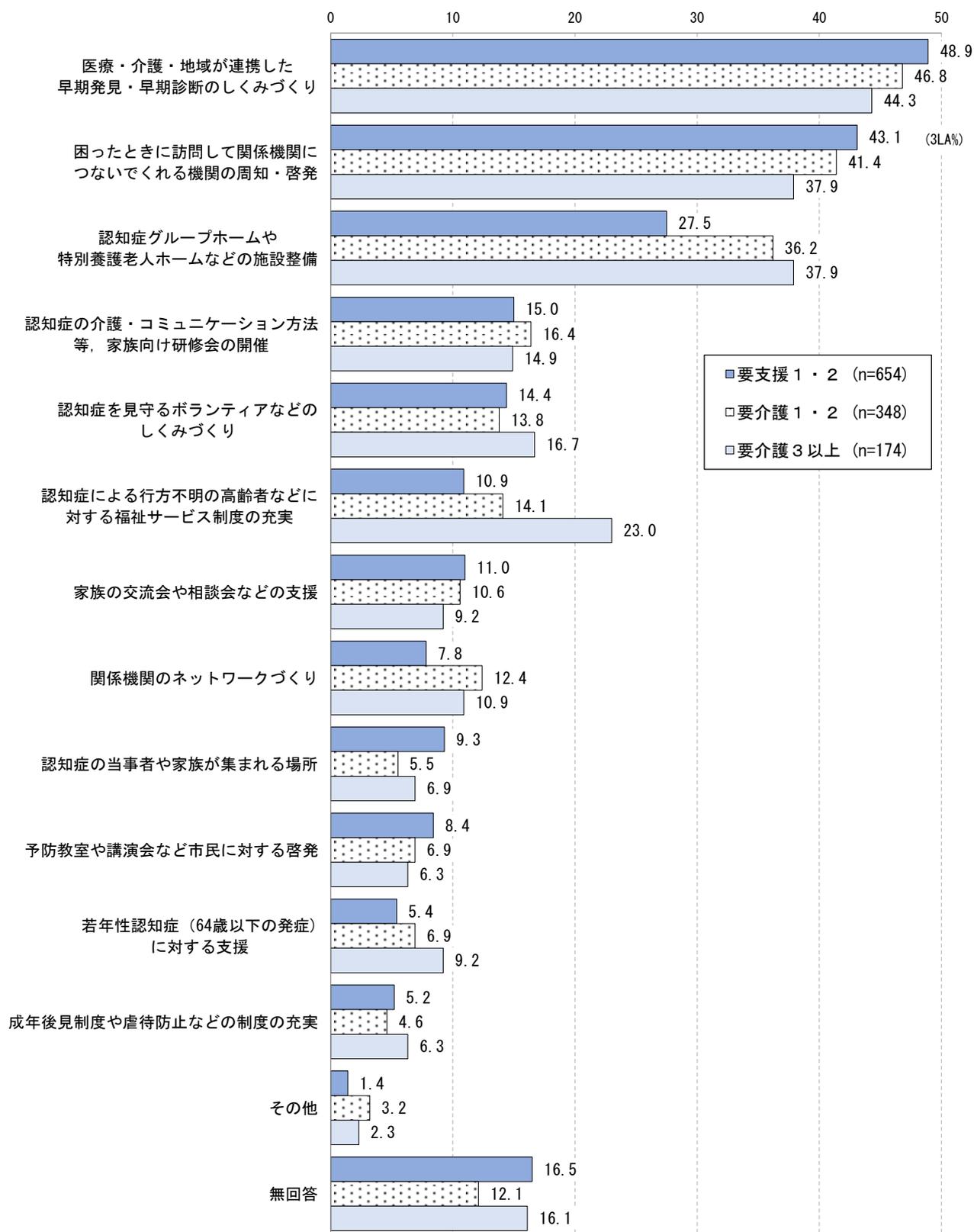
認知症の人への支援で必要と思うこととしては、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が47.7%と最も多くなっており、前回調査(43.4%)からも4.3ポイント増えている。また、これに続くのが、「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関の周知・啓発」で41.9%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」で31.6%となっている。



※「認知症の当事者や家族が集まれる場所」は新規項目(前回調査なし)、「地域で相談できる場所」は今回調査なし

要介護度別にみると、いずれも「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が最も多く、要支援1・2で48.9%、要介護1・2で46.8%、要介護3以上で44.3%となっている。

【要介護度別 認知症の人に必要と思う支援】



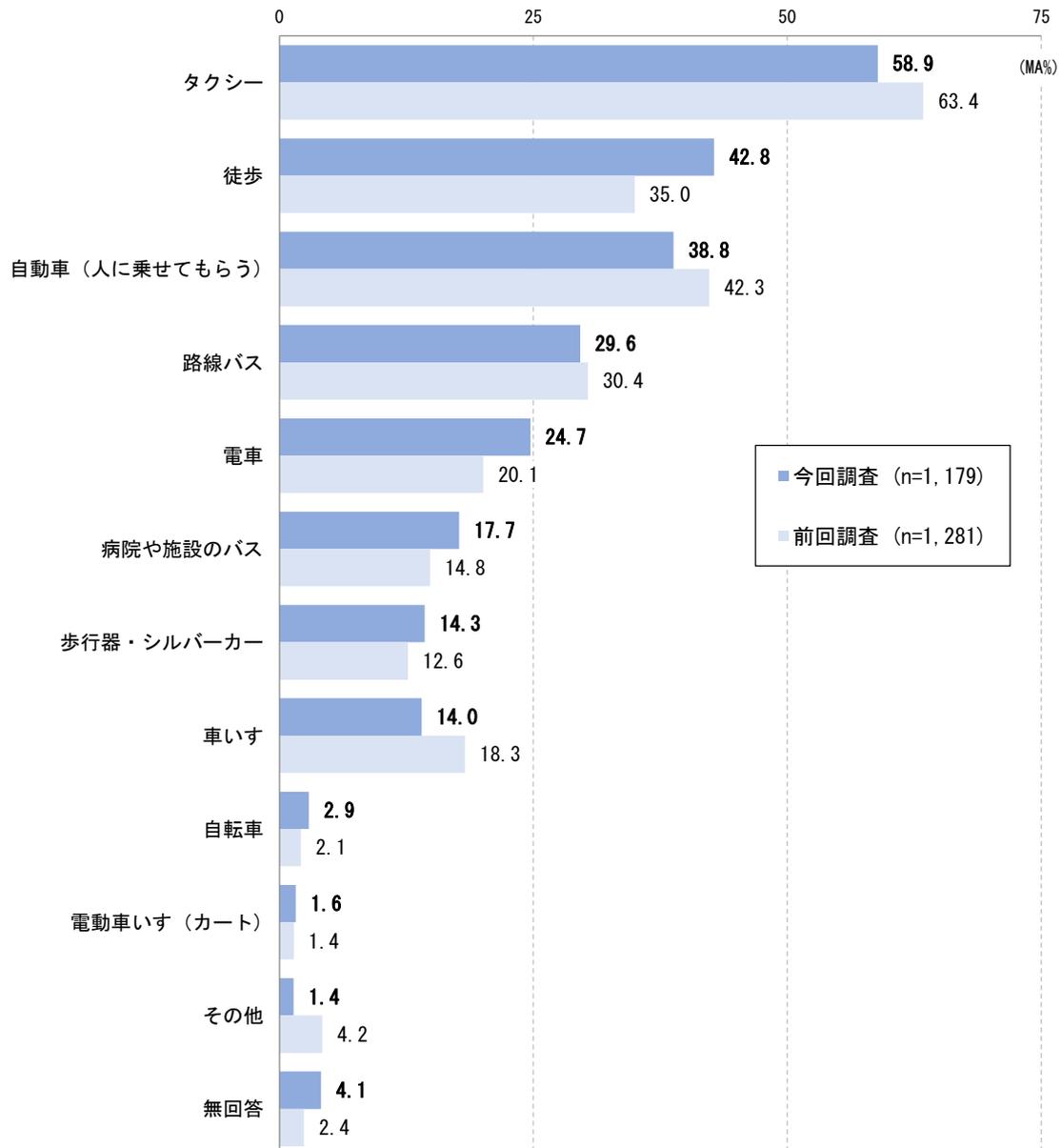
9 外出について

(1) 外出する際の移動手段

[A票] 問 25 ご本人が外出する際の移動手段は何ですか (〇はいくつでも)

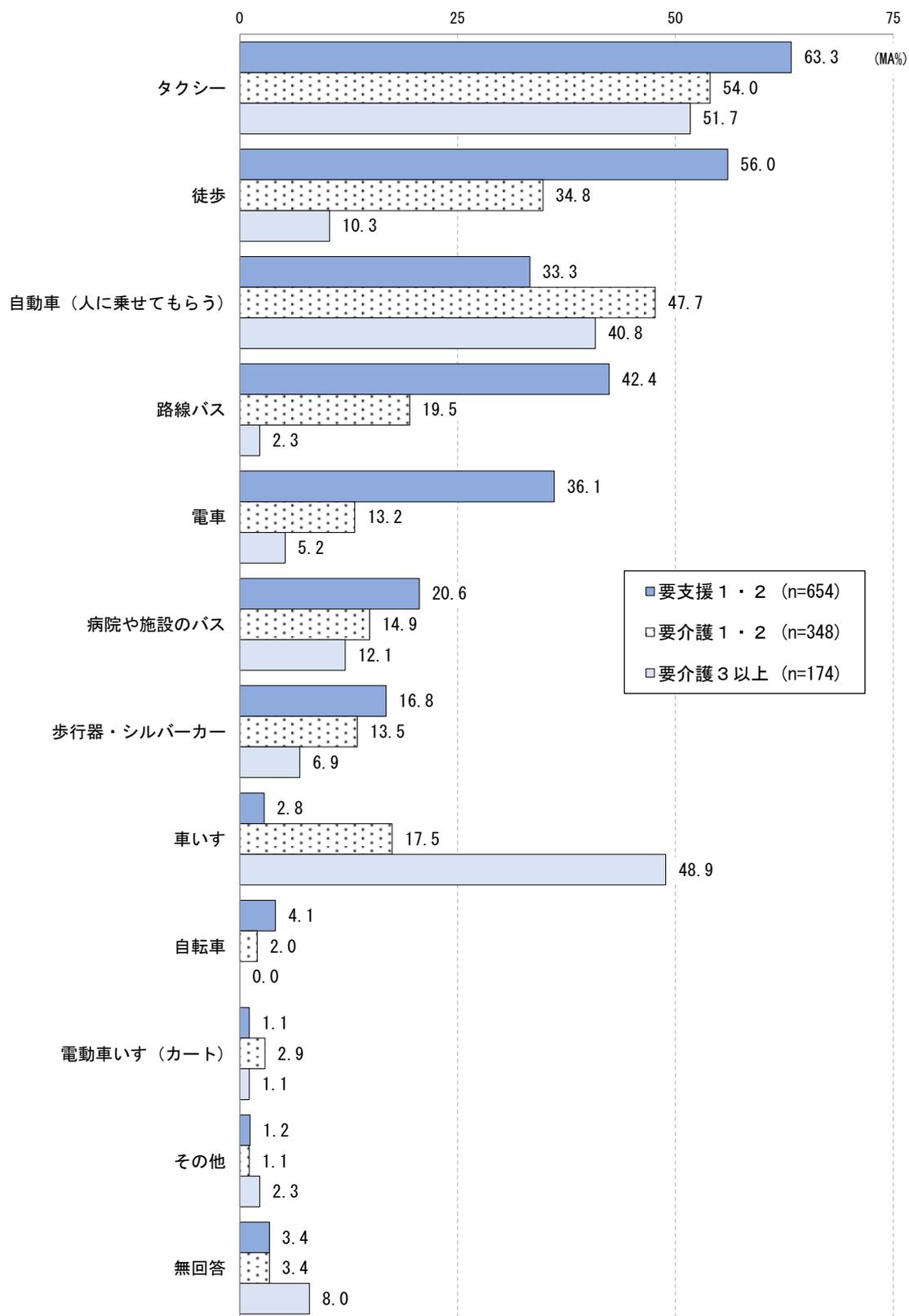
外出する際の移動手段としては、「タクシー」が58.9%と最も多く、次いで「徒歩」が42.8%、「自動車(人に乗せてもらう)」が38.8%、「路線バス」が29.6%、「電車」が24.7%となっている。

前回調査と比べると、「タクシー」(前回63.4%)が4.5ポイント減に対し、「電車」(前回20.1%)が4.6ポイント増となっている。



要介護度別にみても、いずれも「タクシー」が最も多く、要支援1・2で63.3%、要介護1・2で54.0%、要介護3以上で51.7%となっている。また、「路線バス」及び「電車」が要支援1・2で3～4割台に対し、要介護1・2では1割台、要介護3以上では1割未満となっている。

【要介護度別 外出する際の移動手段】



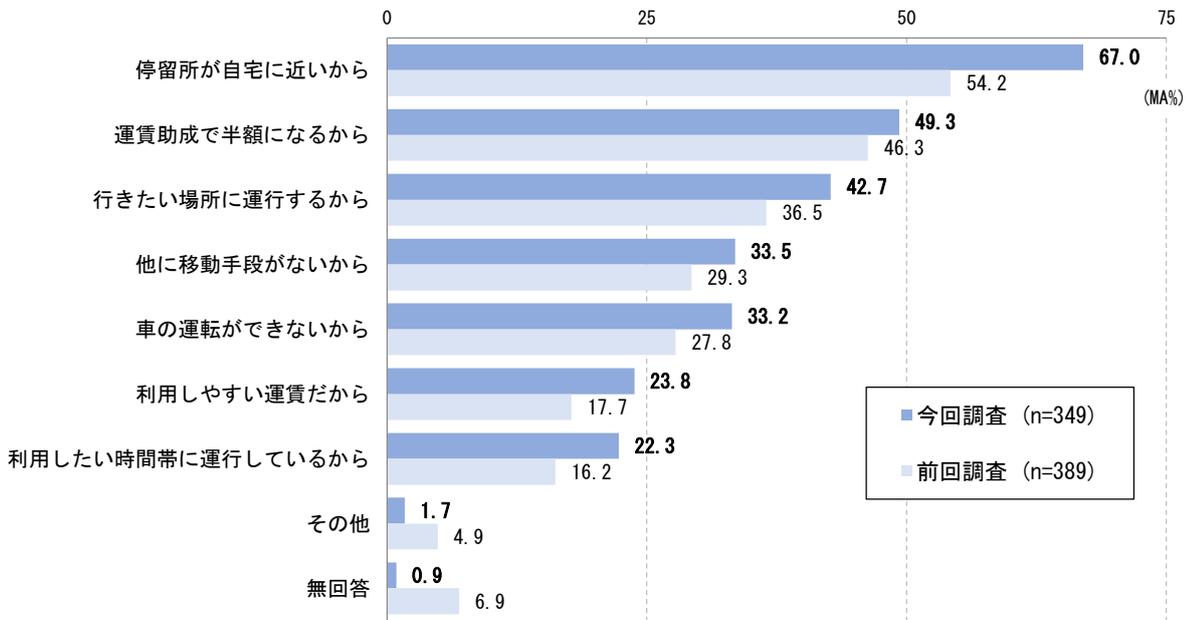
(2) 路線バスの利用状況

① 路線バス利用の理由

【問 25 で「路線バス」とお答えの方】

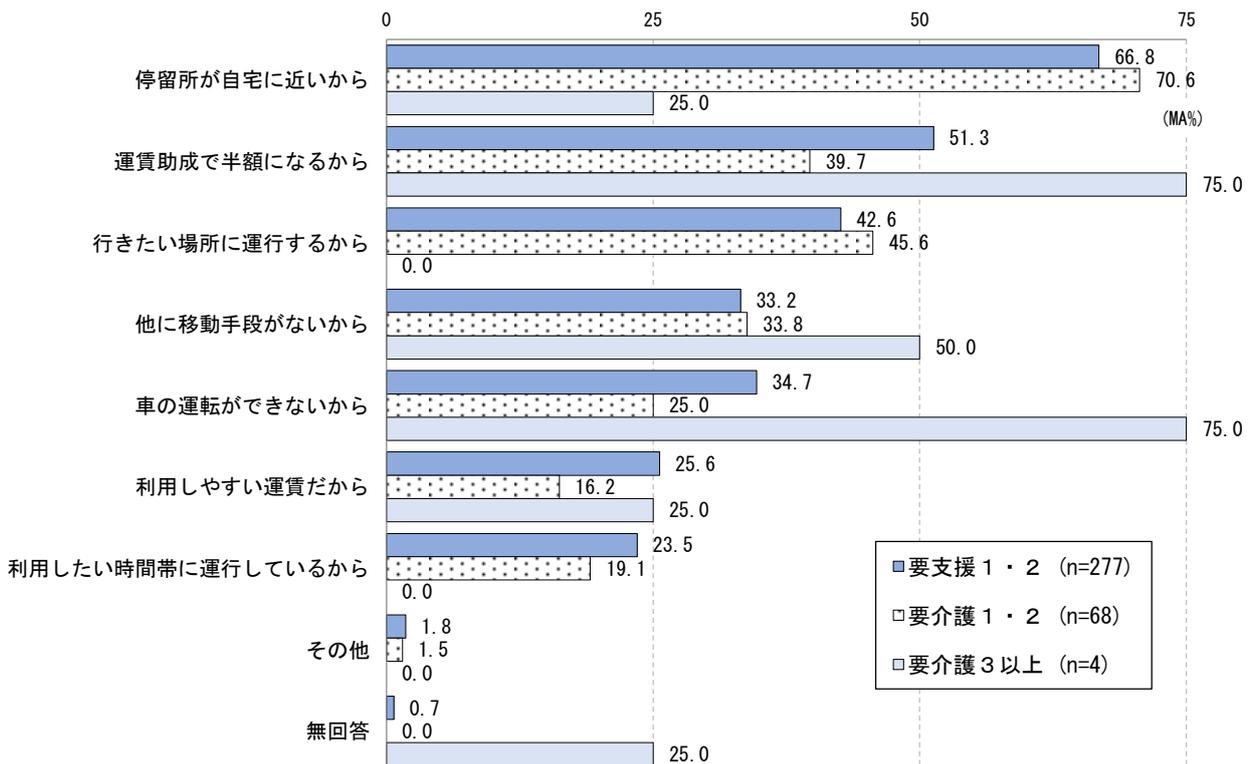
[A 票] 問 25-1 ご本人が路線バスを利用する主な理由は何ですか (〇はいくつでも)

路線バスを利用する理由としては、「停留所が自宅に近いから」が 67.0%と最も多く、前回調査 (54.2%) から 12.8 ポイント増えている。また、これに続くのが、「運賃助成で半額になるから」で 49.3%、「行きたい場所に運行するから」で 42.7%となっている。



要介護度別にみても、「停留所が自宅に近いから」が要支援 1・2 で 66.8%、要介護 1・2 で 70.6%と、それぞれ最も多くなっている。

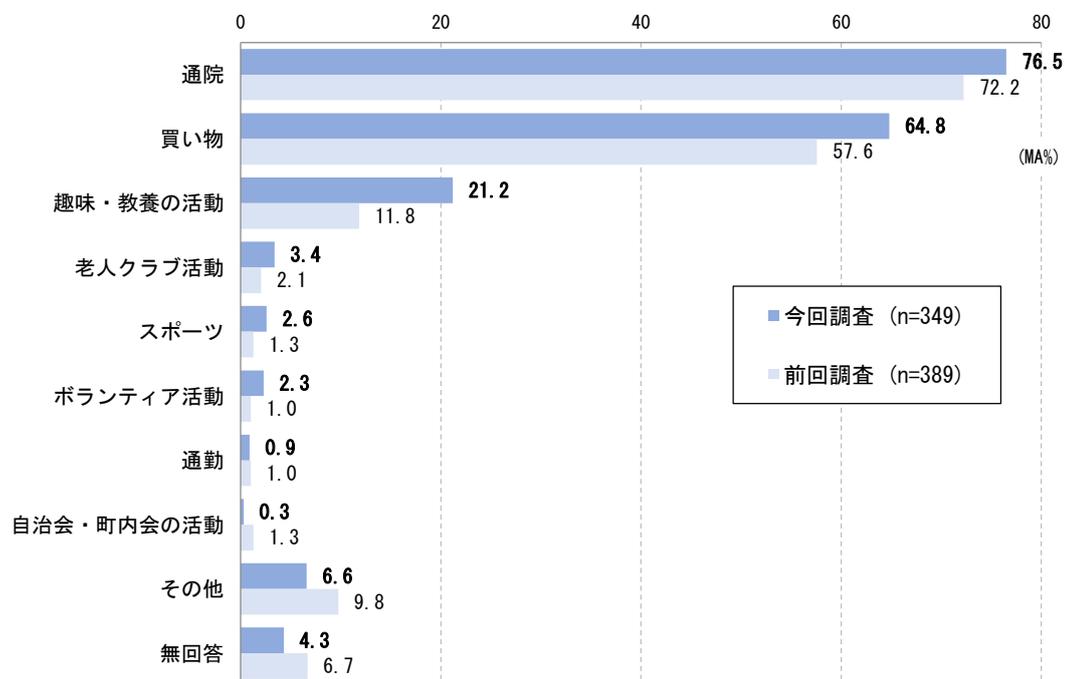
【要介護度別 路線バス利用の理由】



②路線バスの利用目的

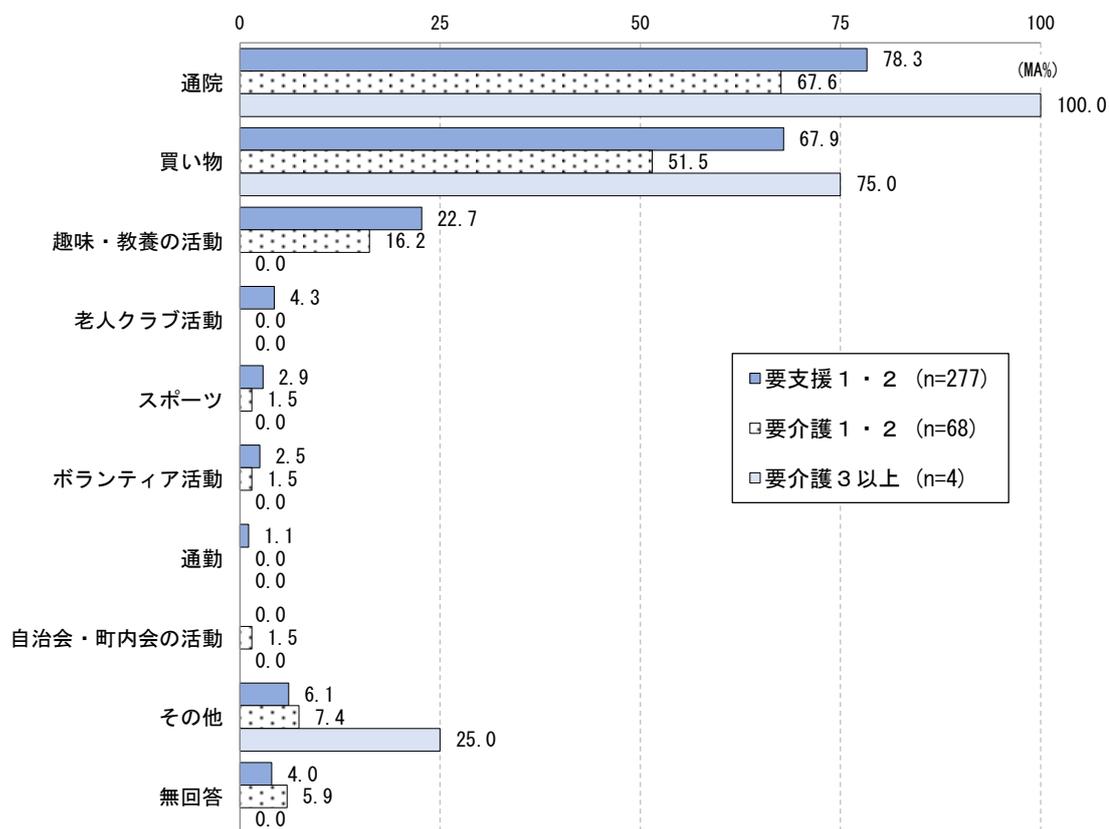
[A票] 問 25-2 ご本人が路線バスを利用する主な目的は何ですか (〇はいくつでも)

路線バスの利用目的としては、「通院」が76.5%と最も多く、次いで「買い物」が64.8%、「趣味・教養の活動」が21.2%となっており、いずれも前回調査から5～10ポイント程度増えている。



要介護度別にみても、いずれも「通院」が最も多く、次いで「買い物」となっている。

【要介護度別 路線バスの利用目的】

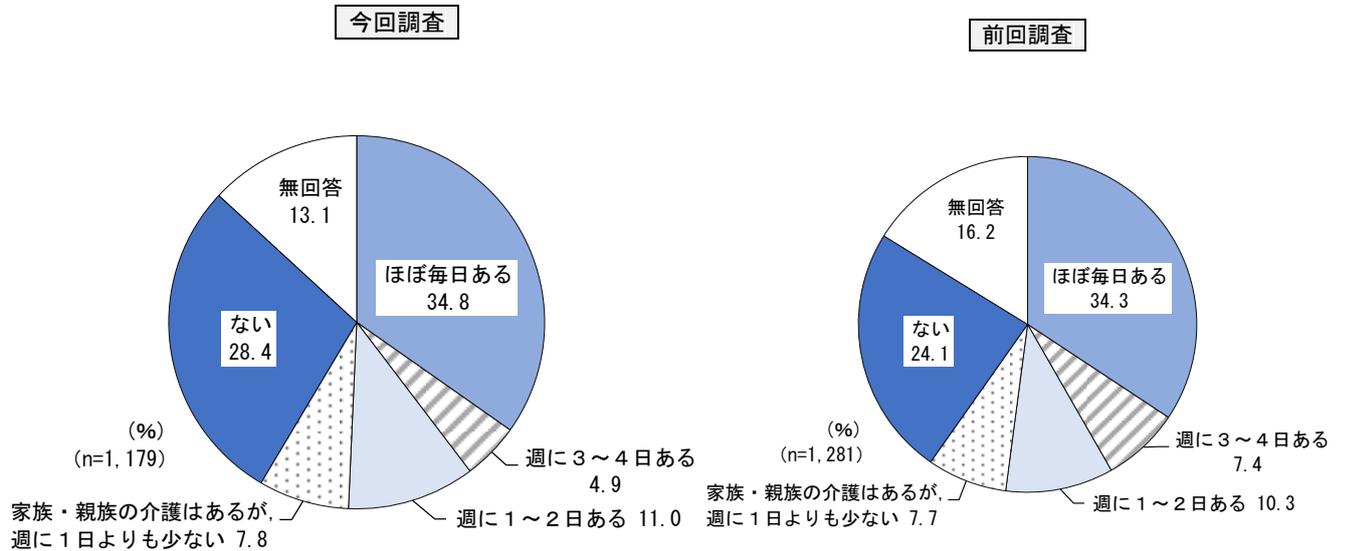


10 介護の状況について

(1) 介護を受ける頻度

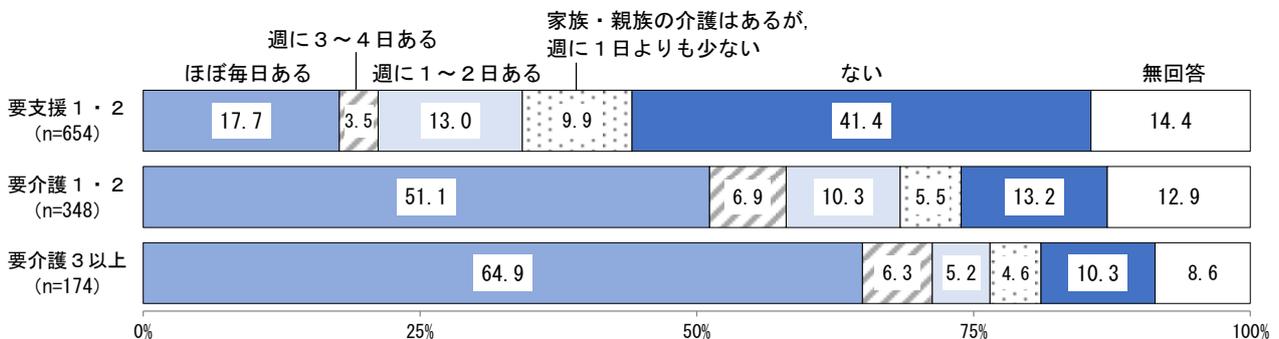
[A票] 問 26 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか

家族や親族からの介護を受けているという割合は、全体の6割近く（58.5%）となっており、頻度としては、「ほぼ毎日ある」が34.8%と最も多くなっている。



要介護度別にみると、介護を受けているという割合が、要支援1・2で44.2%、要介護1・2で73.9%、要介護3以上で81.0%となっている。また、「ほぼ毎日ある」が要支援1・2で17.7%に対し、要介護1・2では5割台（51.1%）、要介護3以上では6割台（64.9%）をそれぞれ占めている。

【要介護度別 介護を受ける頻度】



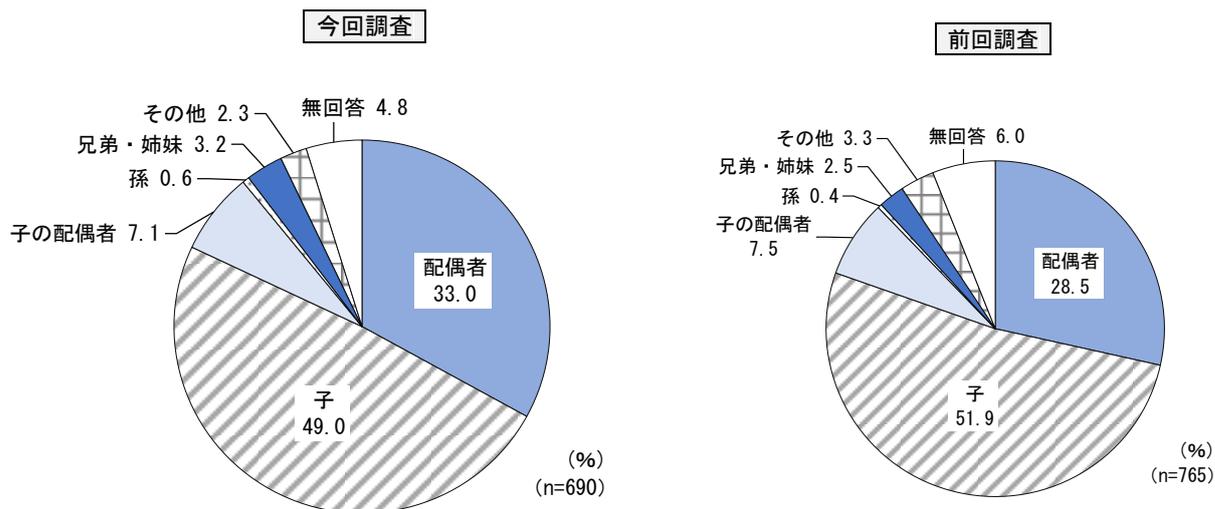
11 主な介護者について

(1) 介護者の続柄

B票（問1～問8-3）は、A票の問26で“介護を受けている”（「ない」以外のいずれか）と回答の方のみ】

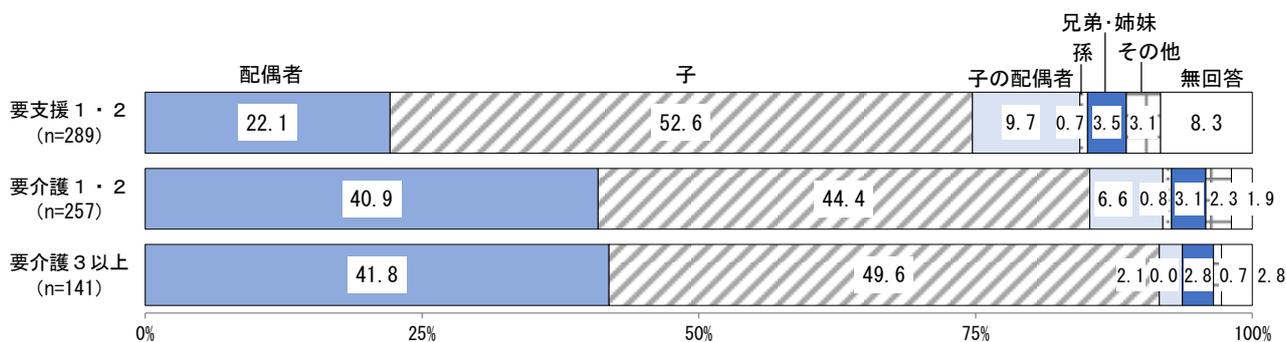
【B票】問1 主な介護者の方は、どなたですか

主な介護者としては、「子」(49.0%)または「子の配偶者」(7.1%)の割合が半数以上(56.1%)を占めている。また、これに続くのが「配偶者」で33.0%となっており、前回調査(28.5%)から4.5ポイント増えている。



要介護度別にみても、子ども（子の配偶者含む）の割合が、いずれも半数以上を占めており、要支援1・2で62.3%、要介護1・2で51.0%、要介護3以上で51.8%となっている。また、「配偶者」が要支援1・2で22.1%に対し、要介護1・2では40.9%、要介護3以上では41.8%と高い。

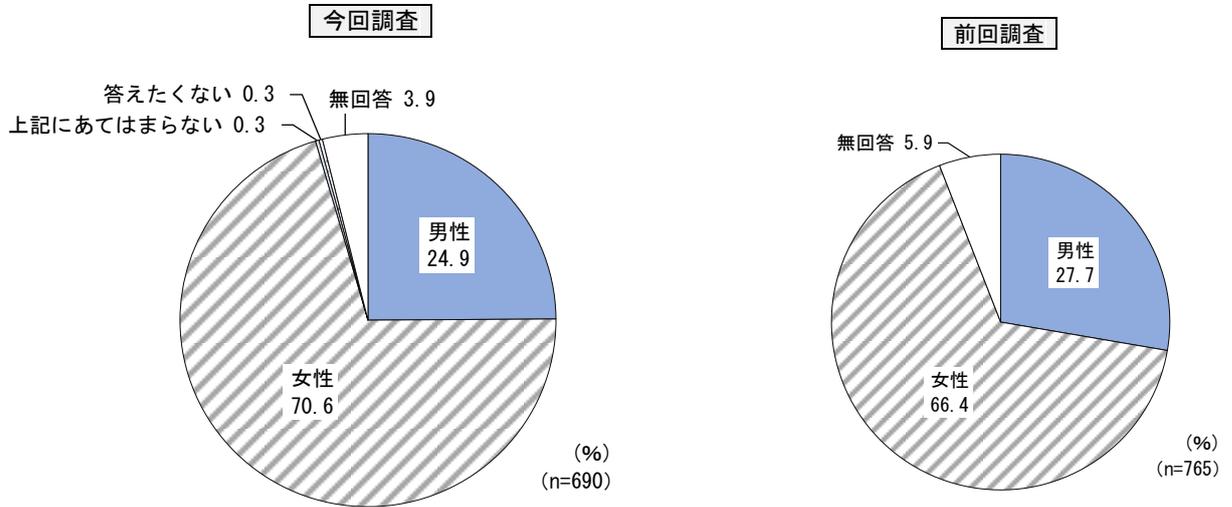
【要介護度別 介護者の続柄】



(2) 介護者の性別

[B票] 問2 主な介護者の方の性別について、ご回答ください

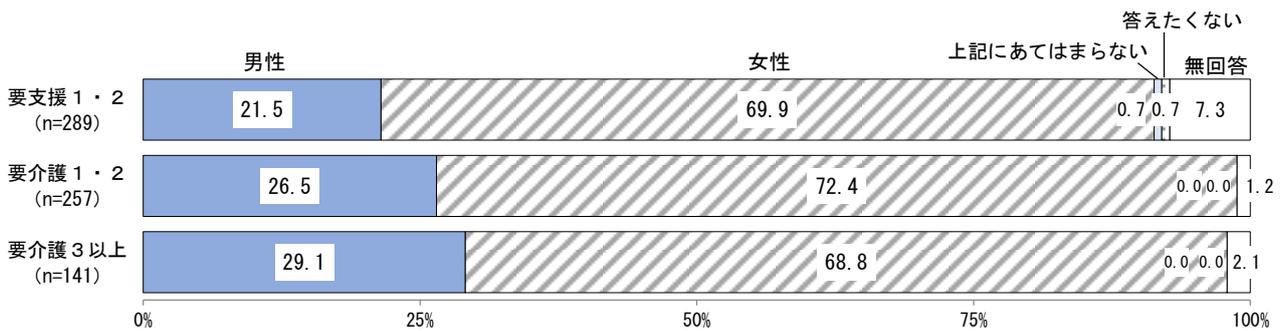
主な介護者の性別としては、「男性」が24.9%に対し、「女性」が70.6%となっている。



※「上記にあてはまらない」、「答えたくない」は新規項目（前回調査なし）

要介護度別にみても、いずれも「女性」が7割前後を占めている。

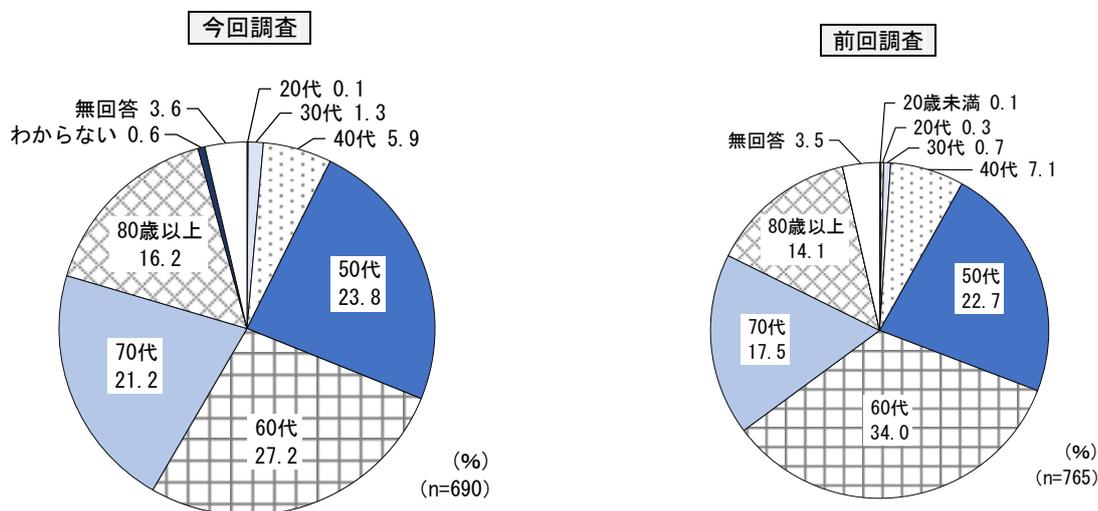
【要介護度別 介護者の性別】



(3) 介護者の年齢

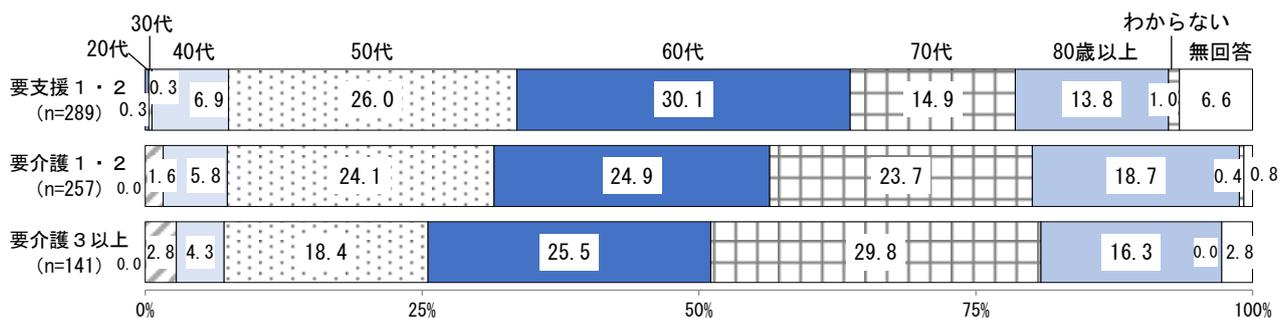
[B票] 問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください

主な介護者の年齢としては、「60代」が27.2%と最も多く、次いで「50代」が23.8%となっている。また、70代以上は37.4%となっており、前回調査（31.6%）から5.8ポイント増えている。



要介護度別にみると、70代以上の割合が、要支援1・2で28.7%に対し、要介護1・2では42.4%、要介護3以上では46.1%と、ともに4割台を占めている。

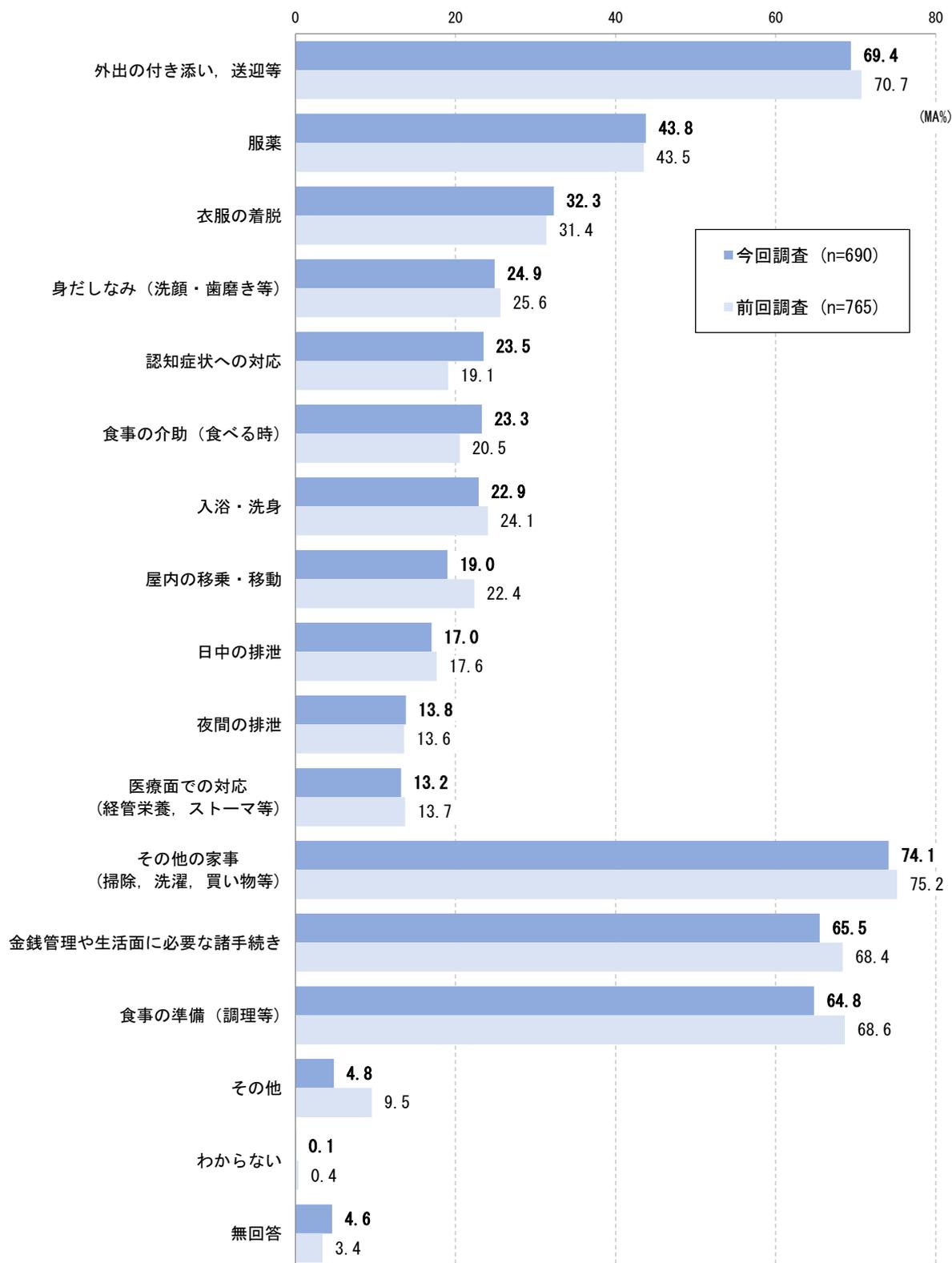
【要介護度別 介護者の年齢】



(4) 介護等の内容

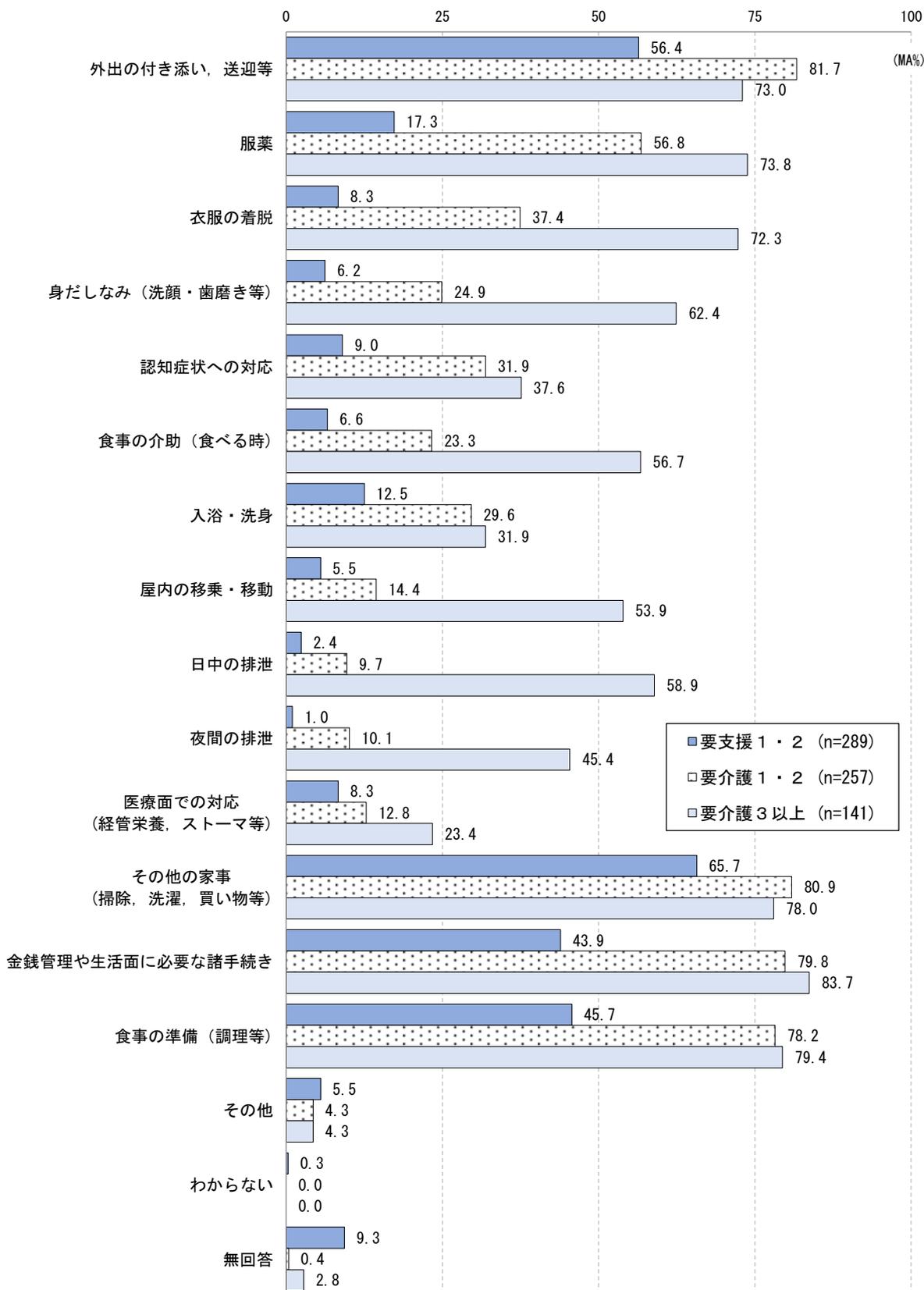
[B票] 問4 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください (〇はいくつでも)

主な介護者が行っている介護等としては、「その他の家事 (掃除, 洗濯, 買い物等)」が 74.1%と最も多く、次いで「外出の付き添い, 送迎等」が 69.4%, 「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 65.5%, 「食事の準備 (調理等)」が 64.8%, 「服薬」が 43.8%となっており、概ね前回調査と同じ傾向となっている。



要介護度別にみると、要支援1・2では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が65.7%、要介護1・2では「外出の付き添い、送迎等」が81.7%、要介護3以上では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が83.7%と、それぞれ最も多くなっている。

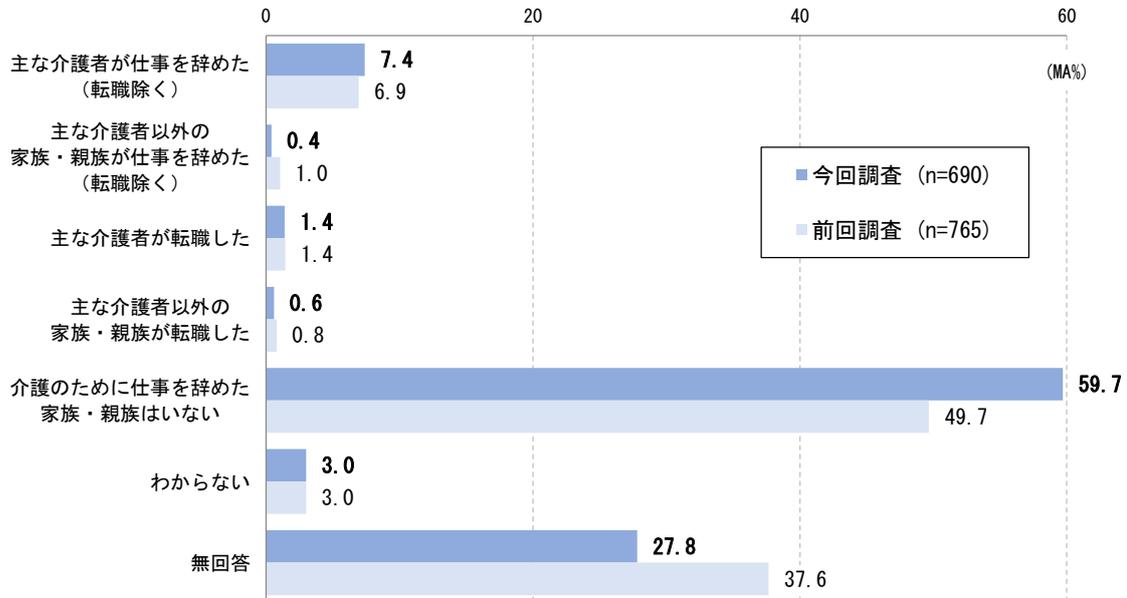
【要介護度別 介護等の内容】



(5) 介護離職の状況

[B票] 問5 ご家族やご親族の中で、あて名のご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか

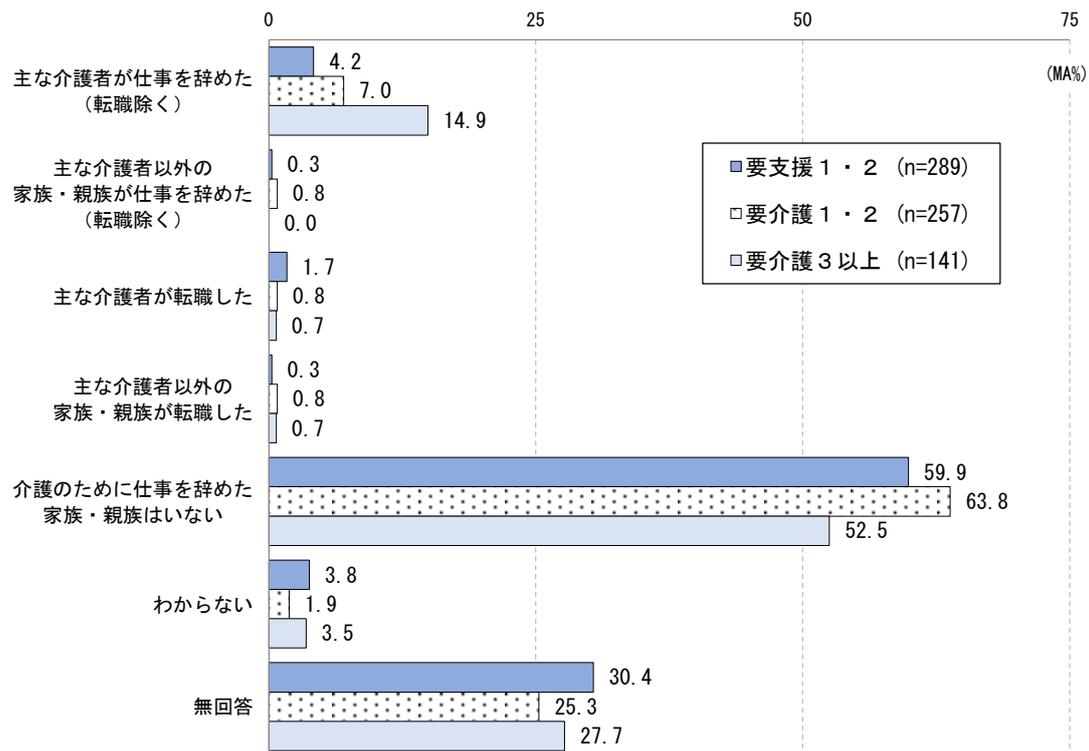
介護を主な理由に仕事を辞めた（または転職した）家族や親族がいるという割合（「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」「わからない」「無回答」を減算した割合）は、全体の9.4%みられ、前回調査（9.7%）と同程度となっている。



※ここでは複数選択可として集計している

要介護度別にみると、仕事を辞めた（または転職した）家族や親族がいるという割合が、要支援1・2で5.9%、要介護1・2で8.9%、要介護3以上で16.3%となっている。

【要介護度別 介護離職の状況】

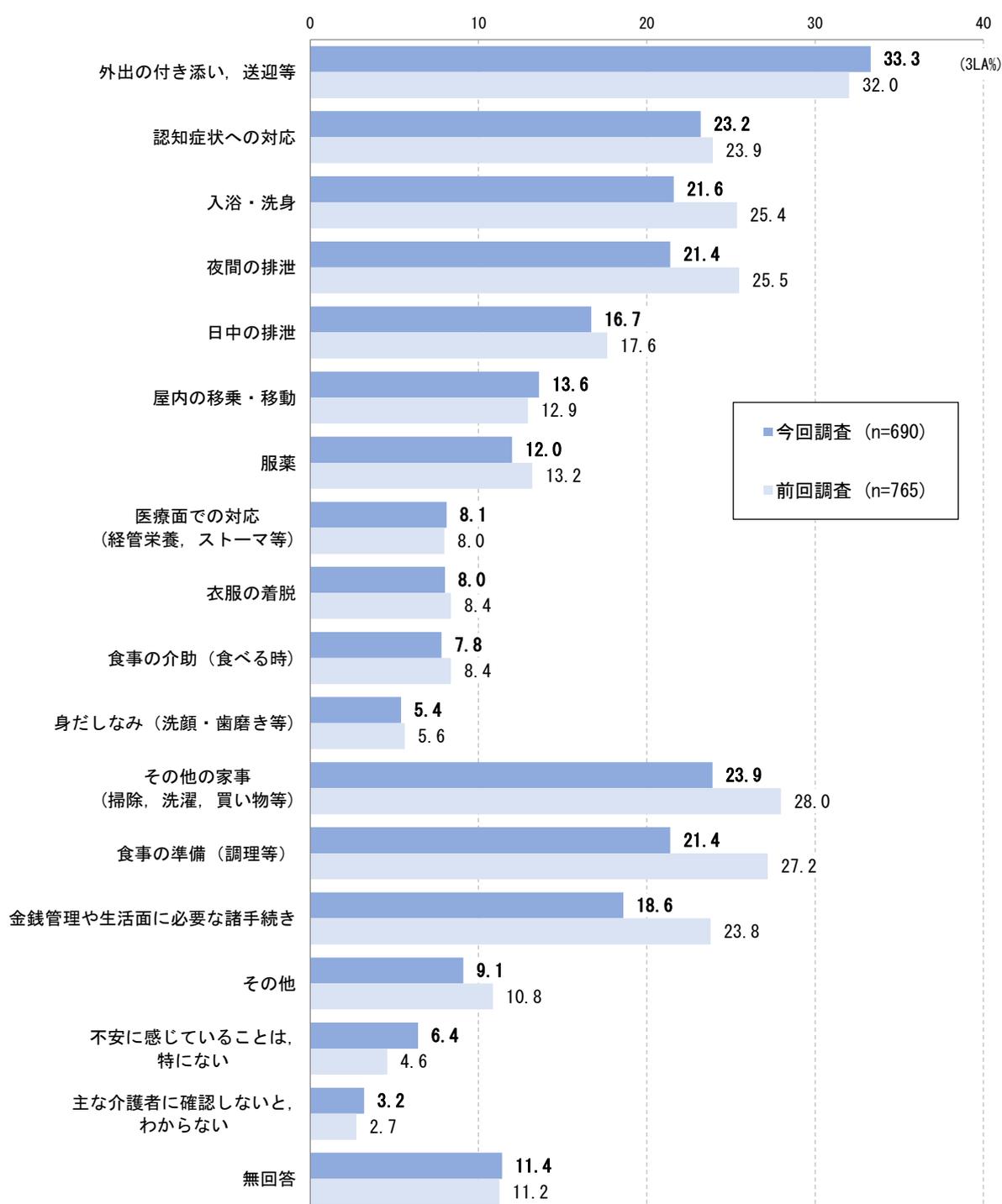


(6) 不安に感じる介護等の内容

[B票] 問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（主なもの3つまでに○）

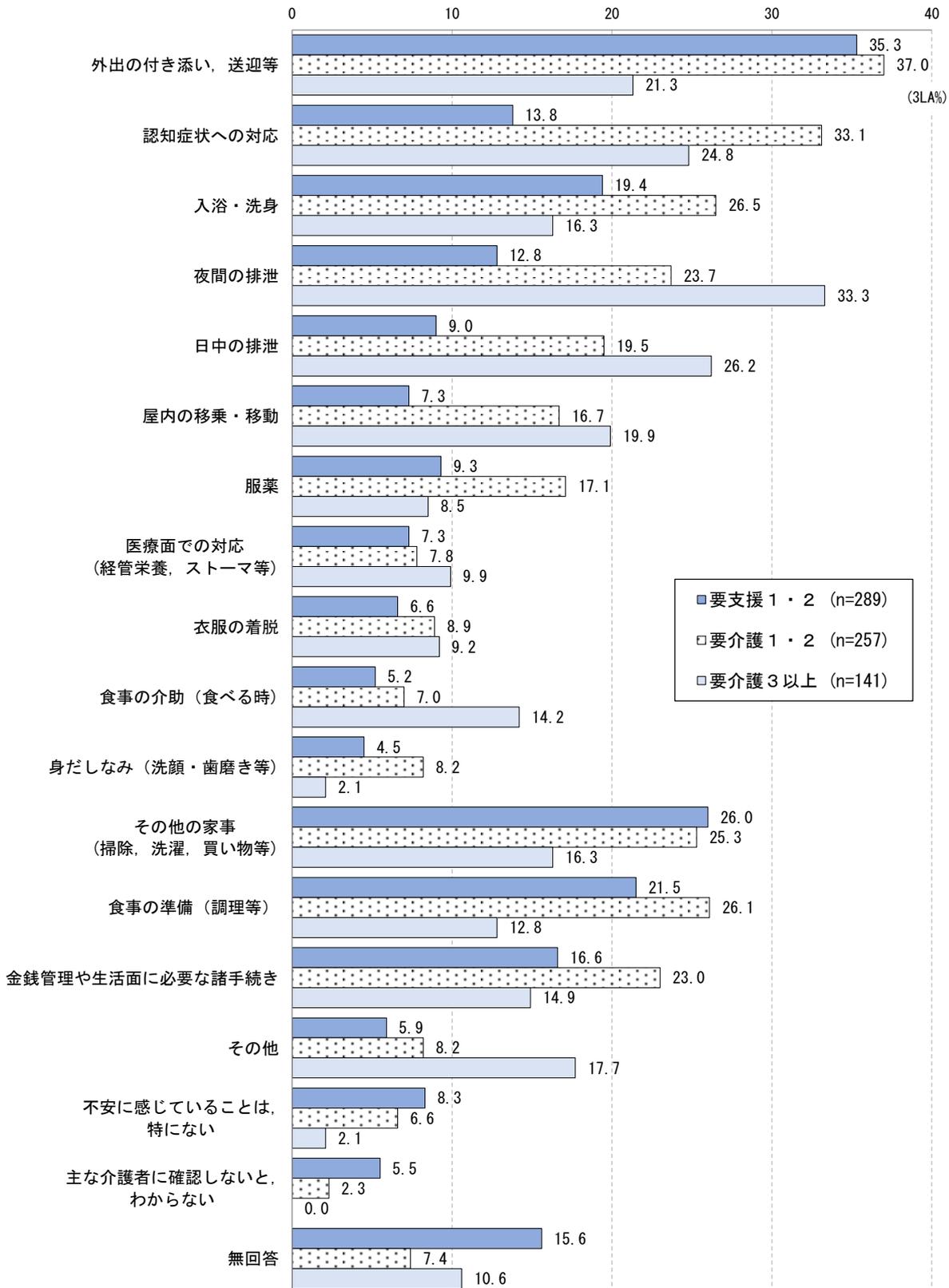
現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等としては、「外出の付き添い、送迎等」が33.3%と最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が23.9%、「認知症状への対応」が23.2%、「入浴・洗身」が21.6%、「夜間の排泄」、「食事の準備（調理等）」がともに21.4%となっている。

前回調査と比べると、多くの項目で割合が減少傾向にある中で、「外出の付き添い、送迎等」（前回32.0%）、「屋内の移乗・移動」（今回13.6%、前回12.9%）は微増となっている。



要介護度別にみると、「外出の付き添い、送迎等」が要支援1・2で35.3%、要介護1・2で37.0%と、ともに最も多くなっており、これに続くのが、要支援1・2では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が26.0%、要介護1・2では「認知症状への対応」が33.1%となっている。一方、要介護3以上では「夜間の排泄」が33.3%と最も多く、次いで「日中の排泄」が26.2%となっている。

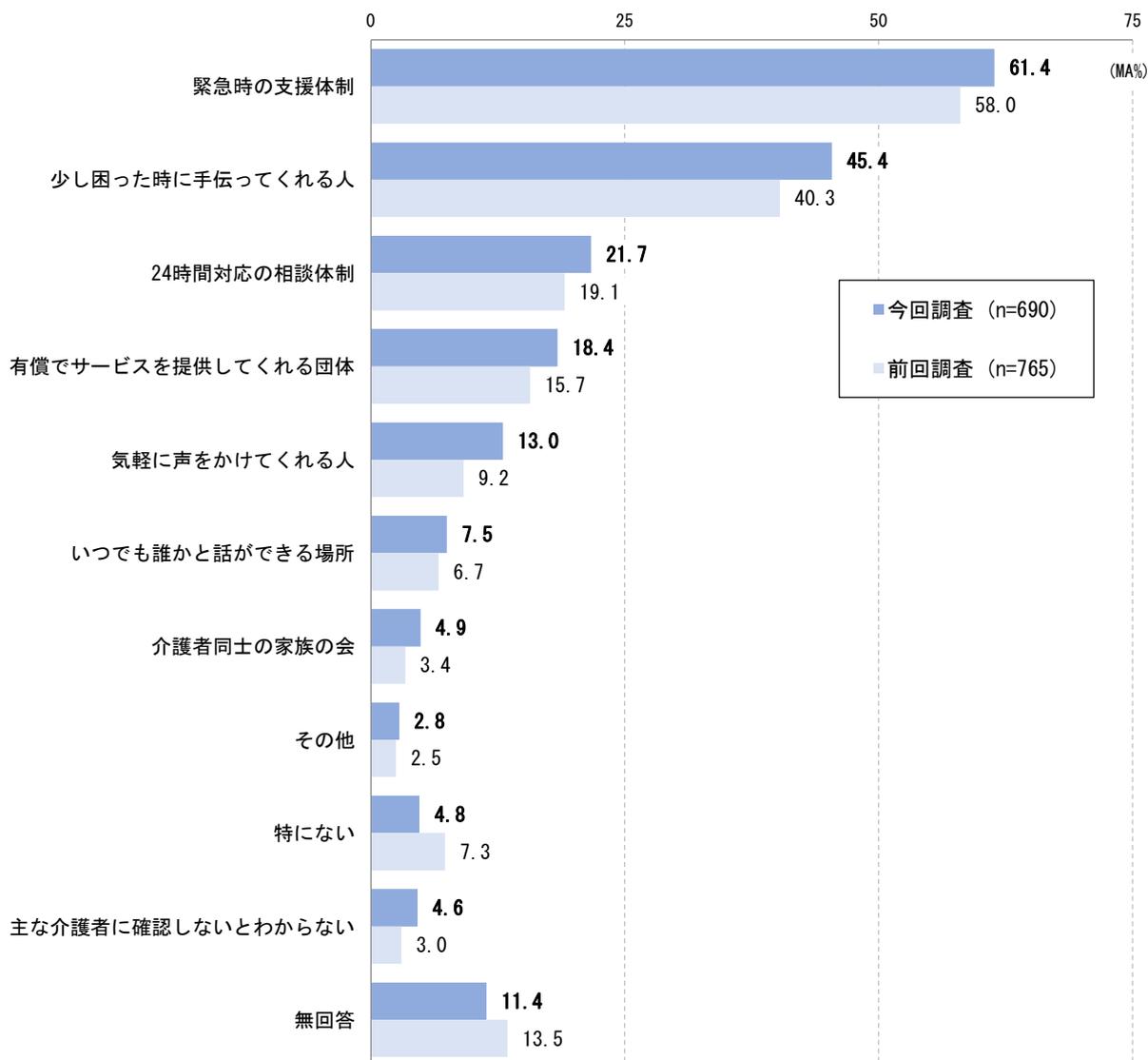
【要介護度別 不安を感じる介護等の内容】



(7) 在宅生活の継続に必要な地域での支援

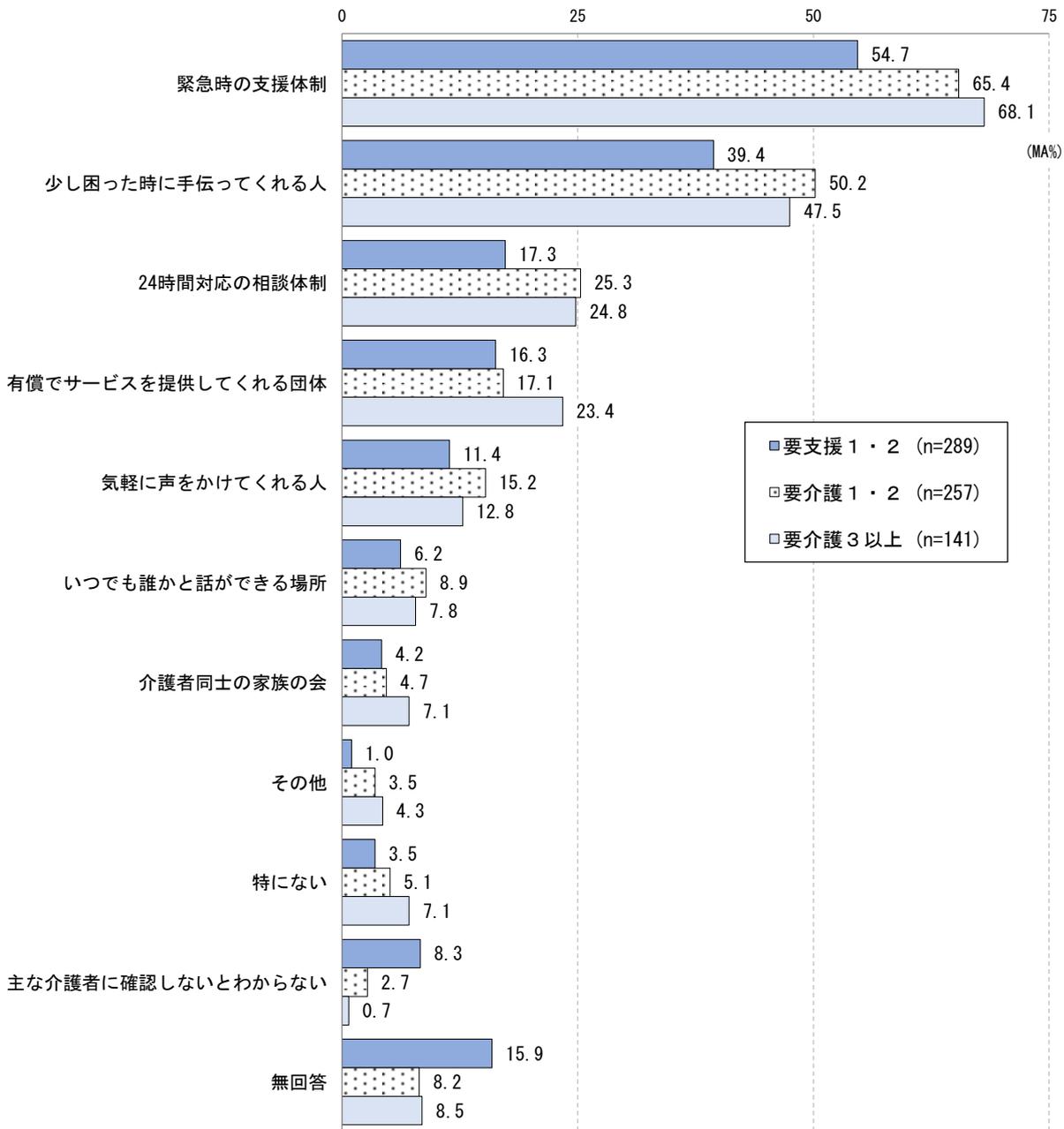
[B票] 問7 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が必要と感じる地域での支援について、ご回答ください（〇はいくつでも）

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が必要と感じる地域での支援としては、「緊急時の支援体制」が61.4%と最も多く、次いで「少し困った時に手伝ってくれる人」が45.4%、「24時間対応の相談体制」が21.7%、「有償でサービスを提供してくれる団体」が18.4%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



要介護度別にみても、「緊急時の支援体制」(要支援1・2で54.7%，要介護1・2で65.4%，要介護3以上で68.1%)が最も多く、次いで「少し困った時に手伝ってくれる人」(要支援1・2で39.4%，要介護1・2で50.2%，要介護3以上で47.5%)となっている。

【要介護度別 在宅生活の継続に必要な地域での支援】

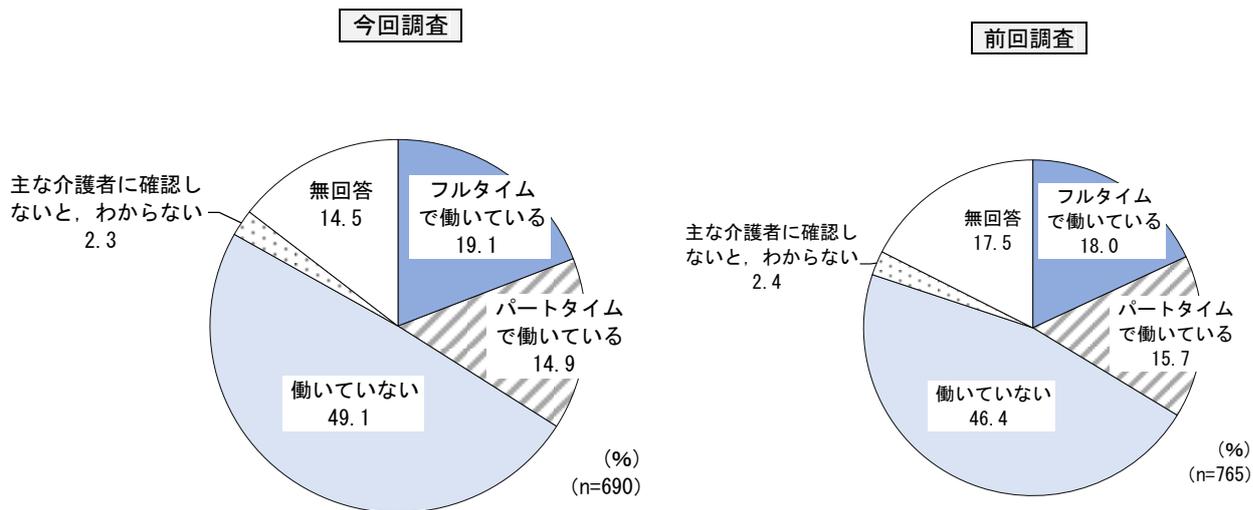


(8) 介護者の就労状況

① 勤務形態

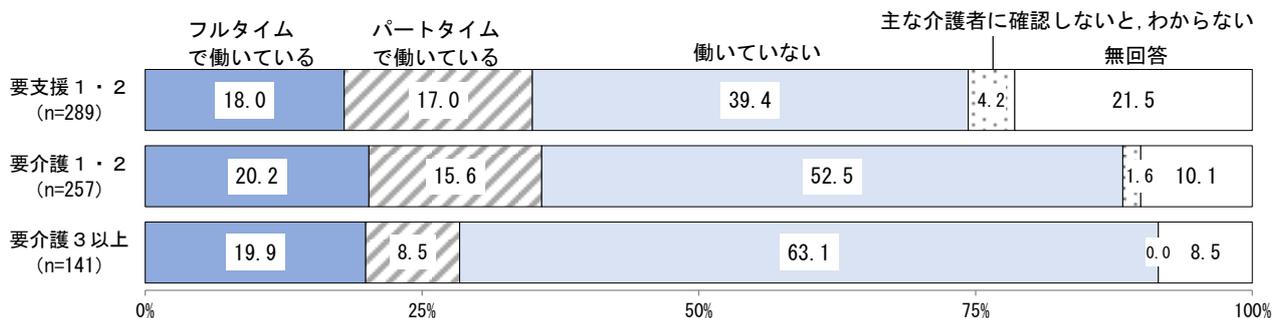
[B票] 問8 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください

主な介護者の現在の勤務形態として、「フルタイムで働いている」が19.1%、「パートタイムで働いている」が14.9%となっており、合わせると、働いている割合は3割台(34.1%)みられ、前回調査(33.7%)と同程度となっている。



要介護度別にみると、働いている割合が、要支援1・2で34.9%、要介護1・2で35.8%に対し、要介護3以上では28.4%となっており、「パートタイムで働いている」が要介護3以上では8.5%と低い。

【要介護度別 介護者の勤務形態】

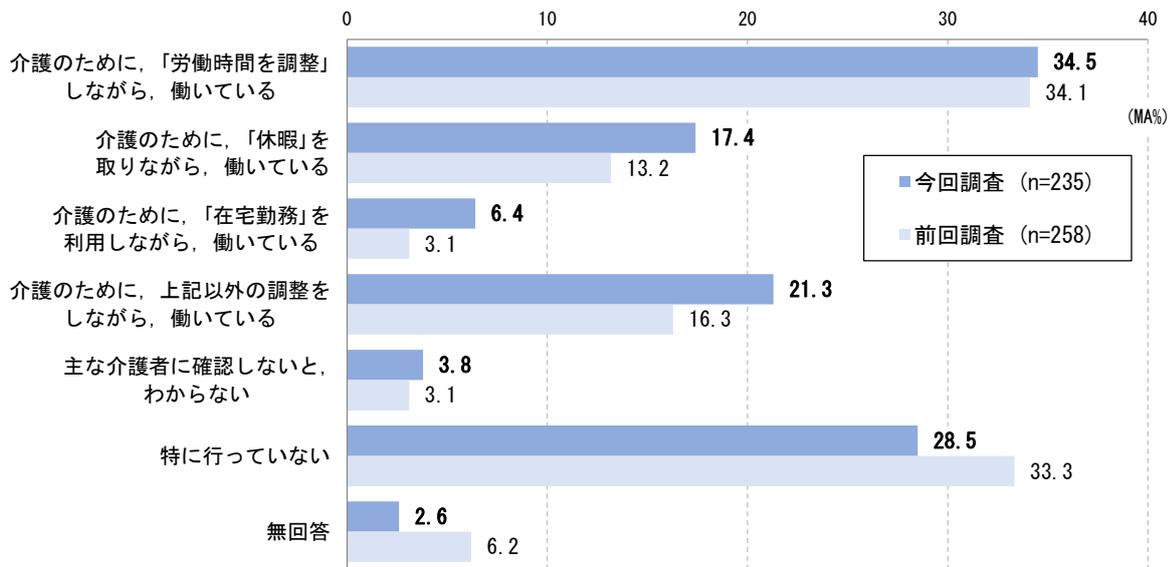


②働き方の調整等の有無

【問8で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答の方のみ】

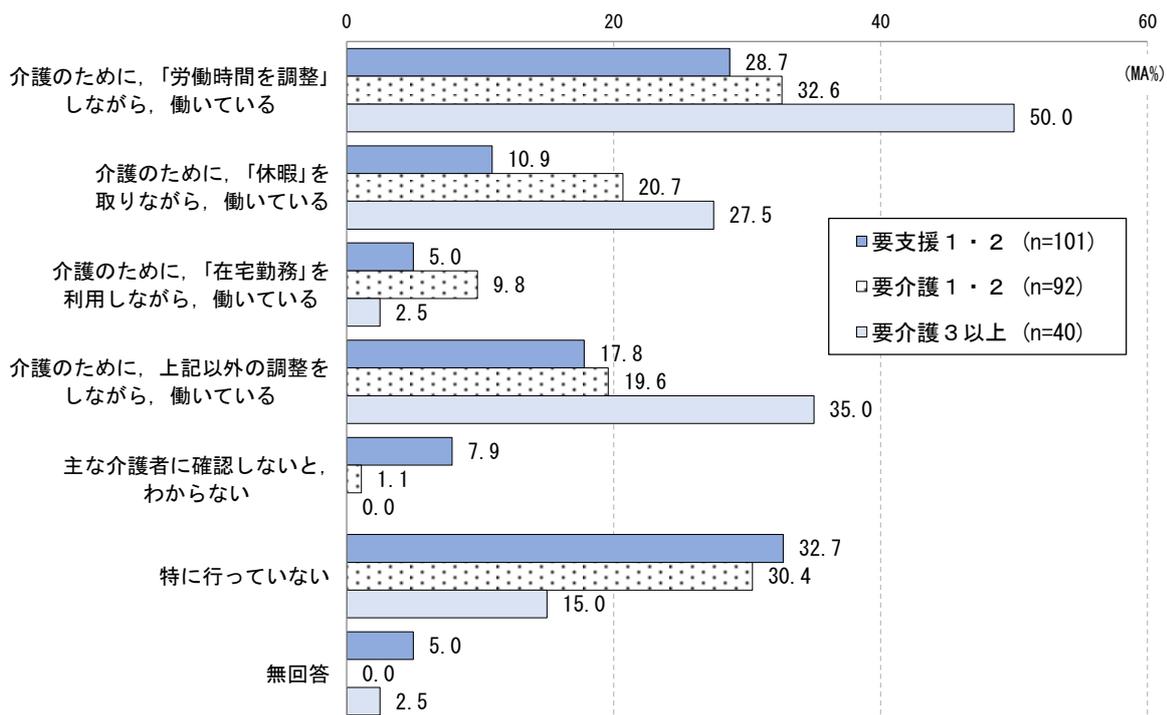
〔B票〕問 8-1 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていま
すか（〇はいくつでも）

働いている介護者のうち、働き方について何らかの調整等をしているという割合は、全体の6割
台（65.1%）を占めており、前回調査（57.4%）から7.7ポイント増えている。具体的には、「介護
のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」が34.5%と最も多い。



要介護度別にみると、何らかの調整等をしているという割合が、要支援1・2で54.5%、要介護
1・2で68.5%、要介護3以上で82.5%となっている。具体的には、「介護のために、『労働時間を
調整』しながら、働いている」が、要支援1・2で28.7%、要介護1・2で32.6%、要介護3以上
で50.0%と、いずれも最も多くなっている。

【要介護度別 働き方の調整等の有無】

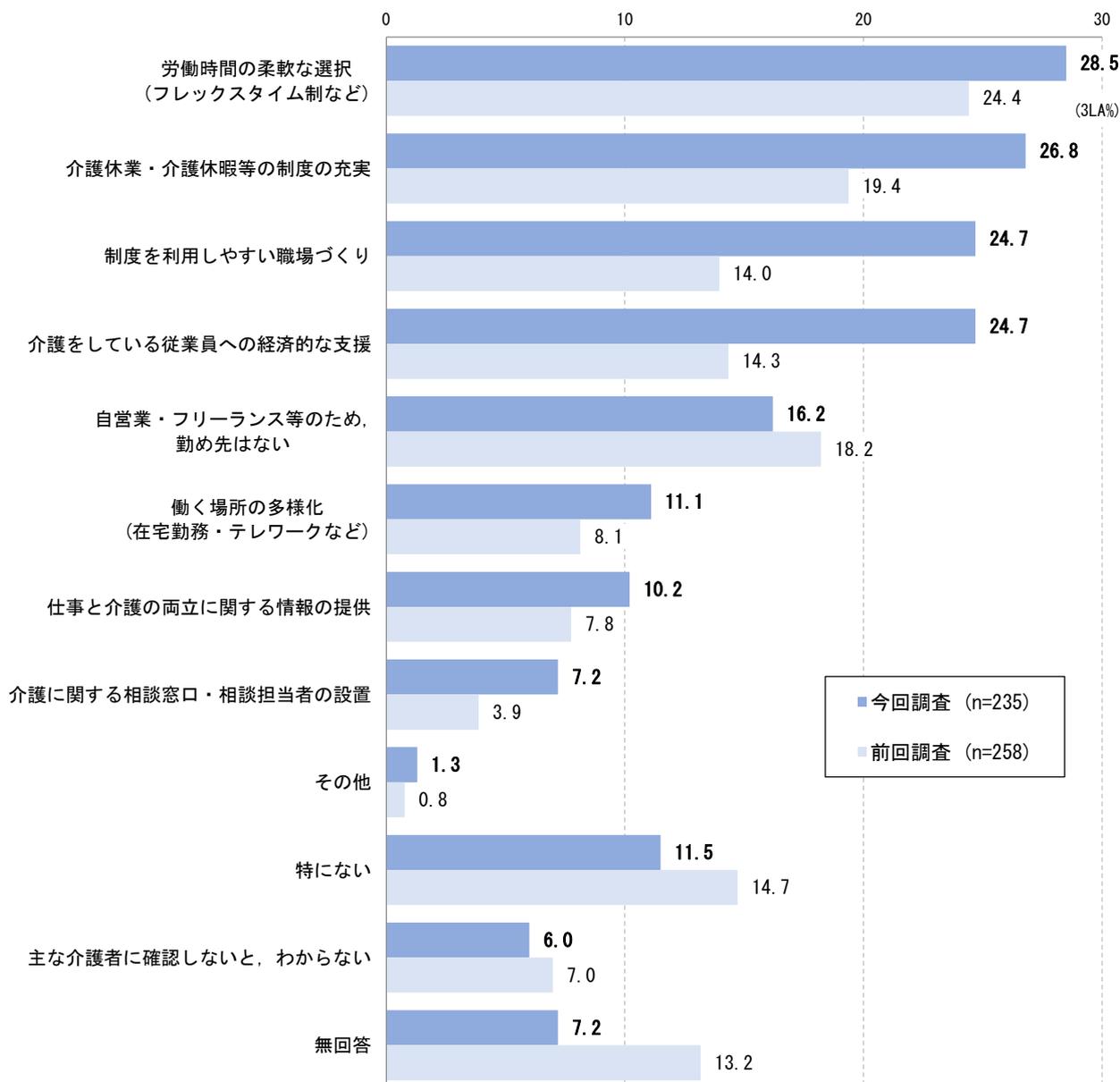


③勤め先からの支援の希望

【問8で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答の方のみ】

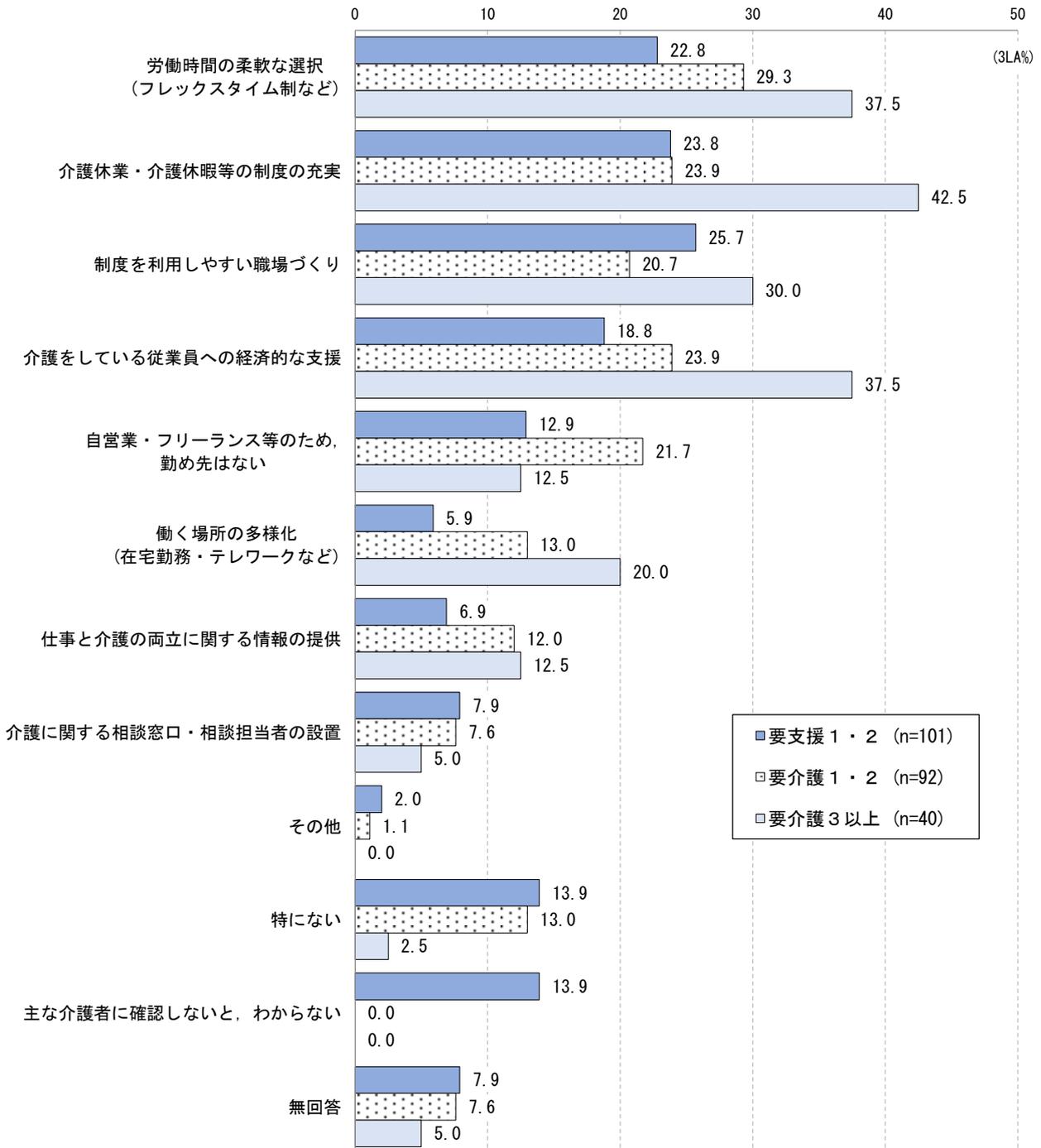
[B票] 問 8-2 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（主なもの3つまでに○）

働いている介護者が、仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援としては、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が28.5%と最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が26.8%、「制度を利用しやすい職場づくり」、「介護をしている従業員への経済的な支援」がともに24.7%となっており、いずれも前回調査から5～10ポイント程度増えている。



要介護度別にみると、要支援1・2では「制度を利用しやすい職場づくり」が25.7%、要介護1・2では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が29.3%、要介護3以上では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が42.5%と、それぞれ最も多くなっている。

【要介護度別 勤め先からの支援の希望】

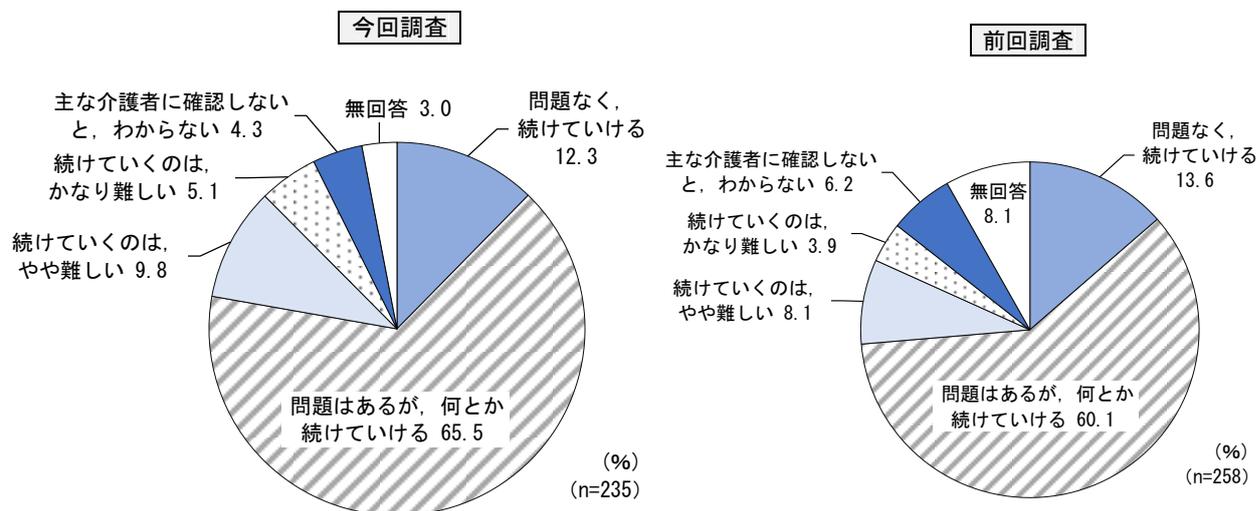


④仕事と介護の両立の可否

【問8で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答の方のみ】

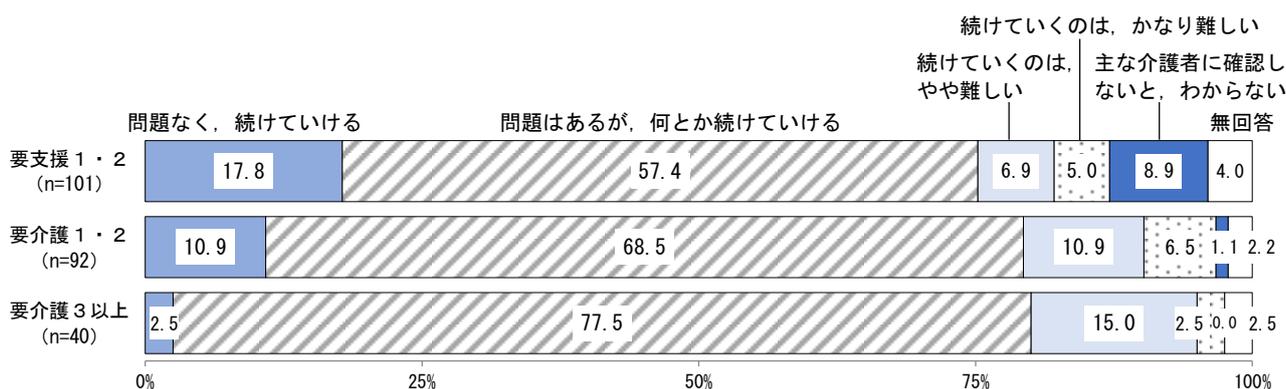
【B票】問8-3 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか

働いている介護者のうち、今後働きながら介護を続けていくことは難しいという割合（「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」の計）は、全体の1割台（14.9%）となっており、前回調査（12.0%）から2.9ポイント増えている。



要介護度別にみると、難しいという割合は、要支援1・2で11.9%、要介護1・2で17.4%、要介護3以上で17.5%となっている。

【要介護度別 仕事と介護の両立の可否】



第9次芦屋すこやか長寿プラン21
策定に向けたアンケート調査
報告書

発行 芦屋市福祉部 高齢介護課

〒659-8501
兵庫県芦屋市精道町7-6

電話 0797-38-2044

FAX 0797-38-2060

令和2年3月